

科目名：考古学特論 I / Archaeology (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：佐野 勝宏

コード：LM11201, 科目ナンバリング：LJS-HIS619J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：人類の進化と考古学
2. Course Title (授業題目)：Archaeology and Human Evolution
3. 授業の目的と概要：この授業では、考古文化の発達と人類進化の関係について学ぶ。人類の各進化段階で起きた、認知、行動、文化、社会の発達について学び、人類の生物学的な進化と文化的発達の意味を理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, the correlation between the development of archaeological cultures and the human evolution are explained. Students better understand the significance of the biological evolution of humans and cultural development by learning the advances in cognition, behaviors, cultures and societies corresponding to the human evolution.
5. 学習の到達目標：人類の進化史と考古文化の発達史の概要を把握し、考古文化の発達に関する進化論的な意義についての理解を深める。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students are supposed to learn the basis of the human evolution and the development of archaeological cultures so that they can better understand the evolutionary significance of the advances in archaeological cultures.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス
 2. 人類の進化史
 3. 道具の出現と発達
 - 4-5. 火の利用の起源
 6. 原人・旧人の出現と拡散
 7. ネアンデルタール人
 - 8-9. DNA 研究からみた進化史
 10. 旧人・新人の交替劇
 11. 狩猟技術の発達史
 - 12-13. 旧石器時代の芸術
 14. 新石器文化の拡散と受容
 15. 家畜化の歴史
8. 成績評価方法：

レポート [70%]・出席 [30%]
9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、授業中に資料を配付する。適宜、参考文献を紹介する。
10. 授業時間外学習：特に興味がある内容に関して、各自参考文献等で理解を深める。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：西洋近現代史研究演習 I / History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LM11203, 科目ナンバリング：LGH-HIS621J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： 欧米近現代史研究方法論

2. Course Title (授業題目) : History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)III

3. 授業の目的と概要： 欧米近現代史に関する古典的著作ないし同時代文献を精読し、その内容について討論を行い、理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The themes of this seminar are to read classical books/documents relating the modern/contemporary European history, accurately and critically, and to find some hints for further historical research.

5. 学習の到達目標： ・テキストの内在的な理解による論旨の厳密な把握

・文献読解と討論を通じた研究能力・プレゼンテーション能力の向上。

6. Learning Goals(学修の到達目標)： ・To grasp contents of the original text accurately.

・To upgrade the abilities to present, debate and reserch.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. テキストの検討・討論(1)a

3. テキストの検討・討論(1)b

4. テキストの検討・討論(1)c

5. テキストの検討・討論(1)d

6. テキストの検討・討論(1)e

7. 小括(1)

8. テキストの検討・討論(2)a

9. テキストの検討・討論(2)b

10. テキストの検討・討論(2)c

11. テキストの検討・討論(2)d

12. テキストの検討・討論(2)e

13. 小括(2)

14. 中間的総括に向けての課題の整理

15. 中間的総括

8. 成績評価方法：

出席：30%・その他(受講態度、課題の達成度など)：70%

9. 教科書および参考書：

現在のテキストは、バリントン・ムーア『独裁と民主政治の社会的起源』宮崎隆次・森山茂徳・高橋直樹訳、岩波文庫、2019年。その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。

10. 授業時間外学習： ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。

研究室：文学研究科棟 5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：実験心理学特論Ⅳ／ Experimental Psychology(Advanced Lecture) IV

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：倉元 直樹

コード：LM11204, 科目ナンバリング：LIH-PSY604J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：心理統計法

2. Course Title (授業題目) : Basic Statistics useful for Psychology

3. 授業の目的と概要：量的データを用いた研究法を念頭に、データ分析に必要な基礎理論を学ぶ。統計的方法の考え方について、基本から理解し、把握する機会とする。講義に必要な数学的事項は高校段階程度までさかのぼって解説する予定である。統計的な分野について初めて触れる方、これまでに何度か受講経験があっても理解が不十分と感じる方を主な対象とする。人文・社会科学の研究を志す方であれば受講者の専攻分野は問わない。なお、主として授業期間の前半にレポートとして課される演習課題に若干の時間が取られることを覚悟しておいてほしい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This class is designed to learn basic statistical theory necessary for data analysis in quantitative psychology. In order to understand and grasp the concept of statistical methods from the basics, mathematical concepts necessary for lecture will be occasionally explained back to the stage of high school level. This class mainly target those who touched about statistical fields for the first time, and those who feel insufficient in understanding even if we have experiences several times so far. As long as you are interested in research on humanities and social sciences, the lecturer does not care about your major fields. Please expect that some time will be taken for the exercises that will mainly be imposed in the first half of the class period.

5. 学習の到達目標：初等統計学の基礎的概念の習得。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Learning the basic concept of elementary statistics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態： 3 対面授業（半分以上）とオンデマンド型オンライン授業の併用

1. イントロダクション（1コマ）

2. 記述統計学（統計とは何か、変数とデータ、尺度の水準、度数表、クロス集計表、連続変数、離散変数、多変量データ、連続データの度数表、ヒストグラム、累積度数折線、数値による分布の要約 [モーメント系、分位数系]、2つの変数の関係 [相関係数、回帰]）（6コマ）

3. 推測統計学（確率、条件付確率、確率分布、二項分布、正規分布、確率密度と確率、記述統計学と確率モデル、統計的仮説検定、帰無仮説と対立仮説、検定の手続き、有意水準と検出力、連続分布と離散分布、微分・積分、期待値、標本平均の期待値とその分散、標本分散の期待値、正規分布、標本平均の分布、様々な手法から実験計画へ [期待度数と実測度数、分割表の独立性、相関係数の検定、対応があるデータの平均値、符号検定]、分散分析の基礎）（7コマ）

4. 期末考査（1コマ）

8. 成績評価方法：

期末考査 [30%程度]・レポート [30%程度]・出席状況 [40%程度]

毎回対面授業を予定している。どのような理由でも欠けは認めない。ただし、やむを得ない理由で出席できない場合には、求めに応じて授業動画を提供する場合がある。その視聴をもって当該授業会への出席と認める。

9. 教科書および参考書：

教科書：自作プリント（Google Classroomにアップロードする予定）

参考書：中村知靖、松井仁、前田忠彦共著、2006、『心理統計法への招待』、サイエンス社

10. 授業時間外学習：7回のレポート課題を課す。授業時間外に予習、復習を奨励する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

オンデマンドの授業動画のクオリティは保証しない。

The quality of on-demand class videos is not guaranteed.

科目名：日本文化思想史特論 I / History of Japanese Culture Thought (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LM11301, 科目ナンバリング：LJS-PHI604J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：水平社・西光万吉論 I
2. Course Title (授業題目)：Study on The Suiheisha・Saiko Mankichi I
3. 授業の目的と概要：日本の思想文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキスト（『西光万吉集』からセレクト）と研究論文を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose is to acquire the basic knowledge for studying Japanese thought and culture, and to raise the methodological awareness of the history of thought through dialogue based on presentations that carefully read the text (『西光万吉集』) and research papers.
5. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、伝記研究、時代的考察、テーマ設定など）を身に着ける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquire the basic research methods of the history of Japanese Philosophy.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：水平社・西光万吉について

第3回：映画『橋のない川』から

第4回：よき日のために（水平社創立趣意書）

第5回：人間は尊敬すべきものだ

第6回：業報にあえぐ 一大谷尊由氏の所論について。特に水平運動の誤解者へー

第7回：水平社が生まれるまで

第8回：農民運動の思い出

第9回：神に聴く政治運動 1 ヴィヴェカナンダとガンジーの場合

第10回：神に聴く政治運動 2 ガンジーとネールの場合

第11回：偶感雑記一九月二十八日夜よりー

第12回：不戦日本の「国際和栄政策」について

第13回：講演・人権の日に

第14回：略歴と感想、夫・西光の思い出、西光と和栄運動

第15回：住井すゑから

※第4～14回のテキストは、『西光万吉集』（解放出版社、1990）からの例示

定期試験：なし

8. 成績評価方法：

平常点 100%（出席 40%、発表・討論 60%）

9. 教科書および参考書：

教科書（テキスト）・参考書：授業中に適宜資料を配布します。

10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本文化思想史特論Ⅱ／ History of Japanese Culture Thought (Advanced Lecture) II

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LM11302, 科目ナンバリング：LJS-PHI613J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：水平社・西光万吉論 I
2. Course Title (授業題目)：Study on The Suiheisha・Saiko Mankichi I
3. 授業の目的と概要：日本の思想文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキスト（『西光万吉集』からセレクト）と研究論文を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose is to acquire the basic knowledge for studying Japanese thought and culture, and to raise the methodological awareness of the history of thought through dialogue based on presentations that carefully read the text (『西光万吉集』) and research papers.
5. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、伝記研究、時代的考察、テーマ設定など）を身に着ける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquire the basic research methods of the history of Japanese Philosophy.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：水平社・西光万吉について

第3回：映画『橋のない川』から

第4回：よき日のために（水平社創立趣意書）

第5回：人間は尊敬すべきものだ

第6回：業報にあえぐ 一大谷尊由氏の所論について。特に水平運動の誤解者へー

第7回：水平社が生まれるまで

第8回：農民運動の思い出

第9回：神に聴く政治運動1 ヴィヴェカナンダとガンジーの場合

第10回：神に聴く政治運動2 ガンジーとネールの場合

第11回：偶感雑記一九月二十八日夜よりー

第12回：不戦日本の「国際和栄政策」について

第13回：講演・人権の日に

第14回：略歴と感想、夫・西光の思い出、西光と和栄運動

第15回：住井すゑから

※第4～14回のテキストは、『西光万吉集』（解放出版社、1990）からの例示

定期試験：なし

8. 成績評価方法：

平常点100%（出席40%、発表・討論60%）

9. 教科書および参考書：

教科書（テキスト）・参考書：授業中に適宜資料を配布します。

10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本語構造論特論 I / Structure of Japanese (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：甲田 直美

コード：LM11303, 科目ナンバリング：LJS-LIN601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文章・談話の構造論

2. Course Title (授業題目) : Discourse and Conversation Structure

3. 授業の目的と概要：文章・談話の構造は、どのようにして捉えることができるであろうか。研究手法としては、(1) 文法論との接点から、談話・文章における結束性保持の手段を考える研究、(2) 会話分析を中心とする実際に生じた会話の参与構造を扱う研究に大別できる。これらの研究について整理し、解説する。

1. コンピューターを用いて文体を計量する技術、2. 引用と話法に着目したデータの収集、分析について学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course deals with the foundations of discourse and conversation analysis. Do these two approaches simply study the same things, but in different ways? This course compares conversation analysis (CA) with discourse analysis (DA) as methodological approaches to the study of talk.

5. 学習の到達目標：(1) 近年の研究で重要とされる理論を理解する。(2) 授業で扱う研究の意義と限界・問題点について批判能力を身につける。(3) 実際に言語データが分析できるように、コンピューターによる計量文体、および話し言葉における引用と話法に着目して、データを収集し分析の基礎を学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of conversation analysis and discourse analysis, and compare two approaches to the study of talk.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 文章・談話研究とは～テーマ設定から分析まで～
2. 物語作品の享受と分析
3. ジェンダーと日本語
4. 引用と話法
5. コーパス, 言語のバリエーション
6. 文体の指標
7. 文体を計量する
8. 接続詞と言語ジャンル
9. 文学作品と電子化資料
10. コンコーダンサー
11. 特徴語の分析
12. 話し言葉における技巧性
13. 音声データの収集と加工
14. 研究の進め方
15. レポートの書き方

8. 成績評価方法：

レポート [60%]・出席 [10%]・授業中の提出物 [30%]

9. 教科書および参考書：

参考書：甲田直美 (2024) 『物語の言語学—語りに潜むことばの不思議』 ひつじ書房

その他の参考文献は授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：会話・対話・談話研究のための分析単位の実際をデータを元に観察する。

音声言語コミュニケーションのための分析単位 IU の実際をデータと対照する。

会話データを作成し、会話分析の手法を体験する。

論文を読んで論点を提出する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

毎回コンピューターを持参すること。

科目名：中国思想特論 I / Chinese Thought (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：齋藤 智寛

コード：LM11304, 科目ナンバリング：LGH-PHI610J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国中世仏教の学術と実践
2. Course Title (授業題目)：Scholarship and practice of Chinese medieval Buddhism
3. 授業の目的と概要：中国中世の仏教について、学術の形式や思想活動の場、信仰と実践、また史学や医学、文学などの文化全般との関わりに注意しながら考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course Chinese medieval Buddhism will be discussed, paying attention to their academic forms and sites of intellectual activity, rituals and practices, as well as their relationship to culture in general, including history, medicine and literature.
5. 学習の到達目標：中国中世における仏教の諸相について基本的な理解を得るとともに、思想史研究の視点・方法を了解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To gain a basic understanding of the various aspects of Chinese medieval Buddhism, and to understand the perspectives and methods of the study of the history of thought.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 導入
 2. 仏典翻訳と偽経、経録 1
 3. 仏典翻訳と偽経、経録 2
 4. 一切経の作成と伝承
 5. 注疏と語録の成立
 6. 仏教史学の諸相
 7. 山林仏教と禅宗の成立 1
 8. 山林仏教と禅宗の成立 2
 9. 具足戒と大乘戒
 10. 士大夫の仏教信仰 1
 11. 士大夫の仏教信仰 2
 12. 正統から逸脱した実践
 13. 異民族と仏教
 14. 女性にとっての仏教
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

レポート (100%)
9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを配布する。参考書は講義中に紹介する。
10. 授業時間外学習：紹介された参考書や原典は出来るだけ読んでみることに。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：文化人類学研究演習 I / Cultural Anthropology(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：越智 郁乃

コード：LM11305, 科目ナンバリング：LGH-CUA605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化人類学の視野と思考

2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology(Advanced Seminar)I

3. 授業の目的と概要：文化人類学についての理論および民族誌的研究を精査することで、主要な概念と関心の動向を検討する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：To examine key concept and interest of cultural anthropology through the research of the theory and ethnography

5. 学習の到達目標：文化人類学の研究動向を体系的に理解し、自身の問題関心を展開させる。

最終的には、自分の研究主題についての文献リストと主要文献のレビューを作成する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To complete reference and review for your research topic through the investigation into previous studies

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 研究動向の整理と検討
3. 研究動向の整理と検討
4. 文献講読
5. 研究動向の整理と検討
6. 研究動向の整理と検討
7. 研究動向の整理と検討
8. 文献講読
9. 研究動向の整理と検討
10. 研究動向の整理と検討
11. 研究動向の整理と検討
12. 文献講読
13. 研究動向の整理と検討
14. 研究動向の整理と検討
15. 最終報告

8. 成績評価方法：

発表[40%]、出席[20%]、最終レポート[40%]

9. 教科書および参考書：

授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：毎回、課題に沿ったレジュメを作成する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：インド仏教史研究演習 I / History of Indian Buddhism(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：桜井 宗信

コード：LM11306, 科目ナンバリング：LGH-PHI608J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読

2. Course Title (授業題目)：Abhidharmakośa of Vasubandhu：reading

3. 授業の目的と概要： Vasubandhu (世親)の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要不可欠な基本典籍である。

この授業では同書第 1 章(「界品」)の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢 3 書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The Abhidharmakośa by Vasubandhu is very famous as an outline of the thought of the Sarvāstivādin in brief and critical manner, and it is necessary not only for grasping the Sarvāstivādin's way of thinking but also for understanding the thought of Mahāyānic Buddhism such as the Yogācāravāda.

In this course continuing from the last term, we will be reading Sanskrit, Tibetan and Chinese texts of the Abhidharmakośa (Dhātunirdeśa), which serves students to understand Vasubandhu's thought and to get a basic skill on studying Indian Buddhist Literatures, i.e. the comparative study of Skt.-Tibetan-Chinese texts.

5. 学習の到達目標：基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students deepen the ability of reading basic Buddhist literatures, and obtain correct knowledge about some fundamental and important technical terms on Indian Buddhism.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『俱舎論』講読-1-

2. 『俱舎論』講読-2-

3. 『俱舎論』講読-3-

4. 『俱舎論』講読-4-

5. 『俱舎論』講読-5-

6. 『俱舎論』講読-6-

7. 『俱舎論』講読-7-

8. 『俱舎論』講読-8-

9. 『俱舎論』講読-9-

10. 『俱舎論』講読-10-

11. 『俱舎論』講読-11-

12. 『俱舎論』講読-12-

13. 『俱舎論』講読-13-

14. 『俱舎論』講読-14-

15. 『俱舎論』講読-15-

8. 成績評価方法：

授業・発表への取り組み(100%)

9. 教科書および参考書：

用いる基本資料は次の通り：

- ・ 梵文原典：『梵文阿毘達磨俱舍論 I 界品』（江島恵教著），山喜房仏書林，平成 15 年。
- ・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。
- ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舍論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舍釈論』（真谛訳）。

※『俱舍論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。

1 0. **授業時間外学習**：予習時に前記基本資料を訳読すると共に，重要術語の内容確認等を行う。

1 1. **実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. **その他**：

「インド学仏教史」専攻分野所属学生のみ履修可。

科目名：フランス語学研究演習 I / French Linguistics(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：黒岩 卓

コード：LM11307, 科目ナンバリング：LGH-LIT644J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フランス語史の諸トピック
2. Course Title (授業題目) : History of the French language
3. 授業の目的と概要：ラテン語から今日の世界各地のフランス語にいたるまでの、フランス語史に関するさまざまなトピックを学びます。具体的な内容については初回に受講者の皆さんと相談しますが、令和 6 年度についてはアフリカにおけるフランス語・フランス文学についての論文を読みたいと考えています。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The participants learn about the history of the French language, from Latin to French in today's world.
5. 学習の到達目標：フランス語の歴史についての知識を深め、受講者それぞれの研究テーマにそれを役立たせられるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : Each learner confirms their knowledge of French history and applies it to their research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第一回 オリエンテーション
 - 第二回 フランス語史の諸トピック (1)
 - 第三回 フランス語史の諸トピック (2)
 - 第四回 フランス語史の諸トピック (3)
 - 第五回 フランス語史の諸トピック (4)
 - 第六回 フランス語史の諸トピック (5)
 - 第七回 フランス語史の諸トピック (6)
 - 第八回 フランス語史の諸トピック (7)
 - 第九回 フランス語史の諸トピック (8)
 - 第十回 フランス語史の諸トピック (9)
 - 第十一回 フランス語史の諸トピック (10)
 - 第十二回 フランス語史の諸トピック (11)
 - 第十三回 フランス語史の諸トピック (12)
 - 第十四回 フランス語史の諸トピック (13)
 - 第十五回 フランス語史の諸トピック (14)

(以上の進度は目安で、実際には変更があり得ます)
8. 成績評価方法：

出席(100%)
9. 教科書および参考書：

初回のオリエンテーションでの議論を踏まえて決定します。
10. 授業時間外学習：初回のオリエンテーションでの議論を踏まえて指示します。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅰ／History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：長岡 龍作

コード：LM11308, 科目ナンバリング：LIH-ART601J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術と宗教思想

2. Course Title (授業題目)：Art and Religious thought

3. 授業の目的と概要：この講義では、日本の宗教美術、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。前期は、飛鳥時代から鎌倉時代までの仏教的世界観を概観しながら、その世界観に基づく美術を時代順に論じていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course I discuss religious arts in East Asia, especially sculptures from the relationship with faith. Art has an important role for religion that envisages invisible world. Understanding religious art makes it possible to approach human spiritual world. In the first semester classes, I will provide an overview of the Buddhist worldview from the Asuka period to the Kamakura period, and discuss art based on that worldview in chronological order.

5. 学習の到達目標：(1) 宗教思想と造形の関係を理解する。

(2) 造形に投影された世界観を理解する。

(3) 造形表現を理解する方法を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Students understand the relationship between religious thought and arts.

(2)Students understand the world view projected on art.

(3)Students learn how to understand expressions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を配信します。このクラスコードは****です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクション：仏教の世界観とその表象
2. 飛鳥時代前期の仏教的世界観と美術
3. 飛鳥時代後期（白鳳時代）の仏教的世界観と美術
4. 奈良時代の仏教的世界観と美術1
5. 奈良時代の仏教的世界観と美術2
6. 奈良時代の仏教的世界観と美術3
7. 平安時代初期の仏教的世界観と美術1
8. 平安時代初期の仏教的世界観と美術2
9. 平安時代初期の仏教的世界観と美術3
10. 平安時代後期の仏教的世界観と美術1
11. 平安時代後期の仏教的世界観と美術2
12. 鎌倉時代の仏教的世界観と美術1
13. 鎌倉時代の仏教的世界観と美術2
14. 鎌倉時代の仏教的世界観と美術3
15. まとめ—古代・中世日本の仏教的世界観と美術

8. 成績評価方法：

レポート [50%]、出席 [50%]

9. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014年、長岡龍作『仏教と造形 信仰から考える美術史』（中央公論美術出版）2021年

10. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べること

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：倫理学研究演習V／Ethics (Advanced Seminar V)

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LM11309, 科目ナンバリング：LIH-PHI628J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ジェンダーの視点から倫理を議論する
 2. Course Title (授業題目)：Discussing ethics from a gender perspective
 3. 授業の目的と概要： この演習ではテキストを読み、内容を端的に理解し、他者へ説明するためのトレーニングを行います。そのため、事前に決めた担当者に指定範囲の文章を要約してもらいます。また、担当者には該当部分に関連する論点を出してもらいます。その後、参加者で議論をします。(最初の数回で、テキストの背景や要約の仕方、論点の出し方については講義します。)
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： The aim of this course is to train students to read the text carefully, understand the content accurately and explain it to others. Each time, students summarise the text and suggest key points for discussion (the text will be distributed to the participants in advance). The participants then discuss the material together. (In the first few sessions, I give a lecture on the background of the text and how to make a summary).
 5. 学習の到達目標：(1) テキストを要約し、論点を出すことができる。
(2) 現実に起きている倫理的葛藤に対し、論理的に自己の見解を示すことができる。
 6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To summarise the text and bring out the key points of the discussion
(2) To logically provide your own views on real-life ethical conflicts.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
第一回：導入
第二回：入門講義(1)：テキストの背景
第三回：入門講義(2)：要約・論点出しの仕方、担当者決定
第四回：テキストの読解(1)
第五回：テキストの読解(2)(以下同様)
 8. 成績評価方法：
演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。
 9. 教科書および参考書：
テキストはプリントで配布します。
- 現在、予定しているテキストはジュディス・L・ハーマン『心的外傷と回復』です。
10. 授業時間外学習：担当者は配当された部分のテキストを要約し、論点を出してA41枚のレジュメを作成してください。事前に人数分をコピーし、授業で配布して内容を報告してもらいます。担当外の者は、テキストをしっかりと読んでください。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：
【重要】通年の受講が望ましい。
ジェンダー/セクシュアリティについての基礎知識がある前提で授業を進めます。前年度までに私の「ジェンダー/セクシュアリティと倫理」を受講しておくことが望ましいです。(必修ではありません) 自学する場合には、以下の参考書を読んでください。
清水晶子『フェミニズムってなんですか?』文春新書、2022年。

科目名：日本古典文学研究演習 I / Study of Japanese Classical Literature (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LM11401, 科目ナンバリング：LJS-LIT607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『源氏物語』の研究

2. Course Title (授業題目) : Study of "The Tale of Genji"

3. 授業の目的と概要：『源氏物語』「桐壺」「帚木」巻を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【考察】をレジュメとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this class, you will read the volume captioned 'Kiritubo' 'Hahakigi' in Genji Monogatari. The person in charge summarizes the [abstract] and [consideration] of the assigned range as a resume, prepares it as a material, distributes it in advance, and announces it. The aim is to improve the reading comprehension of the story by reviewing and brushing up the issues raised by the presenters with all participants.

5. 学習の到達目標：『源氏物語』「桐壺」「帚木」巻を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造形のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : By carefully reading "Genji Monogatari" (Kiritubo Chapter, Hahakigi Chapter), students will deepen your understanding of the fictional method of the story, the way the figure is modeled, the style of expression including narrative and waka poems, and the s

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (発表者及びローテーション決定)
2. 講義 (「桐壺」巻からの物語の流れ、第一部の構成、物語の人物について)
3. 「桐壺」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
4. 「桐壺」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
5. 「桐壺」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
6. 「桐壺」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
7. 「桐壺」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
8. 「帚木」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
9. 「帚木」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
10. 「帚木」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
11. 「帚木」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
12. 「帚木」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
13. 「帚木」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
14. 「帚木」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
15. 「帚木」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート (発表のまとめ) の内容 [60%]、授業への参加 (質疑応答を含む) [40%]

9. 教科書および参考書：

【テキスト】岩波文庫『源氏物語 (一) 桐壺～末摘花』(岩波書店、2017 年) を用いるので、大学生協等で購入のこと。

【参考書】中野幸一編『(新装版) 常用 源氏物語要覧』(武蔵野書院、2012 年) がある。その他、参考文献は随時紹介する。

10. 授業時間外学習：毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。授業での質疑応答は

ディスカッションやコメントのトレーニングとなるよう期している。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

- ・本演習は、第6セメスターも続けて履修すること。
- ・物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや発見、興味を大事にしていく。

科目名：日本古代・中世史研究演習Ⅲ／ Ancient and Medieval History in Japan(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LM11402, 科目ナンバリング：LJS-HIS611J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本中世史の研究 (1)
2. Course Title (授業題目)：Study on Japanese Medieval History 1
3. 授業の目的と概要：受講者各自が日本中世史にかかわる研究成果を報告し、全体で討論する。その中で研究方法を錬磨するとともに、研究発表・討議の技法について学ぶ。また、研究論文作成の一つのステップとする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students present research findings on Japanese medieval history and discuss them. Through that, students refine their research methods and master about skills of presentation and discussion. Students will also learn how to write theses.
5. 学習の到達目標：(1) 日本中世史に関する高度な研究能力を身につける。
(2) 報告・討論の方法を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Students acquire advanced research skills in medieval Japanese history.
(2) It enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1) ガイダンス
 - 2) 学生による報告と討論
 - 3) 学生による報告と討論
 - 4) 学生による報告と討論
 - 5) 学生による報告と討論
 - 6) 学生による報告と討論
 - 7) 学生による報告と討論
 - 8) 学生による報告と討論
 - 9) 学生による報告と討論
 - 10) 学生による報告と討論
 - 11) 学生による報告と討論
 - 12) 学生による報告と討論
 - 13) 学生による報告と討論
 - 14) 学生による報告と討論
 - 15) 授業のまとめ

原則として対面

8. 成績評価方法：
レポート [40%]・出席 [20%]・その他 (授業中における発表の内容、授業への参加度) [40%]
9. 教科書および参考書：
特になし。

Nothing.

10. 授業時間外学習：報告者は事前に十分な準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

Reporters should make sufficient preparations in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

日本古代・中世史研究演習「日本中世史の研究」(1)(2)は連続履修すること。

Students must take "Study on Japanese Medieval History" 1 and 2 consecutively.

科目名：西洋文化学特論 I / European Culture (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LM11403, 科目ナンバリング：LGH-LIT628J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世ドイツ文学
2. Course Title (授業題目) : Medieval German Literature
3. 授業の目的と概要：現代文学の源流としての中世ドイツ文学の歴史を知るとともにその特殊性を理解する。
現代文学において恋愛がテーマになるのは珍しいことではないが、ドイツ文学史において恋愛が主題になったのは 12 世紀であった。それ以前のドイツ文学の主題はキリスト教であった。ただし、12 世紀に恋愛が主題とされた場合に雛形となったのはキリスト教の神への信仰であったので、その恋愛は崇高な愛の形をとった。しかしそのような高貴な愛も騎士文化の衰退と市民社会の興隆とともに通俗化する。授業では、恋愛のほかに北欧伝説との関係も見ながら、中世ドイツ
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In diesem Seminar handelt es sich um die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur als Quelle der modernen Literatur und um ihre Eigenschaften.
In der modernen Literatur ist nicht selten die Liebe das Thema, aber die Liebe wurde erst im 12. Jahrhundert thematisiert, das Thema davor war am meisten das Christentum. Die literarische Liebe basierte sich aber auch auf dem Glauben an den Gott, die Liebe zwischen Menschen war also erhaben. Solche hohe Liebe wurde aber allmählich säkularisiert, indem die ritterliche Kultur verfiel und die bürgerliche Gesellschaft sich erhebt. In dem Seminar soll also auch berücksichtigt werden, dass die Teilnehmer sich mit der Kultur und Gesellschaft im Mittelalter vertraut machen und gelegentlich auch bessere Kenntnisse über den Zusammenhang mit der nordischen Legenden erwerben können.
5. 学習の到達目標：中世ドイツ文学の歴史を知り、その特殊性を理解する。中高ドイツ語の文学作品を読んでその内容が理解できる。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : Ziel des Unterrichts ist, dass man die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur und deren Eigenschaften kennen lernt und Texte im Mittelhochdeutsch lesen und den Inhalt verstehen kann.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 ガイダンス
 - 2 中高ドイツ語入門 1 (発音)
 - 3 中高ドイツ語入門 2 (名詞・代名詞・形容詞)
 - 4 中高ドイツ語入門 3 (動詞)
 - 5 中高ドイツ語文学講読 1 (1713-1714)
 - 6 中高ドイツ語文学講読 2 (1715-1716)
 - 7 中高ドイツ語文学講読 3 (1717-1719)
 - 8 中高ドイツ語文学講読 4 (1720-1722)
 - 9 中高ドイツ語文学講読 5 (1723-1725)
 - 10 中高ドイツ語文学講読 6 (1726-1729)
 - 11 中高ドイツ語文学講読 7 (1730-1733)
 - 12 中高ドイツ語文学講読 8 (1734-1737)
 - 13 中高ドイツ語文学講読 9 (1738-1740)
 - 14 中高ドイツ語文学講読 10 (1741-1744)
 - 15 中高ドイツ語文学講読 11 (1745-1748)
8. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]
9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社；古賀充洋『中高ドイツ語』大学書林；岡崎忠弘訳『ニーベルンゲンの歌』
10. 授業時間外学習：前もって文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づき、辞書を使って予習をすること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：中国語学中国文学史総合演習 I / Chinese Language and Literature(Integration Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：土屋 育子、矢田 尚子

コード：LM11404, 科目ナンバリング：LGH-LIT604J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国語学史中国文学史上の諸問題
2. Course Title (授業題目)：Studies of Chinese Language and Literature
3. 授業の目的と概要：【目的】

1. 中国語学の各分野について、理解を深める。
2. 中国文学の各分野について、理解を深める。
3. 研究発表の方法と論文作成の方法を、学ぶ。
4. 教員・他の受講生からの指摘を的確に理解し、解決方法を探索する。
5. 他人の研究発表を的確に理解した上で、自らの質問を過不足なく言語化する方法を、学ぶ。

【概要】

受講生は輪番で、自らのもっとも関心のある課題について、その先行研究の整理・問題点の析出・解決のための調査（文献の読解と分析を含む）の過程と結果を、文章化して発表する。発表レジュメは前

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：“Gather the techniques that serve your dreams, create techniques to serve your dreams！” by Chick Corea.

In this course, students will acquire specialized knowledge and theories through preparing for their presentations and paying attention to the others' presentations.

5. 学習の到達目標：上記の【目的】の1～5。および 6. 自ら納得のいく、適正な論文の作成。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Students will be able to acquire specialized knowledge and theories
2. Students will be able to bring each thesis to perfection

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (1)
2. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (2)
3. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (3)
4. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (4)
5. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (5)
6. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (6)
7. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (7)
8. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (8)
9. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (9)
10. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (10)
11. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (11)
12. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (12)
13. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (13)
14. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (14)
15. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (15)

8. 成績評価方法：

- 出席と質疑応答 (50%)。
- レジュメによるプレゼンテーション (50%)。

9. 教科書および参考書：

受講生各自の準備するプリント。

10. 授業時間外学習：発表者：プレゼンテーションの準備。

発表者以外の受講生：三日前に提出されるレジュメの吟味と検討。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：美学・西洋美術史特論 I / Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Lecture I)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LM11405, 科目ナンバリング：LIH-ART609J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術と魔術の出会い：イタリア・ルネサンスの世界
2. Course Title (授業題目)：Art Meets Magic: The World of the Italian Renaissance
3. 授業の目的と概要：現代の美術や写真において、現実と虚構、自然と技術のあいだの境界線を揺らがせるような作品をしばしば「魔術的」と呼ぶことがあります。しかし、美術と魔術の相関関係はすでに古代において発見されていたものであり、初期近代にかけて美術と魔術（そして科学）は、自然を操作する人為的技芸として本質的レベルで交錯しながら発展しました。この授業では、特にイタリア・ルネサンスの時代の美術に注目して、美術と魔術の共鳴現象を具体的な作品や作家の事例の分析を通じて、現代では忘れられがちな美術の一側面を解説します。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In contemporary art and photography, we often refer to works of art that shake the boundaries between reality and fiction, nature and technology as "magical. However, the correlation between art and magic was already discovered in ancient times, and in the early modern period, art and magic (and science) developed as artificial arts that manipulate nature, intermingling at an essential level. In this class, we will focus on the Italian Renaissance in particular, and through the analysis of specific works and examples of artists, we will explain aspects of art that are often forgotten in the modern world.
5. 学習の到達目標：美術作品および作家を歴史的な脈と照らし合わせて分析する問の立て方および分析の手順を理解する。古代から初期近代のイタリアにおける美術の展開について理解を深める。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understanding how to formulate questions and procedures for analyzing works of art and artists in relation to their historical contexts.
Understanding of the development of art in Italy from ancient times to the early modern period.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1：プロローグ——生きている彫像？
 - 2：美術と魔術の共鳴現象——古代からルネサンスへ
 - 3：同時代の言説における美術と魔術
 - 4：イメージ魔術と肖像画 (1)
 - 5：イメージ魔術と肖像画 (2)
 - 6：絵画と暗号 (1)
 - 7：絵画と暗号 (2)
 - 8：怪物の創造 (1)
 - 9：怪物の創造 (2)
 - 10：絵画と記憶術 (1)
 - 11：絵画と記憶術 (2)
 - 12：絵画と鏡魔術 (1)
 - 13：絵画と鏡魔術 (2)
 - 14：絵画と呪い
 - 15：エピローグ——絵画と錬金術(注1：資料作成の過程で発見した事例に基づいて予定や各回のテーマを入れ替えたり修正したりすることがあります)
(注2：この授業では、今から見れば差別的だったりエロティックであったりする作品や描写がしばしば取り上げられます。特に、女性と男性の露骨な裸体や性的部位が現れる点について、受講する場合はご了承ください)
8. 成績評価方法：

毎回の授業でのコメントアンケート（方式は考え中。授業で示します）および全体を通じたまとめミニレポートを総合して評価します。
9. 教科書および参考書：

授業で指示します。
10. 授業時間外学習：配布資料をヒントにしながら、授業で取り上げた名作や問題作をインターネットや画集で見直すと、記憶と理解が深まりますのでおすすめです。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：宗教学研究実習Ⅰ／Religious Studies (Advanced Fieldwork)

曜日・講時：前期 月曜日 4講時、前期 月曜日 5講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：木村 敏明、阿部 友紀、谷山 洋三、問芝 志保

コード：LM11406, 科目ナンバリング：, 使用言語：

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教学調査法

2. Course Title (授業題目)：How to research religions: from planning to fieldwork

3. 授業の目的と概要：他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必須である。本授業では、宗教調査の方法とスキルについて講義を通して学習し、夏季におこなう共同調査に向けて調査計画の立案を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：It is important for students in religious studies to know living religious cultures. This course offers an opportunity for students to experience field research to deepen their understanding of religion.

5. 学習の到達目標：(1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。

(2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students develop basic skills of field research in religious studies and deepen their understanding of living religious cultures

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 第一回：宗教学におけるデータとは
3. 第二回：参与観察法
4. 第三回：インタビュー調査法
5. 第四回：質問紙調査法
6. 第五回：文献調査法・情報検索法
7. 第六回：映像記録法① 写真撮影の基本
8. 第七回：映像記録法② ビデオ撮影の基本
9. 第八回：映像記録法③ 写真撮影実習
10. 第九回：調査と研究の倫理
11. 第十回：現地調査計画の立案
12. 第十一回：現地調査準備① 地域について知る
13. 第十二回：現地調査準備② 先行研究をまとめる
14. 第十三回：現地調査準備③ 質問項目を考える
15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック

8. 成績評価方法：

授業/調査への取り組み、発表を総合的に評価する

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

10. 授業時間外学習：授業中に指示された課題、準備。夏季に実施される現地調査への参加。

Students are required to prepare for class assignments and attend to Summer Semester Research.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：現代日本学総合演習 I / Japanese Studies (Comprehensive Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介. CRAIG CHRISTOPHE

コード：LM11501, 科目ナンバリング：LJS-0HS607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本学の実践
2. Course Title (授業題目)：Innovative Japanese Studies (Practicum)
3. 授業の目的と概要：日本研究の方法と対象・領域について諸学問分野の基礎文献を取り上げ課題を設定し報告する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will take up the fundamental texts of the various academic disciplines concerned with Japanese Studies and choose and present on a research topic.
5. 学習の到達目標：日本研究の方法の多様な方法論を実践的に習得し研究報告を行う中で課題を発見する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn to practically engage with the wide variety of methodological theories concerned with Japanese Studies and discover new issues while presenting their research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目では Google Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

授業計画

第1回：はじめに—日本学とは何か—

第2回：文献・研究課題に関わるガイダンス①

第3回：文献・研究課題に関わるガイダンス②

第4回：担当者による口頭発表と質疑応答①

第5回：担当者による口頭発表と質疑応答②

第6回：担当者による口頭発表と質疑応答③

第7回：担当者による口頭発表と質疑応答④

第8回：担当者による口頭発表と質疑応答⑤

第9回：担当者による口頭発表と質疑応答⑥

第10回：担当者による口頭発表と質疑応答⑦

第11回：担当者による口頭発表と質疑応答⑧

第12回：担当者による口頭発表と質疑応答⑨

第13回：担当者による口頭発表と質疑応答⑩

第14回：日本学の課題についての総合討論①

第15回：日本学の課題についての総合討論②まとめ

8. 成績評価方法：

発表（レポートを含む）[60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、発表資料を作成し発表・報告を行う。

参考書は授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：報告の準備および報告時質疑内容の検討を通して知見を拡充する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：中国思想文献研究演習 I / Literature on Chinese Thought (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

Semester : 1 学期 単位数 : 2

担当教員：齋藤 智寛

コード：LM11502, 科目ナンバリング：LGH-PHI615J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国中世思想文献研究
2. Course Title (授業題目) : A Study of Chinese Medieval Thought Literature
3. 授業の目的と概要：唐・孔穎達 (574-648) 等撰『礼記正義』礼運篇を会読する。各版本を参照し、阮元校勘記の成績を検証しながら、中国思想文献の精確な訳注を作成する能力を涵養するのが本演習の目的である。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course is a reading of the chapter of The Conveyance of Rites (禮運), from the Right Meaning of the Ritual Records (禮記正義) edited by Kong Yingda (孔穎達) and other scholars at Tang period. The aim of the course is to cultivate the ability to produce accurate translations of Chinese thought literature, while paying attention to the different edition and examining the revision of Ruan Yuan (阮元).
5. 学習の到達目標：中国思想の原典資料を読解し、精確な日本語訳および思想的視点からの訳注を作成できる。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : To be able to read and understand original sources of Chinese thought and to prepare accurate Japanese translations and notes from a historical perspective.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1、導入
 - 2、『礼記正義』会読 1
 - 3、『礼記正義』会読 2
 - 4、『礼記正義』会読 3
 - 5、『礼記正義』会読 4
 - 6、『礼記正義』会読 5
 - 7、『礼記正義』会読 6
 - 8、『礼記正義』会読 7
 - 9、『礼記正義』会読 8
 - 10、『礼記正義』会読 9
 - 11、『礼記正義』会読 10
 - 12、『礼記正義』会読 11
 - 13、『礼記正義』会読 12
 - 14、『礼記正義』会読 13
 - 15、まとめ
8. 成績評価方法：

発表と討論での発言状況 (100%)
9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、教室でプリントを配布する。
10. 授業時間外学習：予習のほか、未解決箇所は授業後に調べて次回の討論に備えること。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：フランス文学研究演習 I / French Literature (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：MEVEL YANN ERIC

コード：LM11503, 科目ナンバリング：LGH-LIT648J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Pascal Quignard

2. Course Title (授業題目)：Pascal Quignard

3. 授業の目的と概要：Thematic, poetic and stylistic approaches to a work of fiction

Learning how to analyze a complete work of fiction

Practice in text explanation

Practice in argumentation

Document analysis

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Thematic, poetic and stylistic approaches to a work of fiction

Learning how to analyze a complete work of fiction

Practice in text explanation

Practice in argumentation

Document analysis

5. 学習の到達目標：Reflection on

- the question of literary genre and the mode of narration

- asceticism as a subject and mode of writing

- the relationship between literature and music, literature and cinema

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Reflection on

- the question of literary genre and the mode of narration

- asceticism as a subject and mode of writing

- the relationship between literature and music, literature and cinema

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1) Introduction

2) Introduction

3) Film screening. Analysis and discussion

4) Text explanation

5) Text explanation

6) Text explanation

7) Text explanation

8) Text explanation

9) Text explanation

10) Text explanation

11) Text explanation

12) Text explanation

13) Text explanation

14) Text explanation

15) Text explanation

16) Conclusion

8. 成績評価方法：

Assessment will initially take the form of continuous assessment , requiring active participation in class . This will count for 60 % of the overall assessment . At the end of the semester , students are also required to write a brief critical review of

9. 教科書および参考書 :

Pascal Quignard , Tous les matins du monde , Paris , Gallimard , collection Folioplus Classiques (dossier de Jean - Luc Verlet) , 2010

10. 授業時間外学習 : For any text explanation , before the course students will need to check vocabulary , grammar points and references , and to consider the fonctions or effects of this text .

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他 :

科目名：哲学総合演習 I / Seminar in Philosophy I

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：城戸 淳・原 壱・直江 清隆

コード：LM11504, 科目ナンバリング：LIH-PHI606J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学研究の作法と技法 1

2. Course Title (授業題目)：Philosophy (Advanced Seminar) I

3. 授業の目的と概要：口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を養う。

参加者は自由に自らの研究テーマを設定し、協議して決めた発表日までに、発表論文および発表資料（レジュメ等）を作成する。

発表の場では、発表者によるプレゼンテーションに続いて、参加者の中から予め指定された特定質問者を中心に、全員で自由な討論を行い、また教員からのコメントを受ける（哲学専攻分野の教員は可能な限り全員が出席する）。

参加者は研究発表を行うことを通して、研究テーマの発見、論文作成および発表の方法、討論の仕方等について、

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to express and deepen their philosophical thoughts through presentation and discussion.

5. 学習の到達目標：口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to structure philosophical discussions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 報告と討論 (1)
3. 報告と討論 (2)
4. 報告と討論 (3)
5. 報告と討論 (4)
6. 報告と討論 (5)
7. 報告と討論 (6)
8. 報告と討論 (7)
9. 報告と討論 (8)
10. 報告と討論 (9)
11. 報告と討論 (10)
12. 報告と討論 (11)
13. 報告と討論 (12)
14. 報告と討論 (13)
15. 報告と討論 (14)

8. 成績評価方法：

方法

研究発表をすること（単位認定のためには必須）

その上で、

発表内容 35%

討論へ参加 30%

討論の内容 35%

9. 教科書および参考書：

特に指定しない。

10. 授業時間外学習：報告者は前の週の金曜日までに原稿を用意する。

特定質問者および参加者はそれをもとに事前に質問事項を用意する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：倫理学総合演習 I / Ethics (Integration Seminar I)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

semester：単位数：2

担当教員：小松原 織香, 村山 達也

コード：LM11505, 科目ナンバリング：LIH-PHI622J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：発表と討論

2. Course Title (授業題目) : Presentation and Discussion

3. 授業の目的と概要：参加者は、自分の研究テーマに基づいた発表を行ない、特定質問者や他の参加者からの質問に答える。倫理学にかかわる問題について考えを提示し、議論する訓練をする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Participants will give presentations based on their research topics and answer questions from a discussant and other participants. Participants will be trained to present and discuss their thoughts on issues related to ethics.

5. 学習の到達目標：発表と討論を通して、相手に自分の考えを理解してもらい力と、相手の考えを理解する力とを、同時に養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Through presentations and discussions, students will simultaneously develop the ability to have others understand their own ideas and to understand the ideas of others.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

基本的には対面、特別な事情のある場合のみオンラインで開催します。資料や情報は classroom を使用して発信します。

1. ガイダンスと発表予定の決定

2. 発表と討論 2

3. 発表と討論 3

4. 発表と討論 4

5. 発表と討論 5

6. 発表と討論 6

7. 発表と討論 7

8. 発表と討論 8

9. 発表と討論 9

10. 発表と討論 10

11. 発表と討論 11

12. 発表と討論 12

13. 発表と討論 13

14. 発表と討論 14

15. 発表と討論 15

8. 成績評価方法：

発表 7 割、出席 3 割。

9. 教科書および参考書：

特になし。

10. 授業時間外学習：発表者の予稿を精読し、質問に備える。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本学総合科目 I / Japanese Studies (Comprehensive Course) I

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LM12101, 科目ナンバリング：LAL-0AR503J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本学の方法と資料

2. Course Title (授業題目)：Materials and methods of Japanese studies

3. 授業の目的と概要：日本学の方法を多面的・総合的にとらえ、日本学研究の視座をもつ。まず、日本学諸分野からの方法の提示がおこなわれる。そして、それをもとにして、日本学の研究資料を総覧する。日本学諸分野からの多面的・総合的な提示によって、日本学研究の対象・資料の概要をつかむ。研究資料についての提示にあたっては、附属図書館等に所蔵される原典もとりにあげる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will understand Japanese studies from many angles and have a perspective on Japanese studies. First, research methods from various fields of Japanese studies are presented. Next, you will be presented with research materials on Japanese studies. This class is an omnibus lecture series.

5. 学習の到達目標：(1) 日本学研究の視座を多面的・総合的に説明できる。

(2) 日本学研究の資料・原典についての概略を説明できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students

(1) explain the viewpoints of Japanese studies from multiple perspectives and comprehensively,

(2) explain the outline of the research materials of Japanese studies.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 01 回 ガイダンス・日本学の過去・現在・未来①(茂木謙之介)

第 02 回 日本学の過去・現在・未来②(茂木謙之介)

第 03 回 海外の日本学事情(クレイグ クリストファー ロビン ジェイミー)

第 04 回 日本思想史学の方法(片岡龍)

第 05 回 日本思想史学の原典(引野亨輔)

第 06 回 日本語学の方法、他言語との対照(甲田直美)

第 07 回 日本語学の原典(大木一夫)

第 08 回 日本語教育学の方法①(小河原義朗)

第 09 回 日本語教育学の方法②(島崎薫)

第 10 回 日本文学の方法(佐倉由泰)

第 11 回 日本文学の原典(仁平政人)

第 12 回 日本史学の資料(籠橋俊光)

第 13 回 日本史学の方法(堀裕)

第 14 回 考古学の方法と資料(鹿又喜隆)

第 15 回 文献史学と考古学(松本圭太)

8. 成績評価方法：

レポート 80%

参加態度 20%

9. 教科書および参考書：

テキストは用いない。必要資料は印刷して配布する。

参考書・参考資料は講義内で随時提示する。

10. 授業時間外学習：各回の講義内容を整理し、自分自身の研究テーマとの関連性、関係性について検討する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：史科学 I / Archival Science I

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LM12102, 科目ナンバリング：LJS-HIS607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世古文書読解

2. Course Title (授業題目) : Study of Medieval Japanese Primary Documents

3. 授業の目的と概要：古文書とは、差出人と受取人とが明示されている歴史的資料をいう（日記や編纂物、文学作品は古文書には含まれない）。古文書は、歴史研究にとって最も大切な史料である。本講では、鎌倉幕府、室町幕府、戦国大名が発給した文書の原文（写真）を読むことで、中世の文書の基礎的な読解力、語彙力を身につける。また、様式の展開ひいてはその歴史的背景について理解を深める

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Historical materials whose sender and recipient are clearly stated. This is the definition of ancient documents (komonzyo). However, diaries and compilations are excluded. Ancient documents are the most important historical materials for historical research. Students will develop basic reading skills and build a vocabulary crucial to understanding photos of original documents of Medieval Japan, Issued by the Kamakura Shogunate, Muromachi Shogunate, Sengoku-daimyo. In this class, you will also learn about the form of the ancient document and their changes including historical backgrounds.

5. 学習の到達目標：日本中世文書の読解力を身につけ、様式についての基本的な知識を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students will develop basic reading skills and build a vocabulary crucial to understanding warrior documents of Medieval Japan, and will acquire the basic knowledge of diplomatics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

対面のみ

- 1) ガイダンス①
- 2) ガイダンス②
- 3) 鎌倉幕府文書 下文
- 4) 鎌倉幕府文書 政所下文
- 5) 鎌倉幕府文書 御教書
- 6) 鎌倉幕府文書 下知状
- 7) 室町幕府文書 御判御教書
- 8) 室町幕府文書 御内書
- 9) 室町幕府文書 奉書系文書
- 1 0) 室町幕府文書 命令の下達・施行
- 1 1) 軍事関係文書
- 1 2) 戦国大名文書①
- 1 3) 戦国大名文書②
- 1 4) 譲状、起請文など
- 1 5) 授業のまとめと試験

8. 成績評価方法：

筆記試験 [60%]・出席 [20%]・その他（講義中における発表の内容、講義への参加度）[20%]

9. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。

References are handed out at every class.

1 0. 授業時間外学習：受講者には毎回、古文書（写真版コピー）を筆写する課題が出される。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated text (pictures of ancient documents) for each class. They are also required to make a thorough review, mainly by completing assignments.

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

古文・漢文の基礎的読解力を要する。

It is recommended that participating students have basic skills in reading classical Japanese and Chinese.

科目名：日本語変異論研究演習 I / Variation of Japanese (Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LM11202, 科目ナンバリング：LJS-LIN612J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語分析法 I - 語の意味分析

2. Course Title (授業題目) : Methods of analyzing the Japanese language I: analysis of word meanings

3. 授業の目的と概要：言語にとって意味というものは欠かすことのできない側面であるが、それをとらえるのは思いのほかむずかしい。そこで、ここでは語の意味にしぼって、それがどのようなものであるのかを検討する。検討にあたっては、現代日本語の類義語をとりあげ、具体的な例文にもとづき類義語の差異を分析し、また、議論しながら、語の意味について考えていくことにする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, we will examine the meanings of words. We will take up synonyms in modern Japanese, analyze the differences between synonyms based on concrete example sentences, and consider the meaning of words through discussion.

5. 学習の到達目標：(1) 言語における意味、意味分析の方法の概略が説明できるようになる。

(2) 現代日本語の具体的な例文にもとづき、語の意味を分析することができるようになる。

(3) 言語調査をおこない、それにもとづき報告・議論ができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students

(1) To be able to give an outline of meaning in language and of methods of semantic analysis.

(2) To be able to analyze the meaning of words based on concrete examples of modern Japanese.

(3) To be able to

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 日本語研究の技法
3. 語の意味とは何か
4. 意味分析の方法①
5. 意味分析の方法②
6. 意味分析の実践①
7. 意味分析の実践②
8. 意味分析の実践③
9. 意味分析の実践④
10. 意味分析の実践⑤
11. 意味分析の実践⑥
12. 意味分析の実践⑦
13. 意味分析の実践⑧
14. 意味分析の実践⑨
15. 意味分析の実践⑩、まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

必要な資料、テキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：意味および意味研究の方法にかかわる文献資料を読んで参加する。

意味分析の方法について検討する。

類義語の意味についての調査をおこなう。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

日本語変異論研究演習 II (木曜日 2 講時)「日本語分析法 II - 言語変化研究」へ連続履修するのがのぞましい。

科目名：日本語研究論文作成法Ⅰ／Advanced Japanese for Academic writingⅠ

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LM12201, 科目ナンバリング：LAL-0AR516J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アカデミックライティングの基礎

2. Course Title (授業題目)：Academic WritingⅠ

3. 授業の目的と概要：この授業の目的は、大学や大学院の学習に必要なレポートや論文を正確に、わかりやすく書けるようになることです。そのために、日本語で文章を書くときに必要な基礎的な知識、文法、表現などを学びます。また、ペアやグループで相互にコメントし、レポートをよりよくする方法も学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： The aim of this course is to help students acquire basic academic writing skills in Japanese. This course also furthers the development of a student's skills in writing reports and research papers properly. In addition, students have opportunities to practice peer review and improve their reports.

5. 学習の到達目標： 1 文章を書くときに必要な表現やスキルを身に着ける
2 読み手にわかりやすく書く力をつける

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goals of this course are to:

1. develop the writing skills and learn useful expressions.
2. learn proper sentence construction.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では、classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。
クラスコードは、qvh4n6g です。
classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. オリエンテーション
2. 自己紹介文を書く
3. 自分の研究を紹介する
4. 書き言葉のルール
5. 過程を説明する
6. 定義を説明する①
7. 定義を説明する②
8. 分類・例示を説明する①
9. 分類・例示を説明する②
10. 比較・対照を説明する①
11. 比較・対照を説明する②
12. 原因・結果を説明する①
13. 原因・結果を説明する②
14. 全体のまとめ①
15. 全体のまとめ②

8. 成績評価方法：

宿題 50%、出席及び受講態度 40%、最終レポート 10%
以上の割合で、総合的に判定する

9. 教科書および参考書：

教科書はありません。授業のときに指示します。

参考書は『Good Writing へのパスポート』（くろしお出版）、『レポート・論文を書くための日本語文法』（くろしお出版）など

10. 授業時間外学習：ほぼ毎回、作文の宿題があります。授業では、宿題で書いてきた作文をペアやグループで読み合います。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：インド仏教史特論 I / History of Indian Buddhism(Advanced Lecture)I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：桜井 宗信

コード：LM12202, 科目ナンバリング：LGH-PHI603J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読
2. Course Title (授業題目)：rGyud sde spyi rnam of bSod nams rtse mo：reading
3. 授業の目的と概要：チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の管長を務めた bSod nams rtse mo(1142-1182)の代表作の1つ『タントラ概論』(rGyud sde spyi rnam)の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：By intensive reading of the rGyud sde spyi rnam, which is one of the masterpiece of bSod nams rtse mo (the second of the Five Venerable Masters of Sa skya pa), this course helps students learn about basic knowledge and theory of the Tantric Buddhism transmitted from India to Tibet, and deepen the ability of digesting native Tibetan Buddhist literatures in classical written Tibetan.
5. 学習の到達目標：インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will acquire the fundamental knowledge of Indo-Tibetan Tantric Buddhism, and develop the skills of reading classical Tibetan Buddhist literatures.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 『タントラ概論』講読 -1-
 2. 『タントラ概論』講読 -2-
 3. 『タントラ概論』講読 -3-
 4. 『タントラ概論』講読 -4-
 5. 『タントラ概論』講読 -5-
 6. 『タントラ概論』講読 -6-
 7. 『タントラ概論』講読 -7-
 8. 『タントラ概論』講読 -8-
 9. 『タントラ概論』講読 -9-
 10. 『タントラ概論』講読 -10-
 11. 『タントラ概論』講読 -11-
 12. 『タントラ概論』講読 -12-
 13. 『タントラ概論』講読 -13-
 14. 『タントラ概論』講読 -14-
 15. 『タントラ概論』講読 -15-
8. 成績評価方法：

授業・発表への取り組み (100%)
9. 教科書および参考書：

rGyud sde spyi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』
10. 授業時間外学習：予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

リアルタイム型オンライン形式で実施。

「インド学仏教史」専攻分野所属学生のみ履修可。

科目名：フランス文学特論 I / French Literature (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：今井 勉

コード：LM12203, 科目ナンバリング：LGH-LIT638J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：仏文学論文制作法
2. Course Title (授業題目) : How to write a paper on French literature
3. 授業の目的と概要：この授業では、フランス文学研究におけるさまざまな方法論を学びながら、実際の論文（レポート、研究ノート、学会誌投稿論文、修士論文や博士論文などの学位論文）を構想・執筆するに当たって最も重要となる問題設定の仕方と論理展開の方法について、実例をもとに実践的に考え、実習を通して執筆訓練を行います。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course offers an opportunity to deepen understanding diversity in the research and to develop the abilities necessary in academic writing.
5. 学習の到達目標：論文の構想と執筆について具体的かつ実践的な見通しを持つことができるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students have a concrete and practical perspective of writing articles.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
(以下、授業の進度については変更される場合があることをあらかじめご了承ください。)
第1回 導入
第2回 内在批評と外在批評
第3回 テクストの価値づけ
第4回 先行研究へのリスペクトと文献目録
第5回 最新の本文批評版および最新の研究への目配り
第6回 比較断章法（1）
第7回 比較断章法（2）
第8回 「注」への注意
第9回 問題設定は自分にしかできないということ（1）
第10回 問題設定は自分にしかできないということ（2）
第11回 執筆要項の順守
第12回 研究ノートを書いてみよう（1）
第13回 研究ノートを書いてみよう（2）
第14回 修士論文の構想（1）
第15回 修士論文の構想（2）
8. 成績評価方法：
準備をしたうえでの授業への参加状況 100%
9. 教科書および参考書：
Google クラスルーム上にデジタル資料を配付します。
10. 授業時間外学習：毎回、十分な準備をして授業に臨むこと。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：
特になし。

科目名：倫理学特論Ⅱ／ Ethics (Advanced Lecture II)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LM12204, 科目ナンバリング：LIH-PHI620J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ジェンダー/セクシュアリティと倫理

2. Course Title (授業題目)：Gender/sexuality introduction

3. 授業の目的と概要： 応用倫理学では、理論だけではなく、社会問題が起きている現場のリアリティを学びながら、「私たちはどう行動すべきか」を検討しなければなりません。本講義では、ジェンダー/セクシュアリティをテーマに挙げ、社会問題の背景にある歴史的な文脈・社会構造を学びながら、倫理的考察を進める方法を学びます。狭義の倫理学の知識だけではなく、社会学、心理学、歴史学等の知見を援用しながら、授業を進めます。

本講義はケーススタディを行います。センシティブなテーマも扱うので、受講する前に必ず内容を確認して、慎重に判断してください。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In applied ethics, we must examine "how we should act" while learning not only theory but also the reality of the field where ethical conflicts are arising. This course highlights one of the most controversial topics of our time, gender/sexuality, and promotes ethical reflection while studying the historical context and social structure behind social conflicts. The course will not only focus on knowledge of ethics in the narrow sense, but will also refer to findings from sociology, psychology, history and other disciplines.

This lecture will be based on case studies. I will also deal with sensitive topics, so please be sure to check the content and make a careful decision before attending the course.

5. 学習の到達目標：(1)ジェンダー/セクシュアリティについての基礎知識を身につける。

(2)社会問題の背景にある構造や歴史的な文脈・社会構造について理解する。

(3)実際に起きている社会問題を、倫理的に検討するための基礎的な技術を身につける

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To acquire a basic knowledge of gender/sexuality.

(2) To understand the structures behind ethical conflicts and the historical context and social structures.

(3) To develop basic skills to examine actual social phenomena from an ethical point of view

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回： 「なぜ、ジェンダー/セクシュアリティについて学ぶのか？」(授業ガイダンス)

第二回：「男女平等であるべきか？」(フェミニズムの歴史、バックラッシュ、トランス差別等)

第三回：「家族は大事にすべきか？」(家父長制、軍隊と家族、人口政策、同性婚等)

第四回：質問への回答・ミニレポート・ディスカッション・映像教材視聴

第五回：「家庭内の暴力に第三者は介入すべきか？」(DV、児童虐待等)

第六回：「性暴力被害者を支援すべきか？」(司法制度内の性差別、トラウマ、被害者支援等)

第七回：「性表現を規制すべきか？」(マスメディアの性差別、ポルノ問題、インターネット等)

第八回：質問への回答・ミニレポート・ディスカッション・映像教材視聴

第九回：「男女は同じ労働をすべきか？」(教育・労働・スポーツにおける性差別等)

第十回：「性労働を合法化すべきか？」(避妊法、HIV/性感染症、セックスワーカーの権利等)

第十一回：質問への回答・ミニレポート・ディスカッション・映像教材視聴

第十二回：「薬剤による中絶を認めるべきか？」(中絶、ピル等)

第十三回：「障害を持つ子どもにも権利を保障すべきか？」(障害者運動の歴史、出生前診断等)

第十四回：質問への回答、ならびに試験についての説明

第十五回：全体のまとめ

毎時間、コメントシートを書いてもらいます。人数に応じて小グループで議論する機会を持つことがあります。積極的な授業参加を評価します。

みなさんから寄せられた質問に回答する回を定期的に設けます。

授業の理解度に合わせて進むスピードを調整します。

柔軟に授業の計画を変更しますので、あくまでも以上は授業の予定です。

8. 成績評価方法：

出席・コメントシート等の平常点 30%

学期末試験 70%

9. 教科書および参考書：

教科書

教科書はありません。必要に応じて資料を配布します。

参考書

伊藤公雄、樹村みのり、國信潤子『女性学・男性学 ジェンダー論入門』第3版、有斐閣アルマ、2019年。

清水晶子『フェミニズムってなんですか?』文春新書、2022年。

1 0. 授業時間外学習：授業の予習復習をして、参考書に目を通してください。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

科目名：言語学特論Ⅱ／Linguistics (Advanced Lecture) I I

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：那須川 訓也

コード：LM12205, 科目ナンバリング：LIH-LIN602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：音韻論概説 I

2. Course Title (授業題目)：Introduction to phonology I

3. 授業の目的と概要：この授業を通して、英語と日本語の母語話者が示す分節現象で観察される規則に焦点を当て、音声、言語（文法）構造を構成している単位としてどのように機能しているかを学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will study how speech sounds function as units of linguistic (grammatical) structure, focusing on segmental patterns in native-speaker spoken English and Japanese.

5. 学習の到達目標：この授業を通して、諸言語話者の (i) 母語の音体系, (ii) 音現象を制御する規則, (iii) 文法理論における音韻知識の位置づけ、を説明できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to explain (i) what language speakers know about their native sound system, (ii) some of the rules controlling sound patterns in a particular language, and (iii) where phonological knowledge belongs in a

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

授業計画は以下の通りである。毎回の進捗は受講者の様子によって若干変わります。

第1回：音韻論とは何か。

第2回：音韻論と音声学

第3回：規則体系としての言語

第4回：言語機能

第5回：中核文法と周辺体系

第6回：音素論

第7回：音素と異音

第8回：対立分布と相補分布

第9回：異音規則

第10回：音配列論

第11回：音韻範疇

第12回：母音素性

第13回：母音弱化

第14回：子音素性

第15回：子音軟音化

毎回授業の冒頭で、前回の授業内容を復習する。

8. 成績評価方法：

レポート課題×2 (60%), 確認テスト×1 (40%)

9. 教科書および参考書：

教科書：小泉 政利 (編) 2016. 『ここから始まる言語学プラス統計分析』 共立出版。

10. 授業時間外学習：毎回、授業で扱った教科書の箇所と例を復習すること。そして不明な部分があれば、教員に尋ねること。
[After each class students are expected to review the material and examples studied in class, and to ask the instructor for guidance/clarification where necessary.]

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：理論社会学研究演習 I / Theoretical Sociology(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：小松 丈晃

コード：LM12206, 科目ナンバリング：LIH-SOC611J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：リスクと不確実性の社会学
2. Course Title (授業題目)：Sociology of Risk and Uncertainty
3. 授業の目的と概要：不確実性やリスクは、災害・環境・健康・科学技術・犯罪等といった多様な問題領域と関わり合いながら、昨今の社会学でも重要な概念の一つとなっている。この授業ではリスクや不確実性に関する社会学の定評あるテキストを取り上げ、多様なテーマをリスク概念と関連づけながら議論していくことで、受講生とともに、「リスク社会化」する社会を、社会的にいかにか論じるかを探ってみたい。とくに、いわゆる「リスク社会」論では相対的に見過ごされてきたジェンダーとリスクとの関連について、考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：“Risk” and “uncertainty” are treated as the basic concepts of sociology today. Those are related to the various subjects such as disaster, environmental problem, crime, and technological crisis. In this course, we will discuss the way to describe the modern society which has become a “risk society” through doing a close and careful examination of the text. Particularly, we will discuss the relationship between gender and risks, which has been somewhat overlooked in so-called “risk society” theory.
5. 学習の到達目標：・社会学の外国語専門文献の読解方法を習得する
・リスクや不確実性を社会的に論じるさいの基本的視角を学ぶ
・ジェンダーとリスクとの関連を捉えるための視角を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The main goals of the course are:
(1)Students will develop the reading skills to understand the sociological English texts
(2)Student will find a clue for addressing the problem of risk and uncertainty sociologically.
(3)Students will be able to devel
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. リスク論の社会(科)学的基礎
 3. リスクと社会理論
 4. ジェンダー化されたリスクの視点(1)
 5. ジェンダー化されたリスクの視点(2)
 6. ジェンダー化されたリスクの視点(3)
 7. ジェンダー化されたリスクの視点(4)
 8. リスク、エッジワーク、マスキュリティ(1)
 9. リスク、エッジワーク、マスキュリティ(2)
 10. リスク、エッジワーク、マスキュリティ(3)
 11. リスク、エッジワーク、マスキュリティ(4)
 12. 犯罪のリスクとジェンダー(1)
 13. 犯罪のリスクとジェンダー(2)
 14. 犯罪のリスクとジェンダー(3)
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

平常点 50%と提出レポート 50%による。
9. 教科書および参考書：

Kelly Hannah-Moffat and Pat O’Malley(eds.), 2007, “Gendered Risks”, Routledge-Cavendish
J. O. Zinn, 2008, “Social Theories of Risk and Uncertainty”, Blackwell.
10. 授業時間外学習：受講者は全員、授業時間外に、毎回対象となるテキスト（英語）を読み、授業時間までに、報告レジュメを作成し論点や疑問点を提示しなくてはならない。入念な予習と復習が要求される。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：現代日本学歴史分析特論 I / Japanese Studies History (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：CRAIG CHRISTOPHE

コード：LM12301, 科目ナンバリング：, 使用言語：

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：13 の瞬間から見る戦後日本史

2. Course Title (授業題目)：Postwar Japanese History as Seen through 13 Moments

3. 授業の目的と概要：この授業では、13 の重要な瞬間の検討を通じて、第二次世界大戦の終結から現在までの日本の歴史を探究する。災害、世界との新たな関わり、政治・経済の変化、その他の注目すべき出来事を含め、新しい視点から戦後を概観し、戦後の社会と政治の根底にある連続性と非連続性の両方の線、そして戦後の世界秩序における日本の位置を規定した地域と世界のつながりを浮き彫りにします。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course explores the history of the period from the end of the Second World War to the present in Japan through an examination of 13 important moments. Including disasters, new engagements with the world, political and economic shifts, and other notable events, this class will provide an overview of the postwar from a new perspective, highlighting the lines of both continuity and discontinuity that underlie postwar society and politics, as well as the regional and global connections that have defined Japan's place in the postwar world order.

5. 学習の到達目標：このクラスの主な目的は、戦後日本についての理解を深めるとともに、個々の出来事をより長い歴史的展開と結びつける手段を紹介することである。また、このテーマに関する英語での研究知識も身につけます。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The primary goals of the class are to build an understanding of the Japanese postwar among students while also demonstrating the means by which to connect individual moments with longer historical developments. Students will also gain familiarity with Eng

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：序論

第2回：戦後日本史：概論

第3回：1945年8月15日

第4回：1946年10月21日

第5回：1947年1月31日

第6回：1950年6月25日

第7回：1960年6月15日

第8回：1964年10月10日

第9回：1971年4月10日

第10回：1972年8月23日

第11回：1985年9月22日

第12回：1989年1月7日

第13回：1995年1月7日・3月20日

第14回：1997年7月7日

第15回：2001年3月11日

8. 成績評価方法：

一回のリアクションペーパー【40%】 発表【40%】 出席・参加【20%】

9. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：Readings will be distributed for each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

This class is taught in English. All readings are in English, but assignments can be submitted in English or Japanese.

このクラスは英語で行われます。リーディングはすべて英語で行われますが、課題の提出は英語または日本語で可能です。

科目名：日本古代・中世史特論Ⅱ／ Ancient and Medieval History in Japan(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LM12302, 科目ナンバリング：LJS-HIS602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世日本周縁地域史の研究

2. Course Title (授業題目)：Research on the History of the Peripheral Regions of Medieval Japan

3. 授業の目的と概要： 授業担当者が行っている、中世日本国の東西周縁部の比較研究の一端について講義する。前半は、主として東北地方と南九州における歴史認識や正統観念について講ずる。後半は、主として東北地方の歴史資料について論ずる。授業を通して、日本中世の国家構造について理解を深めるとともに、歴史研究の具体的方法について理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This lecture will cover some aspects of the class instructor's comparative research on the eastern and western peripheries of medieval Japan. The first half of the lecture will focus mainly on historical perceptions and notions of legitimacy in the Tōhoku region and Southern Kyushu. The second half will focus mainly on historical materials of the Tōhoku region. Through the course, students will deepen their understanding of the structure of the Japanese medieval state and the specific methods of historical research.

5. 学習の到達目標：1. 中世日本の国家構造について理解する。

2. 歴史研究の具体的方法を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. To understand the structure of the medieval Japanese state.

2. To acquire specific methods of historical research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 西の周縁地域 (1)

3. 西の周縁地域 (2)

4. 西の周縁地域 (3)

5. 東西周縁地域の比較 (1)

6. 東西周縁地域の比較 (2)

6. 東西周縁地域の比較 (3)

7. 東西周縁知己の比較 (4)

8. 史料論 (1)

9. 史料論 (2)

10. 史料論 (3)

11. 史料論 (4)

12. 史料論 (5)

13. 史料論 (6)

14. 史料論 (7)

15. まとめと試験

原則として対面

8. 成績評価方法：

筆記試験 [60%]・出席 [20%]・その他 (講義中における発表の内容と授業への参加度) [20%]

9. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。

References are handed out at every class.

10. 授業時間外学習：授業中に紹介される研究書や論文を、各自で検討する。

Students will review on their own research books and papers introduced in class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：文化財科学特論 I / Science of Cultural Properties (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：藤澤 敦

コード：LM12303, 科目ナンバリング：LJS-CUM601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：東北大学収蔵の考古学資料

2. Course Title (授業題目)：Archaeology collection of Tohoku University and history of the research

3. 授業の目的と概要：東北大学には研究の基礎となり成果となった、膨大な資料標本や研究機器類がある。その中には、文学研究科の考古学資料が約 20 万件あり、これらの資料はおよそ 90 年間以上にわたる調査と研究によって収集されてきたものである。

本講義では、これらの資料について解説し、これら資料に基づいて構築された学説の意義について紹介するとともに、その研究史的意義と今日的な意義について検討する。本年度は、東北大学において進められてきた縄文時代および弥生時代研究の意義について検討する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In Tohoku University there are many collections of the various fields. Approximately 200,000 of archaeology artifacts are in those. Those archaeology artifacts has been collected by investigations for more than 90 years.

This course provides explanations of archaeology collection of Tohoku University and the academic significance of the collection. In fiscal year 2023, it's explained mainly about research works about Jomon culture and Kofun culture advanced in Tohoku university.

5. 学習の到達目標：(1) 東北大学が収蔵する考古学資料について理解する。

(2) 東北大学の考古学資料の学術的意義を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students understand:

(1) Archaeology collection of Tohoku University.

(2) The academic significance of the collection.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 講義の概要と進め方の説明および導入
2. 東北大学での考古学研究の歴史
3. 東北大学収蔵の考古学資料の概要 (1)
4. 東北大学収蔵の考古学資料の概要 (2)
5. 考古学陳列館の見学と収蔵資料の解説 (1)
6. 考古学陳列館の見学と収蔵資料の解説 (2)
7. 東北大学における縄文文化研究 (1)
8. 東北大学における縄文文化研究 (2)
9. 東北大学における縄文文化研究 (3)
10. 東北大学における縄文文化研究 (4)
11. 東北大学における弥生文化研究 (1)
12. 東北大学における弥生文化研究 (2)
13. 東北大学における弥生文化研究 (3)
14. 東北大学における弥生文化研究 (4)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席と小レポートを合わせて総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

資料を随時配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本語教育学研究演習Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Advanced Seminar)II

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LM12304, 科目ナンバリング：LJS-LIN624J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：実践コミュニティでの学び
2. Course Title (授業題目)：Learning in Communities of Practice
3. 授業の目的と概要：この授業では、実践コミュニティに関する理論を学び、その理論を使って活動をデザインし、実践する。そしてその実践がどうだったのかを評価、検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will enhance their understanding of theories related to Communities of Practice. Then the course will provide them with opportunities to design and conduct activities of language learning based on these theories. At the end of the course, the students will evaluate these activities.
5. 学習の到達目標：・正統的周辺参加論、実践コミュニティの理論を理解し、説明することができる
・それらの理論を使い、活動をデザインすることができる
・実施した活動がどうだったのかをデータに基づき、評価することができる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:
・understand Legitimate Peripheral Participation and Communities of Practice
・design and conduct activities based on these theories
・evaluate the activities based on data
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回 (4/9)：イントロダクション、社会文化理論から学習をとらえるとは
第2回 (4/16)：正統的周辺参加とは
第3回 (4/23)：実践コミュニティとは
第4回 (5/7)：実践コミュニティに関する実践の検討①
第5回 (5/14)：実践コミュニティに関する実践の検討②
第6回 (5/21)：活動のデザインの検討①
第7回 (5/28)：活動のデザインの検討②
第8回 (6/4)：実践とデータ収集
第9回 (6/11)：実践とデータ収集
第10回 (6/18)：実践とデータ収集
第11回 (6/25)：実践の検討と修正
第12回 (7/2)：実践とデータ収集
第13回 (7/9)：実践とデータ収集
第14回 (7/16)：実践とデータ収集
第15回 (7/23)：まとめ
4/30は休講予定です。
8. 成績評価方法：
授業参加態度30%、授業での課題30%、最終レポート40%
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。
10. 授業時間外学習：火曜日17:30-18:30に実施される会話セッション「みんなのひろば」にて実践をします。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：宗教学特論Ⅱ／ Religious Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：問芝 志保

コード：LM12305, 科目ナンバリング：LGH-RES602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教社会学
 2. Course Title (授業題目)：Sociology of Religion in Japan
 3. 授業の目的と概要：①日本の宗教実践（特に葬送墓制、死別、巡礼、パワースポットブームなど）を対象とした英語論文を講読する。②外国人研究者が日本の宗教をどのようにとらえ、どのような点に注目しているかを理解する。③国内の研究動向との関連をディスカッションする。
 4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：(1) read English-language articles on Japanese religious practices (funeral and grave systems, bereavement, pilgrimage, power spot boom, etc.) (2) understand how foreign researchers view Japanese religions and what points they focus on (3) discuss the relationship with research trends in Japan
 5. 学習の到達目標：「宗教と社会」という問題をとらえるための視座を養う。
 6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn about a basic framework for the study of religion and the sociology of religion in Japan.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - ・各回1名の受講者が報告を担当する。報告者は課題論文を熟読し、要約したレジュメを作成し、報告を行う。
 - ・誰がいつ何を報告するかは初回授業の際に決定する。報告者になることを希望する者は初回授業に出席すること（どうしても出席できない場合は応相談）。
 - ・報告者にならなかった者の成績評価は期末レポートの提出によって行う。
 - (1) イントロダクション
 - (2) 日本の宗教社会学史概説講義①
 - (3) 日本の宗教社会学史概説講義②
 - (4) 現代日本の葬送墓制①
 - (5) 現代日本の葬送墓制②
 - (6) 現代日本の葬送墓制③
 - (7) 現代日本の葬送墓制④
 - (8) 日本の寺院・新宗教①
 - (9) 日本の寺院・新宗教②
 - (10) 日本の寺院・新宗教③
 - (11) 日本およびアジアの巡礼①
 - (12) 日本およびアジアの巡礼②
 - (13) 日本およびアジアの巡礼③
 - (14) 日本およびアジアの巡礼④
 - (15) まとめ
8. 成績評価方法：

レジュメによる報告 もしくは 期末レポートの提出による。
 9. 教科書および参考書：

教科書は特に指定しない。参考書は授業中に指示する。
 10. 授業時間外学習：課題論文を熟読し、わからない事項は事典等で調べておく。

授業内で提示された参考書に目を通し、理解を深める。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：

科目名：英文学研究演習 I / English Literature (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：TINK JAMES MICHA

コード：LM12306, 科目ナンバリング：LGH-LIT620E, 使用言語：英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：John Milton: Introduction to the Major Poetry

2. Course Title (授業題目)：ジョン・ミルトン：主要詩入門

3. 授業の目的と概要：John Milton (1608-1674) is one of the most influential, and controversial, poets in the English language, whose work has influenced many famous world of English and Literature, and continues to provoke readers today. This course will read a selection of his

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：ジョン・ミルトン(1608-1674)は、英語において最も影響力があり、物議を醸した詩人の一人で、その作品は多くの有名な英文学界に影響を与え、今日も読者を挑発し続けている。このコースでは、『詩集』(1645 年)に収められた初期の抒情詩や、代表作である叙事詩『失樂園』(1667 年)からの抜粋など、彼の主要な詩作品の一部を読み解く。また、17 世紀という時代の文学的・歴史的背景として、彼の文学ジャンルの使い方、彼の作品に与えた宗教的信仰の影響、生前の文化的・政治的対立の考え方などを学び、彼の作品の歴史的受容についても考察する。

5. 学習の到達目標：Students will read material in advance each week to discuss in the seminar and will also give presentations. Outcomes include: (1) To read major works of John Milton in the original; (2) To better understand the historical and intellectual context of the

6. Learning Goals(学修の到達目標)：学生は毎週、セミナーで議論するための資料を事前に読み、プレゼンテーションも行う。その成果は以下の通り：(1)ジョン・ミルトンの主要作品を原文で読むこと。(2)この作品の歴史的・知的背景、および17世紀文学全般について理解を深めること。(3)英語文学におけるミルトンの地位と関連性を考察する。(4)セミナーワークを通して、英語でのディスカッションとプレゼンテーションのスキルを身につける。

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1: Introduction

2: "On the Morning of Christ's Nativity"

3: "L' Allegro" and "Il Penseroso"

4: "Lycidas"

5: Comus (A Masque Presented at Ludlow Castle)

6: Selected sonnets

7: Paradise Lost Book I

8: Paradise Lost Book I (continued)

9: Paradise Lost Book II

10: Paradise Lost II (continued)

11: Paradise Lost Book IV

12: Paradise Lost Book IV (continued)

13: Paradise Lost Book IX

14: Paradise Lost IX (continued)

15: Conclusion

8. 成績評価方法：

25% One student presentation during class; 25% written responses during the semester; 50% research paper at end of semester

9. 教科書および参考書：

John Milton, Selected Poems, edited by John Leonard (Harmondsworth: Penguin, 2007)

10. 授業時間外学習：Short reaction comments to Google Classroom

One class presentation

'On final essay

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

This class will be taught in English.

Students should read some material in advance each week

科目名：ドイツ語学研究演習 I / German Language (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LM12307, 科目ナンバリング：LGH-LIT636B, 使用言語：2 カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語・ドイツ語圏文化講読
2. Course Title (授業題目)：German Language and Culture (Advanced Seminar)
3. 授業の目的と概要：1) ドイツの雑誌（週刊誌）や近年の文学作品を読むことを通してドイツ語能力、ドイツ語圏文化の知識を身に着ける。
2) 雑誌記事または近年発表された文学作品を 3 週間当たり 1 作品（雑誌記事は 2 週間当たり 1 本）ぐらいのペースで読んでいく。
3) 参加者のドイツ語力や関心に合わせて文学作品や雑誌記事の代わりに中・上級の教材を使うこともある
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：1) Improving German language skills and cultural knowledge through the reading of journal articles and literature.
2) Reading German pieces of literature in 3 weeks, and journal articles in 2 weeks.
3) Depending on the interests and the language skills of participants, the original materials may be replaced by materials from advanced-level textbooks.
5. 学習の到達目標：語彙を増やし、各自が持っているドイツ語を読む能力を高める。
また、聞き取り・会話力を含め、ドイツ語のコミュニケーション能力を高める。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Expand vocabulary, listening and reading skills according to the language materials.
Expanding communicative skills through narration, presentation, and discussion.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
以下は、一例である。
 1. Lukas Bärfuss: Malinois
 2. Lukas Bärfuss: Malinois
 3. Lukas Bärfuss: Malinois
 4. Raphaela Edelbauer: Das flüssige Land
 5. Raphaela Edelbauer: Das flüssige Landl
 6. Raphaela Edelbauer: Das flüssige Land
 7. Sebastian Guhr: Die langen Arme
 8. Sebastian Guhr: Die langen Arme
 9. Sebastian Guhr: Die langen Arme
 10. Miku Sopia Kühmel: Kintsugi
 11. Miku Sopia Kühmel: Kintsugi
 12. Miku Sopia Kühmel: Kintsugi
 13. Tonio Schachinger: Nicht wie Ihr
 14. Tonio Schachinger: Nicht wie Ihr
 15. Tonio Schachinger: Nicht wie Ihr

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。クラスコードはシラバス入力時点では未定で学期初めに決まります。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

8. 成績評価方法：

毎回の授業参加及び課題に基づく。

9. 教科書および参考書：

上記の「授業内容」で掲載された書籍を教材とする

10. 授業時間外学習：授業の準備、宿題（課題）

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：社会行動科学特論 I / Social Behavioral Science(Advanced Lecture)I

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：単位数：2

担当教員：小川 和孝

コード：LM12308, 科目ナンバリング：LIH-OS0601J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会階層と不平等の計量分析
2. Course Title (授業題目)：Quantitative Analysis on Social Stratification and Inequality
3. 授業の目的と概要：社会階層と不平等に関わる諸問題について、英語のリーディングを教材として理論と量的データ分析の方法への理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course offers a variety of topics on social stratification and inequality. Students learn theories and statistical methods of relevant areas through reading and discussion of literature.
5. 学習の到達目標：(1) 文献講読を通じて、社会階層と不平等に関する理論と実証分析への基本的な理解を身につける。
(2) 決められた担当回の発表を通じて、学術的な発表の経験を積む
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To gain basic understandings on the theories and empirical analyses in the field of social stratification and inequality through literature review
(2) To learn academic presentation skills
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 社会階層と不平等の理論 (1)
 3. 社会階層と不平等の理論 (2)
 4. 社会階層と不平等の理論 (3)
 5. 社会階層と不平等の理論 (4)
 6. 教育 (1)
 7. 教育 (2)
 8. 労働市場
 9. ジェンダー (1)
 10. ジェンダー (2)
 11. 人種・エスニシティ
 12. 社会関係資本
 13. 文化資本
 14. グローバリゼーション
 15. 総括討論
8. 成績評価方法：
授業への積極的参加、文献の担当回における発表および課題提出
9. 教科書および参考書：
Social Stratification: Class, Race, and Gender in Sociological Perspective (4th), edited by David Grusky, 2014.

必要な範囲についてコピーを用意する。

10. 授業時間外学習：指定文献を事前に読んで上で授業に出席することが求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：哲学研究演習 I / Philosophy(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LM12309, 科目ナンバリング：LIH-PHI608J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：生命の哲学
2. Course Title (授業題目)：Seminar on philosophy of life
3. 授業の目的と概要：20 世紀以降の生命の哲学／生物学の哲学の基礎文献を読み、基礎的な問題構成を理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to read the basic literature on the philosophy of life and philosophy of biology since the 20th century and understand their basic structure.
5. 学習の到達目標：・生命哲学／生物学の哲学の基本概念について説明をすることができる。
・生命哲学／生物学の哲学に孕む様々な問題とその解決方について論じることができる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：・Explain the essential concepts of the philosophy of life and the philosophy of biology
・Discuss the fundamental issues in the philosophy of life and the philosophy of biology
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この授業では、参加者による論文紹介と討論をメインとし、じっくり討論することに力を置く。授業開始時に提示された日本語ないし英語の文献(V. v, ヴァイツゼッカー『ゲシュタルトクライス 知覚と運動の人間学』/ Colin Allen et al. (ed.), Nature's Purposes: Analyses of Function and Design in Biology/キム・ステレルニー、ポール・E・グリフィス『セックス・アンド・デス 生物学の哲学への招待』)の文献リストをもとに選択する。以下のような内容を想定する。
 - 1, オリエンテーション
 - 2, ゲシュタルトクライス 自然哲学から生理学へ(1)
 - 3, ゲシュタルトクライス ゲシュタルトクライス 自然哲学から生理学へ(2)
 - 4, ゲシュタルトクライス 相即原理
 - 5, ゲシュタルトクライス 生物学的行為と主体
 - 6, ゲシュタルトクライス パトスの範疇
 - 7, 生物学的機能 生物の固有機能
 - 8, 生物学的機能 機能と自然選択
 - 9, 生物学的機能 機能とデザイン
 - 10, 生物学的機能と適応、自然のデザイン
 - 11, 進化的説明(1)
 - 12, 進化的説明(2)
 - 13, 進化と人間本性(1)
 - 14, 進化と人間本性(2)
 - 15, まとめ
8. 成績評価方法：
レポート(報告を含む) 80% 授業への参加(討論) 20%
9. 教科書および参考書：
V. v, ヴァイツゼッカー『ゲシュタルトクライス』木村敏、濱中淑彦訳 / Colin Allen et al. (ed.), Nature's Purposes: Analyses of Function and Design in Biology/キム・ステレルニー、ポール・E・グリフィス『セックス・アンド・デス』松本 俊吉監修・解題は適宜配布する。
10. 授業時間外学習：事前にテキストを読み、議論に備える。また、授業での方向、議論をもとに、振り返って考察する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：心理学研究実習Ⅰ／ Psychological Methodology I

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：単位数：2

担当教員：荒井 崇史・辻本 昌弘・河地 庸介・阿部 恒之・坂井 信之・RAEVSKIY ALEXAND

コード：LM12310，科目ナンバリング：LIH-PSY616J，使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：心理学研究法

2. Course Title (授業題目)：Psychological Research Method

3. 授業の目的と概要：心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得する。実習テーマは毎回異なる。心理学実験では主として実験的方法を用いたメニューを、心理学研究法では、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。なお、以下の授業計画は担当者の都合などによる変更

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Psychologists use various empirical methods like experimental method, survey method, interview method, psychological test, and case-study method to understand and explain behavior. The fundamentals are the observation of behavior and data collection and analysis. In this course, the students practically acquire the knowledge and skills essential for psychological research. The students are required to submit the report for each class.

5. 学習の到達目標：種々の心理学研究法の基本を実習を通じて学び、基本的スキルを習得し、その理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is that students acquire and deepen the knowledge and skills essential for psychological research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面での授業を基本とする。

ただし、状況に応じてオンライン・オンデマンド授業を行う。

なお、授業資料と授業情報についてはClassroomを使用して発信する。

内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. オリエンテーション
2. 研究倫理
3. 心理統計の基礎
4. 心理統計解析法
5. 文献検索・レポート作成法
6. 実験法1 (基礎)
7. 実験法2 (動物実験)
8. 質問紙法 (作成と実施)
9. 観察法・フィールドワーク
10. 面接法
11. 質問紙法 (実施後の処理)
12. 心理検査法
13. 心理統計解析実習
14. コンピュータによる刺激制御法
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート [60%]，出席 [40%]

9. 教科書および参考書：

Google Classroomにて指示する。

10. 授業時間外学習：毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

履修は原則として心理学専攻分野の大学院生に限る。

後期の心理学研究実習Ⅱと連続履修すること。ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。

科目名：日本思想史特論 I / History of Japanese Thought (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LM12401, 科目ナンバリング：LJS-PHI601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「学校」の思想史

2. Course Title (授業題目)：History of Thought Regarding Schools

3. 授業の目的と概要：現代人にとって、学校で学ぶことはあまりに当たり前の行為と化している。しかし、一人の教師が教壇に立ち、多数の学生に対して講義を行うことは、日本ではせいぜい明治時代になってから一般化した教育スタイルに過ぎない。また、学生個々の達成度を測るため、学期末に行われる試験も、前近代の日本社会では決して一般的ではなかった。本授業では、受講生たちに教育社会史の論文を精読させ、学校で学ぶという行為の意味を深く考察してもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：For modern people, learning at school has become a completely normal activity. However, having one teacher stand at the podium and give lectures to a large number of students is only an educational style that became common in Japan during the Meiji period. Additionally, exams held at the end of each semester to measure each student's level of achievement were by no means common in pre-modern Japanese society. In this course, students will be asked to carefully read papers on the social history of education and deeply consider the meaning of the learning at school.

5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、学校という場において生じた歴史的な変遷を正しく理解し、その意義を多角的に評価できるようになることである。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this course is to correctly understand the historical changes that have occurred in schools, and to be able to evaluate their significance from multiple perspectives.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回 ガイダンスー「学校」を思想史的に考えるー

第 2 回 学校と卓越化の欲望 (近世編)ー前田勉『江戸の読書会』を読む①ー

第 3 回 学校と画一性・多様性 (近世編)ー前田勉『江戸の読書会』を読む②ー

第 4 回 学校と卓越化の欲望 (近代編)ー竹内洋『立志・苦学・出世』を読む①ー

第 5 回 学校と画一性・多様性 (近代編)ー竹内洋『立志・苦学・出世』を読む②ー

第 6 回 学校と知識人 (近世編)ー渡辺浩『東アジアの王権と思想』を読むー

第 7 回 学校と知識人 (近代編)ー荻部直『移りゆく「教養」』を読むー

第 8 回 学校のなかの道具 (近世編①)ー青木美智男『日本文化の原型』を読むー

第 9 回 学校のなかの道具 (近世編②)ー鈴木俊幸『江戸の読書熱』を読むー

第 10 回 学校のなかの道具 (近代編①)ー佐藤秀夫『ノートや鉛筆が学校を変えた』を読む①ー

第 11 回 学校のなかの道具 (近代編②)ー佐藤秀夫『ノートや鉛筆が学校を変えた』を読む②ー

第 12 回 学校のなかの道具 (近代編③)ー佐藤卓己『テレビの教養』を読むー

第 13 回 学校のなかの自主と規律 (近世編)ー辻本雅史『「学び」の復権』を読む①ー

第 14 回 学校のなかの自主と規律 (近代編)ー辻本雅史『「学び」の復権』を読む②ー

第 15 回 まとめ

8. 成績評価方法：

本授業は、授業への参加度 30%、ミニットペーパー 30%、期末レポート 40%の割合で評価する。

9. 教科書および参考書：

使用する論文については、授業中に適宜指示する。

10. 授業時間外学習：全受講生は、授業ごとに指定する課題論文を事前に精読し、ミニットペーパーを提出すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本思想史特論Ⅲ／ History of Japanese Thought (Advanced Lecture) III

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LM12402, 科目ナンバリング：LJS-PHI609J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「学校」の思想史

2. Course Title (授業題目)：History of Thought Regarding Schools

3. 授業の目的と概要：現代人にとって、学校で学ぶことはあまりに当たり前の行為と化している。しかし、一人の教師が教壇に立ち、多数の学生に対して講義を行うことは、日本ではせいぜい明治時代になってから一般化した教育スタイルに過ぎない。また、学生個々の達成度を測るため、学期末に行われる試験も、前近代の日本社会では決して一般的ではなかった。本授業では、受講生たちに教育社会史の論文を精読させ、学校で学ぶという行為の意味を深く考察してもらおう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：For modern people, learning at school has become a completely normal activity. However, having one teacher stand at the podium and give lectures to a large number of students is only an educational style that became common in Japan during the Meiji period. Additionally, exams held at the end of each semester to measure each student's level of achievement were by no means common in pre-modern Japanese society. In this course, students will be asked to carefully read papers on the social history of education and deeply consider the meaning of the learning at school.

5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、学校という場において生じた歴史的な変遷を正しく理解し、その意義を多角的に評価できるようになることである。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this course is to correctly understand the historical changes that have occurred in schools, and to be able to evaluate their significance from multiple perspectives.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回 ガイダンスー「学校」を思想史的に考えるー

第 2 回 学校と卓越化の欲望 (近世編)ー前田勉『江戸の読書会』を読む①ー

第 3 回 学校と画一性・多様性 (近世編)ー前田勉『江戸の読書会』を読む②ー

第 4 回 学校と卓越化の欲望 (近代編)ー竹内洋『立志・苦学・出世』を読む①ー

第 5 回 学校と画一性・多様性 (近代編)ー竹内洋『立志・苦学・出世』を読む②ー

第 6 回 学校と知識人 (近世編)ー渡辺浩『東アジアの王権と思想』を読むー

第 7 回 学校と知識人 (近代編)ー荻部直『移りゆく「教養」』を読むー

第 8 回 学校のなかの道具 (近世編①)ー青木美智男『日本文化の原型』を読むー

第 9 回 学校のなかの道具 (近世編②)ー鈴木俊幸『江戸の読書熱』を読むー

第 10 回 学校のなかの道具 (近代編①)ー佐藤秀夫『ノートや鉛筆が学校を変えた』を読む①ー

第 11 回 学校のなかの道具 (近代編②)ー佐藤秀夫『ノートや鉛筆が学校を変えた』を読む②ー

第 12 回 学校のなかの道具 (近代編③)ー佐藤卓己『テレビの教養』を読むー

第 13 回 学校のなかの自主と規律 (近世編)ー辻本雅史『「学び」の復権』を読む①ー

第 14 回 学校のなかの自主と規律 (近代編)ー辻本雅史『「学び」の復権』を読む②ー

第 15 回 まとめ

8. 成績評価方法：

本授業は、授業への参加度 30%、ミニットペーパー 30%、期末レポート 40%の割合で評価する。

9. 教科書および参考書：

使用する論文については、授業中に適宜指示する。

10. 授業時間外学習：全受講生は、授業ごとに指定する課題論文を事前に精読し、ミニットペーパーを提出すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本語学総合演習 I / Japanese Linguistics(Integration Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：大木 一夫, 甲田 直美, 中西 太郎

コード：LM12403, 科目ナンバリング：LJS-LIN606J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語史・方言研究の諸問題(1)

2. Course Title (授業題目) : Studies of Japanese language history and Japanese dialect

3. 授業の目的と概要：日本語史・方言研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Participants survey and criticize prior research on Japanese language history and Japanese dialect, and determine their own themes and research methods, while grasping current academic trends where various research themes exist. After that, we will conduct surveys based on the theme and method, conduct analysis and consideration based on the collected data, and announce the results orally. In addition, the contents will be discussed by all participants. Through oral presentations and discussions, students will learn how to research and criticize prior research on their own themes, how to consider them based on sufficient scrutiny of materials, and how to effectively describe new methodologies and research results.

5. 学習の到達目標：(1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。

(2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。

(3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) The current research trend can be grasped and it can be shown explicitly.

(2) To be able to make oral presentations on their own themes based on appropriate evidence and evidence.

(3) Discussions can be made based on the content of the oral presenta

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：ガイダンス・研究発表の方法

第2回：研究発表(1)

第3回：研究発表(2)

第4回：研究発表(3)

第5回：研究発表(4)

第6回：研究発表(5)

第7回：研究発表(6)

第8回：研究発表(7)

第9回：研究発表(8)

第10回：研究発表(9)

第11回：研究発表(10)

第12回：研究発表(11)

第13回：研究発表(12)

第14回：研究発表(13)

第15回：研究発表(14)

定期試験は実施しない。

8. 成績評価方法：

(1) レポート (研究発表の内容にもとづく論文) 90%

(2) 参加態度 (口頭発表に対する質疑・応答など) 10%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

参考書：

佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014

飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007

日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018

10. 授業時間外学習：発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演 II も連続履修すること。

科目名：日本文学総合演習 I / Japanese Literature (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰、仁平 政人、横溝 博

コード：LM12404, 科目ナンバリング：LJS-LIT605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本文学史の考究とその論述

2. Course Title (授業題目)：Research of History of Japanese Literature

3. 授業の目的と概要：論文作成の実践にもとづく日本文学の作品、表現についての演習形式の授業を通して、個別の作品、表現の特質を明らかにし、その意義を広く文学史、文化史の中に位置づけて行く。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will clarify the characteristics of individual expressions in Japanese literature works by practicing the writing of treatises, and position their significance widely in the history of literature and culture.

5. 学習の到達目標：日本文学を著実に考究し、論述し、歴史的に意味づけるための高度で専門的な問題発見力、分析力、構想力を総合的に習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students comprehensively acquire advanced and specialized problem-finding ability, analytical ability, and conceptual ability necessary for steadily studying, discussing, and historically making sense of Japanese literature.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

基本的に、対面授業のみにより（オンラインによる参加も可能）実施する。

1. ガイダンス

2. 考察発表とそれにもとづく意見交換

3. 考察発表とそれにもとづく意見交換

4. 考察発表とそれにもとづく意見交換

5. 考察発表とそれにもとづく意見交換

6. 考察発表とそれにもとづく意見交換

7. 考察発表とそれにもとづく意見交換

8. 考察発表とそれにもとづく意見交換

9. 考察発表とそれにもとづく意見交換

10. 考察発表とそれにもとづく意見交換

11. 考察発表とそれにもとづく意見交換

12. 考察発表とそれにもとづく意見交換

13. 考察発表とそれにもとづく意見交換

14. 考察発表とそれにもとづく意見交換

15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業における発表 [60%]・授業への参加 [40%]

9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しないが、各回で考察対象とする作品のテキストを各自で用意する。

参考書は、随時紹介する。

10. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品とあらかじめ配布された資料を精読し、質問事項を用意しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

この授業は I・II を連続して履修すること。

科目名：中国語学中国文学特論 I / Chinese Language and Literature (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：張 佩茹

コード：LM12405, 科目ナンバリング：LGH-LIT601B, 使用言語：2 カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代中国語の諸相

2. Course Title (授業題目) : Various Aspects of Modern Mandarin Chinese

3. 授業の目的と概要：現代中国語の言語的特徴について、理解を深めることを目的とする。まず、現代中国語に関する概説を読み、その全体像をある程度把握したうえで、テーマ別の研究論文の精読を通して、中国語学における重要な概念や構文、さらに、問題意識の置き方や研究手法について学習する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course aims to enhance students' understanding of the linguistic characteristics of modern Mandarin Chinese. At first, students are required to read an overview of modern Mandarin Chinese, and then by reading research papers that deal with different aspects of modern Mandarin Chinese, students learn about the essential concepts and structures in this language as well as learn how to ask appropriate research questions and the possible ways of research in Chinese linguistics.

5. 学習の到達目標：①中国語の論文を正確に読み解く能力を身につける。

②中国語学における重要な概念を理解し、説明することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : ①Students will be able to read research papers written in Chinese accurately.

②Students will understand the essential concepts in Chinese linguistics and know how to explain them appropriately.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

<授業内容・方法>基本的に講義形式で行うが、演習も取り入れる。

<進捗予定>

第1回 ガイダンス

第2回 現代中国語の概説 (一)

第3回 現代中国語の概説 (二)

第4回 現代中国語の概説 (三)

第5回 現代中国語の概説 (四)

第6回 研究論文1 (一)

第7回 研究論文1 (二)

第8回 研究論文1 (三)

第9回 研究論文1 (四)

第10回 研究論文2 (一)

第11回 研究論文2 (二)

第12回 研究論文2 (三)

第13回 研究論文2 (四)

第14回 研究論文2 (五)

第15回 期末まとめ

8. 成績評価方法：

授業への取り組み：50%

課題：50%

9. 教科書および参考書：

<教科書>プリントを配布する。

<参考書>『文法講義』朱德熙 著、杉村博文・木村英樹 訳、白帝社、1995 年

10. 授業時間外学習：予習：プリントの指定箇所を読んだうえ、問題点を整理する。

復習：プリントや関連資料を読み返し、正確に理解できたかを確認する。興味関心のある文法現象について考える。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：哲学特論 I / Philosophy (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：大森 仁

コード：LM12406, 科目ナンバリング：LIH-PHI601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学的論理学入門

Introduction to Formal Logic

2. Course Title (授業題目) : An introduction to philosophical logic

3. 授業の目的と概要：論理学の歴史は古く、アリストテレスにまで遡ることができます。しかし、古いからといって、全てが明らかになっているわけではなく、今もなお多くの論理学者たちが、様々な問題と向き合っています。本講義では、古典命題論理に基づいて、現代の論理学の基本的な考え方を習得することを目的とします。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Logic has a long history, going back to Aristotle. This, however, does not mean that everything has been discovered, and there are still a number of logicians facing various questions. This course aims at providing students with the basics of modern logic through classical propositional logic.

5. 学習の到達目標：論理学とはどのような学問であるのかを理解すること、及び現代の論理学における一つの到達点である古典命題論理に関する健全性定理及び完全性定理の証明を理解することの二点を目的とします。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : This course is designed for students (i) to understand what logic is, and (ii) to understand the soundness and completeness result for classical propositional logic which is the basic and important result modern logic.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- [1] ガイダンス
- [2] 古典命題論理の形式言語
- [3] 古典命題論理の意味論 (1)
- [4] 古典命題論理の意味論 (2)
- [5] 古典命題論理の意味論 (3)
- [6] 古典命題論理の意味論 (4)
- [7] 古典命題論理の証明体系 (1)
- [8] 古典命題論理の証明体系 (2)
- [9] 古典命題論理の証明体系 (3)
- [10] 古典命題論理の証明体系 (4)
- [11] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係 (1)
- [12] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係 (2)
- [13] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係 (3)
- [14] 古典命題論理の意味論と証明体系の関係 (4)
- [15] まとめ

8. 成績評価方法：

期末レポートを主とし (60 パーセント)、平常点 (コメントペーパーの提出など) を加味します (40 パーセント)。

9. 教科書および参考書：

講義中に適宜紹介します。

10. 授業時間外学習：講義の内容の復習をしっかりとしてください。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本語理解表現スキルⅠ／ Japanese comprehension and expression skills I

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LM12501, 科目ナンバリング：LAL-0AR525J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：読解力と口頭表現能力の改善
2. Course Title (授業題目)：improving of reading and speaking skills
3. 授業の目的と概要：読解活動は、読んだことから内容を再構築する過程です。そこでこの授業の目的は、あるまとまった文章を読んで理解したことを相手に話すことによって、読む力と話す力を伸ばします。そのため、授業では、ペアになって、読んだ内容を相手に伝えるという目的で読み、相手に話す活動を繰り返し行います。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Reading comprehension can be defined as the process of reconstructing a story from reading material. The aim of this course is to improve students' reading and speaking skills in Japanese by post-reading retelling activity in pairs. Students have opportunities to retell the story to each other in each pair of learners.
5. 学習の到達目標：
 - 1 数文レベルから 600 字程度までのまとまった文章を読んで理解できる
 - 2 理解した内容を相手に適切に伝えることができる
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goals of this course are to:
 1. comprehend a decent amount of sentences which is less than 600 characters.
 2. inform what you understand to someone adequately.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. オリエンテーション
 2. 再話活動(1)
 3. 再話活動(2)
 4. 再話活動(3)
 5. 再話活動(4)
 6. 再話活動(5)
 7. 再話活動(6)
 8. 中間テスト
 9. 再話活動(7)
 10. 再話活動(8)
 11. 再話活動(9)
 12. 再話活動(10)
 13. 再話活動(11)
 14. 再話活動(12)
 15. 期末テスト
8. 成績評価方法：

課題 25%、クイズ 25%、中間テスト 25%、期末テスト 25%

以上の割合で、総合的に判定する
9. 教科書および参考書：

教科書はありません。授業のときに指示します。

参考書は『初中級からの読解』（凡人社）、『新わくわく文法リスニング 100』（凡人社）など
10. 授業時間外学習：毎回、課題とクイズがあります。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：日本語学総合演習Ⅲ／ Japanese Linguistics(Integration Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 5講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：甲田 直美, 中西 太郎, 大木 一夫

コード：LM12502, 科目ナンバリング：LJS-LIN608J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語史・方言研究の諸問題(2)

2. Course Title (授業題目) : Studies of Japanese language history and Japanese dialect

3. 授業の目的と概要：日本語史・方言研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Participants survey and criticize prior research on Japanese language history and Japanese dialect, and determine their own themes and research methods, while grasping current academic trends where various research themes exist. After that, we will conduct surveys based on the theme and method, conduct analysis and consideration based on the collected data, and announce the results orally. In addition, the contents will be discussed by all participants. Through oral presentations and discussions, students will learn how to research and criticize prior research on their own themes, how to consider them based on sufficient scrutiny of materials, and how to effectively describe new methodologies and research results.

5. 学習の到達目標：(1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。

(2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。

(3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) The current research trend can be grasped and it can be shown explicitly.

(2) To be able to make oral presentations on their own themes based on appropriate evidence and evidence.

(3) Discussions can be made based on the content of the oral presenta

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：ガイダンス・研究発表の方法

第2回：研究発表(1)

第3回：研究発表(2)

第4回：研究発表(3)

第5回：研究発表(4)

第6回：研究発表(5)

第7回：研究発表(6)

第8回：研究発表(7)

第9回：研究発表(8)

第10回：研究発表(9)

第11回：研究発表(10)

第12回：研究発表(11)

第13回：研究発表(12)

第14回：研究発表(13)

第15回：研究発表(14)

定期試験は実施しない。

8. 成績評価方法：

(1) レポート (研究発表の内容にもとづく論文) 90%

(2) 参加態度 (口頭発表に対する質疑・応答など) 10%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

参考書：

佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014

飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007

日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018

10. 授業時間外学習：発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演習 IV も連続履修すること。

科目名：日本近世・近代史研究演習Ⅲ／ Early Modern and Modern History in Japan(Advanced Seminar) III

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：安達 宏昭

コード：LM12503, 科目ナンバリング：LJS-HIS615J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代史研究法 (1)

2. Course Title (授業題目)：Method of Studies on Japanese Modern History (1)

3. 授業の目的と概要：近現代史における基礎的な研究内容について学び、受講者相互に認識を深めるとともに、各自が研究テーマを設定して、その問題関心、視角、実証分析について発表する。そして、それに対する討論を通して、発表者の研究方法について課題を明確にする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class, students will study basic research contents in modern history, set their own research themes, and present their interests, viewing angles, and empirical analysis. Then, through discussions, clarify issues regarding the presenter's research methods. This course will be taught in Japanese.

5. 学習の到達目標：(1) 先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。

(2) 自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。

(3) 上記の2つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Students will be able to analyze and criticize previous research and select their own research issues.

(2) Students will be able to collect and analyze historical documents according to their own research issues.

(3) Based on the above two points, s

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義

2. 受講者の研究報告と討論 (1)

3. 受講者の研究報告と討論 (2)

4. 受講者の研究報告と討論 (3)

5. 受講者の研究報告と討論 (4)

6. 受講者の研究報告と討論 (5)

7. 受講者の研究報告と討論 (6)

8. 受講者の研究報告と討論 (7)

9. 受講者の研究報告と討論 (8)

10. 受講者の研究報告と討論 (9)

11. 受講者の研究報告と討論 (10)

12. 受講者の研究報告と討論 (11)

13. 受講者の研究報告と討論 (12)

14. 受講者の研究報告と討論 (13)

15. 受講者の研究報告と討論 (14)

8. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%]・(○) その他(発表態度、受講態度) [40%]

9. 教科書および参考書：

特になし。

10. 授業時間外学習：報告者の研究テーマに関する史実や先行研究などを、事前に学習しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約

履修要件：「近現代史研究法 (1) (2)」(安達担当) は、原則として連続して履修すること。

科目名：英語学基礎特論Ⅱ／ English Linguistics (Basic Lecture) II

曜日・講時：前期 火曜日 5講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：島 越郎

コード：LM12504, 科目ナンバリング：LGH-LIN602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：意味論と語用論における諸問題の研究 I
2. Course Title (授業題目)：Topics in Semantics and Pragmatics I
3. 授業の目的と概要：生成文法における意味論や語用論の最新の研究を批判的に検討し、今後の理論展開の可能性を探る。今学期は、前年度に引き続き、Daniel Buring (2016) Intonation and Meaning, Oxford University Pressを精読する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course addresses theoretical and empirical issues in semantics and pragmatics.
Topics may include focussing, givenness, deaccenting.
5. 学習の到達目標：意味論と語用論における最新動向を把握する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of the course is to develop the background needed for independent semantic and pragmatic research.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 - 1) Ch. 6: Prosodic structure (1)
 - 2) Ch. 6: Prosodic structure (2)
 - 3) Ch. 6: Prosodic structure (3)
 - 4) Ch. 6: Prosodic structure (4)
 - 5) Ch. 6: Prosodic structure (5)
 - 6) Ch. 6: Prosodic structure (6)
 - 7) Ch. 6: Prosodic structure (7)
 - 8) Ch. 7: Prosodic structure and information structure (1)
 - 9) Ch. 7: Prosodic structure and information structure (2)
 - 10) Ch. 7: Prosodic structure and information structure (3)
 - 11) Ch. 7: Prosodic structure and information structure (4)
 - 12) Ch. 7: Prosodic structure and information structure (5)
 - 13) Ch. 7: Prosodic structure and information structure (6)
 - 14) Ch. 7: Prosodic structure and information structure (7)
 - 15) Ch. 7: Prosodic structure and information structure (8)
8. 成績評価方法：
レポート [80%] 授業における貢献度 [20%]
9. 教科書および参考書：
Daniel Buring (2016) Intonation and Meaning, Oxford University Press
10. 授業時間外学習：担当箇所は勿論のこと、担当外の箇所についてもしっかり予習し、不明な点を整理しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
生成文法に関する基礎的知識を前提とする。

科目名：ドイツ文化学特論 I / German Culture (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：佐藤 雪野

コード：LM12505, 科目ナンバリング：LGH-LIT632J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ（語）文化圏としての中欧の文化と歴史 (8)

2. Course Title (授業題目)：Culture and History of Central Europe as a German Cultural Sphere (8)

3. 授業の目的と概要：広い意味でのドイツ（語）文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。

その際、ドイツ以外のドイツ（語）文化圏に着目する。

「ドイツ文化圏」としてのプラハに注目し、なぜそこに「ドイツ文化圏」が生じたのかを含め、プラハの多文化性を考察する。講義のほか、ドイツ語で書かれたテキストを読む機会を設け、ドイツ語の読解力も高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides students knowledge of history and culture of German speaking area, especially outside of today's Germany.

For this purpose we will discuss on multi-cultural Prague, also as a German cultural sphere.

Besides lectures we will read a German text in order to improve the students' ability of German language.

5. 学習の到達目標：1. ドイツ（語）文化圏の歴史と文化を理解する。

2. ドイツ語の読解力を向上させる。

3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. Students will understand history and culture of German speaking area.

2. Students will develop skills to read German academic text.

3. Students will be able to present their research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業を原則とする。

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

1. オリエンテーション
2. プラハの歴史
3. ボヘミアとドイツ人
4. プラハとユダヤ人
5. プラハのドイツ文学
6. レンカ・ライネロヴァーとプラハ
7. Zu Hause in Prag 1
8. Zu Hause in Prag 2
9. Zu Hause in Prag 3
10. Zu Hause in Prag 4
11. Zu Hause in Prag 5
12. Zu Hause in Prag 6
13. Zu Hause in Prag 7
14. Zu Hause in Prag 8
15. まとめ

8. 成績評価方法：

平常点（出席、アサインメント、発言状況）：70%

期末課題：30%

9. 教科書および参考書：

テキストはプリント配布

その他の参考書は授業中に指示する。

Text will be provided at the class. Reference books will be introduced at the class.

10. 授業時間外学習：予習は、テキストを読み、関連事項を調べておくこと。

復習時にも、調査が必要。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明（オフィス・アワー、講師への連絡方法など）は開講時に行う。

The further information for the lecturer will be given in class.

科目名：宗教学死生学総合演習 I / Religious Studies / Death & Life Studies (Integration Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：木村 敏明・高橋 原・谷山 洋三・問芝 志保

コード：LM12506, 科目ナンバリング：LGH-RES604J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教学死生学研究法
2. Course Title (授業題目)：Method of Religious Studies/ Death & Life Studies
3. 授業の目的と概要：この授業は、大学院在籍学生による研究発表と討論を通して、宗教学や死生学に関する高度な知識や方法を身につけることを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to acquire advanced knowledge and methods of religious studies and death studies through research presentations and discussions by graduate students.
5. 学習の到達目標：自他の研究内容について、学術的に発表および討論を行うことができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will gain skills for academic presentation and discussion
7. 授業の内容・方法と進度予定：
毎回の授業において1名ないし2名の大学院生が発表をおこない、その内容について全体で討論をおこなう。
8. 成績評価方法：
授業および発表への参加。
9. 教科書および参考書：
特になし。
10. 授業時間外学習：自らの研究を発表としてまとめること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：インド学研究演習 I / Indological Studies (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LM12507, 科目ナンバリング：LGH-PHI606J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヴェーダ文献研究
2. Course Title (授業題目) : Vedic Literature
3. 授業の目的と概要：本講義では、『リグヴェーダ R.gveda』 IV 18 「Indra 讃歌」を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Aufrecht が校訂したテキストを用い、Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Student
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course, students will read R.gveda IV 18 mainly based on the text edited by Aufrecht. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge in Indian philological study with Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL: Vedic Grammar for Student, DELBRÜCK: Altindische Syntax, etc.
5. 学習の到達目標：リグヴェーダ原典の講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : By the end of this course, students will be able to
 1. acquire fundamental skills of philological study through with reading of the R.gveda.
 2. achieve essential knowledge to understand the origin of religion, culture, and language in India.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)
 - 2-15 R.gveda IV 18
8. 成績評価方法：

授業への準備状況 (30%), 授業で示される理解度 (70%)
9. 教科書および参考書：

R.gveda-Saṁhitā (Ed. Aufrecht); Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL, Vedic Grammar for Student; DELBRÜCK, Altindische Syntax; WHITNEY, Sanskrit Grammar,
10. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではできるだけ多く読み進めることを目標にする。受講者は単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。十分な予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. They are also required to make a thorough review
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。
Knowledge of essential Sanskrit Grammar is prerequisite.

科目名：社会変動学特論Ⅱ／ Theory of Social Change(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 火曜日 5講時

セメスター：単位数：2

担当教員：青木 聡子

コード：LM12508, 科目ナンバリング：LIH-SOC604J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：環境社会学の理論と実践

2. Course Title (授業題目)：Theory and practice of environmental sociology

3. 授業の目的と概要：環境社会学の課題は、環境問題のメカニズムの解明や自然環境の保全の方法を探ることにとどまらない。歴史的環境（街並みや景観）、食と農、震災復興、科学技術とリスク、ツーリズムなど、さまざまな対象を扱ってきた。この授業では、それらさまざまな環境社会学の研究に学び、環境社会学の理論と方法を理解することを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The challenges of environmental sociology are not limited to elucidating the mechanisms of environmental problems and finding ways to conserve the natural environment. It has dealt with a variety of subjects, including the historical environment (cityscapes and landscapes), food and agriculture, disaster recovery, science and technology and risks, and tourism. The purpose of this class is to understand the perspectives and analytical methods of environmental sociology while covering various environmental sociology studies.

5. 学習の到達目標：環境社会学の理論と方法を理解し、さまざまな対象に応用する考え方を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this class is for students to understand the theories and methods of environmental sociology and acquire ways of thinking that can be applied to a variety of subjects.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション——環境社会学とは何か？
- 2 環境社会学の理論(1)——被害・加害構造論①
- 3 環境社会学の理論(2)——被害・加害構造論②
- 4 環境社会学の理論(3)——受益圏・受苦圏論①
- 5 環境社会学の理論(4)——受益圏・受苦圏論②
- 6 環境社会学の理論(5)——社会的ジレンマ論①
- 7 環境社会学の理論(6)——社会的ジレンマ論②
- 8 中間のまとめ
- 9 環境社会学の方法(1)——災害をとらえる
- 10 環境社会学の方法(2)——震災復興をとらえる
- 11 環境社会学の方法(3)——食と農をとらえる
- 12 環境社会学の方法(4)——街並みや景観をとらえる
- 13 環境社会学の方法(5)——合意形成を考える
- 14 環境社会学の方法(6)——NPO／ボランティアを考える
- 15 まとめ

8. 成績評価方法：

授業での報告およびディスカッションへの参加40%、課題レポート60%

9. 教科書および参考書：

テキスト：時間ごとに文献を指定します。

参考書：授業の際に適宜紹介します。

10. 授業時間外学習：指定されたテキストを事前に読んで、自分なりに論点を整理しておいてください。授業中に出される課題のために授業時間外の作業を要する場合があります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

初回には必ず出席してください。やむを得ず欠席する場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：現代哲学研究演習 I / Contemporary Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LM12509, 科目ナンバリング：LIH-PHI614J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現象学研究

2. Course Title (授業題目) : Seminar on Phenomenology

3. 授業の目的と概要：フッサールの『受動的総合の分析』を読み、現象学的な知覚、総合、自我、時間などの議論を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The aim of this course is to read Husserl's "Analyses Concerning Passive and Active Synthesis" and help students to acquire an understanding of the fundamental discussions of perception, synthesis, ego and time.

5. 学習の到達目標：・現象学の基本概念について説明をすることができる。

・現象学の議論における知覚、総合、自我、時間の役割について論じることができる

6. Learning Goals (学修の到達目標) : After taking this course, participants will be able to :

- Explain the essential concepts of phenomenology

- Discuss the role of perception, synthesis, ego and time in phenomenological arguments

7. 授業の内容・方法と進度予定：

私たちは、何かを知覚し、想起するといった経験をjする。このとき、私が何かをjするという主j的、能動的な働きをまず考jえがちであるが、その土台として、自我の関与なしにおjのずと生起する連合や触発といった働きが先行している。これはカント的な総合と区別して受動的総合と呼ばれるが、フロイトの無意識とは違jった意識のあり方である。『受動的総合の分析』では、自我からの能作の関与していない感性野の自発的組織化が明らかjにされるが、そこでは感情契機のはたらきや意識が流れることjの分析を通じて、自我、時間といったことjが解き明かされていくことになる。

この授業では現象学について概括的な紹介をしたのち、本書の序論を読んで枠組を確認する。本書はもともと講義録であるが、精読を必要とする。授業では議論をていねいに読み解きながら、知覚、総合、自我、時間といった問題についてのフッサールの議論を検討する。原文はドイツ語であるが、すぐれた英訳や、訳註と解説がついた日本語訳も出ている。授業は、適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読し、議論するかたちで進めるが、同時にこれらの概念の問題性について議論する。

- 1、イントロダクション 現象学とは
- 2、「知覚における自己所与」読解 (1)
- 3、「知覚における自己所与」読解 (2)
- 4、「知覚における自己所与」読解 (3)
- 5、「知覚における自己所与」読解 (4)
- 6、中間まとめ1 パースペクティブについて
- 7、「受動的総合の原現象」読解 (5)
- 8、「受動的総合の原現象」読解 (6)
- 9、「受動的総合の原現象」読解 (7)
- 10、「受動的総合の原現象」読解 (8)
- 11、中間まとめ2 連合について
- 12、「受動的総合の原現象」読解 (9)
- 13、「受動的総合の原現象」読解 (10)
- 14、「受動的総合の原現象」読解 (11)
- 15、まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 50%

平常点 50%(討論などを含む)

9. 教科書および参考書：

E. Husserl. "Analysen zur passiven Synthesis" (Husserliana XI), (Analyses Concerning Passive and Active Synthesis, trans. by A. J. Steinbock/『受動的総合の分析』山口一郎、田村京子訳、みすず書房) 欧文、訳文テキストは授業時に配布する。

参考書は随時紹介するが、翻訳に付けられた訳註と解説はまず有力な参考になる。

山口 一郎『現象学ことはじめ』白桃書房

欧文の参考書は

10. 授業時間外学習：担当でない場合でも予習する。テキストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、自分なりに取り組んでみるjこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：広域文化学総合科目 I / Global Humanities (Comprehensive Course) I

曜日・講時：前期 水曜日 1 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LM13101, 科目ナンバリング：LAL-0AR505J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：広域文化学研究法
2. Course Title (授業題目) : Research Methods on Global Humanities
3. 授業の目的と概要：広域文化学では、自他の文化、歴史、言語、宗教などのいかなる側面に注目し、それをいかなる視点から分析考察していくのか。この授業では広域文化学研究のために必要な基礎知識と技法を分野横断的に学ぶとともに、それらを通して他者・異文化への共感力と適応力を涵養することを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In Global Humanities department, what aspects of culture, history, language, religion, etc., will we focus on, and from what perspective will we analyze and consider them? The purpose of this course is to learn the basic knowledge and techniques necessary for students of Global Humanities, and to cultivate empathy and adaptability to different cultures through them.
5. 学習の到達目標：広域文化学の基礎的な知識と視点を身に付け、学際的視点から文化と社会をめぐる諸問題を考察することができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : To gain basic knowledge and perspectives on Global Humanities, and to consider issues related to culture and society from an interdisciplinary perspective.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
広域文化学の方法について、オムニバス形式で講義をおこなう。毎回の講義題目（担当教員）は以下の通り。

イントロダクション（大野 晃嗣）
フランス文学研究法（今井 勉）
文化人類学研究法（川口 幸大）
ドイツ語学研究法（嶋崎 啓）
中国思想研究法（齋藤 智寛）
宗教学研究法（問芝 志保）
アクションリサーチ研究法（谷山 洋三）
文学研究と文化研究（Literary Studies and Cultural Studies）（仮題）（ジェイムズ・ティンク）
中国古代中世文学研究法（矢田 尚子）
中国近世近代文学研究法（土屋 育子）
中国史研究法（渡邊 英幸）
英語学研究法（中村 太一）
歴史史料研究法（有光 秀行）
インド文献学研究法（桜井 宗信）
8. 成績評価方法：
毎回の授業後に提出するミニツツペーパー（40%）、2 回の 1000 字程度のミニレポート（60%）
9. 教科書および参考書：
授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：授業内容に関連した調査研究をおこないミニレポートを作成する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：実験心理学特論Ⅱ／ Experimental Psychology(Advanced Lecture) II

曜日・講時：前期 水曜日 1 講時

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：阿部 恒之

コード：LM13102, 科目ナンバリング：LIH-PSY602J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ストレスと化粧の社会生理心理学
2. Course Title (授業題目)：The social psychophysiology of stress and cosmetic behavior
3. 授業の目的と概要：化粧という日常行為を題材に、具体的な研究例を学び、社会生理心理学的アプローチの理解を深める。

キーワード： コルチゾール・アドレナリン・進化適応の環境・やっかい事・気晴らし・いやし・はげみ

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will learn actual psychological studies on cosmetic behavior to deepen their understanding of social psychophysiology.

Key words: cortisol, adrenaline, EEA, hassles, uplifts, healing, encouragement

5. 学習の到達目標：社会生理心理学の重要トピックスを学び、独力で研究を行う力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：In this course, students will learn about important topics on social psychophysiology and develop the ability to carry out research on their own.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は対面で実施する。但し、オンデマンドビデオなどのリモート素材も活用する。

資料提供や小レポートの提出、連絡などはClassroomを通じて行う。Classroomのクラスコードは、学部の「実験心理学各論(感情・人格心理学)」と共用するので、そちらに登録すること(詳細はガイダンスにて)。

授業は別途指示するテキストに沿って進行するが、状況に応じて内容を変更することがある。

- 1 回目 ガイダンス
- 2 回目 ストレス研究史・用語の定義
- 3 回目 生理学的基盤 1：交感神経副腎髄質系
- 4 回目 生理学的基盤 2：HPA 系
- 5 回目 生理学的測定法
- 6 回目 生理心理学の研究史
- 7 回目 ストレッサー研究のパラダイムシフト 1：生活重大事
- 8 回目 ストレッサー研究のパラダイムシフト 2：やっかい事と気晴らし
- 9 回目 化粧の文化史
- 10 回目 謎と研究
- 11 回目 実験室実験
- 12 回目 社会的文脈における実験
- 13 回目 ストレスホルモン分泌を促す心理的要因
- 14 回目 感情調節装置としての化粧
- 15 回目 まとめ

8. 成績評価方法：

期末レポート* (20%)、毎回の小レポート* (60%)、出席**と討議への参加 (20%)。

上記の合計得点を踏まえて総合的に評価する。

* 期末レポートと毎回の小レポートについては、もれなく提出した者のみ単位認定対象とする。

**2/3 以上出席した者のみ単位認定対象とする。

9. 教科書および参考書：

購入不要。授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：毎回小レポートを課すので、それを通じて復習すること。

関連する論文を自ら見つけて、学んだ内容を発展的に自習して欲しい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

小レポート等、全ての提出物は受講生全員で共有して、互いに参考にする場合がある。これを前提に作成すること。

授業でコンピュータを使用することがあるので、持参すること。

科目名：現代日本学学芸分析研究演習Ⅱ／ Japanese Studies Liberal Arts (Research Seminar) II

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：赤井 紀美

コード：LM13201, 科目ナンバリング：LJS-OHS613J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アダプテーション作品の分析からみる日本文化
2. Course Title (授業題目)：Japanese Culture through Analysis of Adapted Works
3. 授業の目的と概要：アダプテーションとは、もとにある作品を異なる形に移し替えて新たな作品を作ることを指す。日本におけるアダプテーションの歴史は古く、現代に至るまで盛んに行われている。この授業では、日本におけるアダプテーションの歴史を踏まえ、主に近世後期から近現代におけるアダプテーション作品を取り上げて受講生の興味関心に従い論じる。作品の分析を通して日本文化の特性を学ぶとともに、その作品が生まれたそれぞれの時代背景について理解することを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Adaptation refers to the process of creating a new work by transferring the original work into a different form. Adaptation in Japan has a long history and has been actively practiced up to the present day. In this class, based on the history of adaptation in Japan, we will discuss adaptation works mainly from the late modern period to the modern period according to the interests of the students. Through the analysis of these works, students will learn about the characteristics of Japanese culture and gain an understanding of the historical backgrounds in which these works were created.
5. 学習の到達目標：日本の文化と歴史について理解する。
作品を分析するための基本的なスキルや、様々な文献を読解する力を習得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understand Japanese culture and history.
Learn basic skills for analyzing works and reading a variety of literature.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回：イントロダクション
第2回：アダプテーションの歴史と日本文化
第3回：課題設定、文献調査の方法について
第4回：担当者による発表と質疑応答①【近世後期の作品1】
第5回：担当者による発表と質疑応答②【近世後期の作品2】
第6回：担当者による発表と質疑応答③【近世後期の作品3】
第7回：担当者による発表と質疑応答④【近代の作品1】
第8回：担当者による発表と質疑応答⑤【近代の作品2】
第9回：担当者による発表と質疑応答⑥【近代の作品3】
第10回：担当者による発表と質疑応答⑦【近代の作品4】
第11回：担当者による発表と質疑応答⑧【現代の作品1】
第12回：担当者による発表と質疑応答⑨【現代の作品2】
第13回：担当者による発表と質疑応答⑩【現代の作品3】
第14回：担当者による発表と質疑応答⑪【現代の作品4】
第15回：これまでの発表のまとめと学期末課題について
8. 成績評価方法：
授業中の発表(40%)、出席・授業参加度(20%)、レポート(40%)を総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書は使用せず、参考書は適宜指示する。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。学外での調査も含まれる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：日本語変異論研究演習Ⅲ／ Variation of Japanese (Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：中西 太郎

コード：LM13202, 科目ナンバリング：LJS-LIN614J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：方言調査法

2. Course Title (授業題目)：Method of the dialect investigation

3. 授業の目的と概要： 方言のしくみや地理的広がりを把握するための調査方法について具体的に検討する。記述的研究のほか、方言地理学や社会方言学、あるいは地方語文献による方言研究を取り上げる。また、方言会話の記録を一つのテーマとすることもある。学期の後半、ないし、夏休みに実際に方言調査を行うので、受講者は準備段階からそれに参加する必要がある。

なお、コロナウィルス感染症の影響で現地調査が困難な場合は、オンライン調査に切り替えて実施する予定である。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)： Investigation method to grasp structure of a dialect and a geographical expanse is considered specifically. Dialectology by a dialect geography in addition to a descriptive study and social dialectology or a vernacular document is taken up. The record of dialect conversation is made one theme. A dialect investigation is performed actually in the second half in a semester or the summer holidays, so a participant has to participate in that from the stage of preparations. If it is difficult to conduct a field survey due to the effects of coronavirus infection, we plan to switch to an online survey.

5. 学習の到達目標：(1)方言調査の調査内容・方法を立案・検討できる

(2)方言調査の実施計画を立てて方言調査を実践できる

(3)方言調査の結果を報告し、議論を踏まえて次の研究課題を見つけることができる

6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) To be able to plan and examine the contents and methods of a dialect survey

(2) To be able to plan the implementation of a dialect survey and practice dialect research

(3) To be able to report the results of a dialect survey and find the next research

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業内容・日程、成績評価の方法などの説明

2. 授業および調査の進め方についての検討、これまでの取り組みの解説、チーム編成作業

3. 方言的特徴の調べ方についての解説 (1)

4. 方言的特徴の調べ方についての解説 (2)

5. 方言的特徴の調べ方についての解説 (3)

6. テーマ等設定に向けての作業 (1)

7. テーマ等設定に向けての作業 (2)

8. テーマ中間報告 (1)

9. テーマ中間報告 (2)

10. 調査票の作り方についての解説

11. 模擬調査と録音機の使い方

12. 調査票の検討(1)

13. 調査票の検討(2)

14. テーマ最終報告 (1)、調査実施準備

15. テーマ最終報告 (2)、授業のまとめ

※授業の進み具合や履修者の習熟度、その時の社会的状況に応じた受講環境を考慮し、スケジュール・内容には多少の変更を加えることがある。

8. 成績評価方法：

レポート(50%)・授業への参加状況(課題などへの取り組みを含む)(30%)・発表内容(20%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は適宜授業で指示する。

10. 授業時間外学習：(1)テーマの設定、中間報告、最終報告のための準備を行う。

(2)現地調査に参加し、結果の分析を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本近代文学研究演習 I / Study of Japanese Modern Literature (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LM13203, 科目ナンバリング：LJS-LIT611J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代文学における〈生き物〉表象
2. Course Title (授業題目)：Study on representation of "living things" in Japanese Modern Literature
3. 授業の目的と概要：本演習は、明治期から近年にいたる多様な小説について、〈生き物〉の表象という観点を軸に、多様な社会的・文化的なコンテクストを視野に入れて分析を行うことを目的とする。
受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this exercise is to analyze various novels from the Meiji period to recent years from the viewpoint of the representation of "living things" (especially the literary representation of animals and plants) with a view to various social and cultural contexts. Students present the results of their analysis of literary works. We try to read the novel in detail through the discussion based on the presentation.
5. 学習の到達目標：(1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
(2) 日本近代文学の多様な展開とその特質について理解を深める。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) To learn how to analyze, present and present literary works.
(2) To deepen students' understanding of the diverse developments and characteristics of Japanese Modern Literature.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この授業はオンラインで実施する。
 1. ガイダンス
 2. ガイダンス 2
 3. 担当者による口頭発表と討論
 4. 担当者による口頭発表と討論
 5. 担当者による口頭発表と討論
 6. 担当者による口頭発表と討論
 7. 担当者による口頭発表と討論
 8. 担当者による口頭発表と討論
 9. 担当者による口頭発表と討論
 10. 担当者による口頭発表と討論
 11. 担当者による口頭発表と討論
 12. 担当者による口頭発表と討論
 13. 担当者による口頭発表と討論
 14. 担当者による口頭発表と討論
 15. 担当者による口頭発表と討論
8. 成績評価方法：
授業における発表とレポート (70%)、授業への積極的参加 (30%)
9. 教科書および参考書：
講義資料として、配布プリントを使用する。その他の関連文献は授業中に適宜紹介する。
10. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：
本演習は I・II を連続で履修すること。

科目名：英語学総合演習Ⅲ／ English Linguistics (Integration Seminar) III

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：島 越郎, 中村 太一

コード：LM13204, 科目ナンバリング：LGH-LIN609J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語学の諸問題研究 III

2. Course Title (授業題目)：Current Topics in English Linguistics (Advanced Seminar) III

3. 授業の目的と概要：英語学研究の最新の動向を把握し、各自の学習・研究の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。

①最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。

②討論者がコメントを加える。

③授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to discuss current issues in linguistic theory.

Students will participate fully in the classroom discussion about a reported paper.

5. 学習の到達目標：①英語学研究の最新動向を把握する

②研究論文の実践的作成法が身に付く

③効果的プレゼンテーション力が身に付く

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of the course is to develop the background needed for independent research and acquire skills for presentation.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1) Introduction

2) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

3) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

4) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

5) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

6) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

7) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

8) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

9) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

10) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

11) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

12) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

13) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

14) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

15) Summary

8. 成績評価方法：

期末レポート

9. 教科書および参考書：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。

10. 授業時間外学習：取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：フランス文学研究演習Ⅲ／ French Literature(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：今井 勉

コード：LM13205, 科目ナンバリング：LGH-LIT650J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代仏文学研究
 2. Course Title (授業題目)：French modern literature
 3. 授業の目的と概要：この授業では、近現代フランス文学関連のテキストを精読します。今学期は、ボードレー、ユイスマン、プルースト、モディアーノ、ジャック・レダといった作家の作品からパリを描いたテキストを選んで、読んでみたいと思います。
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course offers an opportunity to deepen understanding of the French modern literature through the intensive reading of texts. This semester, I would like to read a selection of texts depicting Paris from the works of authors such as Baudelaire, Huysmans, Proust, Modiano, and Jacques Reda.
 5. 学習の到達目標：近現代フランス文学の理解を深める。
 6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students better understand French modern literature.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
(以下、授業の進度については変更される場合があることをあらかじめご了承ください。)
- 第1回 導入&テキスト読解 (1)
- 第2回 テキスト読解 (2)
- 第3回 テキスト読解 (3)
- 第4回 テキスト読解 (4)
- 第5回 テキスト読解 (5)
- 第6回 テキスト読解 (6)
- 第7回 テキスト読解 (7)
- 第8回 テキスト読解 (8)
- 第9回 テキスト読解 (9)
- 第10回 テキスト読解 (10)
- 第11回 テキスト読解 (11)
- 第12回 テキスト読解 (12)
- 第13回 テキスト読解 (13)
- 第14回 テキスト読解 (14)
- 第15回 テキスト読解 (15)
8. 成績評価方法：
予習をしたうえでの授業への参加状況 100%
 9. 教科書および参考書：
Google クラスルームに PDF ファイルをアップします。
 10. 授業時間外学習：毎回、十分な予習を行ったうえで、授業に臨んでください。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：

科目名：学習・言語心理学特論 I / Psychology of Language and Learning (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：木山 幸子

コード：LM13206, 科目ナンバリング：LIH-LIN605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：学習・言語心理学の基礎

2. Course Title (授業題目) : Basics of learning psychology and psycholinguistics

3. 授業の目的と概要：学習心理学および言語心理学は、いずれも人間の行動様式の変容過程について、実験によって確かめようとする科学的研究分野です。本科目では、学習・言語心理学の要点を理解するために、受講生自身に文献を理解してまとめ、他の受講生と共有してもらいます。一つの知見を得るために対してなぜそのような方法論がとられているのかを考えながら、科学的方法論の趣旨を理解することを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The study of learning psychology and psycholinguistics involves scientific investigations utilizing experiments to examine processes in which human behaviors change. To have a general understanding of these disciplines, students are required to summarize a paper to share with other students. They will consider connections between purposes and procedures to understand essential components of scientific research.

5. 学習の到達目標：学習・言語心理学の考え方や方法論の概要を理解する。当該領域の文献の要点を過不足なくまとめて専門外の他者にもわかりやすく伝えられるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Upon completing this course, students should have a general understanding of the concepts and methodology of learning psychology and psycholinguistics. They will improve effective presentation skills using their everyday vocabulary to share major points o

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の通りに進行する予定である。

- (1) ガイダンス (教員)
- (2) 学習心理学の概要 (教員)
- (3) 言語心理学の概要 (教員)
- (4) 生得的行動 (受講生)
- (5) レスポンデント (古典的) 条件づけ (受講生)
- (6) オペラント (道具的) 条件づけ (受講生)
- (7) 問題解決 (受講生)
- (8) 技能学習 (受講生)
- (9) 社会的学習 (受講生)
- (10) 音声・音韻の発達 (受講生)
- (11) 語彙の発達 (受講生)
- (12) 文法の発達 (受講生)
- (13) 談話・会話処理の発達 (受講生)
- (14) 言語に関わる障害 (受講生)
- (15) まとめ (教員)

8. 成績評価方法：

期末レポート (50%)、発表分担 (30%)、毎回授業後の課題 (20%)

9. 教科書および参考書：

教科書：木山幸子他 (2022) 『学習・言語心理学 (ライブラリ心理学の杜 7)』サイエンス社

10. 授業時間外学習：受講者全員に発表を担当してもらうので、その準備を他のメンバーとよく協力して進め、自分の分担作業は責任をもって行うこと (その自信がない場合は受講しないこと)。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：倫理学研究演習 I / Ethics (Advanced Seminar I)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター： 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LM13207, 科目ナンバリング：LIH-PHI624J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フランス倫理学演習

2. Course Title (授業題目)：Seminar on French Moral Philosophy

3. 授業の目的と概要：フランスの高校生用の哲学の参考書 Denis Vanhouette, Philosophie, Term L, ES, S (Collection ABC du BAC), Nathan, 2015 から一部を抜粋して読みます。この参考書は、意識、他者、言語、労働、社会、幸福などのさまざまな主題ごとに章が分かれており、各章とも、関連するさまざまな問題や、その問題にさまざまな哲学者が出した答えを紹介し、最後に大学入学資格試験（日本の共通テストのようなもの）の問題が載っている、という作りになっています。それぞれの

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course we read a philosophy textbook for French high school students. The prospective key themes covered are Work and Technology.

5. 学習の到達目標：フランス語で書かれたテキストを正確に日本語に訳せるようになる。
演習内で扱われた主題が倫理学においてもつ重要性を学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course aims to improve students' abilities to read philosophical texts in French and to translate them to Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入（扱う主題とテキスト、著者の簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、参加者のフランス語習熟度の確認、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

8. 成績評価方法：

出席、担当、参加度により総合的に判断します。

9. 教科書および参考書：

必要なものはすべてプリントで配布します。

フランス語学習については初級～中級までの参考書を授業内で紹介します。

10. 授業時間外学習：各回とも訳を用意し、授業前に提出してください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：社会変動学研究演習Ⅱ／ Theory of Social Change(Advanced Seminar)II

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：単位数：2

担当教員：田代 志門

コード：LM13208, 科目ナンバリング：LIH-SOC610J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：病いの語り研究の可能性

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Illness Narrative Research

3. 授業の目的と概要：病いの語り (illness narrative) 研究とは、主に社会学と人類学において1980年代以降に発展してきた患者経験の研究の総称である。その焦点は、病いや痛み、苦悩の経験を言葉によって意味づけていく側面に着目しつつ、本人が自らの病いをどのように捉え、それにどう対処しようとしているのかを明らかにすることにある。本講義では病いの語り研究の古典の一つであるアーサー・W・フランクの『傷ついた物語の語り手——身体・病い・倫理』を取り上げ、その後の論争や関係する経験的研究を検討しつつ、その可能性と課題を検討する

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of illness narrative research, focusing on the work of Arthur W. Frank.

5. 学習の到達目標：(1)『傷ついた物語の語り手』の内容を精確に理解する

(2) 病いの語り研究の課題を明確化し、新たな可能性を探る

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is for students to understand the sociological concept of stigma and its application.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 演習の進め方について
2. 病いの語り研究とは
3. 『傷ついた物語の語り手』を読む (1)
4. 『傷ついた物語の語り手』を読む (2)
5. 『傷ついた物語の語り手』を読む (3)
6. 『傷ついた物語の語り手』を読む (4)
7. 『傷ついた物語の語り手』を読む (5)
8. 『傷ついた物語の語り手』を読む (6)
9. 『傷ついた物語の語り手』を読む (7)
10. 『傷ついた物語の語り手』を読む (8)
11. 中間まとめ
12. 病いの語り研究に関する論争 (1)
13. 病いの語り研究に関する論争 (2)
14. 経験的研究の展開 (1)
15. 経験的研究の展開 (2)

8. 成績評価方法：

授業内での報告・発言 50%、課題レポート 50%

9. 教科書および参考書：

Arthur W. Frank, The Wounded Storyteller: Body, Illness, and Ethics, The University of Chicago Press. 1995 (『傷ついた物語の語り手——身体・病い・倫理』ゆみる出版、2002年)

10. 授業時間外学習：毎回、授業前に該当文献を読み込み、自分の意見をまとめて授業に臨む。報告を担当する際は、関連する文献や資料にも目を配り、十分な検討のうえで報告資料を作成する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：数理行動科学研究演習 I / Mathematical Behavioral Science (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：浜田 宏

コード：LM13209, 科目ナンバリング：LIH-OS0603J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会科学のための統計的因果推論

2. Course Title (授業題目) : Causal inference for Social Science

3. 授業の目的と概要：1) 社会現象を統計モデルとデータを使って説明する方法の基礎を学ぶ。

2) 現実の社会現象をどうやって統計モデルとして定式化するかを演習を通して学ぶ。見本となる研究を参考にして「問題を構成する力」の基礎を涵養する。

3) RCT の枠組みにおける平均処置効果と条件付き期待値回帰モデルとの関係を理解する

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Course objectives is to understand basics of statistical model

5. 学習の到達目標：データの分析手法を習得する

現象の数学的表現を習得する

日常生活の中に潜む数学的構造を見抜く観察力を身につける

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Learnig goal is to understand the method to formalize a statistical model.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

テキストを輪読しながら数学的詳細をフォローする。計算が必須なので必ず予習すること。

1 なぜ因果を学ぶのか

2 Simpson のパラドックス

3 確率と統計

4 グラフ, 構造的因果モデル

5 グラフィカルモデルとその応用

6 モデルとデータの関係

7 連鎖経路と分岐経路

8 合流点, 分離性

9 モデル検定と因果探索

10 介入効果, 調整, 媒介

11 バックドア基準, フロントドア基準

12 条件付き介入と特定共変量効果

13 逆確率重み付け法

14 線形システムにおける因果推論

15 反事実とその応用

8. 成績評価方法：

出席 [70%], 授業内の課題 [30%]

9. 教科書および参考書：

教科書：Pearl, Glymour, and Jewell, 2016, Causal Inference in Statistics: A Primer, John Wiley and Sons (=2019, 落海浩 (訳) 『入門統計的因果推論』朝倉書店.)

参考書：岩崎学, 2015, 『統計的因果推論』朝倉書店.

鹿野繁樹, 2015, 『新しい計量経済学』日本評論社,

末石直也, 2015, 『計量経済学』日本評論社

10. 授業時間外学習：毎週、指定された予習範囲を事前に読み、質問があればクラスルームにアップする

指定された予習範囲の計算や証明を自分で確かめる

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

確率論, 微分積分, 線形代数の授業を事前に履修していることが望ましい。事前に履修していない場合は授業を通して学習することが必要である。

科目名：英語研究論文作成法Ⅰ／Advanced English for Academic writingⅠ

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：STEPHEN HALE

コード：LM13301, 科目ナンバリング：LAL-0AR514E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Advanced Academic WritingⅠ
2. Course Title (授業題目)：Advanced Academic WritingⅠ
3. 授業の目的と概要：This course is an introduction to the process of academic writing in English. The foremost objective is to enable students to gain practical skills and confidence for communicating effectively in formal English writing. To this end, students will learn an
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is an introduction to the process of academic writing in English. The foremost objective is to enable students to gain practical skills and confidence for communicating effectively in formal English writing. To this end, students will learn and practice the basics for: (1) common and uncommon uses of a variety of punctuation marks; (2) the correct page layout for writing paragraphs and essays; (3) sentence, paragraph, and essay structure for different essay types; and (4) strategies for pre-writing, writing, proofreading and revision.

Note that all writing in this course will essentially be collaborative as a result of input and revision advice from peers and instructor alike. In other words, only revised second drafts of writing will be accepted for evaluation (scoring). Also note that Advanced Academic WritingⅠ is a prerequisite course for acquiring the skills needed for succeeding in Advanced Academic WritingⅡ, which focuses on all steps and related issues in the process of research paper writing in English.

5. 学習の到達目標：As a result of completing this course, students will be able to:
 - 1) apply the fundamental rules of page layout in word processing for formal academic essays in English.
 - 2) identify different types of essays and make correct writing decisions related to
6. Learning Goals(学修の到達目標)：As a result of completing this course, students will be able to:
 - 1) apply the fundamental rules of page layout in word processing for formal academic essays in English.
 - 2) identify different types of essays and make correct writing decisions related to
7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) SemesterⅠ Course Introduction; the Writing Process; Plagiarism
- 2) Page Layout Rules and Word Processing; Writing Email
- 3) Capitalization Rules; Parts of a Paragraph; Introduction to Assignment 1
- 4) Basic Sentence Structure; Revision (Proofreading and Editing)
- 5) Parts of an Essay; Introduction Paragraph; Attention Getters
- 6) Thesis Statements; Introduction to Assignment 2; Essay Model Analysis
- 7) Parallelism; Conclusion Paragraph; Colons and Semicolons
- 8) Writing Workshop for Assignment 2
- 9) Introduction to Assignment 3; Essay Model Analysis
- 10) Hyphens and Dashes; Cohesion
- 11) Writing Workshop for Assignment 3
- 12) Writing about a Process; Introduction to Assignment 4; Essay Model Analysis
- 13) Process Writing (continued); Audience and Tone
- 14) Writing Workshop for Assignment 3; Test Preview/Course Review and Evaluation
- 15) SemesterⅠ Test

8. 成績評価方法：

The final grade will be determined by: (1) class work, homework, and class attendance; (2) writing assignments, and (3) a semester test.

9. 教科書および参考書：

Reference materials and practical activities will be provided on a weekly basis in printed and/or digital form. All assignments and class prints, furthermore, should be saved and carefully stored in a notebook.

10. 授業時間外学習：There is a lot of homework in this course, especially in completing writing assignments according to strict-yet reasonable-deadlines. Because most of the learning is based on actually doing and redoing a series of tasks, success in this course depends on

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

Class attendance is expected at all times. Absences will adversely affect your grade in this course.

In principle, no auditors will be accepted.

科目名：死生学特論 I / Death & Life Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LM13302, 科目ナンバリング：LGH-RES610J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：死生学の諸問題
2. Course Title (授業題目)：Some Topics on Death Studies
3. 授業の目的と概要：死生学をめぐる諸問題について学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students learn what death studies is.
5. 学習の到達目標：死生学的観点から、文化の中の死について理解を深める。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students understand death in cultural contexts from the view point of death studies.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
指定テキスト（参考書）のトピックにそって、関連する話題を取り上げていく。
 - (1) 死生学とは何か
 - (2) 死生観と宗教
 - (3) 日本人の死生観
 - (4) 喪と追悼
 - (5) 死生観一国と地域の視点から
 - (6) マスメディアで死生について考える
 - (7) 「生と死」を生きる本人からの発信
 - (8) 老いと死
 - (9) 病い経験と「生」
 - (10) 遺族の喪失体験とグリーフワーク
 - (11) 自己決定権
 - (12) ターミナルケア
 - (13) 自殺予防
 - (14) 尊厳死
 - (15) まとめ
8. 成績評価方法：
毎回のミニットペーパーと期末レポートによる。
9. 教科書および参考書：
(参考書)
石丸昌彦『死生学入門』放送大学教育振興会 2014
石丸昌彦『死生学のフィールド』放送大学教育振興会 2018
10. 授業時間外学習：授業内で指示する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：西洋史特論 I / European and American History (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LM13303, 科目ナンバリング：LGH-HIS612J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ウィリアム・マーシャルとその世界

2. Course Title (授業題目)：William Marshal and his world

3. 授業の目的と概要：この授業は、「世界で最高の騎士」とたたえられたウィリアム・マーシャルの生涯をたどりながら、ブリテン諸島と大陸ヨーロッパの関係の変化など、12 世紀から 13 世紀初頭の西北ヨーロッパ世界を理解することを目的とします。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this course is to understand the northwestern European society in the twelfth and early thirteenth centuries through the life of William Marshal, 'the best knight in the world'.

5. 学習の到達目標：12 世紀～13 世紀初頭の西北ヨーロッパ世界におこった大きな変化を理解できるようになることと、歴史の中の人物について理解できるようになることを、目標とします。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aims of this course are understanding .great changes of the northwestern European society in the twelfth and early thirteenth centuries and also understanding people in their historical context.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 1170 年まで (1)
3. 同上 (2)
4. 同上 (3)
5. ヘンリ 2 世のもとで (1)
6. 同上 (2)
7. 騎士の社会 (1)
8. 同上 (2)
9. 同上 (3)
10. リチャド 1 世のもとで (1)
11. 同上 (2)
12. ジョン王のもとで (1)
13. 同上 (2)
14. 同上 (3)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業参加状況 (50 パーセント) とレポート (50 パーセント)。

9. 教科書および参考書：

Google Classroom で指示します。

10. 授業時間外学習：指示する参考文献を参照しながら、予習・復習を必ずおこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：中国語学中国文学研究演習Ⅲ／ Chinese Language and Literature(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：土屋 育子

コード：LM13304, 科目ナンバリング：LGH-LIT608B, 使用言語：2カ国語以上

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国近世文学研究

2. Course Title (授業題目)：Chinese Classical Literature

3. 授業の目的と概要：本授業では、中国の伝統的な注釈方法に基づいて、中国古典文学の作品を読解します。作品読解を通して中国古典文学の基礎的な知識を学ぶとともに、原文の読解力、分析し鑑賞する力の向上を目指します。授業は出席者による発表と質疑応答によって進めます。

前期は、主に北宋詞を読みます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to help students understand the fundamental knowledge about Chinese classical literature, gain reading ability, analysis ability, through reading Chinese classical literature.

This course is centered on a presentation and a questions and answers session.

In this semester class, students read Northern Song-ci Poetry.

5. 学習の到達目標：(1) 中国古典文の読解力を向上させる。

(2) 中国の文学作品について、分析し鑑賞する力を習得する。

(3) 辞書やデータベース等の活用と、原典（影印本・標点本等）に習熟する。

(4) 歴史的背景を踏まえ、中国の文学作品がどのように変化したかを理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Students improve Chinese classical Literature reading skill.

2. Students gain the perspective needed to analyze Chinese classical Literature.

3. Students gain the skills of using dictionaries, databases and original books and so on.

4. Students und

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりです。

1. ガイダンス

2. 発表と質疑応答 (1)

3. 発表と質疑応答 (2)

4. 発表と質疑応答 (3)

5. 発表と質疑応答 (4)

6. 発表と質疑応答 (5)

7. 発表と質疑応答 (6)

8. 発表と質疑応答 (7)

9. 発表と質疑応答 (8)

10. 発表と質疑応答 (9)

11. 発表と質疑応答 (10)

12. 発表と質疑応答 (11)

13. 発表と質疑応答 (12)

14. 発表と質疑応答 (13)

15. 発表と質疑応答 (14)

8. 成績評価方法：

授業への取り組み（レジュメ提出含む）：50%

発表（資料作成を含む）：50%

9. 教科書および参考書：

テキスト・資料等は、Google Classroom より配布予定。

参考文献等は授業中に指示。

10. 授業時間外学習：辞書類やデータベース等を活用して、予習・復習をしてください。

原文の語彙について語釈を見るだけでなく、前後の文脈も考慮した丁寧な読解をこころがけましょう。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅱ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LM13305, 科目ナンバリング：LIH-ART602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は「日本絵画史」の続編にあたり、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of Edo art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in East Asia.

5. 学習の到達目標：歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡(鑑)」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の間人精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター)を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 唐絵とやまと絵—江戸時代以前ダイジェスト
- 3回目 狩野派の系譜1—御用絵師・正信から元信へ
- 4回目 狩野派の系譜2—永徳と桃山の大家
- 5回目 狩野派の系譜3—探幽と江戸狩野の確立
- 6回目 8代将軍徳川吉宗の事績と狩野派
- 7回目 英一蝶と英派の絵画
- 8回目 京の町絵師1—俵屋宗達から宮崎友禅へ
- 9回目 京の町絵師2—尾形光琳と乾山
- 10回目 名物刀剣と江戸時代の剣術
- 11回目 刀装具と鐔の意匠性
- 12回目 雪舟流—長谷川派と雲谷派
- 13回目 近江商人の絵画と北関東への伝播—高田敬輔から小泉檀山へ
- 14回目 対外交易と長崎派
- 15回目 来舶清人・沈南蘋と南蘋派

8. 成績評価方法：

授業ごとに400字程度のレポートや課題を課し、その総合点によって評価する。このレポートは出席点も兼ねる。

1週間の提出期限を設けるが、内容についてクラスルームにて伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』(中央公論美術出版)

杉本欣久『武士の絵画—中国絵画の受容と文人精神の展開—』(中央公論美術出版)

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館1970年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版(集英社1970年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版(講談社1970年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970 年代後半)

『日

1 0. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観ていて何が観ていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：社会学特論 I / Sociology(Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：徳川 直人

コード：LM13306, 科目ナンバリング：LIH-SOC605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：質的フィールドワーク概論

2. Course Title (授業題目) : Methods of Qualitative Fieldwork in Sociology

3. 授業の目的と概要：社会学における質的方法の理論と方法について、より深く学ぶ。参加者はオリジナル教材を読み、資料収集、日常観察、フィールドノーツなどの実践を試みることで、理解を深める。その基礎のうえにたつて、モダンバージョンの理論・方法とポストモダンバージョンの理論・方法とのちがいについて学び、新しい基準、倫理なども理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, students will learn methods and theories in sociological qualitative inquiry in deeper meaning, and understand them through reading texts, and some practice of documents collection, observation of everyday life, and writing fieldnotes. On this ground, students will learn the difference between the modern version and the post-modern version of qualitative inquiry, and understand new criteria, ethics, and responsibilities as a researcher.

5. 学習の到達目標：1) 質的研究法の技法、考え方、意義と限界が、より深く理解できるようになる。

2) フィールドワークやインタビューを実践できる必須素養が身につく。

3) 調査のモラルと倫理、責任について、より深く考慮できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Through this course students will become able to 1) understand methods and theories of qualitative inquiry with their significance and limits in detail, 2) acquire enough knowledge to conduct some fieldwork or interview, and 3) make deeper consideration o

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の順に講じる。各項目についての下読みおよび宿題が必須である。毎回の授業で参加者はキーワードの説明や質問を求められる。学期末には試験ではなくレポートを課す。

1. 質的分析法入門
2. 感受概念
3. 方法としてのフィールドノート
4. 非構造的・半構造的インタビューと調査票の設計
5. 聞き書き
6. インタビュー
7. 自然主義的観察
8. 参与観察
9. グラウンデッドな接近法
10. エスノメソドロジー
11. エスノグラフィー
12. 事例分析とモノグラフ
13. 生活史とヒューマン・ドキュメント
14. アクション・リサーチ
15. 調査倫理

8. 成績評価方法：

平常点 (50%) と学期末レポート (50%) を総合的に加味して評価する。

9. 教科書および参考書：

デンジン&リンカン『質的研究ハンドブック』、エマーソンら『方法としてのフィールドノート』(1995)、シュワント『質的研究用語事典』(2007)、細谷『現代と日本農村社会学』(1998) など複数を教室にて指示する。また、教材の読み物としてオリジナル資料を作成する。

Books and papers will be introduced in class, such as Handbook of Qualitative Research by Denzin and Loncoln, Writing Eth

10. 授業時間外学習：各項目についての下読みおよび宿題が必須である。

Students are required reparatory readings and some home works.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：哲学研究演習VI／ Philosophy(Advanced Seminar)VI

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター： 単位数：2

担当教員：嶺岸 佑亮

コード：LM13307, 科目ナンバリング：LIH-PHI630J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヘーゲル『精神現象学』の「理性」章を読む
2. Course Title (授業題目)：Reading the Chapter of the Reason in Hegel's Phenomenology of Spirit
3. 授業の目的と概要：ヘーゲルをはじめとする近代ドイツの哲学者たちは、ドイツ観念論という名のもとにくられるのが一般的です。その場合、彼らの哲学が全体として観念論に属する、という先行了解が背後にあります。ただ彼らのテキストを実際に紐解くならば、事情はそう簡単ではないことが用意に見て取れます。そこで本演習では、ヘーゲルの『精神現象学』から「理性」章を取り上げ、観念論をめぐる議論を実際に検証してみることにします。そうすることで、カントの批判的観念論、ヤコービによる観念論と実在論の対比、フィヒテとシェリングにおける超越論的観念論な
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Wir werden das Vernunft-Kapitel von Hegels "Phänomenologie des Geistes" lesen. Dort wird diskutiert, was der Idealismus eigentlich bedeutet, sowie was die Realität für die Vernunft ist. Hegels Argumentation verweist viele vorhergehende Denker wie Kant, Jacobi, Fichte und Schelling. Hegels Auseinandersetzung mit ihren verschiedenen Behandlungsarten vom Idealismus wird uns klar machen, dass man Hegels Philosophie nicht einfach als Idealismus zu bestimmen ist.
5. 学習の到達目標：・ドイツ語で書かれたテキストを自分で読むことが出来るようになる。
・自分自身で問題を辿り直し、主体的に考え抜く態度を身に着ける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：・To read the original German text by yourself and realize what is discussed there.
・To pursue what is the main point in the text and so attain the attitude to think over
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回：イントロダクション(授業の進め方、担当箇所の割り当てなど)
第2回：近代的理性——意識の一形態としての理性——
第3回：自己意識としての理性——対象との関係と実在性の確信——
第4回：理性の立場としての観念論
第5回：観念論における実在性の位置づけ
第6回：理性とカテゴリー
第7回：カテゴリーはどのように対象に関係するか
第8回：カントの純粹統覚論との関係
第9回：観念論における真理概念について
第10回：理性の観察について
第11回：概念と物
第12回：理性の観察対象としての自然
第13回：普遍・特殊・個別
第14回：自然観察における認識の特徴について
第15回：全体のまとめ
8. 成績評価方法：
出席および平常点(毎回の訳読とその準備、文法的分析、討論への参加)
9. 教科書および参考書：
テキストはコピーを配布します。以下のPhB版を使用予定です。
G.W.F. Hegel, Phänomenologie des Geistes, Philosophische Bibliothek Bd. 414, Hamburg 1988.
10. 授業時間外学習：各回の予習として、1頁程度の予習が必要です。
[Students are required to prepare 1 page for each class]
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：実験心理学研究演習Ⅲ／ Experimental Psychology(Advanced Seminar) III

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：単位数：2

担当教員：坂井 信之

コード：LM13308, 科目ナンバリング：LIH-PSY612J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：神経・生理心理学の文献研究
2. Course Title (授業題目)：Seminars on Neuropsychology and Biological Psychology
3. 授業の目的と概要：この授業では最初に与えられた文献（専門書）を輪読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students are required to read and summarize a chapter of a textbook (about Biological Psychology), and then to have a presentation in the class. The other students are required to attend discussions based on the presentation.
5. 学習の到達目標：① 心理学の知識をどのように応用すれば、人間の日常行動を理解し、諸問題を解決できるかについて、自分で考えることができる能力を身につけることができるようになる。
② 自分でまとめたことや自分の考えを他人にわかりやすく伝えることができるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. To know how to use and apply their psychological knowledge to solve everyday problems.
2. To have a skill to present their ideas to the other students, and to discuss with them.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
最初に与えられた英語の専門書 (Brain and Behavior Revisiting the classic studies) を講読し、理解する。それから、講読した文献で紹介されている研究論文のうち、自分の興味のあるものを探し、簡単にまとめて紹介する。
第1回 導入 (講義の進め方／担当決め)
第2回 プレゼンテーションの方法
第3回 文献講読その1
第4回 文献講読その2
第5回 文献講読その3
第6回 文献講読その4
第7回 文献講読その5
第8回 文献講読その6
第9回 文献講読その7
第10回 文献講読その8
第11回 文献紹介その1
第12回 文献紹介その2
第13回 文献紹介その3
第14回 文献紹介その4
第15回 文献紹介その5
8. 成績評価方法：
() 筆記試験・(○) リポート[40%]・() 出席
(○) その他 (発表態度) [60%]
9. 教科書および参考書：
授業時に指示する。
10. 授業時間外学習：予め割り当てられた章について予習をして、パワーポイントを用いて発表できるように準備しておく必要がある。また、発表時の質疑等に基づいて、パワーポイントを改訂し、提出する必要がある。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
何か質問があれば、電子メール (nob_sakai@tohoku.ac.jp) で問い合わせるか、電子メールで予約をした上で、研究室に質問にくること。
この授業は原則として対面にて実施する。詳細はClassroomで通知する予定である。

科目名：計算人文社会学研究演習 I /

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：LYU ZEYU

コード：LM13309, 科目ナンバリング：LIH-OS0612J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：計算社会科学のための Python プログラミング入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction of Python Programming for Computational Social Science

3. 授業の目的と概要：この授業では、計算社会科学に必要なプログラミング基礎を、Python を通じて習得する。データ構造、制御構造、関数、オブジェクトなどプログラミングの基礎概念を学んで、ライブラリを用いたデータ解析・可視化などを、講義と実習を通じて身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course pertains to elementary Python programming for computational social science. This course covers fundamentals of programming including data types, control structure, functions, and object oriented design. Also, students will learn how to utilize libraries for data analysis and data visualization through lectures and practical exercises.

5. 学習の到達目標：Python の基本概念と Python によるデータ分析の基本手法を習得することを目指す。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this course is to learn the basic concept of Python and the fundamentals of data analysis techniques utilizing Python.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. Git/Github の使い方、プログラミング環境の構築(1)
3. Git/Github の使い方、プログラミング環境の構築(2)
4. Python の基本文法
5. 変数の基礎
6. 繰り返しと制御構造
7. 関数
8. オブジェクトとクラス(1)
9. オブジェクトとクラス(2)
10. Numpy 入門
11. pandas 入門
12. scikit-learn 入門
13. 可視化
14. データ分析の実践
15. データ分析の実践

8. 成績評価方法：

復習課題+出席 [70%], 期末課題 [30%]

9. 教科書および参考書：

Bill Lubanovic, 「入門 Python 3 第 2 版」, オライリージャパン

Wes McKinney, 「Python によるデータ分析入門 第 2 版 —NumPy, pandas を使ったデータ処理」, オライリージャパン

Aurlien Gron, 「Hands-on Machine Learning With Scikit-learn, Keras, and Tensorflow: Concepts, Tools, and Techniques to Build Intelligence

10. 授業時間外学習：授業内容の習得を問う復習課題を完成する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：文化人類学研究実習 I / Cultural Anthropology(Field Research) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時. 前期 水曜日 4 講時

Semester : 1 学期 単位数 : 2

担当教員：川口 幸大

コード：LM13310, 科目ナンバリング：LGH-CUA608J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：
2. Course Title (授業題目)：
3. 授業の目的と概要：
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：
5. 学習の到達目標：
6. Learning Goals(学修の到達目標)：
7. 授業の内容・方法と進度予定：
8. 成績評価方法：
9. 教科書および参考書：
10. 授業時間外学習：
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：日本語教育学研究実習 I / Applied Japanese Linguistics (Practice) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時、前期 水曜日 4 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LM98815, 科目ナンバリング：LJS-LIN625J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語コース運営の基礎

2. Course Title (授業題目)：Conducting a Japanese Language Course I

3. 授業の目的と概要：前期、後期の実習を通して、学習者のニーズ・レディネス、置かれている環境などに合わせた日本語コースをデザインし、それぞれの授業に必要な教材・教具を準備して授業を実施する力、そしてその自身の実践を振り返って改善案を考えることができる力を養成することを目的とする。前期は、コースデザインの仕方について学び、後期に実施する東北大留学生向けのコースに関して、彼らのニーズ・レディネス、置かれている環境等を分析して実際にコースデザインをするとともに、そのコースの実際の授業の中でどのような教材・教具を使ってどのように教える

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Through the teaching practicum in the spring and fall semesters, students will develop the ability to design Japanese language courses that meet the needs and readiness of learners and their learning environment, prepare the necessary teaching materials and equipment for each class, and conduct the class. They can also enhance the ability to look back on their own teaching and make improvements. In the spring semester, students will learn how to design a course, and actually create a course for the international students at Tohoku University based on the analysis of the needs, readiness, and environment of them, and consider how to teach using teaching materials and tools in actual classes of the course. Through mock classes, students will be able to reflect on their own class design, teaching methods, teaching materials and tools, etc., and come up with ideas for improvement.

5. 学習の到達目標：・実習の目的・目標を理解し、日本語教師として求められる資質・能力と実習がどのように関わっているのかを理解する

- ・学習者のニーズ・レディネス、環境などを分析し、学習者に合ったコースをデザインすることができる
- ・コースの目的・目標に合わせて、授業をデザインし、必要な教材・教具を準備することができる
- ・模擬授業を通して、授業のデザインや教え方、教材・教具などについて振り返り、改善案を考えることができる

6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

-understand the purpose and goals of the practicum and how it relates to the qualities and abilities required of a Japanese language teacher.

-analyze the needs, readiness, and environment of th

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 (4/10)：オリエンテーション
- 第2回 (4/17)：コースデザインとは①
- 第3回 (4/24)：コースデザインとは②
- 第4回 (5/8)：模擬授業
- 第5回 (5/15)：コミュニケーション能力とは
- 第6回 (5/22)：学習者の日本語の習熟度とは
- 第7回 (5/29)：多様な授業内活動①
- 第8回 (6/5)：多様な授業内活動②
- 第9回 (6/12)：多様な授業内活動③
- 第10回 (6/19)：授業準備・模擬授業①
- 第11回 (6/26)：振り返り①、授業準備・模擬授業②
- 第12回 (7/3)：振り返り②、授業準備・模擬授業③
- 第13回 (7/10)：振り返り③、授業準備・模擬授業④
- 第14回 (7/17)：振り返り④、授業準備・模擬授業⑤
- 第15回 (7/24)：振り返り⑤まとめ

5/1 は休講予定です。

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

10. 授業時間外学習：授業外の時間に授業見学を行います。実施時間は授業の中で相談して決めます。また、状況によって実習の形態に変更が出る可能性があります。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：考古学研究実習 I / Archaeology (Advanced Field Work) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時、前期 水曜日 4 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：鹿又 喜隆、松本 圭太

コード：LM98817, 科目ナンバリング：LJS-HIS627J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：考古学の調査と資料分析 (1)
2. Course Title (授業題目) : Research and Analysis of Archaeological Materials
3. 授業の目的と概要：発掘調査から、出土遺物の処理、資料整理と分析、図面製作、写真撮影、遺物の資料化、そして調査研究報告書の作成に至るまでの一連の作業を通して、考古学の高度な研究方法の実際を修得する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course provides opportunities to experience excavation, operation of archaeological materials, projected drawing of artifacts, layout of drawing, taking photographs for editing the excavation report. Students will obtain actual techniques and methods for archaeological study through this course.
5. 学習の到達目標：考古学資料の実証的研究法を修得し、研究報告書の作成方法を学ぶ。発掘調査実習を通して、調査の計画と実践を学習する。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students learn methodology to make an excavation report for basic archaeological study. They also learn about planning and methods for archaeological fieldwork.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目（考古学研究実習 I）は、対面講義です。
初回のみ Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは hi7z2cn です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

授業計画

- 第 1 回：出土遺物の属性入力（観察と計測、入力と統計操作）①
- 第 2 回：出土遺物の属性入力（観察と計測、入力と統計操作）②
- 第 3 回：発掘調査実習①
- 第 4 回：発掘調査実習②
- 第 5 回：出土遺物の属性入力（観察と計測、入力と統計操作）③
- 第 6 回：調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築①
- 第 7 回：調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築②
- 第 8 回：遺物の実測と製図①
- 第 9 回：遺物の実測と製図②
- 第 10 回：遺物の実測と製図③
- 第 11 回：遺物の実測と製図④
- 第 12 回：遺物の実測と製図⑤
- 第 13 回：測定の基礎と機器の操作①
- 第 14 回：測定の基礎と機器の操作②
- 第 15 回：測定の基礎と機器の操作③

定期試験 有

8. 成績評価方法：
(○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%]
(○) その他（具体的には、受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み）「30%」

9. 教科書および参考書：

教室にて指示。

10. 授業時間外学習：夏季に発掘調査を実施する。講義内で課題が終わらない場合には、宿題となる。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

研究実習 I・II を通年で連続履修することが望ましい。15 回の講義の順番は、発掘計画に応じて前後することがある。

科目名：日本文芸形成論特論Ⅲ／ Study of Formation of Japanese Literature(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：前期 水曜日 4講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LM13401, 科目ナンバリング：LJS-LIT603J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：詩と散文のあいだ

2. Course Title (授業題目)：Between Poetry and Prose

3. 授業の目的と概要：本授業では〈詩と散文〉(韻文と散文、詩歌と物語など)の境界や相互の交通を問うという観点で、古典から近現代にいたる日本文学の多様な問題について考察を行う。

授業は演習形式で、受講者は(1)自身の関心に基づく報告、(2)関連する文献の検討のいずれかを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This class will examine various issues in Japanese literature from classical to modern times from the perspective of questioning the boundaries and interrelationships between "poetry and prose" (rhyming text and prose, poetry and narrative, etc.).

The class will be conducted in the form of exercises, in which students will either (1) report on their own interests or (2) review relevant literature.

5. 学習の到達目標：テキストを読解する能力を高めるとともに、日本文化および批評理論についての教養を蓄え、自身の研究に応用する視点を獲得する。また、口頭発表と討議を通してディベート力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To improve the ability to analyze texts and to acquire knowledge of Japanese culture and critical theory.

To develop debate skills through oral presentations and discussions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 担当者による口頭発表と討論

3. 担当者による口頭発表と討論

4. 担当者による口頭発表と討論

5. 担当者による口頭発表と討論

6. 担当者による口頭発表と討論

7. 担当者による口頭発表と討論

8. 担当者による口頭発表と討論

9. 担当者による口頭発表と討論

10. 担当者による口頭発表と討論

11. 担当者による口頭発表と討論

12. 担当者による口頭発表と討論

13. 担当者による口頭発表と討論

14. 担当者による口頭発表と討論

15. 担当者による口頭発表と討論

8. 成績評価方法：

授業における発表(60%)・授業への参加(出席・質疑応答)(40%)

9. 教科書および参考書：

参考文献は授業中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：授業で取り上げるテキストを受講者全員が事前に精読しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本思想史総合演習 I / History of Japanese Thought(Integration Seminar)I

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔・片岡 龍

コード：LM13402, 科目ナンバリング：LJS-PHI605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目) :Varies issues of history of Japanese thoughtI

3. 授業の目的と概要：参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) :The reporter organizes the research history of each research theme and points out problems in the research history, and participants discuss the report. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：日本思想史の研究手法の会得と深化

6. Learning Goals(学修の到達目標) :Acquisition and deepening of research methods of the history of Japanese Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

8. 成績評価方法：

平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本思想史総合演習Ⅲ／ History of Japanese Thought(Integration Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔・片岡 龍

コード：LM13403, 科目ナンバリング：LJS-PHI615J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目) :Varies issues of history of Japanese thought I

3. 授業の目的と概要：参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) :The reporter organizes the research history of each research theme and points out problems in the research history, and participants discuss the report. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：日本思想史の研究手法の会得と深化

6. Learning Goals(学修の到達目標) :Acquisition and deepening of research methods of the history of Japanese Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

8. 成績評価方法：

平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：フランス文化学特論 I / French Culture (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：MEVEL YANN ERIC

コード：LM13404, 科目ナンバリング：LGH-LIT642F, 使用言語：英語以外の外国語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Patrick Modiano

2. Course Title (授業題目)：Patrick Modiano

3. 授業の目的と概要：The main aims of the course will be to：

- deepen the method of text explanation
- learn how to analyze a narrative work
- analyze a writing of memory and melancholy, confronting individual and collective history

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The main aims of the course will be to：

- deepen the method of text explanation
- learn how to analyze a narrative work
- analyze a writing of memory and melancholy, confronting individual and collective history

5. 学習の到達目標：- Practice in text explanation

- Thematic and stylistic approaches to a narrative work

6. Learning Goals (学修の到達目標)：- Practice in text explanation

- Thematic and stylistic approaches to a narrative work

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Introduction
- 2) Introduction
- 3) Text explanation
- 4) Text explanation
- 5) Text explanation
- 6) Text explanation
- 7) Text explanation
- 8) Text explanation
- 9) Text explanation
- 10) Text explanation
- 11) Text explanation
- 12) Text explanation
- 13) Text explanation
- 14) Text explanation
- 15) Conclusion
- 16) Film screening . Analysis and conclusion

8. 成績評価方法：

Evaluation will take the form of continuous assessment, which requires participation in all classes. It will count for 60 % of the overall assessment. At the end of the semester, students will be asked to write a brief critical review of the work.

9. 教科書および参考書：

Patrick Modiano, Dora Bruder, Paris, La Bibliotheque Gallimard - texte et dossier

10. 授業時間外学習：For any explanation of text, before the class students will need to check vocabulary, grammar points, references, and to consider the functions and effects of the text.

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：西洋古代・中世史研究演習Ⅲ／ History of Ancient and Medieval Europe(Advanced Seminar) III

曜日・講時：前期 水曜日 4講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LM13405, 科目ナンバリング：LGH-HIS619J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヨーロッパ中近世史料研究
2. Course Title (授業題目)：Study in the Sources of Medieval and Early Modern European History
3. 授業の目的と概要：中近世ラテン語史料の理解力を涵養することを目的とします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of the course is to deepen understanding of sources of medieval and early modern history.
5. 学習の到達目標：中近世ラテン語史料の高度な理解力を涵養する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of the course is to deepen understanding of sources of medieval and early modern history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
中近世史のラテン語史料について、その読解力の涵養および、先行研究から史料利用の可能性を学ぶことを、内容とします。
第1回目の授業で具体的なテキストと進度について打ち合せし、それに基づいて2回目以降の授業をおこないます。
8. 成績評価方法：
授業参加状況による。
9. 教科書および参考書：
教室で指示します。
10. 授業時間外学習：予習および、特に予習で不明だった箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：実験心理学特論 I / Experimental Psychology(Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：河地 庸介

コード：LM13406, 科目ナンバリング：LIH-PSY601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：心理学・脳科学からみる知覚・認知

2. Course Title (授業題目)：Psychology and Brain Science on Perception and Cognition

3. 授業の目的と概要：人間は、意識的かどうかにかかわらず、外界の事物や自分や他者の状態等の多種多様な情報を認識し、行動を選択し、外界や他者に働きかけながら生活している。本講義では、このような情報のやりとりを支える「ところ」、さらには脳について、認知心理学のみならず、情報科学や脳科学等との密接な関連性を意識しながら理解することを目指す。適宜、錯覚等の心的現象のデモンストレーションや心理学実験の実験に加えて、最新の脳科学的知見・話題をも織り交ぜながら講義を進めていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We consciously or unconsciously perceive various information from the internal and external environments, choose an adaptive behavior based on perceived information, and interact with the environments. This course aims at comprehensively understanding the adaptive mind like sensation, perception, and cognition from a psychology and brain science perspective. This course will include many demonstrations of psychological phenomena and experiments to help students deepen their understanding of the adaptive mind.

5. 学習の到達目標：日常生活の中で体験する自分自身や他者の「ところ」にかかわる現象を認知心理学の立場から考察し、近年様々なメディアで取りあげられている心理学や脳科学に関する話題を理解・評価できる力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students improve the ability to analyze psychological phenomena from a psychological and brain science perspective and to understand and evaluate psychological and brain science topics from the media.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業資料と授業情報については Google Classroom を使用して発信する。

内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. ガイダンス
2. 知覚・認知心理学で用いる心と脳の測り方
3. 世界を感じるための心と脳の基本特性
4. 初期視覚情報処理 1 (網膜・受容野)
5. 初期視覚情報処理 2 (コントラスト・空間周波数処理)
6. 初期視覚情報処理 3 (色・運動・奥行き知覚)
7. 中期視覚情報処理 (図地の知覚, 群化)
8. 高次視覚情報処理 (物体・顔・シーンの知覚)
9. 聴覚・触覚情報処理
10. 多感覚統合
11. 注意：定義と測定方法
12. 様々な注意：空間的注意, 特徴ベースの注意, 物体ベースの注意
13. 心的イメージ
14. 意思決定
15. まとめ

8. 成績評価方法：

試験もしくはレポート (60%) およびコメントシートの提出 (40%) をもとに評価する。

9. 教科書および参考書：

必要に応じてプリントもしくは PDF ファイルを配布する。

1 0. 授業時間外学習：講義内で提示されるキーワードや重要研究について、論文・書籍・URL などを通して理解を深めること。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

科目名：記述言語学特論 I / Descriptive Linguistics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LM13407, 科目ナンバリング：LIH-LIN606J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フィールド言語学の実践と理論

2. Course Title (授業題目)：Field Methods and Linguistic Analysis

3. 授業の目的と概要：フィールド言語調査の基本的な流れを、言語選定・調査地の探し方から調査票作成、調査・分析まで実践的に学びます。異なる言語集団の接触により誕生したピジン・クレオールを対象とし、基本的な音声・形態・文構造・意味の分析によりその言語特徴を明らかにするほか、音声と書記法・言語と国家・言語政策・言語接触・威信・借用などの社会言語学の観点からも分析・考察します。併せて、文化・歴史と関連させた言語人類学の観点からも考察します。なお比較・対照のために複数の言語データを扱います。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course introduces the fundamentals of research methodologies in Linguistics, covering everything from preparing the research project to them conducting it and analyzing the results. Students will research pidgin and creole, and analyze the data according to the perspective and methods of various approaches, such as descriptive linguistics, socio-linguistics, and linguistic anthropology.

5. 学習の到達目標：・ピジン・クレオールの言語特徴を分析により導く。
・言語調査の方法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of this course, students will have an understanding of the key procedural elements of field research in Linguistics, and they will also be able to explain the characteristics of pidgin and creole.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. フィールド言語学・記述言語学とは
2. 調査地・調査言語の選定方法・調査許可
3. 調査方法・調査準備・調査票 1 の作成
4. ピジン・クレオールの背景
5. ビスマラ語の聞き取り
6. 現地語の聞き取り
7. 3 言語の音声・音韻・形態の分析と比較
8. 仮説の設定と調査票 2 の作成
9. 3 言語の句構造・文構造の比較
10. 名詞・動詞のパラダイム、意味体系の比較
11. 仮説の設定と調査手法
12. 3 言語の比較から導くピジン・クレオールの特徴
13. 音声と書記法、言語と国家、威信、借用
14. 言語接触のプロセスと言語変化
15. 社会言語学・言語人類学的分析と発展研究

8. 成績評価方法：

定期試験 (70%)、発表 (30%)

9. 教科書および参考書：

適宜、資料を配布します。

10. 授業時間外学習：授業後、扱ったデータや調べた文献をもとにして、さらにどのような調査や発展的分析・考察が可能であるかを考えてください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：倫理学研究演習Ⅶ／ Ethics (Advanced Seminar VII)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LM13408, 科目ナンバリング：LIH-PHI632J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：環境の視点から倫理を議論する
2. Course Title (授業題目) : Discussing ethics from a green perspective
3. 授業の目的と概要： この演習ではテキストを読み、内容を端的に理解し、他者へ説明するためのトレーニングを行います。そのため、事前に決めた担当者に指定範囲の文章を要約してもらいます。また、担当者には該当部分に関連する論点を出してもらいます。その後、参加者で議論をします。(最初の数回で、テキストの背景や要約の仕方、論点の出し方については講義します。)
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The aim of this course is to train students to read the text carefully, understand the content accurately and explain it to others. Each time, students summarise the text and suggest key points for discussion (the text will be distributed to the participants in advance). The participants then discuss the material together. (In the first few sessions, I give a lecture on the background of the text and how to make a summary).
5. 学習の到達目標：(1) テキストを要約し、論点を出すことができる。
(2) 現実に起きている倫理的葛藤に対し、論理的に自己の見解を示すことができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : (1) To summarise the text and bring out the key points of the discussion
(2) To logically provide your own views on real-life ethical conflicts.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第一回：導入
第二回：入門講義 (1) : テキストの背景
第三回：入門講義 (2) : 要約・論点出しの仕方、担当者決定
第四回：テキストの読解 (1)
第五回：テキストの読解 (2) (以下同様)
8. 成績評価方法：
演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。
9. 教科書および参考書：
テキストはプリントで配布します。
現在、予定しているテキストは鬼頭秀一『自然保護を問いなおす 環境倫理とネットワーク』です。
10. 授業時間外学習：担当者は配当された部分のテキストを要約し、論点を出して A4 1 枚のレジュメを作成してください。事前に人数分をコピーし、授業で配布して内容を報告してもらいます。担当外の者は、テキストをしっかりと読んでください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
【重要】通年の受講が望ましい。

科目名：東洋・日本美術史研究演習 I / History of Oriental and Japanese Fine Arts (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：長岡 龍作

コード：LM13409, 科目ナンバリング：LIH-ART606J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術史基礎資料読解

2. Course Title (授業題目) : Reading the historical documents of art history

3. 授業の目的と概要：この演習では、美術と深く関わる基礎資料を読み込み、その内容が残されている美術作品とどのように関わっているかについて探求し、資料の創造的な読みを実践しようとするものである。『校刊美術史料寺院篇』・『日本彫刻史基礎資料集成鎌倉時代造像銘記篇』・『江都督納言願文集』・『転法輪抄』・『俊乘房重源史料集成』・『西大寺叡尊傳記集成』から造像に関わる願文（または表白）を選び、それを素材としていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, we will read basic documents deeply related to art. Through the reading, we will find how it relates to the remaining artworks and practice creative reading of documents.

5. 学習の到達目標：基礎資料の読解力を身につけるとともに、美術史研究における資料の創造的な活用法を探求する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students acquire the skill to understand basic documents, and try to find the way to use documents creatively in art history research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して授業資料と授業情報を配信します。このクラスコードは****です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクションー造像銘記ならびに納入文書について
2. 発表準備
3. 発表準備
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 像内文書・願文を読む
7. 像内文書・願文を読む
8. 像内文書・願文を読む
9. 像内文書・願文を読む
10. 像内文書・願文を読む
11. 像内文書・願文を読む
12. 像内文書・願文を読む
13. 像内文書・願文を読む
14. 像内文書・願文を読む
15. 総括と講評

8. 成績評価方法：

出席 [50%]・発表内容 [50%]

9. 教科書および参考書：

テキスト：『日本彫刻史基礎資料集成鎌倉時代造像銘記篇』（中央公論美術出版）、『江都督納言願文集注解』（塙書房）、『貴重古典籍叢刊 6 安居院唱導集上巻』（角川書店）、『国立歴史民俗博物館研究報告』188

10. 授業時間外学習：参加者は各授業の該当の箇所を事前に読んで授業に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：研究倫理特論／ Research Ethics (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：小泉 政利、坂井 信之、辻本 昌弘、中西 太郎、原 壘、阿部 恒之、浜田 宏

コード：LM13501, 科目ナンバリング：LAL-0AR509J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：研究と実践の倫理

2. Course Title (授業題目)：Research Ethics

3. 授業の目的と概要：科学研究は、人々の幸福や社会の発展に大きく貢献していますが、他方、研究やその成果が、人々を傷つけるものであったり、人びとを誤った仕方でも導いたりすることもあります。そのため、研究に従事する人々（大学生を含みます）は、倫理的・手続き的に正しい仕方で行なう責任を負っています。特に、人文社会科学では、実験・質問紙調査・フィールドワーク・聞き取り調査・歴史資料・インターネット情報の収集など様々な手法で研究が行なわれるため、多様な倫理的問題に対処しなければなりません。この授業では、研究倫理と公正な研究

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, the theoretical basis of research ethics and integrity, as well as ethical problems typical of various research fields of humanities and social sciences are discussed.

5. 学習の到達目標：研究倫理と公正な研究について理解し、その理解に基づいて、研究を実践できるようになることが、この授業の到達目標です。より具体的な到達目標は以下の通りです。

1. よい研究者像を自分なりにイメージできるようになり、研究者の責任に対する自覚を深めること。

2. 実験・調査参加者や、その他の関係者の権利を尊重する必要性、そのために考慮すべき事項や手続きを理解し、その知識に基づいた研究活動を行なうこと。

3. 責任ある仕方で行なう研究を実施するために研究者が遵守すべき様々な規範と、その規範を遵守すべき理由を理解した上で、

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To understand research ethics and integrity, and to be able to practice research based on that understanding.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は、オンライン、非同期授業（主としてオンデマンド型遠隔授業）として実施します。

授業内容は以下の通りです。

第1回：イントロダクション（担当：原壘）

第2回：人を対象とした医学系研究における倫理（担当：坂井信之）

第3回：心理学実験における倫理（担当：坂井信之）

第4回：質問紙調査研究の実践と倫理（担当：浜田宏）

第5回：研究倫理を踏まえた質問紙調査法改善の動向（担当：浜田宏）

第6回：フィールドワークにおける倫理の基本原則（担当：辻本昌弘）

第7回：フィールドワークにおける倫理の実践的問題（担当：辻本昌弘）

第8回：聞き取り調査の実践と倫理の諸問題（担当：中西太郎）

第9回：著作権・商標・特許等の問題について（担当：阿部恒之）

第10回：研究不正の防止と対応（担当：小泉政利）

第11回：人文学・社会科学分野における盗用（担当：原壘）

第12回：共同研究とオーサーシップ（担当：原壘）

第13回：ピア・レビューと利益相反（担当：原壘）

第14回：人文学・社会科学分野における研究の質と研究公正性との関係（担当：原壘）

第15回：人文学・社会科学の学問特性と研究不正（担当：原壘）

8. 成績評価方法：

平常点 30%、e-ラーニングの受講 20%、レポート 50%

9. 教科書および参考書：

指定された教科書はありません。参考書は授業時に教えます。

10. 授業時間外学習：講義内容について十分、復習を行ってください。授業内容について独自に調べ、理解を深めた上で、それをレポートとしてまとめていただきます。また、公正な研究について、e-ラーニングを受講する必要があります。e-ラーニングの受講方法については、初回の授業で指示します。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

初回のイントロダクションは、オンライン会議システムを使用して行います。詳細は、Google Classroom を使ってお知らせいたします。

科目名：日本語教育学総合演習 I / Applied Japanese Linguistics(Integration Seminar)I

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：島崎 薫, 小河原 義朗

コード：LM13502, 科目ナンバリング：LJS-LIN618J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：課題研究 I

2. Course Title (授業題目) : Topic Research 1

3. 授業の目的と概要： 大学院生・大学院研究生全員が参加し、各自の研究テーマについて研究計画・進捗状況・結果報告をプレゼンテーションし、教員を含む参加者全員でディスカッション・フィードバックを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course provides students with opportunities to make a presentation about their own study topics (the current progress status, the research plan and the results of analyses) and have in-depth discussion between themselves afterwards.

5. 学習の到達目標：参加者相互の研究発表を通じて、

(1) 様々な研究テーマに応じた日本語教育学研究法について学び、適切な選択ができる。

(2) 聞き手に配慮したプレゼンテーション・質疑応答・ディスカッションができる。

(3) 各自の研究を着実に進めることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students will be able to learn:

1. the principles of studying Japanese language teaching according to the themes, and how to apply them appropriately.

2. an audience-appropriate presentations and question-and-answer sessions

3. steadily progress in their

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：オリエンテーション

第2回：修士課程2年生による進捗状況報告（課題）

第3回：修士課程2年生による進捗状況報告（先行研究）

第4回：修士課程1年生による研究計画報告（背景）

第5回：修士課程1年生による研究計画報告（課題）

第6回：博士課程院生によるプレゼンテーション（研究計画）

第7回：博士課程院生によるプレゼンテーション（進捗状況）

第8回：大学院研究生によるプレゼンテーション（研究計画）

第9回：修士課程2年生による結果報告

第10回：修士課程2年生による分析報告

第11回：修士課程1年生による進捗状況報告（目的）

第12回：修士課程1年生による進捗状況報告（先行研究）

第13回：博士課程院生によるプレゼンテーション（結果報告）

第14回：博士課程院生によるプレゼンテーション（分析報告）

第15回：大学院研究生によるプレゼンテーション（結果報告）

8. 成績評価方法：

プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）、授業参加度（40%）

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：発表担当者は、自分の発表に向けて各自パワーポイント・ハンドアウトの資料作成準備を進める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本思想史研究演習 I / History of Japanese Thought (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍、引野 亨輔

コード：LM13503, 科目ナンバリング：LJS-PHI607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought I

3. 授業の目的と概要：参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The reporter organizes the research history of each research theme and points out problems in the research history, and participants discuss the report.

5. 学習の到達目標：日本思想史の研究手法の会得と深化

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquisition and deepening of research methods of the history of Japanese Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

8. 成績評価方法：

平常点 (出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文) [100%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』(ぺりかん社) ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本思想史研究演習Ⅲ／ History of Japanese Thought (Advanced Seminar) III

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍、引野 亨輔

コード：LM13504, 科目ナンバリング：LJS-PHI617J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought I

3. 授業の目的と概要：参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The reporter organizes the research history of each research theme and points out problems in the research history, and participants discuss the report.

5. 学習の到達目標：日本思想史の研究手法の会得と深化

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquisition and deepening of research methods of the history of Japanese Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

8. 成績評価方法：

平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ぺりかん社）ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本近世・近代史研究演習 I / Early Modern and Modern History in Japan(Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LM13505, 科目ナンバリング：LJS-HIS613J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世史研究法（1）

2. Course Title (授業題目)：Research Methods in Early Modern History (1)

3. 授業の目的と概要：受講者各自が、日本近世史に関して自らの研究テーマに基づいて研究報告をし、それを参加者全員で討議する。研究の実践の場として、受講者自身の論文執筆に資することはもちろんであるが、報告・司会の方法に習熟し、加えて他の受講者の意見や報告を通じて新たな知見を得ることもねらいとする。必ず「近世史研究法（2）」と連続で受講すること。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to acquire abundant knowledge and identify a research in early modern Japanese history. Positive participation in classes is expected.

5. 学習の到達目標：(1) 日本近世史において、高度な史料読解能力と、自主的な研究能力を培う。

(2) 報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identify a research issue.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面で実施するが、場合によりオンライン受講を認める。

1. ガイダンス

2. 受講者による報告と討論 (1)

3. 受講者による報告と討論 (2)

4. 受講者による報告と討論 (3)

5. 受講者による報告と討論 (4)

6. 受講者による報告と討論 (5)

7. 受講者による報告と討論 (6)

8. 受講者による報告と討論 (7)

9. 受講者による報告と討論 (8)

10. 受講者による報告と討論 (9)

11. 受講者による報告と討論 (10)

12. 受講者による報告と討論 (11)

13. 受講者による報告と討論 (12)

14. 受講者による報告と討論 (13)

15. 受講者による報告と討論 (14)

8. 成績評価方法：

出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討論への取り組みなど）[40%]

9. 教科書および参考書：

特になし。

10. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。レジュメが事前に示されている場合はそのレジュメを熟読し、質問・意見を検討しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

必ず「近世史研究法（2）」と連続で受講すること。また、大学院生には学部生の指導的な役割を積極的に担うことを期待する。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）。

科目名：実践宗教学特論Ⅲ／ Practical Religious Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 5講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LM13506, 科目ナンバリング：LGH-RES615J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：死生学文献講読
2. Course Title (授業題目)：Readings: Death and Life Studies
3. 授業の目的と概要：死生観に関する文献を読み、日本文化における悲嘆とそのケアのありかたについて基礎的な知識を得る。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will read literature on the history and culture related to death and grief in Japanese cultural tradition.
5. 学習の到達目標：日本人の文学的感性が死と悲嘆をどのように捉えてきたのか、事例を踏まえて理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn the history and culture related to grief care, in order to understand effective method of care for the bereaved. .
7. 授業の内容・方法と進度予定：
島菌進『死生観を問う 万葉集から金子みすゞへ』(朝日選書 1037)を読み進める。

学生は担当箇所についての要約発表を行い、授業内でディスカッションを行なう。

- (1) イントロダクション
- (2) 【序章】自分自身の死生観を探る——東日本大震災後に目立つ死生観探究
- (3) 【第1章】魂のふるさとと原初の孤独 死者が近くにいるという感覚
- (4) 折口信夫のマレビト
- (5) 魂のふるさとへの憧憬
- (6) 【第2章】無常を嘆き、受け入れる 無常——野口雨情の童謡と一茶の「おらが春」
- (7) 無常を描き出す宗教文書と文芸
- (8) 無常観——芭蕉と李白
- (9) 【第3章】悲嘆の文学の系譜 王朝文芸の「はかなし」と死生観
- (10) 母の悲嘆と作者の憤り、そして笑い
- (11) 【第4章】無常から浮き世へ 桜に託された孤独、苦悩と信仰の間
- (12) 現代人のうき世観と魂のふるさと
- (13) 【終章】夏目漱石、死生観を問う——死生観が問われる時代
- (14) まとめ その一
- (15) まとめ その二

8. 成績評価方法：

出席回数と発表内容により総合に評価する。

9. 教科書および参考書：

島菌進『死生観を問う 万葉集から金子みすゞへ』(朝日選書 1037)、朝日新聞出版、2023

10. 授業時間外学習：指定テキストを熟読すること。発表担当者はレジュメを用意すること。詳細は初回に指示する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：東洋史学研究演習 I / History in Asia(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LM13507, 科目ナンバリング：LGH-HIS608J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：明清官僚制度研究 I

2. Course Title (授業題目) : Studies of Bureaucracy in the Ming, Qing Dynasty

3. 授業の目的と概要：明清時代の漢文史料を精読することを通して、中国近世の政治制度、官僚制度に関する基礎知識を習得し、同時に自分で課題探究をするために必須となる文書読解の訓練を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Students will read carefully the historical documents of the Ming Qing period and develop basic reading skills crucial to understanding historical texts used in academic research. Moreover, Students will learn basic methods to study political institutions, bureaucracy and so on in Early Modern China.

5. 学習の到達目標：中国明清時代の一次史料読解を通じて、政治制度、官僚制度研究に必須となる公文書の基本形式に慣れると同時に、当時の官僚制と社会について分析を加える。特に各回の担当者を決めず、全員が毎回発表する（日本語訳でも訓読でもかまわない）。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Through the reading of the primary historical materials of Ming Qing China, students will accustom to the basic form of the official document which is essential for analyzing the bureaucracy and society at the time. All students will give a presentation i

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー
2. 明清官僚制度研究 I ー (1)
3. 明清官僚制度研究 I ー (2)
4. 明清官僚制度研究 I ー (3)
5. 明清官僚制度研究 I ー (4)
6. 明清官僚制度研究 I ー (5)
7. 明清官僚制度研究 I ー (6)
8. 明清官僚制度研究 I ー (7)
9. 明清官僚制度研究 I ー (8)
10. 明清官僚制度研究 I ー (9)
11. 明清官僚制度研究 I ー (10)
12. 明清官僚制度研究 I ー (11)
13. 明清官僚制度研究 I ー (12)
14. 明清官僚制度研究 I ー (13)
15. 明清官僚制度研究 I ー (14) 及びまとめ

8. 成績評価方法：

発表内容（平常点）。

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. 授業時間外学習：毎回、テキストを日本語訳し、内容について調べて授業にのぞむ必要がある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：近代哲学研究演習 I / Modern Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LM13508, 科目ナンバリング：LIH-PHI612J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カント『純粋理性批判』研究
2. Course Title (授業題目)：Kant's Critique of Pure Reason
3. 授業の目的と概要：カントの『純粋理性批判』(1781/87 年)をドイツ語原文で読む。今年度はアンチノミー章にとりくむ。担当者には、訳読に加えて、解釈的な設問に答えてもらう。また、進行に応じて、関連するコメンタリーや研究書・論文などを報告する機会を設ける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We read Kant's Critique of Pure Reason (1781/87) in the original German. We will work on the chapter of "The Antinomy of Pure Reason" this year. In addition to reading, students will be asked to answer interpretive questions and to report on commentaries or articles on the Antinomy.
5. 学習の到達目標：哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To develop the abilities to read and analyse philosophical texts.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 - 1 - 15 「純粋理性のアンチノミー」章講読

第二章 純粋理性のアンチノミー

第一節 宇宙論的理念の体系

第二節 純粋理性の背反論

超越論的理念の第一の抗争

第一アンチノミーに対する注解

超越論的理念の第二の抗争

第二アンチノミーに対する注解

超越論的理念の第三の抗争

第三アンチノミーに対する注解

超越論的理念の第四の抗争

第四アンチノミーに対する注解

第三節 これらの抗争における理性の関心について

第四節 端的に解決されうるはずであるかぎりの、純粋理性の超越論的課題について

第五節 四つの超越論的理念すべてをつうじて生じる宇宙論的問いの懐疑的な表象

第六節 宇宙論的弁証論を解決するカギとしての超越論的観念論

8. 成績評価方法：

訳読、報告、討議、期末レポートによる。

9. 教科書および参考書：

Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.

(他の箇所の参照のために原典の冊子は必須。できれば上記の新哲学文庫版を購入してください。)

10. 授業時間外学習：予習を欠かさずに演習に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：応用死生学研究実習 I / Practical Studies on Death & Life (Advanced Field Experience)

曜日・講時：前期 木曜日 1 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：高橋 原、井川 裕寛、谷山 洋三

コード：LM14101, 科目ナンバリング：LGH-RES617J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：スピリチュアルケア実習

2. Course Title (授業題目)：Field Experience of Spiritual Care

3. 授業の目的と概要：死生学的課題にとりくむ現場を参与観察するとともに、スピリチュアルケア実践の実習を行い、実習先・ケアチームの状況理解、倫理的課題、ケア対象者のニーズと対応、ケア提供者の責任と実践力を身につける。実習報告会(会話記録検討会など)では、他の履修者の実習内容から、実践の多様性とフレキシビリティを学びつつ、自己課題に向き合い、ケア提供者としての自己の適性を明らかにする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students participate and observe the clinical sites that deal with life-and-death issues and spiritual care. They improve the specific understanding of care team, ethical issues, needs and responses of the clients, responsibility and practical ability of care providers. In practice report sessions (including verbatim session, etc.), each student learns about the diversity and flexibility of practice from the reports of other students, faces self-goals, and clarifies their aptitude as a care provider.

5. 学習の到達目標：スピリチュアルケアの現場に身を置くことで、死生学的課題にとりくむ実践力を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students develop practical skills in dealing with life-and-death issues by putting themselves through the clinical training of spiritual care.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業のみ

第1回：学習契約

第2回：実習先の決定・書類締結

第3回：実習訪問(1)実習先の状況理解

第4回：実習訪問(2)チームの状況理解

第5回：実習訪問(3)職掌の理解

第6回：実習訪問(4)倫理的課題

第7回：実践報告会(1)実習現場特性と実習内容の分かち合い

第8回：実習訪問(5)参与観察報告1

第9回：実習訪問(6)ケア提供者の責任

第10回：実習訪問(7)ケア対象者のニーズ

第11回：実習訪問(8)ケア提供者の対応

第12回：実践報告会(2)実習現場特性と実習内容の分かち合い

第13回：実習訪問(9)参与観察報告2

第14回：実習訪問(10)ケア提供者の倫理

第15回：まとめ・自己評価

8. 成績評価方法：

レポート[20%]、自己課題の明確化[40%]、実習内容の評価[40%]

9. 教科書および参考書：

教科書：窪寺俊之ほか編著『スピリチュアルケアを語る 第三集 臨床的教育法の試み』関西学院大学出版会、2010年

参考書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年

瀧口俊子・大村哲夫ほか編著『共に生きるスピリチュアルケア』創元社、2021年

10. 授業時間外学習：授業内で指示する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

この授業の履修には、高度な日本語運用能力が不可欠です。履修者は死生学・実践宗教学専攻分野の大学院生に限る。併せて、応用死生学研究実習 I、死生学特論 I(高橋原)、実践宗教学 特論 I(谷山洋三)、人文社会科学総合(前期、高橋原)を履修すること。

科目名：理論言語学特論 I / Theoretical Linguistics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 1 講時

Semester : 1 学期 単位数 : 2

担当教員：小泉 政利

コード：LM14102, 科目ナンバリング：LIH-LIN607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：統語論入門

2. Course Title (授業題目) : Introduction to Syntax

3. 授業の目的と概要：この授業では、まず統語論の基本的な概念と原理を学び、その後にさまざまな統語現象の分析事例に触れます。また、口頭発表および自律的な学習習慣のスキルの獲得も目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course deals with the basic concepts and principles of syntax as well as case studies of various syntactic phenomena. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and self-regulated learning.

5. 学習の到達目標：統語論の基本的な概念と原理について自分の言葉で説明できるようになること。

身近な言語現象について自分なりに分析しようとする姿勢を身につけること。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : By the end of the course, students should be able to describe in their own words the basic concepts and principles of syntax, and develop an attitude of trying to analyze familiar linguistic phenomena in their own way.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. ことばの科学的研究方法
3. ことばの獲得の不思議、普遍文法
4. 語彙範疇と機能範疇、統語構造、X バー理論
5. 文の構造を再考する、意味役割、能動と受動
6. 数量詞と代名詞、コントロールと上昇、非対格仮説
7. 動詞句内主語仮説、主要部移動、Wh 疑問詞と題目の移動
8. Ergativity
9. Tongan Syntax
10. Case Theory
11. Syntactic Ergativity in Tongan
12. Morphological Split: Accusative Behaviour of Pronouns
13. Raising or No Raising?
14. Passive
15. Antipassive and Middle Constructions

8. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・発表：50%
- ・宿題：50%

9. 教科書および参考書：

教科書

岸本秀樹『ベーシック生成文法』ひつじ書房

10. 授業時間外学習：自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：アーカイブズ学研究演習／ Archival Science (Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：加藤 諭

コード：LM14201, 科目ナンバリング：LAL-0AR532J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アーカイブズ学研究法
2. Course Title (授業題目)：Research Methods in Archival Science
3. 授業の目的と概要：本講義は、実際にアーカイブズ機関において必要とされるアーキビストの業務について、ディスカッションや実践を通じて体得する授業である。アーカイブズ機関の現場で求められるアーキビストの使命・倫理、資料保存に関する技術、公文書の保存・修復・利用に関する知識、専門的な知識やマネジメント、職務上必要なスキルやマネジメント能力について、理解を深めることを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This lecture is a class in which students learn about the work of archivists actually required in archives through discussion and practice. Students will deepen their understanding of the mission and ethics of archivists required in the field of archives, techniques related to document preservation, knowledge of preservation, restoration, and utilization of official documents, expertise and management, and skills and management abilities necessary for their work.
5. 学習の到達目標：本講義は、現場のアーキビストとのディスカッションや、マネジメントに関する演習等をおこない、アーカイブズ機関において必要とされるアーキビストの知識・技能を体得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：In this lecture, students will have discussions with archivists in the field and practice management to acquire the knowledge and skills required of archivists in archival institutions.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス
 2. アーキビストの使命と役割
 3. 国立大学法人における文書管理と連携
 4. 大学アーカイブズにおける保存・修復・利用
 5. 大学アーカイブズにおける MLA 連携とアウトリーチ活動
 6. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践①
 7. 自治体アーカイブズにおける業務と実践①
 8. 自治体アーカイブズにおける業務と実践②
 9. 民間アーカイブズにおける業務と実践
 10. 自治体アーカイブズにおける業務と実践③
 11. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践②
 12. さまざまなアーカイブズにおける業務と実践③
 13. 東北大学史料館における記録資料の整理公開①
 14. 東北大学史料館における記録資料の整理公開②
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

出席[50%]・受講態度[40%]・レポート[10%]
9. 教科書および参考書：

エリザベス・シェパード、ジェフリー・ヨー（共著）、森本祥子、平野泉、松崎裕子（編・訳）『レコード・マネジメント・ハンドブック：記録管理・アーカイブズ管理のための』日外アソシエーツ、2016年、スー・マケミッシュ、マイケル・ピゴット、バーバラ・リード、フランク・アップウォード（共編）、安藤正人、石原一則、坂口貴弘、塚田治郎、保坂裕興（訳）『アーカイブズ論：記録のちからと現代社会』明石書店、2019年
10. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：日本語変異論特論 I / Variation of Japanese (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LM14202, 科目ナンバリング：LJS-LIN603J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語文法研究

2. Course Title (授業題目) : Study of Japanese grammar

3. 授業の目的と概要：現代日本語の文法現象をとりあげ、それについての先行研究をふまえながら、文法的な分析を試みる。また、その内容について、具体的な例文にもとづきながら文法的に考え、議論する。テーマは、名詞収束型文。なお、より具体的な講義内容・日程等の詳細は、開講時に提示する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course focuses on the grammatical phenomena of modern Japanese and conducts grammatical analysis. Through this, you deepen your understanding of Japanese grammar. The theme is noun convergent sentences.

5. 学習の到達目標：(1) 日本語文法研究における先行研究の内容を把握し、その内容を説明できるようになる。

(2) 日本語文法論における分析視点や論理展開の問題点を見いだすことができるようになる。

(3) 文法論的に考え、その結果について報告や議論ができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students

(1) be able to explain the contents of previous research in Japanese grammar research,

(2) be able to find problems in the analysis viewpoint and logical development of Japanese grammar,

(3) be able to thi

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

第1回：ガイダンス

第2回：文法研究とは何か

第3回：先行研究の分析について

第4回：テーマ概説

第5回：研究史の分析(1)

第6回：研究史の分析(2)

第7回：研究史の分析(3)

第8回：研究史の分析(4)

第9回：分析実践(1)

第10回：分析実践(2)

第11回：分析実践(3)

第12回：分析実践(4)

第13回：分析実践(5)

第14回：分析実践(6)

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

参加態度・講義内の小課題・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。

9. 教科書および参考書：

必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。

10. 授業時間外学習：(1) テキストを読み、その内容の要点を把握して参加する。

(2) 講義内の分析・議論についての疑問点を整理する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本古典文学研究演習Ⅲ／ Study of Japanese Classical Literature(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LM14203, 科目ナンバリング：LJS-LIT609J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『今昔物語集』の表現形成
2. Course Title (授業題目)：Research on Konjaku Monogatari-shu (今昔物語集)
3. 授業の目的と概要： 演習形式の授業を通して、『今昔物語集』の表現形成の問題を、広く文化的、社会的問題とかわらせて考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will clarify the characteristics of tales in Konjaku Monogatari-shu (今昔物語集), and position their significance widely in the history of culture and society.
5. 学習の到達目標： 文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、表現力を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire advanced and specialized ability necessary to think about literature, culture and society creatively.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 『今昔物語集』についての解説
 - 2 『今昔物語集』についての解説
 - 3 『今昔物語集』についての解説
 - 4 『今昔物語集』についての解説
 - 5 『今昔物語集』についての解説
 - 6 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 7 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 8 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 9 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 10 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 11 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 12 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 13 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 14 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 15 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]
9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 各回で考察対象となる物語の記述をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

本演習のⅣも連続して履修すること。

科目名：インド学特論 I / Indological Studies (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LM14204, 科目ナンバリング：LGH-PHI601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：祭式文献購読 ヴェーダ散文選
 2. Course Title (授業題目) : Vedic literature.
 3. 授業の目的と概要：本講義では『チャンドーギヤ・ウパニシャッド』 第 6 卷 (B.C. 600 頃以降) を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Upanishad : one hundred & eight Upanishads: (Īśā & others) : with various readings (Edited by Wāsudev Lakṣmaṇ Sāhstrī Paṇśīkar. Bombay: Nirnaya-Sagar Press, 1925[第 3 版]) をテキストとして, Ma
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course, students will read Chandogya-Upanisad VI. The course provides students with essential discipline in Indian philology. It also help students learn about grammar, vocabulary, and syntax of Sanskrit as well as the Veda.
 5. 学習の到達目標： ヴェーダ文献及び祭式に関する知識を習得し、ヴェーダの散文が読めるようになる。
 6. Learning Goals(学修の到達目標) : By the end of this course, students will be able to
 1. acquire fundamental skills of philological study through with reading of the Brāhmaṇa.
 2. achieve essential knowledge to understand the origin of religion, culture, and language in India.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)
 - 2 - 1 5 Chandogya-Upanisad VI.
 8. 成績評価方法：

授業への準備状況 (30%), 授業で示される理解度 (70%)
 9. 教科書および参考書：

Upanishad : one hundred & eight Upanishads: (Īśā & others) : with various readings. Edited by Wāsudev Lakṣmaṇ Sāhstrī Paṇśīkar. Bombay: Nirnaya-Sagar Press, 1925[第 3 版]; Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morpholo
 10. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度のスピードで読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。
- Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. They are also required to make a tho
- 1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 - 1 2. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。
Knowledge of essential Sanskrit Grammar is prerequisite.

科目名：英文学・英語学論文作成法特論 I / Academic Writing in English Literature and Linguistics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：TINK JAMES MICHA

コード：LM14205, 科目ナンバリング：LGH-LIT616E, 使用言語：英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Academic Writing in English for Graduate Students
2. Course Title (授業題目)：大学院生のための英語によるアカデミック・ライティング
3. 授業の目的と概要：This course is intended to help graduate students develop the skills necessary for successfully writing academic assignments in English. Over the course of the semester, students will review and practice the necessary stages for preparing, drafting and ed
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：このコースは、大学院生がアカデミックな課題を英語でうまく書くために必要なスキルを身につけることを目的としている。学期中、学生は2本のエッセイを書くことで、学術論文の準備、草稿作成、編集に必要な段階を確認し、練習する。各週の授業では、ブレーンストーミング、アウトライン作成、推敲、文体の練習など、ライティング課題に必要な特定のスキルやストラテジーを確認する。また、MLA スタイル、必要であればAPA スタイルを用いた引用のスキルも学びます。
5. 学習の到達目標：By the end of the course students should acquire learning goals: (1) to prepare and write a short essay in English (Introduction-Body-Conclusion format); (2) To understand scholarly citation and reference skills; (3) To improve skills in academic vocabula
6. Learning Goals(学修の到達目標)：コース終了時には、以下の学習目標を達成する：(1)英語で小論文を準備し、書くことができる(序論-本文-結論の形式) (2)学術的な引用と参照のスキルを理解する (3)学術的な語彙とスタイルのスキルを向上させる。
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 Introduction
 - 2: Weekly stages for preparing, writing and editing writing assignment one {all classes included writing exercises}
 - 3: Assignment one (continued)
 - 4: Assignment one (continued)
 - 5: Assignment one (continued)
 - 6: Writing skills: denotation and connotation
 - 7: Writing skills : formal and informal style
 - 8: Writing skills: quotations and citations
 - 9: Writing skills: references
 - 10: Assignment two
 - 11: Assignment two (continued)
 - 12: Assignment two (continued)
 - 13: Assignment two (continued)
 - 14: Assignment two (continued)
 - 15: Conclusion
8. 成績評価方法：

Essay one 20% Essay two 40% Shorter writing exercises (40%)
9. 教科書および参考書：

Kirszner & Mandell, The Pocket Cengage Handbook. 7th Edition (Cengage, 2017)
10. 授業時間外学習：First Essay
Second Essay
Writing assignments to Google Classroom
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

This class will be taught in English.

The exact schedule of the semester may change to reflect the size of the class and the academic interests of the students.

科目名：中国語文化論研究演習 I / Chinese Culture (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：張 佩茹

コード：LM14206, 科目ナンバリング：LGH-PHI617J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代中国語文法研究

2. Course Title (授業題目)：Modern Mandarin Chinese Linguistics

3. 授業の目的と概要：中国語で書かれた現代中国語文法を扱った論文を精読し、中国語を読む能力と現代中国語に関する文法問題を考える能力の養成を目的とする。また、論文に関連する文法現象のなかで、受講生が各自テーマを絞って、最後にレポートとしてまとめる。全体を通して、現代中国語文法に関する知識を深め、基本的な研究手法を習得する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to improve students' ability in reading Chinese and approaching linguistic research questions about modern Mandarin Chinese. Also, students are required to find a certain topic related to the articles we read in class and write a report accordingly in the end of the semester. In the end of this course, students will gain knowledge about modern Chinese linguistics and learn how to apply some of the basic research techniques when writing a report.

5. 学習の到達目標：①現代中国語文法における重要な概念を理解し、説明することができる。

②現代中国語文法に関する問題点を発掘する力を身につける。

③関心のあるテーマについて学術的なレポートを作成する力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：①Students will understand the essential concepts in modern Mandarin Chinese linguistics and know how to explain them appropriately.

②Students will develop the ability to notice possible research questions about modern Mandarin Chinese.

③Students will ac

7. 授業の内容・方法と進度予定：

<授業内容・方法>輪読形式で進める。

<進度予定>

第1回 ガイダンス

第2回 研究論文1 (1)

第3回 研究論文1 (2)

第4回 研究論文1 (3)

第5回 研究論文1 (4)

第6回 研究論文2 (1)

第7回 研究論文2 (2)

第8回 研究論文2 (3)

第9回 研究論文2 (4)

第10回 研究論文3 (1)

第11回 研究論文3 (2)

第12回 研究論文3 (3)

第13回 研究論文3 (4)

第14回 研究論文3 (5)

第15回 期末まとめ

8. 成績評価方法：

授業への取り組み、授業内発表：50%

期末レポート：50%

9. 教科書および参考書：

<教科書>プリントを配布する。

<参考書>『文法講義』朱德熙 著、杉村博文・木村英樹 訳、白帝社、1995 年

10. 授業時間外学習：予習：事前にテキストの指定箇所を読んだうえ、和訳を考え、さらに問題点を整理する。

復習：テキストや関連資料を読み返し、正確に理解できたかを確認する。興味関心のある文法現象について考える。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：英語学研究演習Ⅲ／ English Linguistics (Advanced Seminar) III

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：中村 太一

コード：LM14207, 科目ナンバリング：LGH-LIN613J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：統語論と意味論における諸問題研究 I

2. Course Title (授業題目)：Topics in Syntax-Semantics Interface I

3. 授業の目的と概要：生成文法理による統語論・意味論のインターフェイスに関わる研究をとりあげ、研究動向を把握し、今後の理論進展の方向を探る。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course will address issues on the Syntax-Semantics interface phenomena and aims to provide useful information for future research.

5. 学習の到達目標：生成文法理による統語論・意味論のインターフェイスに関わる研究の動向を把握するとともに、今後の研究に活用する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand current issues on the Syntax-Semantics interface phenomena, and use the information obtained from this course well for future research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は、担当教員による講義、学生の発表、ディスカッションにより構成される。内容およびスケジュールは次の通りである。

1. ガイダンス

2. Ellipsis and identity (1.1-1.4)

3. VPE and contrast (1.5-1.8)

4. Ellipsis parallelism and L-triviality (2.1-2.3)

5. Further data (1) (2.4.1-2.4.2)

6. Further data (2) (2.4.3-2.4.4)

7. Intentionality and contrast (2.5-2.6)

8. Symmetry (3.1-3.2)

9. Syntax and non-identity (3.3)

10. Semantic Parallelism (3.4)

11. Semantic Identity in participant switching VPE (1) (3.5.1-3.5.3)

12. Semantic Identity in participant switching VPE (2) (3.5.4-3.5.5)

13. Transitivity switching and semantic identity (1) (3.6.1)

14. Transitivity switching and semantic identity (2) (3.6.2)

15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業における発表 (30%), 期末レポート (70%)

9. 教科書および参考書：

テキスト/textbook：

Stockwell, Richard (2020) Contrast and Verb Phrase Ellipsis: Triviality, Symmetry, and Competition, Doctoral dissertation, University of California, Los Angeles.

参考書/reference book：

原口庄輔・中村捷・金子義明 (編) 『増補版 チョムスキー理論辞典』 研究社

10. 授業時間外学習：予習を十分に行う (2時間)。授業後は論点をまとめるとともに、自分の研究テーマとの関連性について検討を行う (2時間)。

Students are required to read the assigned part of the textbook for each class. They are also required to review each class by summarizing the main points, focusing on their relevance to their ow

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：応用死生学研究実習Ⅲ／ Practical Studies on Death & Life (Advanced Field Experience)

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：高橋 原、井川 裕寛、谷山 洋三

コード：LM14208, 科目ナンバリング：LGH-RES619J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：スピリチュアルケア実習内容の指導(振り返り)
2. Course Title (授業題目)：Supervision for the Field Experience of Spiritual Care
3. 授業の目的と概要：応用死生学研究実習Ⅰの実習での経験に基づいて、グループワークを通して、傾聴の姿勢・態度、言語的・非言語的コミュニケーション能力、ケア対象者理解について自己検証・内省する。自己検証・内省を継続することにより、実践力を養う。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Each Student reflects and evaluates his/her own listening attitudes, verbal and non-verbal communication skills, and understanding of the clients through group sessions, based on the field experience in Practical Studies on Death & Life I. They improve practical skills by continuing self-evaluation and reflection.
5. 学習の到達目標：実習での経験に基づいてスピリチュアルケア提供者としてのアイデンティティ確立を目指す。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Each student establishes his/her own identity as a spiritual care provider based on field experiences.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
対面授業のみ
第1回：実習先オリエンテーション
第2回：ケア倫理オリエンテーション
第3回：学習契約
第4回：傾聴の姿勢・態度
第5回：感情のキャッチボール
第6回：ロールプレイ(1)傾聴の姿勢・態度の確認
第7回：会話記録検討(1)感情表現
第8回：会話記録検討(2)言語的コミュニケーション
第9回：会話記録検討(3)非言語的コミュニケーション
第10回：総合ディスカッション
第11回：会話記録検討(4)ケア対象者理解
第12回：会話記録検討(5)ケア提供者の自己覚知
第13回：会話記録検討(6)感情表現によるケア
第14回：ロールプレイ(2)傾聴の姿勢・態度の変化確認
第15回：まとめ・自己評価
8. 成績評価方法：
レポート[20%]、自己課題の明確化[40%]、実習内容の評価[40%]
9. 教科書および参考書：
教科書：窪寺俊之ほか編著『スピリチュアルケアを語る 第三集 臨床的教育法の試み』関西学院大学出版会、2010年
参考書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年
瀧口俊子・大村哲夫ほか編著『共に生きるスピリチュアルケア』創元社、2021年
10. 授業時間外学習：授業内で指示する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
この授業の履修には、高度な日本語運用能力が不可欠です。履修者は死生学・実践宗教学専攻分野の大学院生に限る。併せて、応用死生学研究実習Ⅰ、死生学特論Ⅰ(高橋原)、実践宗教学 特論Ⅰ(谷山洋三)、人文社会科学総合(前期、高橋原)を履修すること。

科目名：実験言語学特論 I / Experimental Linguistics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：木山 幸子

コード：LM14209, 科目ナンバリング：LIH-LIN608J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：コーパスを活用した定量的言語研究法

2. Course Title (授業題目) : Quantitative research methods of language utilizing corpora

3. 授業の目的と概要：テキストの集積であるコーパスは、言語学やその関連領域の研究に様々な形で活かされています。本授業では、まず前半でコーパスを利用した研究の可能性を把握した上で、定量的研究をする上での基本的事項や処理・分析法を学びます。後半では、コーパスを利用した実際の定量的研究事例を深く理解し、受講生自身のことばに関する関心事をコーパスによって確かめる作業を行います。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Corpora, collections of language resources, are utilized in many different ways in linguistics or the related disciplines. In this course, students will first overview the possibilities of corpus studies, and then learn how to extract, process, and analyzed the data. In the latter half of the course, they will explore actual quantitative studies using corpora in depth, and experience the process of corpus linguistics to examine their own interests about language.

5. 学習の到達目標：コーパス言語学の歴史と可能性を理解する。実際にコーパス研究を体験し、言語の科学的研究の方法論を習得し、学位論文研究を主体的におこなうための素地を身に着ける。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students are expected to understand the history and possibilities of corpus linguistics. They will experience the process of corpus research, with which they learn the scientific research methodology of language. This experience will be beneficial for stu

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の内容を予定している：

- (1) ガイダンス (教員)
- (2) 多様な言語資源、コーパスの概要① (教員)
- (3) 多様な言語資源、コーパスの概要② (教員)
- (4) コーパスを活用した研究紹介 (ゲスト①)
- (5) コーパスを活用した研究紹介 (ゲスト②)
- (6) コーパスを活用した研究紹介 (教員)
- (7) コーパスデータの検索・分析法 (教員)
- (8) コーパス研究プロジェクト立案① (受講生)
- (9) コーパス研究プロジェクト立案② (受講生)
- (10) コーパス研究プロジェクト課題設定① (受講生)
- (11) コーパス研究プロジェクト課題設定② (受講生)
- (12) コーパス研究プロジェクト分析① (受講生)
- (13) コーパス研究プロジェクト分析② (受講生)
- (14) コーパス研究プロジェクト分析③ (受講生)
- (15) 最終成果プレゼンテーション (受講生)

8. 成績評価方法：

期末レポート (50%)、発表分担 (30%)、毎回授業の最後に課すワークシート (20%) によって評価する。

9. 教科書および参考書：

指定しない。講読する文献を配布する。

10. 授業時間外学習：受講者全員に発表を担当し、共同プロジェクトを進めてもらうので、自分の分担作業は責任をもって着実に行うこと (その自信がない場合は受講しないこと)。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：哲学研究演習Ⅳ／ Philosophy(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LM14210, 科目ナンバリング：LIH-PHI631J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カントの目的論

2. Course Title (授業題目)：Kant's Teleology

3. 授業の目的と概要：カントの『判断力批判』(1790)の第2部「目的論的判断力の批判」は、『純粹理性批判』と『実践理性批判』とのあいだに広がる自然と自由との断絶を架橋し、批判哲学に体系的連関を与える雄篇である。そこで展開されるカントの目的論の哲学は、こんにちなお、生物学の哲学的基礎づけにとどまらず、自然における人間の生の位置と意味について、豊かな示唆を与えてくれる。

演習では「目的論的判断力の批判」の分析論から弁証論、さらに時間が許せば付録までを、邦訳をもとに読みすすめる。各回、担当者による読解の報告をふまえて、カント

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Close reading and philosophical analysis of "Critique of the Teleological Power of Judgment" in Kant's Critique of the Power of Judgment.

5. 学習の到達目標：『判断力批判』を読みといて、カントの目的論の概要を把握する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand an outline of Kantian teleology on the basis of reading the third Critique.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 カント『判断力批判』第2部「目的論的判断力の批判」への導入

第2～7回 第1編 目的論的判断力の分析論

第8～11回 第2編 目的論的判断力の弁証論

第12～14回 付録 目的論的判断力の方法論

第15回 総括と討論

8. 成績評価方法：

討議、担当回の報告、期末レポートによる。

9. 教科書および参考書：

カント『判断力批判(下)』中山元訳、光文社、2023年。(教科書として生協に指定してあります。)

10. 授業時間外学習：事前にテキストを読み、演習に参加して、事後に再読する。その過程を反復することが、哲学的な読解と咀嚼を深める近道です。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：文化財科学研究演習Ⅲ／ Science of Cultural Properties(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：千葉 正利. 吉野 武

コード：LM98813, 科目ナンバリング：LJS-CUM605J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化財科学研究史 (1)

2. Course Title (授業題目)：Advanced Seminar of Cultural Property Protection Studies

3. 授業の目的と概要：この講義では、明治時代以来の文化財科学研究の歴史に伴って培われた文化財保護の始まりと、文化財保護法の施行による発展について理解する。日本では、1960年代の高度経済成長に伴う大規模開発によって埋蔵文化財行政が成熟し、文化財保護と活用の各分野が発展した。本講義では、受講者は文化財保護研究に対する独自の考えをもち、講義で発表を行う。また、相互の討論を通して、より深く研究の現状を認識する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will understand history of cultural property scientific studies in Japan since Meiji era and effective functioning after operation of cultural property protection law. Then, buried cultural property polity matures by numerous excavations with large-scale development with high economic growth in 1960s. Each field of the preservation/utilization of cultural properties also developed.

In this course, students will establish their own idea about cultural property protection study. In every class, a student prepare presentation papers, and students discuss on each issue for deeper understanding.

5. 学習の到達目標：(1) 文化財保護と活用の研究史を把握する。(2) 科学的手法を取り入れた文化財の保護と活用について理解し、各自の研究テーマの課題を理解できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students understand (1) history and epoch of cultural property protection/utilization studies in Japan, and (2) problems and the present condition according to their own theme.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

毎回、生徒が自分のテーマに沿った資料を用いて発表をおこない、最後にディスカッションをおこなう。講義の内容とスケジュールは以下の通りである。

1. 講義ガイダンス
2. 発表と議論
3. 発表と議論
4. 発表と議論
5. 発表と議論
6. 発表と議論
7. 発表と議論
8. 発表と議論
9. 発表と議論
10. 発表と議論
11. 発表と議論
12. 発表と議論
13. 発表と議論
14. 発表と議論
15. 発表と議論

8. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%]

(○) その他 (具体的には、発表と討論) [40%]

9. 教科書および参考書：

教室にて指示、プリントを配布。

10. 授業時間外学習：発表内容は、時間外に各自がまとめる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

研究演習Ⅲ、Ⅳを通年で連続履修することが望ましい。

科目名：心理学特論Ⅱ／ Psychology(Advanced Lecture) II

曜日・講時：前期 木曜日 3講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：戴 伸峰

コード：LM14301, 科目ナンバリング：LIH-PSY618J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：犯罪心理学：日本と台湾の比較

2. Course Title (授業題目)：Criminal Psychology: the Comparison between Japan and Taiwan

3. 授業の目的と概要：犯罪心理学は犯罪および犯罪者について研究する心理学の一分野である。犯行当時の心理状態、犯罪者の性格、罪を犯す発達の経緯などをはじめ、証言の心理などを研究する裁判心理学や、犯罪者の矯正・更生・犯罪予防を目的とする矯正心理学を含むことである。本講義では、犯罪心理学の紹介をはじめに、心理学の観点から犯罪現象や事例を分析することから成る。また、担任講師は台湾籍であり、日本と台湾の犯罪心理学の歴史と現状を紹介し、それぞれの特徴を比較し、そして、日本の刑事司法システムが台湾に及ぼす影響を紹介することは講義の目的で

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Criminal Psychology is the empirical research field of criminal behaviors, law system, rehabilitation, imprisonment, judgement, and so on. This course introduces criminal psychology and analyze criminal cases from the psychological point of view. Also according to the teacher of this course is from Taiwan, so we introduce the comparison of criminal psychology and the Justice system between Japan and Taiwan.

5. 学習の到達目標：犯罪心理学の観点から、犯罪事情や事例を分析し、実証的な観点から犯罪と刑事司法システムを理解する力を育成することである。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The main goal of this course is to develop students' abilities and knowledge of criminal psychology. And by using the empirical criminal cases of Japan and Taiwan, we develop students' comparison view point of different culture issues.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は基本的には Google Meet によるオンライン遠隔授業中心のハイブリッド方式で実施する。なお、授業資料と授業情報については Classroom を使用して発信する。

内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. 現代日本の犯罪動向
2. 現代台湾の犯罪動向
3. 日本統治時代が台湾の犯罪や法律に及ぼす影響
4. 犯罪原因の科学的研究 1
5. 犯罪原因の科学的研究 2
6. 犯罪の社会的要因 1
7. 犯罪の社会的要因 2
8. 犯罪の社会的要因 3
9. 犯罪の個人的要因 1
10. 犯罪の個人的要因 2
11. 犯罪の発達の要因 1
12. 犯罪の発達の要因 2
13. 犯罪原因の統合的理解 1
14. 犯罪原因の統合的理解 2
15. まとめとレポート提出

8. 成績評価方法：

犯罪心理学（事例の分析、実証研究の結果、講義に関する心得など）に関する期末レポート（60%）、出席（40%）

9. 教科書および参考書：

参考用の教科書：犯罪心理学—犯罪の原因をどこに求めるか 大淵憲一 培風館

10. 授業時間外学習：犯罪事情や事例に積極的に関心を持つこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本語・日本文化論特論Ⅰ／Studies of Japanese Culture(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：前期 木曜日 4講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：KOPYLOVA OLGA

コード：LM14401, 科目ナンバリング：LAL-0AR518J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Studies of Japanese Popular Culture (Advanced Lecture)Ⅰ /日本文化論特論Ⅰ
2. Course Title (授業題目)：Studies of Japanese Popular Culture (Advanced Lecture)Ⅰ /日本文化論特論Ⅰ
3. 授業の目的と概要：This course focuses on the history of popular culture in modern and contemporary Japan (from Edo to the early 2000s): its main media forms, genres, and practices. It aims to describe multiple phenomena that have shaped cultural production and consumption

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：本授業は江戸時代初期から2000年代までの期間に焦点を絞り、日本のポピュラー・カルチャーの進展を辿っている。日本における創造生産の特徴、人気のあるコンテンツの種類及び典型的な消費パターンを紹介し、それを形成した要素を学生に考察させる。それによって日本のポピュラー・カルチャーの概要だけでなく、大衆文化の根本的な原理の理解が成立することが期待される。さらに、皆さんが講義と課題によって日本のポピュラー・カルチャーをめぐる研究と接触し、これから自分の研究において活用できる観点や考え方を見つけたらありがたいと思う。

5. 学習の到達目標：——江戸時代初期から2000年代にかけての日本の大衆文化の全貌を把握する。
——各々のメディア、ジャンル、また創造産業の登場と展開を裏付ける歴史的状況、技術、そして社会の相互作用を理解する。
——日本におけるメディアや消費活動などの特徴についての知識を活用し、世界中の大衆文化における傾向、また消費者と生産者の関係などを分析できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of the course, students should be able to:

- 1) Describe the overall history of popular culture in Japan from the Edo period to the early 2000s.
- 2) Explain how historical circumstances, technological developments, and social changes came to get

7. 授業の内容・方法と進度予定：

The course will be conducted in English, however supplementary reading may include materials in Japanese.

1. Proto-popular culture in Edo period I: Life and entertainment in cities and in the countryside
2. Proto-popular culture in Edo period II: Life and entertainment in cities and in the countryside
3. Proto-popular culture in Edo period II: Play and liminal spaces, traveling
4. Proto-popular culture in Edo period IV: Yōkai and hayarigami
5. Yōkai in the 20th century: from documented folklore to urban legends
6. The Taishō period I: Urbanization, westernization, new media
7. The Taishō period II: Entertainment in print, shōjo culture, and Takarazuka Revue
8. The Taishō period III: Early Japanese cinema; media and censorship
9. WWII aftermath: Japan during and after the occupation
10. The tumultuous 60s and new forms of entertainment
11. The affluent 70s: The arrival of kawaii culture
12. Many faces of 'kyara': yurukyara
13. Early history of game centers and video games in Japan
14. Mass media and scandal in Japan
15. Idols, celebrities, and promotional agencies

(講義構成は変更することがあります)

(the lecture content may be subject to change)

8. 成績評価方法：

成績評価は、次の方法と割合で行う：出席(20%)、課題(70%)、および授業への貢献を加味する(10%)
課題は重要！

出席=1、遠隔での参加(特別の理由がない限り)=0.5

9. 教科書および参考書：

必要な適宜資料を配布する。

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

10. 授業時間外学習：The course will be conducted in English.

Students are required to read the materials provided to them by the lecturer and complete corresponding assignments before class.

Students are also encouraged to actively draw examples and cases from their own ex

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

使用言語は_英語_です。

科目名：美学研究演習Ⅰ／Aesthetics(Advanced SeminarⅠ)

曜日・講時：前期 木曜日 5講時

セメスター：単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZ

コード：LM14501，科目ナンバリング：LIH-ART614J，使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「笑」の問題。滑稽とアイロニーの美学
 2. Course Title (授業題目)：The problem of Laughter. Aesthetics of Comic and Irony
 3. 授業の目的と概要：西洋美術史・美学史においては、「美」と「崇高」とらべれば、「滑稽」(コミック)と笑いはあまり高く評価されていなかった。しかし、「笑」と「美」はどのような関係をもっているのかという問題は、意外に深いです。色々な資料を参照しながら、学生の日常的な笑いの体験を出発点とし、笑い、コミック、アイロニーの美学を探検する。
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In the history of Western Art and Aesthetics, in comparison to the ideals of beauty and sublime, the "comic" and laughter have received very little attention. And yet, the connection between "beauty" and "laughter" can be a surprisingly complex problem. Referring to several materials, and beginning from the daily experience of laughter of the students, we will explore the aesthetics of comic and irony.
 5. 学習の到達目標：滑稽とアイロニーの美的な範疇を理解し、美術鑑賞と日常的なコンテキストでそれを解釈することである。
 6. Learning Goals(学修の到達目標)：To comprehend conceptually the categories of the comic and of irony, and to interpret them both within artistic appreciation and in daily contexts.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 笑いの問題：入門と「笑い日記」
 - 2 笑いの問題 Plessner
 - 3 ベルクソンの笑い論
 - 4 笑いの現象学
 - 5 コミックの範疇
 - 6 Vischer と大西の滑稽論
 - 7 作品としてのカリカチュア： Gombrich
 - 8 コミックな美術：作品分析
 - 9 7 コミックな美術：作品分析
 - 10 アイロニーの美学：古代から
 - 11 ロマンチック派のアイロニー論
 - 12 ポストモダニズムのアイロニー
 - 13 東洋の精神的な笑い：禅と見立て
 - 14 発表
 - 15 発表
 8. 成績評価方法：

レポートと授業中の発表
 9. 教科書および参考書：

全ての資料はpdfで提供される。そのうちには

H. プレスナー「笑い泣きの人間学」

H. ベルクソン「笑い」

大西「美学」(滑稽)
 10. 授業時間外学習：All the materials will be shared in pdf. Among them there will be sections of
- H. Plessner "Laughing and Crying"
- H. Bergson "On laughing"

Onishi "Bigaku" (sections on the comic)

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

科目名：総合人間学総合科目 I / Integrated Human Sciences (Comprehensive Course) I

曜日・講時：前期 金曜日 1 講時

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：木山 幸子

コード：LM15101, 科目ナンバリング：LAL-0AR507J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：感情の総合人間学
2. Course Title (授業題目)：Integral studies in human emotions
3. 授業の目的と概要：総合人間学専攻では、人間と社会に関する抽象的・原理的な考察と、実証的・経験科学的な探求とを有機的に結合することで、合理的で柔軟な思考力によって現実社会の課題を理解・解決することができる人材を育成することを目標としている。この科目は、この目標に向けて、人間の「感情」という共通テーマについて、総合人間学専攻の哲学倫理学講座、芸術人間学講座、社会人間学講座、心理言語人間学講座のさまざまな学問的観点から、学際的かつ総合的に考察するオムニバス講義である。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We shall learn about human emotions through approaches of philosophy, art theory, social sciences, psychology and linguistics. This learning combines theoretical with empirical studies and ultimately aims to provide students with high capacities in dealing with actual issues in contemporary societies.
5. 学習の到達目標：人間の感情をめぐる総合人間学専攻の多様な学問的アプローチを学び、人間の感情について多角的に考察できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To be familiar with a variety of academic approaches to human emotions. To be able to consider human emotions from different perspectives.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この授業はオンライン授業（主としてオンデマンド型遠隔授業）となります。
Classroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。
Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。
オムニバス方式（変更の可能性あり）
 - 1 感情の総合人間学——導入
 - 2 感情の哲学倫理的考察 (1)
 - 3 感情の哲学倫理的考察 (2)
 - 4 道徳にとって感情とは何か
 - 5 心理学における感情研究史
 - 6 感情の脳科学
 - 7 美術と感情 (1)
 - 8 美術と感情 (2)
 - 9 美術と感情 (3)
 - 10 感情の社会学 (1)
 - 11 感情の社会学 (2)
 - 12 集団間関係と感情の計量行動科学
 - 13 社会イメージと感情の計量行動科学
 - 14 言語が伝える感情
 - 15 感情の総合人間学——総括と展望
8. 成績評価方法：
 - (i) 毎回の授業で求めるミニッツペーパーの提出 60%。
 - (ii) ミニッツペーパーの内容評価 40%。
 - (iii) 上記(i)と(ii)を加算の上、総合的に評価する。詳細については初回のガイダンスで説明するため、必ず出席すること。
9. 教科書および参考書：
授業中に指定する（プリント配布など）。
10. 授業時間外学習：授業の内容について復習し、ミニッツペーパーの提出に向けて学習する。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：
2024年度の授業とりまとめ役は木山幸子です。メールアドレスは skiyama@tohoku.ac.jp です (*は@)

科目名：日本近世・近代史特論 I / Early Modern and Modern History in Japan (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LM15201, 科目ナンバリング：LJS-HIS603J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世社会の研究

2. Course Title (授業題目) : Research in Early Modern Society

3. 授業の目的と概要：日本近世史における代表的ないしは最新の論文を読み、理解し、それをもとに討論する。受講者は指定された論文を事前に読み、順番にレポーターとして要旨等を紹介し、討論に参加する。受講に際しては議論への積極的な参加を求めることになる。必要に応じ、学外の見学なども実施する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, students can deepen their understanding of early modern Japanese society. Students are required to read the designated essays for each class. Positive participation in classes is expected.

5. 学習の到達目標：(1) 近世史の論文を読むことを通じて、日本近世史への理解を深める。

(2) 報告、討論の方法を身につけ、自ら論文を執筆する基礎を養成する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : This is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identify a research issue.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

本講義は対面で実施するが、場合によりオンライン受講を認める。

1. ガイダンス
2. 受講者による報告と討論(1)
3. 受講者による報告と討論(2)
4. 受講者による報告と討論(3)
5. 受講者による報告と討論(4)
6. 受講者による報告と討論(5)
7. 受講者による報告と討論(6)
8. 受講者による報告と討論(7)
9. 受講者による報告と討論(8)
10. 受講者による報告と討論(9)
11. 受講者による報告と討論(10)
12. 受講者による報告と討論(11)
13. 受講者による報告と討論(12)
14. 受講者による報告と討論(13)
15. 全体のまとめ

8. 成績評価方法：

(○) 出席 [20%] (○) レポート [40%] (○) その他 (報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]

9. 教科書および参考書：

講義中に指示する。

10. 授業時間外学習：予習として、該当する論文を精読し、あわせて関連する論文を収集・読解し、当該論文の持つ研究史的意義について考察を加える。復習として、講義内容を踏まえつつ当該論文を再読し、習熟に努める。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)

科目名：現代日本学学芸分析研究演習 I / Japanese Studies Liberal Arts (Research Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：雲然 祥子

コード：LM15202, 科目ナンバリング：LJS-0HS609J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：人物史から考える日本の近代・現代
2. Course Title (授業題目)：A Study of Modern Japanese History and Social Situation from the Perspective of a Life of a Person
3. 授業の目的と概要：人が生きた背景には、歴史と時代情勢の変化がある。この授業では、受講生の興味・関心のある人物を 1 人取り上げ、その生涯や業績をたどる作業を行うことで、近代・現代の日本の歴史や社会情勢などを学ぶことを目的としている。
それらの作業によって、その人物が生きた時代に何が起こっていたのか、それがどのような影響を与えたのかなどを文献や史資料を利用しながら考える。そして、今日の国内外における諸問題を考える手がかりをつかむ。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：When discussing and understanding Japanese history and social situation, one must always take into account the relevant background. In this course, the purpose is to study and understand about the history and social situation of modern Japan, with the case of a person's life (history and activities).
5. 学習の到達目標：歴史的な知識および思考力・表現力を身につける。
様々な史資料の分析・読解を通して、当時の社会情勢を理解できる。
現実社会における課題を発見し、それに対して自らの意見を持ち、適切な言葉で整理できる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To acquire historical knowledge, thinking and express ability.
To understand the social situation by analyzing and reading various historical materials.
To discover issues in modern society and organize opinions in appropriate words.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第 1 回 ガイダンス
 - 第 2 回 課題の設定・先行研究の調査・注意事項
 - 第 3 回 ケーススタディ (事例報告①)
 - 第 4 回 受講生による発表
 - 第 5 回 受講生による報告・議論①
 - 第 6 回 受講生による報告・議論②
 - 第 7 回 受講生による報告・議論③
 - 第 8 回 受講生による報告・議論④
 - 第 9 回 ケース・スタディ (事例報告②)
 - 第 10 回 受講生による報告・議論⑤
 - 第 11 回 受講生による報告・議論⑥
 - 第 12 回 受講生による報告・議論⑦
 - 第 13 回 受講生による報告・議論⑧
 - 第 14 回 これまでの報告・議論のまとめ
 - 第 15 回 授業のまとめ・期末レポート作成に向けて
8. 成績評価方法：
演習中の課題 (20%)、報告・討論 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。各自でレジュメを作成し、それに基づいた報告を行うこととする。
参考書については、授業の中で適宜紹介する。
10. 授業時間外学習：史資料・文献などを利用し、授業で学んだことをふまえて、報告者の研究テーマに関する史実や当時の社会情勢などを事前に学習しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：宗教学死生学研究演習 I / Religious Studies / Death & Life Studies (Advanced Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：谷山 洋三, 問芝 志保, 高橋 原, 木村 敏明

コード：LM15203, 科目ナンバリング：LGH-RES606J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教学死生学文献読解
2. Course Title (授業題目)：Reading of Religious Studies / Death & Life Studies Literature
3. 授業の目的と概要：宗教学・死生学分野における専門的研究のためには、やりたい研究の先行研究にあたる文献・論文を見つけ、読み、整理して、そこに自分の研究を位置づける作業が不可欠である。この授業では、文献一覧の作成および文献内容紹介の発表を通して、研究者として必要な先行研究整理のスキルを身につけることを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：For professional research in the field of religious studies and death & life studies, it is essential to find, read and organize the literature and articles that precede the research one wishes to do and situate one's own research in them. The purpose of this class is to acquire the skills necessary for researchers to organize previous research through the preparation of a bibliography and presentation of the contents of the literature and articles.
5. 学習の到達目標：先行研究の見つけ方、まとめ方がわかる
自分の研究を先行研究の中に位置づけることができる
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Know how to find and summarize previous research
Able to situate their research within prior research
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 - 2～15. 文献リストおよび文献の内容に関する報告と議論
8. 成績評価方法：
発表と議論への参加
9. 教科書および参考書：
必要資料は授業中に配布する
10. 授業時間外学習：文献リストの作成および発表準備
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：中国語学中国文学研究演習 I / Chinese Language and Literature(Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：矢田 尚子

コード：LM15204, 科目ナンバリング：LGH-LIT606B, 使用言語：2 カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：楚辞文学研究

2. Course Title (授業題目) : Literary Study of Chu Ci

3. 授業の目的と概要：【目的】古典詩文の基礎的・伝統的な読解方法、テキストの校勘方法など、中国古典文学を研究していく上で必要なスキルを習得することを目的とします。

【概要】中国詩歌文学の源流の一つである韻文学作品集『楚辞』の代表的な作品である「離騷」を読解します。授業は、受講者の発表と質疑応答を中心に進めていきます。担当者は、テキストおよび関係資料を精査してレジュメを作成し、それをもとに口頭で発表をおこないます。担当者以外の受講者は、レジュメや口頭発表の内容につ

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : 【Course Objectives】 This course aims to improve the students' ability to read texts of Chinese classical writings in a basic and traditional way, and to collate texts, which are necessary to study classical Chinese literature.

【Course Synopsis】 Chu Ci is an anthology of Chinese poetry, which is one of the origins of Chinese verse literature. In this course, we interpret Li sao, a representative piece of Chu Ci. The course is centered on students' presentations and question and answer sessions. In every class, presenters are required to prepare handout for the assigned part of the text, and other students are required to ask questions on and to comment on the presentation. Through discussions, students will reach deeper understanding of the text.

5. 学習の到達目標：①中国古典詩文を読む際に必要な基礎的な事柄を理解する。

②わかりやすいレジュメを作成し、内容が的確に伝わるように口頭で説明することができる。

③レジュメや発表の内容を理解して問題点を明確にし、積極的に質問や意見を出すことができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : ①Students will be able to understand the basic issues necessary to read Chinese classical texts.

②Students will be able to make intelligible handout for their presentations, and to explain the contents precisely.

③Students will be able to clarify problem

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 『楚辞』について(1)

3. 『楚辞』について(2)

4. 『楚辞』「離騷」の読解(1)

5. 『楚辞』「離騷」の読解(2)

6. 『楚辞』「離騷」の読解(3)

7. 『楚辞』「離騷」の読解(4)

8. 『楚辞』「離騷」の読解(5)

9. 『楚辞』「離騷」の読解(6)

10. 『楚辞』「離騷」の読解(7)

11. 『楚辞』「離騷」の読解(8)

12. 『楚辞』「離騷」の読解(9)

13. 『楚辞』「離騷」の読解(10)

14. 『楚辞』「離騷」の読解(11)

15. 『楚辞』「離騷」の読解(12)

8. 成績評価方法：

授業参加態度 50%、発表内容 50%

9. 教科書および参考書：

教材は授業開始時に配布する。

Materials will be handed out at the beginning of the course.

10. 授業時間外学習：予習：担当者は、テキストの担当箇所および関連書籍を精査してレジュメを作成するとともに、質疑応答に備えること。担当者以外の受講者は、テキストとレジュメを熟読し、関連書籍にも目を通して、問題点を発見すること。

Preparation: Presenters are required to read the assigned part of the text

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：言語学特論 I / Linguistics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：加藤 万紀子

コード：LM15205, 科目ナンバリング：LIH-LIN601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：外国語教育実証研究法

2. Course Title (授業題目) : Empirical Research Methods in Foreign Language Education

3. 授業の目的と概要：外国語教育における実証研究は、研究デザインから分析結果の報告に至るまで科学的な手法に沿って行われます。そして実証研究論文では、実験方法、実験参加者、実験手続きなどの詳細を研究結果とともに詳しく報告する必要があります。この授業では、外国語教員を目指す学生だけでなく言語学分野における実証研究を行うことを予定している学生を対象に、実証研究を行う上での基本的な知識を習得した上で、研究デザインの作成、データの分析、結果の報告のし方を学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Empirical research in foreign language education follows scientific methods, from research design to data collection, to reporting the results of the analysis. When producing an empirical research paper, the researcher should elaborate the rationale, the methodology including instrumentation, sampling, data collection, and data analysis. In this course, students who plan to conduct empirical research in the field of linguistics as well as students aiming to become foreign language teachers will learn how to design the research, analyze data, and report the results after acquiring basic knowledge for conducting empirical research.

5. 学習の到達目標：1) 研究課題を設定することができる。

2) 研究デザインを作成することができる。

3) 研究課題を解決するためのデータ収集と分析方法を決めることができる。

4) 適切な方法で分析結果を報告することができる

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students will be able to...

1) choose a research topic and form research question(s).

2) design their own research.

3) decide the ways of data collection and data analysis for research.

4) report the results of the analyses.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回目：オリエンテーション

第2回目：研究テーマの見つけ方、研究課題の設定の仕方

第3回目：実証研究の種類と研究デザイン・アプローチの種類

第4回目：データ収集の方法

第5回目：質的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（1）

第6回目：質的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（2）

第7回目：質的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（3）

第8回目：質的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（4）

第9回目：量的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（1）

第10回目：量的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（2）

第11回目：量的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（3）

第12回目：量的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（4）

第13回目：混合研究法の紹介とデータ収集・分析の方法

第14回目：研究デザイン作成の方法

第15回目：分析結果の報告方法

8. 成績評価方法：

・小テスト（30 %）2 回目から 15 回目の授業で毎回行います。

・リアクションペーパー（20 %）毎回の授業で行います。

・授業参加（20%）授業でのディスカッションや練習に積極的に参加して下さい。

・研究デザイン（30 %）詳細な研究デザインを作成し、学期の最後に提出をしてもらいます。

9. 教科書および参考書：

授業で資料を配布します。(Materials will be distributed in the class.)

推薦図書は授業で紹介します。(Recommended books will be introduced in the class.)

10. 授業時間外学習：授業で配布する資料や文献を読み、自分なりの考えを発表できるようにする。興味のある研究テーマを見つける。

(Read the materials and literature to be distributed in the class, and present students' thoughts. Find a research theme they are interested in.)

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

科目名：倫理学研究演習Ⅲ／ Ethics (Advanced Seminar III)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター： 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LM15206, 科目ナンバリング：LIH-PHI626J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：論証で辿る西洋倫理学史

2. Course Title (授業題目)：History of Western Ethics through Arguments

3. 授業の目的と概要：倫理学の醍醐味の一つは、道徳や幸福についてたんに意見を言うことではなく、そうした意見を根拠とともに主張したり、その根拠を吟味したりすることにあります。偉大な倫理学者たちが偉大なのにはさまざまな理由がありますが、その一つは、その人たちがしっかりした議論を作り、常識的な前提から、否定しがたいステップで、とてつもない帰結を引き出したりしたことに求めることができるでしょう。この演習では、プラトン以来の西洋倫理学史を、倫理学者たちのテキストから議論を再構成することを通じて学びます。

最初の数回で論証の再構成の仕方

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this seminar, we will learn the history of Western ethics since Plato through reconstructing arguments from the texts of the great moral philosophers. In the first sessions, we will learn how to reconstruct arguments, and after that we will work on reconstructing arguments from the texts of the great moral philosophers. Assignments are frequent. Active participation is required.

5. 学習の到達目標：西洋倫理学史について一定の知識を身につける。

論証の再構成ができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this seminar is to acquire a certain knowledge of the history of Western ethics and to be able to reconstruct arguments.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

(演習ですので、以下はあくまで予定であり、大いに変更の余地があります。)

第一回：ガイダンス

第二回：論証の再構成のやり方 (テキスト：野矢茂樹『新版 論理トレーニング』第四章)

第三回：論証の再構成のやり方 (テキスト：レイチェルズ「相対主義の挑戦」)

第四回：論証の再構成のやり方 (グーグルドキュメント上でダイアグラムを作る)

第五回：プラトン『ゴルギアス』より、不正を受けるよりもなすほうが悪いこと

第六回：アリストテレス『ニコマコス倫理学』より、幸福が最高の善であること

第七回：アリストテレス『ニコマコス倫理学』より、道徳的完成主義

第八回：トマス・アクィナス『神学大全』より、神の存在証明

第九回：ライプニッツ『理性に基づく自然と恩寵の原理』より、この世界が最善であること

第一〇回：パスカル『パンセ』より、賭けの議論

第十一回：カント『道徳の形而上学の基礎づけ』より、幸福が最高の善ではないこと

第十二回：ミル『功利主義』より、功利原理

第十三回：ムーア『倫理学原理』より、自然主義的誤謬の批判

第十四回：マッキー『倫理学』より、誤謬理論の証明

第十五回：まとめ

8. 成績評価方法：

課題の提出 70%、演習内のパフォーマンス 30%。

9. 教科書および参考書：

必要なものはすべてこちらで用意します。

10. 授業時間外学習：たびたび課題を出しますので、演習前に提出してください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

論証の再構成や論理学を学んだことのない学生向けの注意：最低限の知識は演習内で説明しますが、論証の再構成や論理学について自習したり読書会をしたりすることは演習を受ける上で非常に有益です。教科書としては野矢茂樹『新版 論理トレーニング』(産業図書)やノルト、ロハティ『マグロウヒル大学演習 現代論理学 (I)』(オーム社)をお勧めします。

論証の再構成や論理学を学んだことのある学生向けの注意：この演習での第一の目標は、古典的なテキストから前提／帰結関係を大づかみに取り出すです。そのため、議論の妥当性をチェックし

科目名：社会心理学研究演習Ⅱ／ Social Psychology (Advanced Seminar) II

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

セメスター：単位数：2

担当教員：辻本 昌弘

コード：LM15207, 科目ナンバリング：LIH-PSY615J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：コミュニティと文化

2. Course Title (授業題目)：Community and Culture

3. 授業の目的と概要：この授業では、コミュニティ、文化、社会行動、集合現象などに関する社会心理学の論文を読解する。それぞれの論文でとりあげられている主要な理論を理解するとともに、実際に研究を進める方法論を学ぶことが目的である。毎回、受講生は、課題論文を読み、小レポートを提出する。授業では課題論文の解説をおこなうとともに、小レポートの内容についてフィードバックをおこなう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students explore articles about community and culture. In every class, students are required to submit short reports.

5. 学習の到達目標：1. コミュニティ・文化・社会行動・集合現象にかんする社会心理学関連の理論と研究の方法論を学ぶ。
2. 論文や文献を調べて的確に理解する力を涵養する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students learn about theories and methods of research regarding community and culture.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業とオンライン授業（オンデマンド型）を併用して実施する。

1. 導入：授業の進め方の説明

2. 地域社会と犯罪

3. 文化と発達

4. 移動とアイデンティティ

5. 移動と適応行動

6. 互助集団

7. 抵抗と服従

8. 文化と問題対処行動

9. 社会化過程

10. コミュニティの文化①

11. コミュニティの文化②

12. コミュニティの文化③

13. アクション・リサーチ

14. 事例研究法

15. まとめ

8. 成績評価方法：

毎回提出する小レポートにより評価（100%）

9. 教科書および参考書：

とりあげる論文を授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：とりあげる論文を精密に読解し、小レポートにまとめる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

1回目の授業で、対面授業とオンライン授業（オンデマンド型）の併用について説明します。上に示した授業計画はおおよその予定であり、授業進行に応じて調整をすることがあります。

科目名：計量行動科学研究演習 I / Quantitative Behavioral Science (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：小川 和孝

コード：LM15208, 科目ナンバリング：LIH-OS0607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：応用多変量解析
2. Course Title (授業題目)：Advanced Multivariate Analysis
3. 授業の目的と概要：多変量解析の応用的なトピックに関して、文献講読と実習を通じて理論と実証分析への適用方法について理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course covers advanced topics in multivariate statistical analysis. Students are expected to gain understandings on the theories and empirical applications through literature review and the practice of data analysis.
5. 学習の到達目標：(1) 文献講読と実習を通じて、社会階層と不平等に関する理論と実証分析への基本的な理解を身につける。
(2) 期末レポートの執筆を通じて、自ら注目した事例に対して授業で学んだキーワードを適用し、適切な説明をできるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) To gain basic understandings on the theories and empirical analyses in the field of social stratification and inequality through literature review and the practice of data analysis
(2) To write a term paper that applies keywords on cases that are cho
7. 授業の内容・方法と進度予定：
事前に指定された文献を講読し、予習課題に取り組んだ上で授業に出席することが求められる。授業では初めに予習課題の理解を確認し、解説を適宜行う。授業の後半では関連する論点・事例を取り上げてディスカッションを行う。

【各回の構成】

1. イントロダクション
 2. 回帰分析 (1)
 3. 回帰分析 (2) + 実習
 4. マルチレベル分析 (1)
 5. マルチレベル分析 (2) + 実習
 6. パス解析 (1)
 7. パス解析 (2) + 実習
 8. 因子分析 (1)
 9. 因子分析 (2) + 実習
 10. パネルデータ分析 (1)
 11. パネルデータ分析 (2) + 実習
 12. イベントヒストリー分析 (1)
 13. イベントヒストリー (2) + 実習
 14. 総合演習 (1)
 15. 総合演習 (2)
8. 成績評価方法：
予習課題への取り組み (30%)、授業内での議論への参加および授業後コメントの提出 (30%)、期末レポート (40%)
9. 教科書および参考書：
初回の授業で指定する。
10. 授業時間外学習：指定文献を事前に読み、予習課題に取り組むことが要求される。指定文献に関連した内容について、方法の詳細や適用例について自分で調べることが求められる場合もある。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：
本科目は専門社会調査士カリキュラムの I 科目（「多変量解析に関する演習（実習）科目」）に該当する。
R による統計分析の経験を事前に有することが望ましい。

科目名：東洋古代中世史特論 I / Ancient and Medieval History in Asia (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：渡邊 英幸

コード：LM98824, 科目ナンバリング：LGH-HIS601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古代中国王朝と周辺諸国・諸民族
2. Course Title (授業題目)：The Relationships of Ancient Chinese Dynasties Formed with Neighboring Countries and Peoples
3. 授業の目的と概要：中国王朝は、東アジアの周辺諸国・諸民族との間で「冊封」や「朝貢」といった特殊な秩序を形成し、また国内外に住む多様な民族を統治してきた。この授業の前半では前近代の中国王朝の国際秩序に関する研究史を概観する。後半では秦漢時代に焦点を置き、中国王朝が周辺諸国・諸民族との間で形成した関係を歴史資料に即して具体的に考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In pre-modern East Asia, the Chinese Dynasty established distinctive orders such as the tributary system and the feudal system with neighboring countries, and ruled over ethnic groups in their territories. In the first half of this course, we will review studies on the order of Chinese dynasties in the pre-modern period. In the second half, we will focus on Qin-Han period, specifically examine the relationships that the Chinese dynasties formed with the neighboring countries and peoples.
5. 学習の到達目標：・前近代東アジアの国際秩序に関する基礎的な知識を身につけ、説明できるようになる。
・戦国から秦漢時代の中国王朝が周辺諸国・諸民族との間で形成した関係について、歴史資料に即した形で理解する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purposes of this course are as follows:
 - 1) To acquire basic knowledge about the orders of the Chinese dynasties in pre-modern East Asia, and to be able to explain them in writing.
 - 2) To understand about the relationships formed by the Chinese dynast
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回：(序論) 中国王朝の対外関係と華夷思想、冊封と朝貢・互市
 - 第2回：冊封と東アジア (1)：「冊封体制論」の提唱
 - 第3回：冊封と東アジア (2)：「冊封体制論」の展開
 - 第4回：冊封と東アジア (3)：「冊封体制論」の批判
 - 第5回：朝貢・互市と天朝体制論
 - 第6回：「冊封」と高句麗をめぐる歴史論争
 - 第7回：秦漢時代の「内臣・外臣」構造論
 - 第8回：「内臣・外臣」論への批判と秦代への遡及
 - 第9回：志賀島の「金印」をめぐる
 - 第10回：漢代国家構造論の現在
 - 第11回：睡虎地秦簡からみた秦の秩序 (1)
 - 第12回：睡虎地秦簡からみた秦の秩序 (2)
 - 第13回：戦国・秦漢時代の他国民・異民族の同化と編入
 - 第14回：漢初の諸侯王と「内／外」秩序
 - 第15回：漢初の異民族統治：胡家草場漢簡から
8. 成績評価方法：

コメントシートと平常点 (10%) および最終レポート (90%) を総合して評価する。
9. 教科書および参考書：

教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介する。
10. 授業時間外学習：配布した資料を熟読し、紹介した参考文献を積極的に参照すること。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

なし。

科目名：人文社会科学研究 I / Advanced Study of Humanities and Social Sciences I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：KOPYLOVA OLGA

コード：LM15301, 科目ナンバリング：LAL-0AR511J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：大衆文化・メディミックス・ファンダムをめぐる研究著書の解説と翻訳
2. Course Title (授業題目)：Readings on Popular Culture, Transmedia, and Fandom
3. 授業の目的と概要：本授業では英語圏のファンダムかつメディア研究者の著書を読解し、現代のポピュラー・カルチャーにおける大きな傾向（消費の特徴や生産者と消費者の関係や文化産業の有様等）について学ぶ。また、英語版と日本語版の比較を行い、翻訳の方法や（研究成果を纏める）一般読者向けの英文の書き方を解説する。

本授業で活用する文献：

Henry Jenkins. *Convergence Culture*. New York: NYU Press, 2006. // ヘンリー・ジェンキンズ (著), 渡部宏樹 (翻訳), 北村紗

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to help the students develop their language skills and acquire a better understanding of contemporary popular culture through comparative reading of English texts and their Japanese translations. The reading list consists of general audience publications by English-speaking literary and media scholars; these seminal books introduce trends in the global popular culture, including changing consumption patterns of the audiences as well as strategies and policies adopted by various media and entertainment industries. They also offer some fascinating case studies of transmedia adaptations (ubiquitous in Japan and overseas). Comparative reading will allow students to expand their vocabulary, get acquainted with common translation techniques and patterns, and get used to reading Anglophone publications. For English-speaking students, it is an opportunity to improve their skills in reading and translating Japanese texts.

Reading list:

Henry Jenkins. *Convergence Culture*. New York: NYU Press, 2006. // ヘンリー・ジェンキンズ (著), 渡部宏樹 (翻訳), 北村紗衣 (翻訳), 阿部康人 (翻訳) 『コンヴァージェンス・カルチャー：ファンとメディアがつくる参加型文化』, 晶文社, 2021.

Marc Steinberg. *Anime's Media Mix: Franchising Toys and Characters in Japan*. Minneapolis: University of Minnesota Press, 2012. // マーク・スタインバーグ (著), 大塚 英志 (監修), 中川 謙 (翻訳) 『なぜ日本は〈メディアミックスする国〉なのか』, 角川学芸出版, 2015.

5. 学習の到達目標：【語学力】

- 1) 英語能力をを向上させ、研究者による一般向け書籍を読む習慣を身につける。
- 2) 一般読者向けの書籍における英日翻訳の方法を覚えており、英文ライティングにおいて活用できる文法及び表現を習得する。

【専門知識】

- 3) 世界中の大衆文化における傾向、また消費者と生産者の関係などを理解しており、コンテンツ市場の発展を把握できる。
- 4) コンテンツのメディア横断的展開を背景としたポピュラー作品の制作過程を常に視野に入れており、より包括な分析を行うことができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of the course, students should be able to recognize major trends in transmedia content development both in Japan and globally. Students will also learn about fandom activities and relationship between fans (otaku) and media franchises in the ea

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Introductory class
2. Translation basics 1
3. Translation basics 2
4. Translation basics 3
5. Reading and discussion (*Convergence Culture*, Introduction 1)
6. Reading and translation (*Convergence Culture*, Introduction 2)
7. Reading and discussion (*Convergence Culture*, Chapter 1.1)
8. Reading and translation (*Convergence Culture*, Chapter 1.2)
9. Reading and discussion (*Convergence Culture*, Chapter 3.1)
10. Reading and translation (*Convergence Culture*, Chapter 3.2)
11. Reading and discussion (*Convergence Culture*, Chapter 4.1)
12. Reading and translation (*Convergence Culture*, Chapter 4.2)
13. Reading and discussion (『なぜ日本は〈メディアミックスする国〉なのか』. Introduction 1)

14. Reading and translation (『なぜ日本は〈メディアミックスする国〉なのか』. Introduction 2)
15. Reading and discussion (『なぜ日本は〈メディアミックスする国〉なのか』, Chapter 5)

(講義構成は変更することがあります)
(the lecture content may be subject to change)

8. 成績評価方法:

成績評価は、次の方法と割合で行う: 出席 (30%)、課題 (70%)

9. 教科書および参考書:

必要な適宜資料を配布する。

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

10. 授業時間外学習: The course will be conducted mostly in Japanese, however assignments will demand reading and writing in both Japanese and English. Relative proficiency in both languages is therefore necessary.

It is essential that you complete the assignment beforehand

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他:

科目名：日本語教育学研究演習 I / Applied Japanese Linguistics (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LM15302, 科目ナンバリング：LJS-LIN623J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語技能と教育

2. Course Title (授業題目) : Language skills and Teaching

3. 授業の目的と概要： 学習者が話す、または書くことができるようになるためには、何が必要で、教師は何をすべきなのか、話し言葉・書き言葉の教育の内容と方法について考える。まず、話し言葉、または書き言葉の特徴について分析的に概観しつつ、学習者が日本語で話す、または書く可能性のある場面と、その場面でのコミュニケーション行動をリストアップし、その行動で必要となる学習項目を抽出する。そして、そのための様々な学習活動を考え、教材を作成し、評価する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Students will explore what language teachers should do to improve learners speaking/writing skills in the Japanese language classroom,

5. 学習の到達目標：(1)話す、または書くことを教えるためのシラバス・教室活動のバリエーションとその特徴を理解し、説明できる。

(2)目的に応じて話す、または書くことを教えるためのシラバス・教室活動を考え、教材を作り、評価することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : After completing this course, students will be able to:

1. better understand syllabus and classroom activities to improve learners speaking/writing skills

2. create effective teaching materials and evaluate them for themselves

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション

第2回：コミュニケーション活動の実際1

第3回：コミュニケーション活動の実際2

第4回：会話・作文の分析1

第5回：シラバスの検討1

第6回：教室活動の検討1

第7回：会話・作文の分析2

第8回：シラバスの検討2

第9回：教室活動の検討2

第10回：会話・作文の分析3

第11回：シラバスの検討3

第12回：教室活動の検討3

第13回：フィードバックと評価1

第14回：フィードバックと評価2

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 50%・課題 50%

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

「日本語教育学研究実習」を履修していること。

科目名：日本古代・中世史研究演習 I / Ancient and Medieval History in Japan(Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：永田 英明

コード：LM15303, 科目ナンバリング：LJS-HIS609J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古代史料の研究（2）

2. Course Title (授業題目)：research of ancient historical materials(2)

3. 授業の目的と概要：日本古代の法令集『類聚三代格』の読解を通じて、古代史料の読解能力を養います。授業では各回担当者が報告する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read Ruiju-Sandaikyaku. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class.

5. 学習の到達目標：日本古代史に関する研究能力を身につけるとともに、報告・討論の方法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students acquire advanced research skills in ancient Japanese history, and It enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 授業のまとめ

8. 成績評価方法：

レポート（50%）・授業での報告と討論への参加（50%）

9. 教科書および参考書：

国史大系本『類聚三代格』前編・後編（吉川弘文館）※必ずしも購入の必要はない。

10. 授業時間外学習：報告者は事前に十分な準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

なし

科目名：英文学特論 I / English Literature (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：大河内 昌

コード：LM15304, 科目ナンバリング：LGH-LIT610J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Introduction to Literary Theory (1)
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Literary Theory (1)
3. 授業の目的と概要：□批評理論の入門書である Hans Bertens, *Literary Theory: the Basics* の前半部分を読解します。理論の裏づけのない文学読解はたんなる印象批評になってしまいます。この授業では 20 世紀初頭の新批評から新歴史主義やポストコロニアル批評までの主要な批評理論を跡づけます。授業では毎回担当者を決めて、発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションをします。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：A seminar on literary theory. We will read closely the first half of Hans Bertens, *Literary Theory: the Basics* to understand fundamental principles of literary theory. Analysis of literary works without theory destined to become an impressionist reading. This seminar will trace major trends of contemporary criticism from structuralism to new-historicism, and post-colonialism. Each class will start with report by students on the contents of the text, and we will make discussions based on the presentation.
5. 学習の到達目標：(1) 批評理論に関する知識を身につける
(2) 論理的な思考力を身につける
(3) 批評的な英語の読解能力を身につける
6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) To acquire the knowledge of critical theory
(2) To be able to think logically and critically
(3) To develop the skill of reading theoretical texts
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - (1) Introduction
 - (2) *Literary Theory: the Basics*, pp. 4-16.
 - (3) *Literary Theory: the Basics*; pp. 16-27.
 - (4) *Literary Theory: the Basics*, pp. 28-35.
 - (5) *Literary Theory: the Basics*, pp. 35-45.
 - (6) *Literary Theory: the Basics*, pp. 46-56.
 - (7) *Literary Theory: the Basics*, pp. 56-66.
 - (8) *Literary Theory: the Basics*, pp. 67-79.
 - (9) *Literary Theory: the Basics*, pp. 79-90.
 - (10) *Literary Theory: the Basics*, pp. 91-101.
 - (11) *Literary Theory: the Basics*, pp. 102-112.
 - (12) *Literary Theory: the Basics*, pp. 112-122.
 - (13) *Literary Theory: the Basics*, pp. 123-131.
 - (14) *Literary Theory: the Basics*, pp. 131-149.
 - (15) Review and Discussion
8. 成績評価方法：
発表と授業参加 50%・レポート 50%
9. 教科書および参考書：
Hans Bertens, *Literary Theory: the Basics*, 3rd edition (Routledge, 2014)
10. 授業時間外学習：予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：
office hour: Tuesday 15:00-16:30 and by appointment.

科目名：ドイツ文学特論 I / German Literature (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：藤田 恭子

コード：LM15305, 科目ナンバリング：LGH-LIT630J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ルーマニアのユダヤ系詩人たちによるホロコーストの詩的表象
2. Course Title (授業題目)：Holocaust-Gedichte von Jüdischen Dichter*innen aus Rumänien
3. 授業の目的と概要： 詩のテキストを厳密に読み、凝縮された言語表現の理解を学ぶ。その際、詩のテキスト解釈を補強するべく、詩人の他のテキストや二次文献を読む。背景知識としてルーマニアにおけるナチズム受容の歴史を知る。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In diesem Seminar wird durch die genaue Lektüre von Gedichten das Verstehen der verdichteten sprachlichen Ausdrücken geübt. Dabei werden auch andere Texte der Dichter*innen sowie Sekundärliteratur eingesetzt, um ihre Gedichte überzeugender zu interpretieren. Als geschichtliche Hintergründe der Gedichte wird über die Geschichte des Nationalsozialismus in Rumänien informiert.
5. 学習の到達目標：ドイツ語による詩を、その言語的時代的文脈を理解しつつ、解釈する方法を知る。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Kennenlernen der Methodologie, Gedichte in deutscher Sprache unter Einbeziehung des sprachlichen und zeitlichen Kontexts zu interpretieren.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
オーストリア帝国領からルーマニア領となったブコヴィナ出身のユダヤ系詩人たちのテキストを取り上げる。彼らの自伝的エッセイや二次文献の一部も読み、そのうえで再度、詩のテキストを読み直す。

第1回 導入
第2回 ルーマニアにおけるドイツ語話者の歴史
第3回 ルーマニアにおけるナチズム
第4回 ホロコーストをテーマとする詩 (1)
第5回 ホロコーストをテーマとする詩 (2)
第6回 自伝的エッセイ (1)
第7回 自伝的エッセイ (2)
第8回 自伝的エッセイ (3)
第9回 二次文献 (1)
第10回 二次文献 (2)
第11回 二次文献 (3)
第12回 二次文献 (4)
第13回 ホロコーストをテーマとする詩 (3)
第14回 ホロコーストをテーマとする詩 (4)
第15回 まとめ
8. 成績評価方法：
平常点 (出席、授業での発言、課題の発表、議論への参加)
9. 教科書および参考書：
プリントを配付する。Texte werden im Voraus verteilt.
10. 授業時間外学習：事前に配付したドイツ語テキストを予習し、読解すること。
Lesen und verstehen der im Voraus verteilten Texte wird vorausgesetzt.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
このクラスでは Google Classroom を用いて、授業連絡などを行う。教員の連絡先は以下の通り。kyoko.fujita.e5 アトマーク、トーホク、エーシー、ジェーピー
Kommunikation außerhalb des Unterrichts (Verteilung von Texten, Einreichung von Hausaufgaben, etc.) findet über Google Classroom statt. Die Kontaktadresse der Lehrkr

科目名：社会心理学特論 I / Social Psychology (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：荒井 崇史

コード：LM15306, 科目ナンバリング：LIH-PSY605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：犯罪・非行の社会心理学

2. Course Title (授業題目)：Social Psychology of Crime and Delinquency

3. 授業の目的と概要：本授業は、日常で発生する反社会的行為（犯罪や非行）を社会心理学的な視点から捉えることで、そうした反社会的行為を理解するための知識を習得することを目的とする。授業は基本的な知識を提供する講義形式に加えて、必要に応じて受講生同士でディスカッションを行う形式で進める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to acquire knowledge on each topic by understanding the antisocial behavior (crime and delinquency) that occurs in daily life from a social psychological perspective. In this course, in addition to lectures providing basic knowledge, discussions will be held between students as needed.

5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、以下の 2 点である。

- (1) 司法・犯罪分野の制度や法律、各機関における活動や活動倫理を理解する。
- (2) 犯罪や非行の原因を社会心理学の視点から理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course is designed to...

1. Understand the systems and laws in the field of justice and crime, and the activities and ethics of each organization.
2. Understand the causes of crime and delinquency from a social psychology perspective.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面授業もしくはリアルタイム型オンライン授業（リアルタイム型遠隔授業）を行います。授業にあたって、この科目では Google Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。授業の開始前に、必ず Google Classroom にアクセスし、クラスに参加してください。

授業内容とスケジュールは以下の通りですが、進度によって変更する場合があります。

1. 全体ガイダンス：犯罪・非行と社会心理学
2. 犯罪・非行に関連する法律
3. 刑事司法制度の詳細：成人
4. 刑事司法制度の詳細：未成年
5. 犯罪統計を活用した犯罪研究
6. 犯罪・非行の原因：生物学的要因 (1)
7. 犯罪・非行の原因：生物学的要因 (2)
8. 犯罪・非行の原因：心理学的要因 (1)
9. 犯罪・非行の原因：心理学的要因 (2)
10. 犯罪・非行の原因：社会学的要因 (1)
11. 犯罪・非行の原因：社会学的要因 (2)
12. 環境と犯罪
13. 犯罪予防の応用
14. 司法・犯罪領域の心理学的アセスメントと支援
15. 本授業の総括と知識確認

8. 成績評価方法：

期末試験・レポート 60%

受講態度 40% (授業内課題 20%, その他 20%)

※やむを得ない事情（忌引き・病気等）で欠席した場合には、その根拠資料（診断書等）を授業担当教員に提出すること。事由により、成績判定において考慮する場合がある。

9. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。ただし、参考書を講義中に適宜紹介する。

The textbook is not specified. However, reference books and literature will be introduced during the lecture.

10. 授業時間外学習：初回の授業で紹介する参考文献を、予習として早いうちに通読することを求める。また、各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえて進める。したがって、各回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておくことが必要となる。なお、授業内容を予習復習することは当然として、授業時間外学習として複数の課題（レポート等）を課す。

It is required to read through the reference materials introduced in the first class. In addition

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求められることがある。

As part of the course, students may be asked to participate in psychological experiments and surveys.

科目名：哲学研究演習Ⅲ／ Philosophy(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

semester：単位数：2

担当教員：森 一郎

コード：LM15307, 科目ナンバリング：LIH-PHI630J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アレント『精神の生』講読

2. Course Title (授業題目)：Reading Arendt: The Life of the Mind

3. 授業の目的と概要：この授業では、ハンナ・アレントの著書の一つである『精神の生』を精読し、現代における哲学の可能性について考えていく。

*教室での対面授業のみとし、オンライン授業は行なわない。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We read one of Hannah Arendt's major works, The Life of the Mind, and think about the possibilities of contemporary philosophy.

We meet all the class members at the real classroom.

5. 学習の到達目標：1. 哲学の古典を精読する醍醐味を味わう

2. じっくりものを考えるということの重要性を理解する。

3. 哲学の歴史に学ぶことの重要性を理解する。

4. 今日的問題を根本的に掘り下げることの重要性を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. To enjoy the pleasure of reading the philosophical classical texts.

2. To learn the significance of thinking radically.

3. To learn the significance of the history of philosophy.

4. To understand the significance of fundamental reflexions on modern

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：対面授業

第1回：ガイダンス

第2回：『精神の生』第一部『思考』第3章第16節（その1）第1～6段落

第3回：『思考』第3章第16節（その2）第7～14段落

第4回：『思考』第3章第16節（その3）第15～19段落

第5回：『思考』第3章第16節（その4）第20～25段落

第6回：『思考』第3章第17節（その1）第1～5段落

第7回：『思考』第3章第17節（その2）第6～11段落

第8回：中間考察

第9回：『思考』第3章第17節（その3）第12～18段落

第10回：『思考』第3章第17節（その3）第19～23段落

第11回：『思考』第3章第18節（その1）第1～11段落

第12回：『思考』第3章第18節（その2）第12～21段落

第13回：『思考』第3章第18節（その3）第22～30段落

第14回：アレントの「一者のなかの二者」論

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

平常点（出席・質疑応答への参加等）50%、学期末レポート50%で、総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書はとくに定めず、授業用に用意したプリントを配布し、それに沿って議論する。

参考書：

・ Hannah Arendt, The Life of the Mind. One / Thinking, Harcourt Brace & Company, 1978

・ 佐藤和夫訳『精神の生活（上）』岩波書店、1994年

・ ハンナ・アレント『活動的生』森一郎訳、みすず書房、2015年

・ ハンナ・アレント『革命論』森一郎訳、みすず書房、2022年

・ エリザベス・ヤング＝ブルーエル『ハンナ・アレント』

10. 授業時間外学習：配布プリント、参考書、関連文献を熟読すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

使用言語：日本語／Language: Japanese

科目名：古代中世哲学研究演習 I / Ancient and Medieval Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：文 景楠

コード：LM15308, 科目ナンバリング：LIH-PHI610J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アリストテレス『エウデモス倫理学』を読む
2. Course Title (授業題目)：Reading Aristotle's Ethica Eudemia
3. 授業の目的と概要：アリストテレス倫理学の基本文献である『エウデモス倫理学』を、近年出版された新たな校訂本と注釈を参照しながら古典ギリシア語で読む。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course serves as an introduction to Aristotle's Ethica Eudemia, one of the most important works in his ethical treatises. Students will be required to read the original Greek text with the recent critical edition and commentaries.
5. 学習の到達目標：アリストテレスの倫理学と関連する様々なトピックに親しみ、古代ギリシア哲学をテーマとする論文を執筆するための作法を学ぶ。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn the basic topics in Aristotle's ethics and become familiar with the research in Ancient Greek Philosophy.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
本授業は演習を中心に進める（オンライン授業の予定はない）。内容及び予定は以下のとおりであるが、進捗状況によって若干変更する場合もある。

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 アリストテレス倫理学の紹介
- 第 3 回 Rowe の序文を読む
- 第 4 回 第 1 巻第 1 章を読む
- 第 5 回 第 1 巻第 2 章を読む
- 第 6 回 第 1 巻第 3 章を読む
- 第 7 回 第 1 巻第 4 章を読む
- 第 8 回 第 1 巻第 5 章を読む
- 第 9 回 第 1 巻第 6 章を読む
- 第 10 回 第 1 巻第 7 章を読む
- 第 11 回 第 1 巻第 8 章を読む
- 第 12 回 第 2 巻第 1 章を読む
- 第 13 回 第 2 巻第 2 章を読む
- 第 14 回 第 2 巻第 3 章を読む
- 第 15 回 レポート構想発表

8. 成績評価方法：
毎回の訳読や討論を含む平常点 60%、最終レポート 40%
9. 教科書および参考書：
教員が授業中に配布する。

References are handed out at every class.

10. 授業時間外学習：担当者はレジュメを準備し、積極的に議論に参加することが要求される。
Students should prepare a handout in turn and engage in classroom discussion actively.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
古典ギリシア語の基本的な知識をもっていることを前提する。
Students are assumed to be familiar with the essentials of the Ancient Greek language.

科目名：社会学研究実習 I / Sociology (Research) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時. 前期 金曜日 4 講時

セメスター： 単位数：2

担当教員：青木 聡子

コード：LM15309, 科目ナンバリング：LIH-SOC615J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会調査実習

2. Course Title (授業題目)：Social Research Methods

3. 授業の目的と概要：質的調査手法を実践的に理解し、社会調査の設計から結果の公表までの一連の過程を習得することを目的とする。

社会調査の基本知識・手法を学び、フィールドワーク（聞き取り調査、参与観察、資料収集など）をおこなう。調査データを整理し分析することを通じて、質的調査を遂行する能力を身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this course is to gain a practical understanding of qualitative research methods and to master the series of processes from social research design to publication of results. In this class, students learn the basic knowledge and methods of social research, conduct fieldwork (interviews, participant observation, data collection, etc.)

5. 学習の到達目標：調査設計、調査データの収集と分析を通じて、質的調査を遂行する能力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this class is to acquire the ability to conduct qualitative research by organizing and analyzing research data.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス——社会調査と質的調査
- 2 研究倫理と社会調査の設計方法
- 3 質的調査の方法(1)
- 4 質的調査の方法(2)
- 5 質的調査の方法(3)
- 6 質的調査の方法(4)
- 7 質的調査の方法(5)
- 8 調査テーマの検討(1)
- 9 調査テーマの検討(2)
- 10 調査テーマの検討(3)
- 11 先行研究と調査対象の検討
- 12 予備調査
- 13 問いの設定と調査項目の検討(1)
- 14 問いの設定と調査項目の検討(2)
- 15 調査依頼の作成

8. 成績評価方法：

授業時の平常点 50 %、課題レポート 50%

9. 教科書および参考書：

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美, 2016, 『質的社会調査の方法』有斐閣.

蘭由岐子, 2017, 『「病いの経験」を聞き取る [新版] ——ハンセン病者のライフヒストリー』生活書院.

10. 授業時間外学習：この授業は 4-5 人からなるグループに分かれて調査をおこなう。授業時間には各グループからの報告をおこなってもらうため、グループごとに時間外の作業をおこなうことになる。具体的には、各段階での課題の検討や、必要な準備などである。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

後期の社会学研究実習 II と連続で履修してください。

初回は必ず出席してください。やむを得ない理由で出席できない場合には、事前にメールで連絡をください。

科目名：考古学研究演習Ⅲ／ Archaeology(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 金曜日 4講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：鹿又 喜隆、松本 圭太

コード：LM15401， 科目ナンバリング：LJS-HIS625J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：考古学研究史

2. Course Title (授業題目)：Advanced Seminar of Archaeological Studies

3. 授業の目的と概要：日本考古学を中心に、明治時代以来の考古学研究の流れを整理し、受講学生が各自の研究方向を見出します。例えば、旧石器の編年と製作技術、縄文土器の型式学、縄文集落と社会、農耕社会の成立と発展、古墳文化の特徴、東北地方の城柵官衙遺跡、古代窯業生産と供給、中・近世考古学などの課題があり、受講者各自が具体的な課題を選んで、順次、発表を行います。詳細な文献目録の作成、研究史の画期となった主要業績の解題、基本的な考古学資料の内容理解、調査研究報告書の詳細な検討、そして相互の討論を通して、研究の現状についての認識を深めます

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will understand history of archaeological study in Japan since Maiji era and establish their own idea about archaeological study. In every class, students prepare their own presentation paper and discuss archaeological issues each other. For instance, issue concerns chronology and technology in Palaeolithic period, tipology of Jomon pottery, settlement and society in Jomon period, emergence and development of cultivation, characteristics of Kohun culture, ancient fort sites in Tohoku region, ancient ceramic industry and society of Middle Ages and Modern time.

5. 学習の到達目標：(1) 日本考古学の研究史の流れを把握し、学史上の画期を整理して理解する。(2) 各自の研究テーマの現状と課題を理解できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students understand (1) history and epoch of archaeological study in Japan, and (2) problems and the present condition according to their own theme.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目(考古学研究演習Ⅲ)では、オンライン授業(主としてリアルタイム型遠隔授業)です。

Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは ube3hhv

です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

毎回、生徒が自分のテーマに沿った資料を用いて発表をおこない、最後にディスカッションをおこないます。講義の内容とスケジュールは以下の通りです。

1. 講義ガイダンス

2. 学生による研究発表と議論

3. 学生による研究発表と議論

4. 学生による研究発表と議論

5. 学生による研究発表と議論

6. 学生による研究発表と議論

7. 学生による研究発表と議論

8. 学生による研究発表と議論

9. 学生による研究発表と議論

10. 学生による研究発表と議論

11. 学生による研究発表と議論

12. 学生による研究発表と議論

13. 学生による研究発表と議論

14. 学生による研究発表と議論

15. 学生による研究発表と議論

8. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%]

(○) その他(具体的には、発表と討論) [40%]

9. 教科書および参考書：

教室にて指示、プリントを配布。

10. 授業時間外学習：発表内容は、時間外に各自がまとめる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

研究演習Ⅲ、Ⅳを通年で連続履修することが望ましい。

科目名：東洋古代中世史特論Ⅲ／ Ancient and Medieval History in Asia(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：前期 金曜日 4講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：川合 安

コード：LM15403, 科目ナンバリング：LGH-HIS603J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：魏晋南朝貴族制の諸問題

2. Course Title (授業題目) : Issues of the Aristocratic System in the Wei, Jin, and Southern Dynasties

3. 授業の目的と概要：中国の魏晋南朝時代(220～589)は、貴族が政治・社会を主導する体制—貴族制の時代として知られる。講義では、この時代の貴族制あるいは貴族について分析し、その具体相を浮かび上がらせることを試みる。この試みを通じて中国史における魏晋南朝時代の特質について理解を深めることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course covers the aristocratic system in the Wei, Jin, and Southern Dynasties (220-589) to help students understand the characteristics of the Wei, Jin, and Southern Dynasties time in Chinese history.

5. 学習の到達目標：魏晋南朝貴族制の具体相とその特質を理解し、興味をもった論点について論じることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students discuss the characteristics of the aristocratic system in the Wei, Jin, and Southern Dynasties.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義形式で行い、第2回目以降、毎回課題を課す。

- 1、序論(貴族、貴族制とは)
- 2、後漢時代の貴族
- 3、九品官人法の制定
- 4、州大中正の設置と貴族制の形成
- 5、西晋の貴族制
- 6、東晋貴族制の成立
- 7、東晋中期の貴族制
- 8、東晋貴族制の動揺
- 9、宋・斉時代の貴族制
- 10、宋・斉時代の名門貴族
- 11、宋・斉時代の新興貴族
- 12、梁・武帝の貴族制改革—十八班制
- 13、梁・武帝の貴族制改革—試經制度
- 14、陳代の新傾向
- 15、総括

8. 成績評価方法：

第2回目以降毎回の課題によって評価する。

9. 教科書および参考書：

各講時に資料を配布する。参考書は、川勝義雄『魏晋南北朝』(講談社「講談社学術文庫」、2003年)など。他は講義の中で紹介する。

10. 授業時間外学習：資料を精読して課題を作成する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

なし。

科目名：ドイツ文学研究演習 I / German Literature (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：森本 浩一

コード：LM15404, 科目ナンバリング：LGH-LIT634J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カフカを読む (1)
2. Course Title (授業題目)：Reading Kafka (1)
3. 授業の目的と概要：フランツ・カフカ (Franz Kafka: 1883-1924) の小説をテキストとして、ドイツ文学作品を原文で読解・解釈する訓練を行います。映画化された作品も鑑賞する予定です。文学研究や他の関連する話題に関する簡単な講義なども行いたいと考えています。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students improve the ability to read and interpret the literary text written in German, by the practice of close reading of Franz Kafka's fiction. We'll also watch some filmed works related to texts. Brief lectures on literary studies and other relevant subjects will be also given incidentally.
5. 学習の到達目標：ドイツ文学作品の読解力が向上すること。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will improve the ability to read and interpret literary texts written in German.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 導入
 2. テキスト講読 (1)
 3. テキスト講読 (2)
 4. テキスト講読 (3)
 5. テキスト講読 (4)
 6. テキスト講読 (5)
 7. テキスト講読 (6)
 8. テキスト講読 (7)
 9. テキスト講読 (8)
 10. テキスト講読 (9)
 11. テキスト講読 (10)
 12. テキスト講読 (11)
 13. テキスト講読 (12)
 14. テキスト講読 (13)
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

おおむね、予習と授業への参加 (80%) とレポート (20%)
9. 教科書および参考書：

テキストは教師が準備します。
10. 授業時間外学習：毎回、事前に訳読の準備をして出席してください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
 - ・質問その他の連絡は、以下のメール・アドレスへ。 xkc-m2rt@tohoku.ac.jp (◎を@に変更)
 - ・授業は原則として対面で実施します。リモートに切り替える場合は、Google Classroom で告知します。
 - ・オフィス・アワーは特にもうけません。随時、個人的な質問・相談・雑談など受けつけます。上記のアドレス宛に連絡してアポを取ってください。教員研究室は、川内北地区・国際交流棟 (アクセスマップ A12) の 2 階です。

科目名：比較文化史学研究演習 I / Comparative Studies of Cultural History (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：寺山 恭輔

コード：LM15405, 科目ナンバリング：LGH-HIS623J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ソ連史文献研究 I
2. Course Title (授業題目)：Reading texts of Russian and Soviet History I
3. 授業の目的と概要：ロシア・ソ連史に関するロシア語及び英語文献を読むことで、ロシア語及び英語の解読能力の向上をはかる。受講者が交代で、自分の研究分野に関する論文の要旨を発表し、それに関して出席者全員で議論する形で授業を進める。ロシア語に関しては、受講生のロシア語読解力のレベルに応じて、適宜テキストを選択する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read Russian and English texts about Russian and Soviet history with accuracy and rapidity and expand their vocabulary. In each class the person in charge will present the main points of the text and all of attendees will evaluate and discuss it.
Text selection depends on the level of the students.
5. 学習の到達目標：1. 研究文献を読むことにより、ロシア・ソ連史を研究するために必要なロシア語及び英語の読解力を高める。
2. 参考文献の探し方、引用の方法も同時に学ぶ。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. Students will develop the ability to understand Russian and English by text reading.
2. Students will simultaneously learn the practical method to inquiry and cite the References.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
担当となる受講者は、事前に自分の関心のあるテーマに関するロシア語または英語の論文を選び、受講者全員に配布するとともに、発表当日には要旨をまとめて参加者の人数配布し、発表すること。以下、毎週同じ。
8. 成績評価方法：
授業への出席 (50%) と報告の内容 (50%) によって判定する。
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。
No textbooks will be used.
10. 授業時間外学習：発表の担当でない受講者も、事前に配布される論文を読み、議論に参加すること。
It is important for students to acquire preliminary knowledge to prepare for class by reading relevant information and books that are commonly available.
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：
オフィスアワー 金曜日 16:00-17:00
事前にメールで連絡しておくこと。
Office hours are from 16:00 to 17:00 on Friday. Make an appointment in advance via e-mail.

科目名：言語学総合演習 I / Linguistics (Integration Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：木山 幸子、内藤 真帆、小泉 政利、加藤 万紀子

コード：LM15406, 科目ナンバリング：LIH-LIN606J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語学研究法 I

2. Course Title (授業題目)：Methods and practices of linguistic research I

3. 授業の目的と概要：授業は、参加者の分担による口頭発表と質疑応答の形式で行う。これにより、学会発表および論文作成のための知識ならびに方法を身につけることを目的とする。

1. 発表者は、論文発表のためのハンドアウトを事前に作成したうえで、研究目的、資料、方法、結果と考察、結論を所定の時間で口頭発表する。

2. 質疑応答を参考にして論を練り直し、また、プレゼンテーション方法を再考し、学会発表や雑誌投稿ができるよりよい論文にするよう努める。

3. 参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、自己の研究

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course students will deliver an oral presentation of their research, followed by a discussion among the participants.

1. An oral presentation should cover the aim, data, method, results, discussion and conclusion.

2. The presenter is encouraged to further improve the presentation on the bases of the discussion.

3. Participants should seek to gain acquaintance in various fields of linguistic studies and to participate in the discussion in order to help the presenter to improve their presentation.

5. 学習の到達目標：学会発表・論文作成の方法を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop skills needed to present a paper in an academic meeting and/or to submit a paper to an academic journal.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 論文 1 の口頭発表、質疑応答

3. 論文 2 の口頭発表、質疑応答

4. 論文 3 の口頭発表、質疑応答

5. 論文 4 の口頭発表、質疑応答

6. 論文 5 の口頭発表、質疑応答

7. 論文 6 の口頭発表、質疑応答

8. 論文 7 の口頭発表、質疑応答

9. 論文 8 の口頭発表、質疑応答

10. 論文 9 の口頭発表、質疑応答

11. 論文 10 の口頭発表、質疑応答

12. 論文 11 の口頭発表、質疑応答

13. 論文 12 の口頭発表、質疑応答

14. 論文 13 の口頭発表、質疑応答

15. 全体のまとめ

8. 成績評価方法：

質疑への参加 60%、発表 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

10. 授業時間外学習：発表に使用するハンドアウトは、事前に作成し、配布すること。ここでの発表を学会発表や論文投稿につなげることを望ましい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：科学哲学研究演習 I / Philosophy of Science(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LM15407, 科目ナンバリング：LIH-PHI616J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：科学的理解 1

2. Course Title (授業題目)：Scientific Understanding 1

3. 授業の目的と概要：科学哲学ではこれまで、科学的説明について有意義な議論が展開されてきたが、科学的理解にはあまり手がつけられてこなかった。この授業では、科学的理解についての体系的著作である、Henk W. De Regt, 2020. Understanding Scientific Understanding, Oxford University Press を講読し、科学的理解についての理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In the philosophy of science, there has been significant discussion of scientific explanation, but not much has been done on scientific understanding. In this class, we will read Henk W. De Regt, 2017. Understanding Scientific Understanding, Oxford University Press, that is a systematic work on scientific understanding, to deepen our understanding of scientific understanding.

5. 学習の到達目標：科学を理解するとはどのようなことかを理解する。

科学の理解を促進する方法を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：To understand what it means to understand science.

To understand how to facilitate understanding of science.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の構成は以下の通り。

第一回 インTRODクシヨン

第二回～第十五回 文献講読

8. 成績評価方法：

授業に出席し、訳読やレジュメを担当する (60%)。期末レポートを提出する (40%)。

9. 教科書および参考書：

Henk W. De Regt, 2017. Understanding Scientific Understanding, Oxford University Press.

10. 授業時間外学習：授業時に読む文献にあらかじめ目を通しておいていただきたい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：実践宗教学特論 I / Practical Religious Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：井川 裕覚・谷山 洋三

コード：LM15408, 科目ナンバリング：LGH-RES613J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教と社会福祉

2. Course Title (授業題目)：Religion and Social Welfare

3. 授業の目的と概要：社会福祉の源流として、キリスト教など諸宗教の慈善活動がある。これらの慈善活動そのものは意義深いものであるが、時代性による限界もあって、人権意識や平等性に課題があった。そのような前近代的課題を克服することで、個人の自由を前提とした「社会福祉」が発展した。このような経緯を踏まえて、日本での仏教社会福祉史、バングラデシュの仏教徒と社会福祉活動、長岡西病院ビハラー病棟、東日本大震災後の被災者支援活動などを例に、宗教と社会福祉の関係性について考察し、超高齢多死社会となる日本社会において、宗教が果たし得る役割について

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The source of social welfare is the charity activities of various religions, including Christianity. Although these charity activities themselves are significant, they are limited by the times, and there are issues with human rights awareness and equality. By overcoming such pre-modern challenges, "social welfare" based on individual freedom developed. Based on this background, we will consider the relationship between religion and social welfare, using examples such as the history of Buddhist social welfare in Japan, Buddhists and social welfare activities in Bangladesh, the Vihara Ward of Nagaoka Nishi Hospital, and support activities for victims after the Great East Japan Earthquake, and so on. We will examine the role of religion in Japanese society, which is becoming a super-aging death-ridden society.

5. 学習の到達目標：宗教と社会福祉の関係性、超高齢多死社会における宗教の貢献について考察し、理解を深める。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students better understand the relationship between religion and social welfare, and contributions by religious organizations in a super-aged death-ridden society.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

資料等は、Google Classroom に提示する。

第1回：オリエンテーション

第2回：慈善と社会福祉

第3回：社会福祉と諸宗教

第4回：仏教と社会福祉

第5回：バングラデシュの仏教と社会福祉

第6回：ビハラー運動

第7回：小括（仏教と社会福祉）

第8回：震災と支援

第9回：地域包括ケア

第10回：自殺対策

第11回：小括（死と宗教）

第12回：ソーシャル・キャピタル

第13回：コンパッション・コミュニティ

第14回：小括（地域社会と宗教）

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

授業時提出の小レポート[50%]、発表・授業への取り組み[50%]

9. 教科書および参考書：

参考書：アラン・ケレハー『コンパッション都市』慶應義塾大学出版会、2022年

淑徳大学創立50周年記念論集刊行委員会編『共生社会の創出をめざして』学文社、2016年

10. 授業時間外学習：授業内で指示する

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：史料管理学Ⅰ / Archival Science I

曜日・講時：前期 金曜日 4講時、前期 金曜日 5講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LM15402, 科目ナンバリング：LJS-HIS631J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：史料整理・保存の理論と方法

2. Course Title (授業題目) : Document Organization and Preservation: Purpose and Methods

3. 授業の目的と概要：歴史学は、史料の内容を理解することに大きな比重を置く学問であるが、その一方で史料はモノとしての側面も持っている。モノとして伝来してきた史料を、歴史学の素材として、あるいは文字・画像の情報としてだけではなく、史料そのものを永く保存し、人類共有の文化遺産として後世に伝えなければならない。そのためには史料＝アーカイブズの特質や史料群の構造・伝来などを深く理解し、史料そのものを正しく取り扱い、適切に保存していく理論と方法を学ぶ必要がある。この講義では、史料の保存・活用のための学問であるアーカイブズ学についてその基

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course aims to improve the students' ability to read and handle Japanese document. Positive participation in classes is expected.

5. 学習の到達目標：史料保存の意義と理論・方法について理解し、史料の調査・整理・保存に関する基礎的知識を習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students will develop skills needed to handle real Japanese document.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は原則として対面で実施する。

1. ガイダンス・史料保存の意義と意味 (1)
2. 史料保存の意義と意味 (2)
3. 文書館・図書館・博物館-史料保存機関の性格と特色-
4. アーカイブズの理論 (1)
5. アーカイブズの理論 (2)
6. 史料調査・整理の実際
7. 目録論
8. 目録作成の技術 (1)
9. 目録作成の技術 (2)
10. 歴史資料の取り扱いとその実践
11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際
12. フィールド実習
13. 史料整理の基礎 (1)
14. 史料整理の基礎 (2)
15. 史料整理の基礎 (3)

8. 成績評価方法：

出席[20%]・受講態度[40%]・レポート[40%]

9. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。参考書：安藤正人・大藤修『史料保存と文書館学』（吉川弘文館）。

10. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

本講義の理論・技術をもとにした実践的な訓練を積むために、必ず史料管理学Ⅱ「史料整理実習」（後期開講）と連続して受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

主として実践的教育から構成される実務・実践的授業/Practical business

科目名：中国思想史総合演習 I / History of Chinese Thought(Integration Seminar)I

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：齋藤 智寛

コード：LM15501, 科目ナンバリング：LGH-PHI613J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国思想研究上の諸問題 1

2. Course Title (授業題目)：Major Issues in the Research of Chinese Philosophy 1

3. 授業の目的と概要：受講者各自が中国思想、哲学についての研究テーマを選択して研究発表を行い、研究水準を向上させるとともに、明晰な表現力、質問に的確に答え、効果的に人を説得する能力も涵養する。さらには、他の受講生の発表への批評を通して、他者の意見を批判的に吟味する機会ともする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to supply students with an opportunity of delivering their own essay on any philosophical topic they choose, and thereby to help them to enhance their level of research, to develop their ability to express their thought clearly, to respond to each question accurately, and to persuade others effectively. Students are also given a chance of thinking critically about other opinions, through commenting on essays of other students.

5. 学習の到達目標：みずからの研究テーマに関連する学術論文を作成するうえで必要な基礎的技術および能力を向上させる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop their own fundamental skills that enable to summarize preceding research and establish their own research topic.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：顔合わせと趣旨説明

第 2 回：発表と討議 (1)

第 3 回：発表と討議 (2)

第 4 回：発表と討議 (3)

第 5 回：発表と討議 (4)

第 6 回：発表と討議 (5)

第 7 回：発表と討議 (6)

第 8 回：中間まとめ

第 9 回：発表と討議 (7)

第 10 回：発表と討議 (8)

第 11 回：発表と討議 (9)

第 12 回：発表と討議 (10)

第 13 回：発表と討議 (11)

第 14 回：発表と討議 (12)

第 15 回：まとめ

8. 成績評価方法：

発表内容 (50%)、討論への参加状況 (50%)

9. 教科書および参考書：

教科書はとくに使用しない。受講者各自が事前に配布した発表資料によって授業をおこなう。

10. 授業時間外学習：報告担当者は、配付資料を前日から 1 時間前には参加者に配付するほか、特定の学術論文を紹介・批評する際には 1 週間前には当該論文を配布すること。ほかの参加者は、配付された資料や論文を読み、授業時における討論の準備を周到におこなう。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：心理学総合演習 I / Psychology(Integration Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：坂井 信之.阿部 恒之.荒井 崇史.大森 美香.河地 庸介.辻本 昌弘.RAEVSKIY ALEXAND

コード：LM15502, 科目ナンバリング：LIH-PSY608J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：特選題目研究 I

2. Course Title (授業題目)：Research on Special Topics I

3. 授業の目的と概要：各自の研究テーマについて順次報告し、受講者全員で討論を行う。

基本的に、1 回の演習で 2 名がそれぞれ 30 分程度のプレゼンテーションを行う。

発表レジュメもあらかじめ作成し、出席者全員に配布する。

質疑討論はそれぞれの発表につき 15 分程度行う。

この演習の目的は、修士論文や博士論文につながる実験・調査の計画、遂行、結果のまとめや考察を進展させることにある。わかりやすく説得力のある発表をするように努め、そのテーマを専門としない出席者の理解を促進するように工夫すること。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Every student make a presentation and all students discuss it.

5. 学習の到達目標：各自の研究活動に基づく発表を通じて、心理学の各領域の研究についての理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students better understand own area of psychology while discussing with each other.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

このクラスコードは 4fgxqxd です。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1 回目 ガイダンス

2 回目 発表と討議 (1 組目)

3 回目 発表と討議 (2 組目)

4 回目 発表と討議 (3 組目)

5 回目 発表と討議 (4 組目)

6 回目 発表と討議 (5 組目)

7 回目 発表と討議 (6 組目)

8 回目 発表と討議 (7 組目)

9 回目 発表と討議 (8 組目)

10 回目 発表と討議 (9 組目)

11 回目 発表と討議 (10 組目)

12 回目 発表と討議 (11 組目)

13 回目 発表と討議 (12 組目)

14 回目 発表と討議 (13 組目)

15 回目 まとめ

8. 成績評価方法：

発表 (40%)、平常点 (30%)、討論への参加 (30%)

9. 教科書および参考書：

特に使用しない。

10. 授業時間外学習：各自、プレゼンテーションに備えて実験・調査を計画・遂行し、その構想やデータなどを理解のしやすい内容にまとめ、レジュメと投影資料を準備すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

履修は心理学専攻分野の大学院生に限る。

心理学総合演習 I と II を連続履修し、当該年度に 2 回以上の発表を行うこと。

科目名：生命環境倫理学研究演習 I / BioEnvironmental Ethics(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター： 単位数：2

担当教員：原 壱

コード：LM15503, 科目ナンバリング：LIH-PHI618J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：メディアと情報倫理

2. Course Title (授業題目) : Media and Information Ethics

3. 授業の目的と概要：ソーシャルメディアは、人々のネットワークを拡大する情報インフラとして現代における社会生活の基盤をなしている。しかし、そこで交換される情報や、形成される人間関係は、利用者をしばしば傷つけ、人々の間で相互不信を増す働きをもつ。この現状を理解し、対応策を考察することは情報倫理学にとって重要な課題である。この授業では、この目的を果たすために、SNS に関する認識論、倫理学上の文献を講読する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Social media form the foundation of modern social life as information infrastructures that expand people's networks. However, the information exchanged and relationships formed on social media often harm users and increase mutual distrust among people. Understanding this situation and considering how to deal with it are important issues for information ethics. In this class, we will read the epistemological and ethical literature on social networking in order to fulfill this objective.

5. 学習の到達目標：マスメディアや SNS などの情報メディアの特性を理解する。

マスメディアや SNS などの情報メディアの認識論的、倫理的課題を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : To understand the characteristics of information media such as mass media and SNS.

To understand the epistemological and ethical issues of information media such as mass media and SNS.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

SNS の認識論や情報倫理に関わる論文と書籍を読む。授業の構成は以下の通り。

第一回 インTRODクシヨン

第二回～第十五回 文献講読

8. 成績評価方法：

授業に出席し、訳読やレジュメを担当する (60%)。期末レポートを提出する (40%)。

9. 教科書および参考書：

授業時に配布する。

10. 授業時間外学習：授業時に読む文献にあらかじめ目を通しておいていただきたい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：美学・西洋美術史研究演習 I / Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Seminar I)

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LM15504, 科目ナンバリング：LIH-ART612J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋美術研究（基本編）
2. Course Title (授業題目)：Research on Western Art (Basic Course)
3. 授業の目的と概要：古代から現代までの西洋美術史を対象にして、英語の研究論文を読解しながら、作品や作家についての「問い」を立てて調査および分析を行い、先行研究を踏まえた発表を行います。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：While reading English research papers on the history of Western art from ancient times to the present, we will raise 'questions' about works and writers, conduct research and analysis, and make presentations based on previous research.
5. 学習の到達目標：西洋美術に関する基本的な方法と用語を習得し、作品の分析と「問い」の設定（立論）、研究発表の方法を理解すること。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To master the basic methods and terms related to Western art, and to understand how to analyze works, set 'questions' (arguments), and present research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1: ガイダンス (1) 研究の目的とこれからの予定
 - 2: ガイダンス 2) 「問い」をいかに立て、先行研究に向き合うか
 - 3: 発表と議論
 - 4: 発表と議論
 - 5: 発表と議論
 - 6: 発表と議論
 - 7: 発表と議論
 - 8: 発表と議論
 - 9: 発表と議論
 - 10: 発表と議論
 - 11: 発表と議論
 - 12: 発表と議論
 - 13: 発表と議論
 - 14: 発表と議論
 - 15: 発表と議論(註：発表のための準備および文献調査のために順番を入れ替えることがあります)
8. 成績評価方法：

発表の到達度および授業での議論への参加度を総合して評価します。
9. 教科書および参考書：

読解する英語の研究論文は授業の中で決定し、配布（またはダウンロード先を指示）します。
10. 授業時間外学習：発表者は先行研究の調査、読解、翻訳（全訳）、発表のための資料作成を行います。受講生はあらかじめ授業で取り上げられる主な作家や作品について各自で調査し、基本的な理解を深めておきます。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：東洋史学研究演習Ⅲ／ History in Asia(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 金曜日 5講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：渡邊 英幸

コード：LM98829, 科目ナンバリング：LGH-HIS610J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：戦国秦漢簡牘資料研究 I
2. Course Title (授業題目)：Studies documents of bamboo and wooden slips from Warring States Period to Qin-Han Period
3. 授業の目的と概要：戦国秦の同時代史料であり、現在の中国古代史研究の基盤となった出土史料である雲夢睡虎地秦簡を会読する。中国・日本・欧米のこれまでの研究成果を把握し、簡牘史料の解読の基礎を習得するとともに、その後に出土したほかの史料の知見を踏まえ、従来の見解の見直しを行う。積文・訓読を確定し、訳注稿として提出する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will read documents of bamboo and wooden slips, such as the Yunmeng Shuihudi Qin bamboo slips, which was the contemporary historical sources of Qin in Warring States period and become the foundation for the current studies of ancient Chinese history. By this reading, get a handle on current research findings, and develop basic reading skills to understanding bamboo and wooden slips documents. In addition, we will attempt to review the results of previous studies in light of information from other documents that have been unearthed since then. Students will present a detailed translation and notes in Japanese.
5. 学習の到達目標：先行研究の知見を踏まえ、簡牘史料を的確に読解する力を身につけることを目標とする。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this course is to develop the basic ability to accurately read and understand bamboo and wooden slips documents in light of information from the results of previous studies.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回：ガイダンス。資料の解説／工具書・参考書の紹介
 - 第2回：睡虎地秦簡の内容と時代性
 - 第3回：「編年記(葉書)」講読(1)
 - 第4回：「編年記(葉書)」講読(2)
 - 第5回：「語書」講読(1) 第1—8簡前半
 - 第6回：「語書」講読(2) 第1—8簡後半
 - 第7回：「語書」講読(3) 第9—15簡前半
 - 第8回：「語書」講読(4) 第9—15簡後半
 - 第9回：「封診式」講読(1)「治獄」「訊獄」
 - 第10回：「封診式」講読(2)「有鞫」
 - 第11回：「封診式」講読(3)「封守」
 - 第12回：「封診式」講読(4)「封守」
 - 第13回：「封診式」講読(5)「覆」「盜自告」
 - 第14回：「封診式」講読(6)「口捕」「口口」
 - 第15回：「封診式」講読(7)「盜馬」「争牛」
8. 成績評価方法：

担当課題、および毎回の討論における質疑応答によって評価する。
9. 教科書および参考書：

教科書：配布する。陳偉主編、彭浩・劉樂賢等撰『秦簡牘合集—積文注釈修訂本』(武漢大学出版社、2016年)のほか、数種の報告書・訳注を使用する。

参考書：授業中に紹介・配布する。
10. 授業時間外学習：担当者は訳注稿を作成する。討論では全員に発言を求め、担当者以外も予習のうえで出席すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：考古学特論Ⅱ／ Archaeology(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：佐野 勝宏

コード：LM21201, 科目ナンバリング：LJS-HIS620J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：考古学の方法と実践
2. Course Title (授業題目)：Archaeological Method and Practice
3. 授業の目的と概要：考古学の研究は、様々な分析方法を用いて行われる。この授業では、その分析方法と具体的な実践の仕方について学ぶ。いくつかの分析方法は、授業中に受講者が実際に取り組み実践する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Archaeological studies are practiced using multiple analytical methods. In this course, students understand the analytical methods and its procedures. Students also practice some important analytical methods.
5. 学習の到達目標：考古学で行われる様々な分析方法について学び、各分析方法がどのように考古学研究に活かされ実践されているのか理解する。また、いくつかの分析方法を実践することで、そのやり方を覚える。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students are supposed to learn diverse analytical methods and to better understand how the analytical methods are practiced for archaeological studies. Students learn the procedures by practicing some analytical methods themselves.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス
 - 2-6. 実験考古学の方法と実践
 - 7-10. 3D 考古学の方法と実践
 - 11-14. GIS 考古学の方法と実践
 15. 遺跡形成研究
8. 成績評価方法：

レポート [30%]・課題 [40%]・出席 [30%]
9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、授業中に資料を配付する。適宜、参考文献を紹介する。
10. 授業時間外学習：特に興味がある内容に関して、各自参考文献等で理解を深める。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：日本語構造論研究演習 I / Structure of Japanese (Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：甲田 直美

コード：LM21202, 科目ナンバリング：LJS-LIN610J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ナラトロジーと語りの実際
2. Course Title (授業題目)：Narratology in Practice
3. 授業の目的と概要：物語の分析理論が、実際の語りや物語作品のことばの分析にどのように適用できるかを演習をとおして体験する。物語にはフィクションとしての物語作品の他に、日常会話における語り（ナラティブ）も含む。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Through exercises, students will experience how the theory of narrative analysis can be applied to the analysis of the language of actual narrative works. Narratives include not only fictional narrative works but also narratives in everyday conversation.
5. 学習の到達目標：物語の理論をもとに語りや物語作品を具体的に分析する。
語りのデータを会話分析による記述法から扱う。
語りのデータベースを作成する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) be able to analyse narrative works based on narrative theory.
(2) be able to handle narrative data in spoken language from descriptive methods based on conversation analysis.
(3) be able to create a database of narratives.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 授業の概要
 2. 物語の分析理論 1
 3. 物語の分析理論 2
 4. 語りの分析
 5. ナラティブ分析の現在
 6. 物語作品の分析 1
 7. 物語作品の分析 2
 8. 物語作品の分析 3
 9. 会話データの分析 1
 10. 会話データの分析 2
 11. 語りの分析 1
 12. 語りの分析 2
 13. 研究発表の実際 1
 14. 研究発表の実際 2
 15. 研究の公表へ向けて
8. 成績評価方法：
授業参加および提出物による。
9. 教科書および参考書：
『物語の言語学—語りに潜むことばの不思議』甲田直美(2024)ひつじ書房
10. 授業時間外学習：扱う言語資料（文献および言語データ）を事前に読んでおく。語りのデータベースを作成する。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：西洋近現代史研究演習Ⅱ／ History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：浅岡 善治

コード：LM21203, 科目ナンバリング：LGH-HIS622J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： 欧米近現代史研究方法論
2. Course Title (授業題目)：History of Modern Europe and America(Advanced Seminar)III
3. 授業の目的と概要： 欧米近現代史に関する古典的著作ないし同時代文献を精読し、その内容について討論を行い、理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The themes of this seminar are to read classical books/documents relating the modern/contemporary European history, accurately and critically, and to find some hints for further historical research.
5. 学習の到達目標：・テキストの内在的な理解による論旨の厳密な把握
・文献読解と討論を通じた研究能力・プレゼンテーション能力の向上。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：・To grasp contents of the original text accurately.
・To upgrade the abilities to present, debate and reserch.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス
 2. テキストの検討・討論(1)a
 3. テキストの検討・討論(1)b
 4. テキストの検討・討論(1)c
 5. テキストの検討・討論(1)d
 6. テキストの検討・討論(1)e
 7. 小括(1)
 8. テキストの検討・討論(2)a
 9. テキストの検討・討論(2)b
 10. テキストの検討・討論(2)c
 11. テキストの検討・討論(2)d
 12. テキストの検討・討論(2)e
 13. 小括(2)
 14. 総括に向けての課題の整理
 15. 総括
8. 成績評価方法：
出席：30%・その他(受講態度、課題の達成度など)：70%
9. 教科書および参考書：
テキストは開講後発表。その他、授業の進行に合わせて適宜指示する。
10. 授業時間外学習： ほぼ毎週課題が出るので、それらをきちんとこなすこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
面談等は随時。事前にメール等でアポイントを取ることが望ましい。
研究室：文学研究科棟5F・539 E-mail: asaoka@tohoku.ac.jp

科目名：実験心理学研究演習Ⅳ／ Experimental Psychology(Advanced Seminar) IV

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

semester：単位数：2

担当教員：倉元 直樹

コード：LM21204, 科目ナンバリング：LIH-PSY613J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Fundamentals of Psychological Measurement

2. Course Title (授業題目)：Fundamentals of Psychological Measurement

3. 授業の目的と概要：量的方法論による心理学研究の方法論的基礎となる測定法の理論について基礎から学ぶ。古典的テスト理論 (Classical Test Theory) と項目反応理論 (Item Response Theory) を対比しながら、理念的な理解を深める。オーソドックスな輪講形式の演習スタイルを基本とするが、受講者の人数や希望によっては発展的な内容を加えたり、受講者が現在取り組んでいる研究を題材として取り交ぜる可能性も考慮する。時折、教科書の例題を基にレポートを課す可能性がある。英語論文の理解と執筆のために標準的な英

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This class is aimed to learn the fundamentals the theory of measurement method which is the methodological basis of psychology research by quantitative methodology. The lecturer expect students' understanding will be deepened by comparing classical test theory with Item Response Theory. Although it is based on an orthodox seminar style, it is also possible to add an advanced content or a theme of the studies currently being tackled, depending on the number and attendees of students. There is also the possibility of requesting a report based on exercises in the textbook. The lecturer chose a standard English textbook for understanding and writing English papers, but we can change it depending on the student's request.

5. 学習の到達目標：心理学的測定論に基づく手法を使って実際に研究を行うためのデータ収集デザインを自力で構想することができるようになること。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To be able to conceive data collection designs for actually conducting research on their own using methods based on psychological measurement theory.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

授業の実施形態：対面授業のみ

1. イントロダクション (テーマ、および、教科書の紹介) (1コマ)

2. Classical Test Theory (True Scores and Error Variances, Reliability Coefficient and Estimation, Formulas for Estimating a Reliability Coefficient, Factors Affecting the Reliability Coefficient, Estimating the Standard Error of Measurement, Reliability of Difference Scores) (6～10コマ)

3. Item Response Theory (Basic Concepts and Models, Ability and Item Parameter Estimation, Assessments of Model-Data Fit, The Ability Scale and Information Functions, Item Construction and Bias, Equating, CAT) (6～10コマ)
(参加者の履修経験と準備状況によって、前半、後半のいずれに重点を置くかを決定する)

4. まとめ (1コマ)

8. 成績評価方法：

出席状況 [40%程度]・小テスト [20%程度]・発表及び討論参加 [60%程度]

9. 教科書および参考書：

(1) Traub, R. E. (1994). Reliability for the Social Sciences: Theory and Applications, Sage, Thousand Oaks, CA.

(2) Hambleton, R. K., Swaminathan, H. and Rogers, H. J. (1991). Fundamentals of Item Response Theory. Sage, Newbury Park, CA.

10. 授業時間外学習：担当者は教科書の該当部分を中心に発表準備を行い、レジュメとプレゼンテーションを作成する。担当者以外の参加者は事前に教科書の該当部分を予習することが求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

授業そのものは日本語で行うことを原則とする。

科目名：日本比較思想史特論 I / Comparative history of Japanese thought (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LM21301, 科目ナンバリング：LJS-PHI603J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：水平社・西光万吉論 II

2. Course Title (授業題目)：Study on The Suiheisha・Saiko Mankichi II

3. 授業の目的と概要：日本の思想文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキスト（『西光万吉著作集』第 3, 4 巻からセレクト）と研究論文（加藤昌彦『水平社宣言起草者西光万吉の戦後』所収など）を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose is to acquire the basic knowledge for studying Japanese thought and culture, and to raise the methodological awareness of the history of thought through dialogue based on presentations that carefully read the text (from 『西光万吉著作集』第 3, 4 巻) and research papers (published in 加藤昌彦『水平社宣言起草者西光万吉の戦後』).

5. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、伝記研究、時代的考察、課題設定など）を身に着ける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquire the basic research methods of the history of Japanese Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第 1 回：ガイダンス

第 2 回：映画『橋のない川』（1969）から

第 3 回：和栄政策の起点（加藤書第 1 章）

第 4 回：平和省の提案と「和栄政策」の具体化（第 2 章）

第 5 回：社会党の平和政策としての「和栄政策」（第 3 章）

第 6 回：敬遠される和栄政策と支持される和栄政策（第 4 章）

第 7 回：「低開発国にたいする国際協力策」として（第 5 章）

第 8 回：西光万吉の最後の仕事-「老人の童話」について（第 6 章）

第 9 回：孔子の「夢」を思う（西光著作集第 2 巻）

第 10 回：戦時下雑感（第 2 巻）

第 11 回：不戦日本の自衛、再び不戦日本の自衛について（第 3 巻）

第 12 回：三たび不戦日本の自衛について、四たび不戦日本の自衛について（第 3 巻）

第 13 回：明治維新の百年記念と昭和維新のトンヤレ節（『西光万吉著作集』第 4 巻）

第 14 回：歳暮漫談・人道と科学=続く理想と現実の悲喜劇（第 4 巻）

第 15 回：住井すゑから

※第 3～8 回の論文は、加藤昌彦『水平社宣言起草者西光万吉の戦後：非暴力政策を掲げつづけて』（明石書店、2007）からの例示。第 9～14 回のテキストは、加藤昌彦『西光万吉著作集』第 2～4 巻（涛書房、1972～1974）からの例示。

定期試験：なし

8. 成績評価方法：

平常点 100%（出席 40%、発表・討論 60%）

9. 教科書および参考書：

教科書（テキスト/論文）・参考書：授業中に適宜資料を配布します。

10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本比較思想史特論Ⅱ／Comparative history of Japanese thought(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LM21302, 科目ナンバリング：LJS-PHI611J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：水平社・西光万吉論Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Study on The Suiheisha・Saiko Mankichi Ⅱ

3. 授業の目的と概要：日本の思想文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキスト（『西光万吉著作集』第3、4巻からセレクト）と研究論文（加藤昌彦『水平社宣言起草者西光万吉の戦後』所収など）を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose is to acquire the basic knowledge for studying Japanese thought and culture, and to raise the methodological awareness of the history of thought through dialogue based on presentations that carefully read the text (from 『西光万吉著作集』第3、4巻) and reserch papaers (published in 加藤昌彦『水平社宣言起草者西光万吉の戦後』) .

5. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、伝記研究、時代的考察、課題設定など）を身に着ける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Acquire the basic research methods of the history of Japanese Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：映画『橋のない川』（1969）から

第3回：和栄政策の起点（加藤書第1章）

第4回：平和省の提案と「和栄政策」の具体化（第2章）

第5回：社会党の平和政策としての「和栄政策」（第3章）

第6回：敬遠される和栄政策と支持される和栄政策（第4章）

第7回：「低開発国にたいする国際協力策」として（第5章）

第8回：西光万吉の最後の仕事-「老人の童話」について（第6章）

第9回：孔子の「夢」を思う（西光著作集第2巻）

第10回：戦時下雑感（第2巻）

第11回：不戦日本の自衛、再び不戦日本の自衛について（第3巻）

第12回：三たび不戦日本の自衛について、四たび不戦日本の自衛について（第3巻）

第13回：明治維新の百年記念と昭和維新のトンヤレ節（『西光万吉著作集』第4巻）

第14回：歳暮漫談・人道と科学＝続く理想と現実の悲喜劇（第4巻）

第15回：住井すゑから

※第3～8回の論文は、加藤昌彦『水平社宣言起草者西光万吉の戦後：非暴力政策を掲げつづけて』（明石書店、2007）からの例示。第9～14回のテキストは、加藤昌彦『西光万吉著作集』第2～4巻（涛書房、1972～1974）からの例示。

定期試験：なし

8. 成績評価方法：

平常点100%（出席40%、発表・討論60%）

9. 教科書および参考書：

教科書（テキスト/論文）・参考書：授業中に適宜資料を配布します。

10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：文化人類学研究演習Ⅱ／ Cultural Anthropology(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：包 双月

コード：LM21303, 科目ナンバリング：LGH-CUA606J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化人類学の視野と思考
2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology(Advanced Seminar)Ⅱ
3. 授業の目的と概要：文化人類学についての理論および民族誌的研究を精査することで、主要な概念と関心の動向を検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：To examine key concept and interest of cultural anthropology through the research of the theory and ethnography
5. 学習の到達目標：文化人類学の研究動向を体系的に理解し、自身の問題関心を展開させる。最終的には、自分の研究主題についての文献リストと主要文献のレビューを作成する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To complete reference and review for your research topic through the investigation into previous studies
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 研究動向の整理と検討
 3. 研究動向の整理と検討
 4. 文献講読
 5. 研究動向の整理と検討
 6. 研究動向の整理と検討
 7. 研究動向の整理と検討
 8. 文献講読
 9. 研究動向の整理と検討
 10. 研究動向の整理と検討
 11. 研究動向の整理と検討
 12. 文献講読
 13. 研究動向の整理と検討
 14. 研究動向の整理と検討
 15. 最終報告
8. 成績評価方法：

発表[40%]、出席[20%]、最終レポート[40%]
9. 教科書および参考書：

授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：毎回、課題に沿ったレジュメを作成する。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：

科目名：インド仏教史研究演習Ⅱ／ History of Indian Buddhism(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：桜井 宗信

コード：LM21304, 科目ナンバリング：LGH-PHI609J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読

2. Course Title (授業題目)：Abhidharmakośa of Vasubandhu：reading

3. 授業の目的と概要： Vasubandhu (世親)の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要不可欠な基本典籍である。

この授業では同書第1章(「界品」)の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The Abhidharmakośa by Vasubandhu is very famous as an outline of the thought of the Sarvāstivādin in brief and critical manner, and it is necessary not only for grasping the Sarvāstivādin's way of thinking but also for understanding the thought of Mahāyānic Buddhism such as the Yogācāravāda.

In this course continuing from the last term, we will be reading Sanskrit, Tibetan and Chinese texts of the Abhidharmakośa (Dhātunirdeśa), which serves students to understand Vasubandhu's thought and to get a basic skill on studying Indian Buddhist Literatures, i.e. the comparative study of Skt.-Tibetan-Chinese texts.

5. 学習の到達目標：基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students deepen the ability of reading basic Buddhist literatures, and obtain correct knowledge about some fundamental and important technical terms on Indian Buddhism.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『俱舎論』講読-1-

2. 『俱舎論』講読-2-

3. 『俱舎論』講読-3-

4. 『俱舎論』講読-4-

5. 『俱舎論』講読-5-

6. 『俱舎論』講読-6-

7. 『俱舎論』講読-7-

8. 『俱舎論』講読-8-

9. 『俱舎論』講読-9-

10. 『俱舎論』講読-10-

11. 『俱舎論』講読-11-

12. 『俱舎論』講読-12-

13. 『俱舎論』講読-13-

14. 『俱舎論』講読-14-

15. 『俱舎論』講読-15-

8. 成績評価方法：

授業・発表への取り組み(100%)

9. 教科書および参考書：

用いる基本資料は次の通り：

- ・ 梵文原典：『梵文阿毘達磨俱舍論 I 界品』（江島恵教著），山喜房仏書林，平成 15 年。
- ・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。
- ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舍論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舍釈論』（真谛訳）。

※『俱舍論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。

1 0. **授業時間外学習**：予習時に前記基本資料を訳読すると共に，重要術語の内容確認等を行う。

1 1. **実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. **その他**：

「インド学仏教史」専攻分野所属学生のみ履修可。

科目名：フランス語学研究演習Ⅱ／ French Linguistics(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：黒岩 卓

コード：LM21305, 科目ナンバリング：LGH-LIT645J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フランス語史の諸トピック
 2. Course Title (授業題目)：History of the French language
 3. 授業の目的と概要：ラテン語から今日の世界各地のフランス語にいたるまでの、フランス語史に関するさまざまなトピックを学びます。具体的な内容については初回に受講者の皆さんと相談しますが、令和6年度についてはアフリカにおけるフランス語・フランス文学についての論文を読みたいと考えています。
 4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The participants learn about the history of the French language, from Latin to French in today's world.
 5. 学習の到達目標：フランス語の歴史についての知識を深め、受講者それぞれの研究テーマにそれを役立たせられるようになる。
 6. Learning Goals (学修の到達目標)：Each learner confirms their knowledge of French history and applies it to their research.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第一回 オリエンテーション
 - 第二回 フランス語史の諸トピック (15)
 - 第三回 フランス語史の諸トピック (16)
 - 第四回 フランス語史の諸トピック (17)
 - 第五回 フランス語史の諸トピック (18)
 - 第六回 フランス語史の諸トピック (19)
 - 第七回 フランス語史の諸トピック (20)
 - 第八回 フランス語史の諸トピック (21)
 - 第九回 フランス語史の諸トピック (22)
 - 第十回 フランス語史の諸トピック (23)
 - 第十一回 フランス語史の諸トピック (24)
 - 第十二回 フランス語史の諸トピック (25)
 - 第十三回 フランス語史の諸トピック (26)
 - 第十四回 フランス語史の諸トピック (27)
 - 第十五回 フランス語史の諸トピック (28)
- (以上の進度は目安で、実際には変更があり得ます)
8. 成績評価方法：

出席(100%)
 9. 教科書および参考書：

初回のオリエンテーションでの議論を踏まえて決定します。
 10. 授業時間外学習：初回のオリエンテーションでの議論を踏まえて指示します。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅳ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)Ⅳ

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：長岡 龍作

コード：LM21306, 科目ナンバリング：LIH-ART604J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術と宗教思想

2. Course Title (授業題目)：Art and Religious thought

3. 授業の目的と概要：この講義では、古代日本の造形、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。後期はまず、平安時代の美術と関係の深い北宋時代の美術を紹介した後、清凉寺釈迦如来像の請来がもたらした平安時代以降の宗教美術の意義について論じる。その後、摂関期から鎌倉時代の宗教美術について、代表的な僧侶の思想を踏まえた観点から論じていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course I discuss religious arts in East Asia, especially sculptures from the relationship with faith. Art has an important role for religion that envisages invisible world. Understanding religious art makes it possible to approach human spiritual world. In the second semester classes, I will first introduce the art of the Northern Song Dynasty, which is closely related to the art of the Heian period, and then discuss the significance of religious art since the Heian period, which was brought about by the arrival of the Shaka Nyorai statue at Seiryōji Temple. Afterwards, we will discuss religious art from the Sekkan period to the Kamakura period from a perspective based on the thoughts of representative monks.

5. 学習の到達目標：(1) 宗教思想と造形の関係を理解する。

(2) 造形に投影された世界観を理解する。

(3) 造形表現を理解する方法を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Students understand the relationship between religious thought and arts.

(2)Students understand the world view projected on art.

(3)Students learn how to understand expressions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を配信します。このクラスコードは****です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 鎌倉時代までの世界観と釈迦信仰
2. 北宋・遼美術の諸相1—盧舎那仏と梅檀瑞像
3. 北宋・遼美術の諸相2—盧舎那仏・釈迦・舍利
4. 奄然の入宋と清凉寺釈迦如来像1
5. 奄然の入宋と清凉寺釈迦如来像2
6. 平安時代の仏像と納入品
7. 重源の思想と美術1—東大寺再興と別所
8. 重源の思想と美術2—東大寺再興と別所
9. 貞慶の思想と美術
10. 春日信仰と美術—仏身論とその表象
11. 五台山と文殊菩薩像
12. 明恵の思想と高山寺の美術
13. 叡尊と忍性の思想と美術
14. 鎌倉時代の華嚴思想と美術
15. 仏身論から見る鎌倉時代の美術

8. 成績評価方法：

レポート [50%]、出席 [50%]

9. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014年、長岡龍作『仏教と造形 信仰から考える美術史』（中央公論美術出版）2021年

10. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べること

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：倫理学研究演習VI／ Ethics (Advanced Seminar VI)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LM21307, 科目ナンバリング：LIH-PHI629J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ジェンダーの視点から倫理を議論する

2. Course Title (授業題目) : Discussing ethics from a gender perspective

3. 授業の目的と概要： この演習ではテキストを読み、内容を端的に理解し、他者へ説明するためのトレーニングを行います。そのため、事前に決めた担当者に指定範囲の文章を要約してもらいます。また、担当者には該当部分に関連する論点を出してもらいます。その後、参加者で議論をします。(最初の数回で、テキストの背景や要約の仕方、論点の出し方については講義します。)

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The aim of this course is to train students to read the text carefully, understand the content accurately and explain it to others. Each time, students summarise the text and suggest key points for discussion (the text will be distributed to the participants in advance). The participants then discuss the material together. (In the first few sessions, I give a lecture on the background of the text and how to make a summary).

5. 学習の到達目標：(1) テキストを要約し、論点を出すことができる。

(2) 現実には起きている倫理的葛藤に対し、論理的に自己の見解を示すことができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To summarise the text and bring out the key points of the discussion

(2) To logically provide your own views on real-life ethical conflicts.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入

第二回：入門講義(1)：テキストの背景

第三回：入門講義(2)：要約・論点出しの仕方、担当者決定

第四回：テキストの読解(1)

第五回：テキストの読解(2)(以下同様)

8. 成績評価方法：

演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。

9. 教科書および参考書：

テキストはプリントで配布します。

現在、予定しているテキストはジュディス・L・ハーマン『心的外傷と回復』です。

10. 授業時間外学習：担当者は配当された部分のテキストを要約し、論点を出してA41枚のレジュメを作成してください。事前に人数分をコピーし、授業で配布して内容を報告してもらいます。担当外の者は、テキストをしっかりと読んでください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

【重要】通年の受講が望ましい。

ジェンダー/セクシュアリティについての基礎知識がある前提で授業を進めます。前年度までに私の「ジェンダー/セクシュアリティと倫理」を受講しておくことが望ましいです。(必修ではありません) 自学する場合には、以下の参考書を読んでください。

清水晶子『フェミニズムってなんですか?』文春新書、2022年

科目名：日本古典文学研究演習Ⅱ／ Study of Japanese Classical Literature(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LM21401, 科目ナンバリング：LJS-LIT608J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『源氏物語』の研究

2. Course Title (授業題目)：Study of "The Tale of Genji"

3. 授業の目的と概要：『源氏物語』「空蟬」～「末摘花」巻を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【考察】をレジュメとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class, you will read the volume captioned 'Utusemi' to 'Suetumuhana' in Genji Monogatari. The person in charge summarizes the [abstract] and [consideration] of the assigned range as a resume, prepares it as a material, distributes it in advance, and announces it. The aim is to improve the reading comprehension of the story by reviewing and brushing up the issues raised by the presenters with all participants.

5. 学習の到達目標：『源氏物語』「空蟬」～「末摘花」巻を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By carefully reading "Genji Monogatari" (Makibashira ~ Suetumuhana Chapter), students will deepen your understanding of the fictional method of the story, the way the figure is modeled, the style of expression including narrative and waka poems, and the st

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 「空蟬」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
2. 「空蟬」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
3. 「空蟬」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
4. 「夕顔」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
5. 「夕顔」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
6. 「夕顔」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
7. 「夕顔」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
8. 「若紫」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
9. 「若紫」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
10. 「若紫」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
11. 「若紫」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
12. 「若紫」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
13. 「末摘花」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
14. 「末摘花」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
15. 「末摘花」巻の輪読と考察
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート(発表のまとめ)の内容 [60%]、授業への参加(質疑応答を含む) [40%]

9. 教科書および参考書：

【テキスト】岩波文庫『源氏物語(一) 桐壺～末摘花』(岩波書店、2017年)を用いるので、大学生協等で購入のこと。

【参考書】中野幸一編『(新装版)常用 源氏物語要覧』(武蔵野書院、2012年)がある。その他、参考文献は随時紹介する。

10. 授業時間外学習：毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。授業での質疑応答はディスカッションやコメントのトレーニングとなるよう期している。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、**実務・実践的授業**であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

- ・本演習は、第5セメスターから続けて履修すること。
- ・物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや発見、興味を大事にしていく。

科目名：日本古代・中世史研究演習Ⅳ／ Ancient and Medieval History in Japan(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LM21402, 科目ナンバリング：LJS-HIS612J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本中世史の研究 (2)
2. Course Title (授業題目)：Study on Japanese Medieval History 2
3. 授業の目的と概要：受講者各自が日本中世史にかかわる研究成果を報告し、全体で討論する。その中で研究方法を錬磨するとともに、研究発表・討議の技法について学ぶ。また、研究論文作成の一つのステップとする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students present research findings on Japanese medieval history and discuss them. Through that, students refine their research methods and master about skills of presentation and discussion. Students will also learn how to write theses.
5. 学習の到達目標：(1)日本中世史に関する高度な研究能力を身につける。
(2)報告・討論の方法を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Students acquire advanced research skills in medieval Japanese history.
(2)It enhances the development of students' skill in making oralpresentation and discussion.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1) ガイダンス
 - 2) 学生による報告と討論
 - 3) 学生による報告と討論
 - 4) 学生による報告と討論
 - 5) 学生による報告と討論
 - 6) 学生による報告と討論
 - 7) 学生による報告と討論
 - 8) 学生による報告と討論
 - 9) 学生による報告と討論
 - 10) 学生による報告と討論
 - 11) 学生による報告と討論
 - 12) 学生による報告と討論
 - 13) 学生による報告と討論
 - 14) 学生による報告と討論
 - 15) 授業のまとめ

原則として対面

8. 成績評価方法：
レポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容、授業への参加度）[40%]
9. 教科書および参考書：
特になし。

Nothing.

10. 授業時間外学習：報告者は事前に十分な準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

Reporters should make sufficient preparations in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

日本古代・中世史研究演習「日本中世史の研究」(1)(2)は連続履修すること。

Students must take "Study on Japanese Medieval History " 1 and 2 consecutively.

科目名：西洋文化学特論Ⅱ／ European Culture (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LM21403, 科目ナンバリング：LGH-LIT629J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世ドイツ文学
2. Course Title (授業題目)：Medieval German Literature
3. 授業の目的と概要：現代文学の源流としての中世ドイツ文学の歴史を知るとともにその特殊性を理解する。現代文学において恋愛がテーマになるのは珍しいことではないが、ドイツ文学史において恋愛が主題になったのは 12 世紀であった。それ以前のドイツ文学の主題はキリスト教であった。ただし、12 世紀に恋愛が主題とされた場合に雛形となったのはキリスト教の神への信仰であったので、その恋愛は崇高な愛の形をとった。しかしそのような高貴な愛も騎士文化の衰退と市民社会の興隆とともに通俗化する。授業では、恋愛のほかに北欧伝説との関係も見ながら、中世ドイツ
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In diesem Seminar handelt es sich um die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur als Quelle der modernen Literatur und um ihre Eigenschaften. In der modernen Literatur ist nicht selten die Liebe das Thema, aber die Liebe wurde erst im 12. Jahrhundert thematisiert, das Thema davor war am meisten das Christentum. Die literarische Liebe basierte sich aber auch auf dem Glauben an den Gott, die Liebe zwischen Menschen war also erhaben. Solche hohe Liebe wurde aber allmählich säkularisiert, indem die ritterliche Kultur verfiel und die bürgerliche Gesellschaft sich erhebe. In dem Seminar soll also auch berücksichtigt werden, dass die Teilnehmer sich mit der Kultur und Gesellschaft im Mittelalter vertraut machen und gelegentlich auch bessere Kenntnisse über den Zusammenhang mit der nordischen Legenden erwerben können.
5. 学習の到達目標：中世ドイツ文学の歴史を知り、その特殊性を理解する。中高ドイツ語の文学作品を読んでその内容が理解できる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Ziel des Unterrichts ist, dass man die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur und deren Eigenschaften kennen lernt und Texte im Mittelhochdeutsch lesen und den Inhalt verstehen kann.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 ガイダンス
 - 2 中高ドイツ語入門 1 (発音)
 - 3 中高ドイツ語入門 2 (名詞・代名詞・形容詞)
 - 4 中高ドイツ語入門 3 (動詞)
 - 5 中高ドイツ語文学講読 1 (1749-1750)
 - 6 中高ドイツ語文学講読 2 (1751-1752)
 - 7 中高ドイツ語文学講読 3 (1753-1755)
 - 8 中高ドイツ語文学講読 4 (1756-1758)
 - 9 中高ドイツ語文学講読 5 (1759-1761)
 - 10 中高ドイツ語文学講読 6 (1762-1765)
 - 11 中高ドイツ語文学講読 7 (1766-1769)
 - 12 中高ドイツ語文学講読 8 (1770-1773)
 - 13 中高ドイツ語文学講読 9 (1774-1777)
 - 14 中高ドイツ語文学講読 10 (1778-1781)
 - 15 中高ドイツ語文学講読 11 (1782-1785)
8. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]
9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社；古賀充洋『中高ドイツ語』大学書林；岡崎忠弘訳『ニーベルンゲンの歌』
10. 授業時間外学習：前もって文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づき、辞書を使って予習をすること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：中国語学中国文学史総合演習Ⅱ／ Chinese Language and Literature(Integration Seminar)II

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：矢田 尚子. 土屋 育子

コード：LM21404, 科目ナンバリング：LGH-LIT605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国語学史中国文学史上の諸問題
2. Course Title (授業題目)：Studies of Chinese Language and Literature
3. 授業の目的と概要：【目的】

1. 中国語学の各分野について、理解を深める。
2. 中国文学の各分野について、理解を深める。
3. 研究発表の方法と論文作成の方法を、学ぶ。
4. 教員・他の受講生からの指摘を的確に理解し、解決方法を探索する。
5. 他人の研究発表を的確に理解した上で、自らの質問を過不足なく言語化する方法を、学ぶ。

【概要】

受講生は輪番で、自らのもっとも関心のある課題について、その先行研究の整理・問題点の析出・解決のための調査（文献の読解と分析を含む）の過程と結果を、文章化して発表する。発表レジュメは前

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：“Gather the techniques that serve your dreams, create techniques to serve your dreams！” by Chick Corea.

In this course, students will acquire specialized knowledge and theories through preparing for their presentations and paying attention to the others' presentations.

5. 学習の到達目標：上記の【目的】の1～5。および 6. 自ら納得のいく、適正な論文の作成。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Students will be able to acquire specialized knowledge and theories
2. Students will be able to bring each thesis to perfection

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (1)
2. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (2)
3. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (3)
4. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (4)
5. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (5)
6. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (6)
7. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (7)
8. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (8)
9. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (9)
10. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (10)
11. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (11)
12. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (12)
13. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (13)
14. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (14)
15. 中国語学史中国文学史上の諸問題の発表 (15)

8. 成績評価方法：

- 出席と質疑応答 (50%)。
- レジュメによるプレゼンテーション (50%)。

9. 教科書および参考書：

受講生各自の準備するプリント。

10. 授業時間外学習：発表者：プレゼンテーションの準備。

発表者以外の受講生：三日前に提出されるレジュメの吟味と検討。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：美学・西洋美術史特論Ⅱ／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Lecture I)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LM21405, 科目ナンバリング：LIH-ART610J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術で笑う：イタリア・ルネサンスの世界
2. Course Title (授業題目)：Laughing at Art: The World of the Italian Renaissance
3. 授業の目的と概要：美術という日本語に含まれた「美」という言葉は、しばしば、絵画や彫刻が美がかりでなく、もっと多様な感覚を生み出すという事実を忘れさせてしまいます。しかし、古代から現代まで、絵画や彫刻は笑いをも生み出してきました。この授業では、イタリア・ルネサンス美術を素材にして、視覚的ユーモアがいかにして生起していったかを具体的な作品を通じて理解します。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The word "beauty" in the Japanese word "art" often makes us forget the fact that paintings and sculptures create not only beauty but also more diverse senses. However, from ancient times to the present, painting and sculpture have also produced laughter. In this class, we will look at Italian Renaissance art to understand how visual humor emerged through specific works.
5. 学習の到達目標：美術作品を歴史的な脈に位置づけて分析する視点と方法を理解する。
15～16 世紀イタリアの興味深い美術作品についての知識を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understand the perspectives and methods of analyzing works of art by placing them in historical contexts.
To understand the flow of major works of Italian art in the 15th and 16th centuries.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1：プロローグ——イメージで笑わせるためのいくつかの例
 - 2：ルネサンス文化における笑い
 - 3：笑わせるためのいくつかの方法——アリストテレス『詩学』を起点として
 - 4：エロス (1)
 - 5：エロス (2)
 - 6：パロディ (1)
 - 7：パロディ (2)
 - 8：逆転 (1)
 - 9：逆転 (2)
 - 10：連想 (1)
 - 11：連想 (2)
 - 12：皮肉 (1)
 - 13：皮肉 (2)
 - 14：誇張 (1)
 - 15：誇張 (2)(注 1：資料作成の過程で発見した事例に基づいて予定や各回のテーマを入れ替えたり修正したりすることがあります)
(注 2：この授業では、今から見れば差別的だったりエロティックであったりする作品や描写がしばしば取り上げられます。特に、女性と男性の露骨な裸体や性的部位が現れる点について、受講する場合はご了承ください)
8. 成績評価方法：

毎回の授業でのコメントアンケート (方式は考え中。授業で示します) および全体を通じたまとめミニレポートを総合して評価します。
9. 教科書および参考書：

授業で指示します。
10. 授業時間外学習：配布資料をヒントにしなが、授業で取り上げた名作や問題作をインターネットや画集で見直すと、記憶と理解が深まりますのでおすすめです。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：古代中世哲学研究演習Ⅱ／ Ancient and Medieval Philosophy(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター： 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LM21406, 科目ナンバリング：LIH-PHI611J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：新プラトン主義の秘儀論を読む
2. Course Title (授業題目)：Neoplatonists on mysteries
3. 授業の目的と概要：秘儀等をめぐる新プラトン主義者（イアンブリコス、プロクロス、プロティノス）さらにはプラトンのテキストを原語古代ギリシャ語で読み、内容について議論する。
それを通じて、秘儀等をめぐる新プラトン主義・プラトンの論の理解を得る。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We shall read texts by Neoplatonists (Iamblichus, Proclus, Plotinus, etc.) and Plato on mysteries and other related topics to understand their views on these topics.
5. 学習の到達目標：新プラトン主義の秘儀論の主要論点を理解する。重要なテキストの内容を正確に説明できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To understand main points about Neoplatonist accounts of mysteries.
To become able to explain main texts on these topics accurately.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
最初の数回でイアンブリコス『秘儀について』からいくつかのテキストを読む。それからどんなテキストを読むかは授業時に話し合って決める。

1. オリエンテーション
2. イアンブリコス『秘儀について』(1)
3. イアンブリコス『秘儀について』(2)
4. イアンブリコス『秘儀について』(3)
5. イアンブリコス『秘儀について』(4)
6. 第2テキスト (1)
7. 第2テキスト (2)
8. 第2テキスト (3)
9. 第2テキスト (4)
10. 第2テキスト (5)
11. 第3テキスト (1)
12. 第3テキスト (2)
13. 第3テキスト (3)
14. 第3テキスト (4)
14. 第3テキスト (5)

8. 成績評価方法：
授業時のパフォーマンス
9. 教科書および参考書：
授業時に配布する

10. 授業時間外学習：次回に読む箇所の予習、読んだ箇所の復習

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：宗教学研究実習Ⅱ／ Religious Studies (Advanced Fieldwork)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時、後期 月曜日 5 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：木村 敏明、阿部 友紀、谷山 洋三、問芝 志保

コード：LM21407, 科目ナンバリング：, 使用言語：

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教学調査法

2. Course Title (授業題目)：How to research religions: from planning to fieldwork

3. 授業の目的と概要：他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必要である。本授業では、夏季に行われた宗教調査をもとにしてそのまとめ作業をおこなう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：It is important for students in religious studies to know living religious cultures. This course offers an opportunity for students to experience field research to deepen their understanding of religion.

5. 学習の到達目標：(1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
(2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students develop basic skills of field research in religious studies and deepen their understanding of living religious cultures

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakション 後期授業の概要
2. 第一回、前期調査のまとめ①フェイスシート整理作業
3. 第二回、前期調査のまとめ②聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業
4. 第三回、前期調査のまとめ③聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設
5. 第四回、前期調査のまとめ④聞き取りデータ整理作業 民間信仰
6. 第五回、前期調査成果発表準備①アウトライン作成
7. 第六回、前期調査成果発表準備②データの集約
8. 第七回、前期調査成果発表準備③スライド作成
9. 第八回、前期調査成果発表準備④発表予行演習
10. 第九回、前期調査成果発表
11. 第十回、現地調査報告書作成①社会組織と生業
12. 第十一回、現地調査報告書作成②神社・寺院・その他の宗教施設
13. 第十二回、現地調査報告書作成③民間信仰
14. 第十三回、現地調査報告書作成④校正など
15. 第十四回、総括と反省

8. 成績評価方法：

授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

No textbook will be used. References will be introduced in the class.

10. 授業時間外学習：授業中に指示された課題、準備。

Students are required to prepare for class assignments.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：現代日本学総合演習Ⅱ／ Japanese Studies (Comprehensive Seminar) II

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介. CRAIG CHRISTOPHE

コード：LM21501, 科目ナンバリング：LJS-0HS608J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本学研究の実践
2. Course Title (授業題目)：Innovative Japanese Studies (Practicum)
3. 授業の目的と概要：日本研究の方法と対象・領域について諸学問分野の基礎文献を取り上げ課題を設定し報告する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will take up the fundamental texts of the various academic disciplines concerned with Japanese Studies and choose and present on a research topic.
5. 学習の到達目標：日本研究の方法の多様な方法論を実践的に習得し研究報告を行う中で課題を発見する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will learn to practically engage with the wide variety of methodological theories concerned with Japanese Studies and discover new issues while presenting their research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目では Google Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

授業計画

第1回：はじめに—日本学とは何か—

第2回：文献・研究課題に関わるガイダンス①

第3回：文献・研究課題に関わるガイダンス②

第4回：担当者による口頭発表と質疑応答①

第5回：担当者による口頭発表と質疑応答②

第6回：担当者による口頭発表と質疑応答③

第7回：担当者による口頭発表と質疑応答④

第8回：担当者による口頭発表と質疑応答⑤

第9回：担当者による口頭発表と質疑応答⑥

第10回：担当者による口頭発表と質疑応答⑦

第11回：担当者による口頭発表と質疑応答⑧

第12回：担当者による口頭発表と質疑応答⑨

第13回：担当者による口頭発表と質疑応答⑩

第14回：日本学の課題についての総合討論①

第15回：日本学の課題についての総合討論②まとめ

8. 成績評価方法：

発表（レポートを含む）[60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、発表資料を作成し発表・報告を行う。

参考書は授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：報告の準備および報告時質疑内容の検討を通して知見を拡充する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：中国思想文献研究演習Ⅱ／ Literature on Chinese Thought(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 月曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：齋藤 智寛

コード：LM21502, 科目ナンバリング：LGH-PHI616J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『朱文公集』研究

2. Course Title (授業題目)：A Study of the Collected works of Zhu Wengong

3. 授業の目的と概要：南宋・朱熹（1130-1200）の文集『朱文公集』を選読する。朱熹の思想形成にも留意しながらその著作を読むことを通して、中国思想文献の精確な訳注を作成する能力を涵養するのが本演習の目的である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to provide students with the opportunity to read the several works by Zhuxi (朱熹) which are recorded in the Collected works of Zhu Wengong (朱文公集). The aim of this course is to cultivate the ability to produce accurate translations of Chinese thought literature, reading Zhuxi's works paying attention to development of his thought.

5. 学習の到達目標：中国思想の原典資料を読解し、精確な日本語訳および思想史的視点からの訳注を作成できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To be able to read and understand original sources of Chinese thought and to prepare accurate Japanese translations and notes from a historical perspective.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1、導入

2、『朱文公集』会読1

3、『朱文公集』会読2

4、『朱文公集』会読3

5、『朱文公集』会読4

6、『朱文公集』会読5

7、『朱文公集』会読6

8、『朱文公集』会読7

9、『朱文公集』会読8

10、『朱文公集』会読9

11、『朱文公集』会読10

12、『朱文公集』会読11

13、『朱文公集』会読12

14、『朱文公集』会読13

15、まとめ

8. 成績評価方法：

発表と討論での発言状況（100%）

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、教室でプリントを配布する。

10. 授業時間外学習：予習のほか、未解決箇所は授業後に調べて次回の討論に備えること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：フランス文学研究演習Ⅱ／ French Literature(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 5講時

semester：2学期 単位数：2

担当教員：MEVEL YANN ERIC

コード：LM21503, 科目ナンバリング：LGH-LIT649J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Jean - Philippe Toussaint

2. Course Title (授業題目)：Jean - Philippe Toussaint

3. 授業の目的と概要：The main aims of the course will be as follows：

- thematic and stylistic approaches to a work of fiction
- practice in text explanation
- practice in argumentation

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The main aims of the course will be as follows：

- thematic and stylistic approaches to a work of fiction
- practice in text explanation
- practice in argumentation

5. 学習の到達目標：- Critical approach to the notion of the minimalist novel

- Forms and objects of malaise , humour and irony

6. Learning Goals(学修の到達目標)：- Critical approach to the notion of the minimalist novel

- Forms and objects of malaise , humour and irony

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Introduction
- 2) Introduction
- 3) Text explanation
- 4) Text explanation
- 5) Text explanation
- 6) Text explanation
- 7) Text explanation
- 8) Text explanation
- 9) Text explanation
- 10) Text explanation
- 11) Text explanation
- 12) Text explanation
- 13) Text explanation
- 14) Text explanation
- 15) Conclusion
- 16) Film screening . Analysis and discussion

8. 成績評価方法：

Evaluation will take the form of continuous oral assessment , which requires participation in all classes . It will count for 60 % of the overall assessment . At the end of the second semester , students will be asked to write a brief critical review of

9. 教科書および参考書：

Jean - Philippe Toussaint , La Salle de bain ,Paris , Minuit , coll. Double

10. 授業時間外学習：For any text explanation , before the class students will need to check vocabulary , grammar points , references , and to consider the functions and effects of the text .

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：哲学総合演習Ⅱ／Seminar in PhilosophyⅡ

曜日・講時：後期 月曜日 5講時

セメスター：単位数：2

担当教員：城戸 淳.原 壘.直江 清隆

コード：LM21504, 科目ナンバリング：LIH-PHI607J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学研究の作法と技法 2

2. Course Title (授業題目)：Philosophy(Advanced Seminar)Ⅱ

3. 授業の目的と概要：口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を養う。

参加者は自由に自らの研究テーマを設定し、協議して決めた発表日までに、発表論文および発表資料（レジュメ等）を作成する。

発表の場では、発表者によるプレゼンテーションに続いて、参加者の中から予め指定された特定質問者を中心に、全員で自由な討論を行い、また教員からのコメントを受ける（哲学専攻分野の教員は可能な限り全員が出席する）。

参加者は研究発表を行うことを通して、研究テーマの発見、論文作成および発表の方法、討論の仕方等について、

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to express and deepen their philosophical thoughts through presentation and discussion.

5. 学習の到達目標：口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to structure philosophical discussions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 報告と討論 (1)
3. 報告と討論 (2)
4. 報告と討論 (3)
5. 報告と討論 (4)
6. 報告と討論 (5)
7. 報告と討論 (6)
8. 報告と討論 (7)
9. 報告と討論 (8)
10. 報告と討論 (9)
11. 報告と討論 (10)
12. 報告と討論 (11)
13. 報告と討論 (12)
14. 報告と討論 (13)
15. 報告と討論 (14)

8. 成績評価方法：

方法

研究発表をすること（単位認定のためには必須）

その上で、

発表内容 35%

討論へ参加 30%

討論の内容 35%

9. 教科書および参考書：

特に指定しない。

10. 授業時間外学習：報告者は前の週の金曜日までに原稿を用意する。

特定質問者および参加者はそれをもとに事前に質問事項を用意する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：倫理学総合演習Ⅱ／ Ethics (Integration Seminar II)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター： 単位数：2

担当教員：小松原 織香, 村山 達也

コード：LM21505, 科目ナンバリング：LIH-PHI623J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：発表と討論

2. Course Title (授業題目) : Presentation and Discussion

3. 授業の目的と概要：参加者は、自分の研究テーマに基づいた発表を行ない、特定質問者や他の参加者からの質問に答える。倫理学にかかわる問題について考えを提示し、議論する訓練をする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Participants will give presentations based on their research topics and answer questions from a discussant and other participants. Participants will be trained to present and discuss their thoughts on issues related to ethics.

5. 学習の到達目標：発表と討論を通して、相手に自分の考えを理解してもらい力と、相手の考えを理解する力とを、同時に養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Through presentations and discussions, students will simultaneously develop the ability to have others understand their own ideas and to understand the ideas of others.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

基本的には対面、特別な事情のある場合のみオンラインで開催します。資料や情報は classroom を使用して発信します。

1. ガイダンスと発表予定の決定

2. 発表と討論 2

3. 発表と討論 3

4. 発表と討論 4

5. 発表と討論 5

6. 発表と討論 6

7. 発表と討論 7

8. 発表と討論 8

9. 発表と討論 9

10. 発表と討論 10

11. 発表と討論 11

12. 発表と討論 12

13. 発表と討論 13

14. 発表と討論 14

15. 発表と討論 15

8. 成績評価方法：

発表 7 割、出席 3 割。

9. 教科書および参考書：

特になし。

10. 授業時間外学習：発表者の予稿を精読し、質問に備える。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本学総合科目Ⅱ／ Japanese Studies (Comprehensive Course)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 1 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LM22101, 科目ナンバリング：LAL-0AR504J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本学の古典／原典を読む
2. Course Title (授業題目)：Reading classical Japanese studies
3. 授業の目的と概要：日本学に関する古典的な文献（著作・論文）・日本学の研究資料となる原典を丁寧に読む。日本学の古典の理解、原典の多面的な読解を通じて、日本学研究のテキストから多様な観点を引き出し、日本学研究の基盤とすると同時に、日本学の考え方・方法を身につける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve concepts and methods of Japanese studies by reading classical materials related to Japanese studies and the source materials that serve as research materials for Japanese studies.
5. 学習の到達目標：(1) 日本学研究の古典／原典の性格を説明できる。
(2) 日本学研究の古典／原典を精確に読み、その内容について議論できる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students;
(1) explain the characteristics of the classics / original texts of Japanese studies,
(2) to be able to accurately read the classics / original texts of Japanese studies and discuss their contents.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. この科目は対面授業もしくは遠隔授業としておこないます。詳細は第 1 回目のガイダンスで説明します。
 2. この科目は、第 2 回目以降、全体を 3 クラス（下記 A～C）に分けて、それぞれのクラスごとに運営されます。その内容は第 1 回目のガイダンスで説明します。
 - A 思想・文化
 - B 言語・文学
 - C 歴史
- 第 1 回：日本学の古典／原典総論（ガイダンス）
- 第 2 回：日本学テキスト精読の方法と意義
- 第 3 回：日本学テキストを読むための道具
- 第 4 回：発表の方法
- 第 5 回：日本学テキスト精読(1)
- 第 6 回：日本学テキスト精読(2)
- 第 7 回：日本学テキスト精読(3)
- 第 8 回：日本学テキスト精読(4)
- 第 9 回：日本学テキスト精読(5)
- 第 10 回：日本学テキスト精読(6)
- 第 11 回：日本学テキスト精読(7)
- 第 12 回：日本学テキスト精読(8)
- 第 13 回：日本学テキスト精読(9)
- 第 14 回：日本学テキスト精読(10)
- 第 15 回：まとめ
8. 成績評価方法：
レポート 60%
参加態度 40%
9. 教科書および参考書：
テキストはコピーして配布する。
参考書
『日本国語大辞典 第二版』小学館 2000-2002
諸橋轍次『大漢和辞典 修訂版』大修館書店 1989-1009
中田祝夫編『古語大辞典』小学館 1983
その他、参考書は授業内で随時提示する。
10. 授業時間外学習：(1) 当該時に扱うテキスト範囲について十分予習して授業にのぞむこと。
(2) 各自の担当範囲に関して、十分な調査を行い、発表にのぞむこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：日本語研究論文作成法Ⅱ／ Advanced Japanese for Academic writing II

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LM22201, 科目ナンバリング：LAL-0AR517J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アカデミックライティングの書き方

2. Course Title (授業題目)：Academic writing II

3. 授業の目的と概要：この授業の目的は、大学や大学院の学習に必要なレポートや論文を作成する手順にそって、レポートを完成させるまでのプロセスを学ぶことです。そのために、テーマの調べ方や資料の調べ方、文章の構成の仕方、引用の方法などを学びます。また、ペアやグループで相互にコメントし、レポートをよりよくする方法も学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students learn and experience the process of writing a report in Japanese. This course also furthers the development of a student's research skills. Specifically, in developing a research topic and thesis, reviewing relevant literature, and learning writing structure and citation methods. In addition, students have opportunities to practice peer review and improve their reports.

5. 学習の到達目標： 1 文章を書くときに必要な表現やスキルを身につける

2 読み手にわかりやすく書く力をつける

3 レポートや論文を作成する方法を身につける

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goals of this course are to

1. develop the writing skills and learn useful expressions.

2. learn proper sentence construction.

3. learn the skills necessary for writing a report or a research paper

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業実施方法（授業の実施形態：オンライン）

1. オリエンテーション

2. テーマを見つけよう・調べよう

3. 資料の探し方を知ろう

4. 資料を整理しよう・話し合おう

5. 資料を読んで整理しよう

6. テーマの絞り込みと定義の重要性を学ぼう

7. 定義の書き方を考えよう

8. 筆者の意図と構成を考えよう

9. タイトル・アウトラインを作成しよう

10. 引用方法や参考文献の書き方を学ぼう

11. レポートを書くときの表現を学ぼう

12. レポートを作成する前に確認しよう

13. ともだちのレポートを読んでフィードバックをしよう

14. フィードバックを読んで、よりよい文章に直そう

15. 自分のレポートを読んで、自分の成長をまとめよう

8. 成績評価方法：

宿題 50%、出席及び受講態度 40%、最終レポート 10%

以上の割合で、総合的に判定する

9. 教科書および参考書：

教科書はありません。授業のときに指示します。参考書は『あしか：アイデアをもって社会について考える（レポート・論文編）』（ココ出版）、『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』（ひつじ書房）

など

10. 授業時間外学習：ほぼ毎回、作文の宿題があります。授業では、宿題で書いてきた作文をペアやグループで読み合います。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：日本古代・中世史研究演習Ⅱ／ Ancient and Medieval History in Japan(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：堀 裕

コード：LM22202, 科目ナンバリング：LJS-HIS610J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古代史料の研究（1）

2. Course Title (授業題目) : research of ancient historical materials

3. 授業の目的と概要：平安時代を学ぶための基本史料である『小右記』をテキストとしてとりあげる。『小右記』は、平安時代中期の男性貴族の日記である。記載された内容を精読するとともに、関連する史料も調査し、読解する。このことにより、史料としての扱い方に習熟し、古記録に基づいた歴史像の構築の方法について理解を深める。なお、授業では各回担当者が報告する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course aims to improve the students' ability to read Heian era's document written by a male nobleman. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class. References(handouts) are provided.

5. 学習の到達目標：日本古代の古記録、とくに男性貴族の記した日記に関する知識を得て、理解を深めるとともに、その内容から日本古代の歴史像を構築する力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : To gain the fundamental skills in reading Japanese sources. Students can deepen their understanding of the society of Heian era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1.
ガイダンス 『小右記』とは何か。講読のすすめかた。

2.
『小右記』を読む（1）

3.
『小右記』を読む（2）

4.
『小右記』を読む（3）

5.
『小右記』を読む（4）

6.
『小右記』を読む（5）

7.
『小右記』を読む（6）

8.
『小右記』を読む（7）

9.
『小右記』を読む（8）

10.
『小右記』を読む（9）

11.
『小右記』を読む（10）

12.
『小右記』を読む（11）

13.
『小右記』を読む（12）

14.

『小右記』を読む(13)

15.

まとめ

8. 成績評価方法:

レポート(50%)・授業での報告と討論への参加(50%)

9. 教科書および参考書:

テキスト 『大日本古記録 小右記』1~11(岩波書店)。購入の必要はない。

10. 授業時間外学習: 史料を事前に読むこと及び復習を行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他:

科目名：文化人類学特論Ⅱ／ Cultural Anthropology (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：ボレー・ペンメレン・セバスチャン

コード：LM22203, 科目ナンバリング：LGH-CUA602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化人類学各論

2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology (Special Lecture)

3. 授業の目的と概要：本授業は、東北アジア諸国および関連地域の社会組織に対する人類学的アプローチを議論する。日本、中国、その他の近隣諸国の災害文化を背景にする。扱われる主題は、いわゆる「自然」災害と「人為的」災害の両方の災害に関連するものである。講義においては、社会的連帯、回復力、脆弱性、コミュニティなどの概念が取り上げられる。学生の数に応じて講義の後にグループ討論を実施し、最終的に全体の結論を導きます。

授業は全て対面で行います。

授業名は東北アジア文化人類学です。

Classroomで講義を「受講」して課題を完了させ

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course introduces the anthropological approach to the social organization of countries in Northeast Asia and its neighbours, including Japan, Taiwan, Korea, and China. We use the context of cultures of disasters in Japan, China, and some of its neighbouring countries. The topic will be dealt within both so-called 'natural' and 'human-made' catastrophes. Each lecture will deal with the concept of social solidarity, resilience, vulnerability, community, nature, environment, climate change, and other contemporary concepts. Most lectures will be followed by a group discussion and a general conclusions.

The classes will be onsite.

The name of the GoogleClass is Cultural Anthropology (Special Lecture)

Please receive the materials and complete the assignments in GoogleClassroom.

5. 学習の到達目標：

6. Learning Goals (学修の到達目標)：

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- I. 授業のイントロダクション
- II. 現代世界における災害
- III. 人類学の視点から見た災害災害
- IV. リスクと脆弱性について
- V. 減災におけるレジリエンス
- VI. 気候変動、適応、脆弱性
- VII. 災害時の社会的連絡
- VIII. 災害コミュニティの移動と移動
- IX. 災害対応のアクターとアジェンダ
- X. 災害「想像の共同体」
- XI. 犠牲者、追悼、メモリアル宗教と災害
- XII. 宗教と災害
- XIII. 東日本大震災と仏教
- XIV. 災害ツーリズム、記憶、語り部
- XV. 将来の災害文化人類学

8. 成績評価方法：

レポートとクイズ

9. 教科書および参考書：

教科書がなし。読書リスト 研究室で適宜指示する。[No textbook. Reading lists and/or handouts]

10. 授業時間外学習：読書（論文とチャプター）を通読した上でメモを書き、講義ノートを作成する。次の講義に参加する前に、個人で、または他の学生と一緒に協力して復習する。Lectures notes and written memos based on the reading (articles and chapters). Review with other students after each lecture.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

授業は全て対面で行います。The classes will be onsite.

科目名：インド仏教史特論Ⅱ／ History of Indian Buddhism(Advanced Lecture)II

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

semester：2学期 単位数：2

担当教員：桜井 宗信

コード：LM22204, 科目ナンバリング：LGH-PHI604J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読
2. Course Title (授業題目)：rGyud sde spyi rnam of bSod nams rtse mo：reading
3. 授業の目的と概要：チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の管長を務めた bSod nams rtse mo(1142-1182)の代表作の1つ『タントラ概論』(rGyud sde spyi rnam)の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：By intensive reading of the rGyud sde spyi rnam, which is one of the masterpiece of bSod nams rtse mo (the second of the Five Venerable Masters of Sa skya pa), this course helps students learn about basic knowledge and theory of the Tantric Buddhism transmitted from India to Tibet, and deepen the ability of digesting native Tibetan Buddhist literatures in classical written Tibetan.
5. 学習の到達目標：インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will acquire the fundamental knowledge of Indo-Tibetan Tantric Buddhism, and develop the skills of reading classical Tibetan Buddhist literatures.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 『タントラ概論』講読 -1-
 2. 『タントラ概論』講読 -2-
 3. 『タントラ概論』講読 -3-
 4. 『タントラ概論』講読 -4-
 5. 『タントラ概論』講読 -5-
 6. 『タントラ概論』講読 -6-
 7. 『タントラ概論』講読 -7-
 8. 『タントラ概論』講読 -8-
 9. 『タントラ概論』講読 -9-
 10. 『タントラ概論』講読 -10-
 11. 『タントラ概論』講読 -11-
 12. 『タントラ概論』講読 -12-
 13. 『タントラ概論』講読 -13-
 14. 『タントラ概論』講読 -14-
 15. 『タントラ概論』講読 -15-
8. 成績評価方法：

授業・発表への取り組み (100%)
9. 教科書および参考書：

rGyud sde spyi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』
10. 授業時間外学習：予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

リアルタイム型オンライン形式で実施。

「インド学仏教史」専攻分野所属学生のみ履修可。

科目名：言語学研究演習Ⅱ／Linguistics (Advanced Seminar) II

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

semester：単位数：2

担当教員：那須川 訓也

コード：LM22205, 科目ナンバリング：LIH-LIN609J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：音韻論概説 II

2. Course Title (授業題目)：Introduction to phonology II

3. 授業の目的と概要：この授業を通して、英語と日本語の母語話者が示す超分節現象で観察される規則に焦点を当て、音声、言語（文法）構造を構成している単位としてどのように機能しているかを学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will study how speech sounds function as units of linguistic (grammatical) structure, focusing on suprasegmental patterns in native-speaker spoken English and Japanese.

5. 学習の到達目標：この授業を通して、諸言語話者の (i) 母語の音節構造, (ii) 音現象を制御する規則, (iii) 文法理論における音韻知識の位置づけ、を説明できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to explain (i) what language speakers know about their native syllable structure, (ii) some of the rules controlling sound patterns in a particular language, and (iii) where phonological knowledge belong

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画は以下の通りである。毎回の進度は受講者の様子によって若干変わります。

第1回：音韻論と音声学

第2回：英語の音配列論

第3回：きこえ度と音節

第4回：英語の音節構造

第5回：オンセット

第6回：ライムと核

第7回：コーダ

第8回：日本語の音配列論

第9回：日本語の音節構造とモーラ

第10回：音節類型論

第11回：強勢規則

第12回：最適性理論 (OT)

第13回：接辞化と音韻規則

第14回：複合語形成と音韻規則

第15回：借用語と音韻規則

毎回授業の冒頭で、前回の授業内容を復習する。

8. 成績評価方法：

レポート課題×2 (60%), 確認テスト×1 (40%)

9. 教科書および参考書：

教科書：小泉 政利 (編) 2016. 『ここから始まる言語学プラス統計分析』 共立出版。

10. 授業時間外学習：毎回、授業で扱った教科書の個所と例を復習すること。そして不明な部分があれば、教員に尋ねること。
[After each class students are expected to review the material and examples studied in class, and to ask the instructor for guidance/clarification where necessary.]

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：計算人文社会学研究演習Ⅲ／ Computational Humanities and Social Sciences(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：単位数：2

担当教員：LYU ZEYU

コード：LM22206, 科目ナンバリング：LIH-OS0614J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会調査法への認知科学的アプローチ
2. Course Title (授業題目)：Cognitive Approaches to Survey Methodology
3. 授業の目的と概要：現代社会ではインターネットに繋がるデバイスの普及を反映して、デジタル社会調査が興隆している。本授業では、オンライン調査、デジタルなインフラを用いるサーベイ実験、サーベイとビックデータとの連携を含むデジタル社会調査の概念と応用に関して、文献購読と議論を通じて理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In contemporary society, the proliferation of digital devices is reflected in the rise of digital social survey research. This course seeks to enhance comprehension of the principles and practices of digital social survey research through reading and discussion. Topics covered include conducting online surveys, implementing survey experiments through digital infrastructure, and the combination of surveys and big data analysis.
5. 学習の到達目標：デジタル社会調査の概念と応用手法を習得する
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To learn the concepts and application methods of digital social survey research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 授業計画の説明
 2. オンライン調査について
 3. オンラインパネル
 4. オンライン調査のバイアス
 5. 質問紙の設計(1)
 6. 質問紙の設計(2)
 7. パラデータ
 8. オンライン調査の管理
 9. オンライン・サーベイ実験(1)
 10. オンライン・サーベイ実験(2)
 11. オンライン・サーベイ実験(3)
 12. サーベイとビックデータ(1)
 13. サーベイとビックデータ(2)
 14. サーベイとビックデータ(3)
 15. サーベイとビックデータ(4)
8. 成績評価方法：

出席+授業内での議論への参加 [60%], 期末レポート [40%]
9. 教科書および参考書：

初回の授業で指定する。
10. 授業時間外学習：(1) 演習の時間に取り上げる文献を事前に読んで検討しておく。
(2) 担当の文献に関する報告の準備をする。
(3) 関連文献を検索して読み、あわせて検討する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：文化財科学特論Ⅱ／ Science of Cultural Properties(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：藤澤 敦

コード：LM22301, 科目ナンバリング：LJS-CUM602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究

2. Course Title (授業題目)：Japanese Cultural Properties Protection Law system and the characteristic of the archaeological study

3. 授業の目的と概要：日本では、発掘調査の圧倒的多数が、開発に伴う調査であることが特徴である。このような調査は、文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政の一環として、行政機関によって実施されている。このことは日本における考古学研究に大きな影響を与えている。

本講義では、文化財保護法や関連する諸規定と、それに基づく埋蔵文化財保護行政の実際について解説する。あわせて、文化財保護行政の今後の展望についても検討し、その中での考古学研究のあり方について考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In Japan, majority of excavation is carried out in advance of construction or other land development. Such excavation is performed as a part of preservation of cultural properties administration. This situation is having a big influence on an archaeology study in Japan. This course provides explanations of Act on Protection of Cultural Properties and administrative practical business affair based on a law. Future's view of cultural property protection administration is also considered.

5. 学習の到達目標：(1) 日本の埋蔵文化財保護行政の枠組みと実務について理解する。

(2) 日本の文化財保護行政と考古学研究の関係について理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students understand:

(1)Basic structure of buried cultural properties protection administration in Japan

(2)Relation between cultural property protection administration and archaeological studies in Japan

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

この授業では、屋外での史跡見学を行います。

1. 授業概要と進め方の解説および導入
2. 日本の考古学をめぐる状況
3. 文化財保護法の基本理念と構成
4. 教育委員会制度
5. 文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政 (1)
6. 文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政 (2)
7. 文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政 (3)
8. 国指定史跡制度
9. 国史跡の保存管理と整備活用
10. 史跡仙台城跡の見学
11. これからの文化財保護行政 (1)
12. これからの文化財保護行政 (2)
13. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究 (1)
14. 日本の埋蔵文化財保護行政と考古学研究 (2)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席と小レポートを合わせて総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

資料を随時配布する。参考文献については講義中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：現代日本学歴史分析研究演習 I / Japanese Studies History (Research Seminar) I

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：CRAIG CHRISTOPHE

コード：LM22302, 科目ナンバリング：, 使用言語：

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本史文献購読・英訳
2. Course Title (授業題目)：Reading and Translation Fundamentals for Japanese History
3. 授業の目的と概要：購読と英訳を通じて、日本語の歴史文献を読書・翻訳の基礎技術を学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Using student reading and translation presentations, this class aims at providing basic skills and practice in reading and translating Japanese academic history writing.
5. 学習の到達目標：将来の日本語の文献に関する事業のために基礎の読書と翻訳の能力を身に着ける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this class is to provide a basis in reading and translation for future work involving academic, particularly historical, works in Japanese.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. 文献の紹介
2. 文献購読・英訳
3. 文献購読・英訳
4. 文献購読・英訳
5. 文献購読・英訳
6. 文献購読・英訳
7. 文献購読・英訳
8. 文献購読・英訳
9. 文献購読・英訳
10. 文献購読・英訳
11. 文献購読・英訳
12. 文献購読・英訳
13. 文献購読・英訳
14. 文献購読・英訳
15. 文献購読・英訳

8. 成績評価方法：

翻訳・出席 [70%] 提出翻訳 [30%]

9. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。

Readings will be distributed for each class.

10. 授業時間外学習：各時間の前に適宜資料を読んで英訳する。

1 回書いた英訳を提出する。

Students are expected to read and translate assigned sections for each class. All students will present their reading and translation in each class meeting. One polished translation is to be submitted for grading.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

Class instruction will be largely in English, but the source material will be in Japanese, making proficiency in both languages necessary.

科目名：フランス文化学特論Ⅱ／ French Culture(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：翠川 博之

コード：LM22303, 科目ナンバリング：LGH-LIT643J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：物語論の探求-物語形式の分析
2. Course Title (授業題目)：Exploring Narratology: Analyzing Narrative Structures
3. 授業の目的と概要：物語論とは物語の構造や語りの機能を分析する文学理論のひとつです。G. ジュネットの著作からその主要概念を取り上げ、物語がどのように構成されているのかを具体的作品に基づいて考察していきます。物語形式の分析を通じて文学作品の主題や内容を考察できるよう、その方法論を学びましょう。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course delves into narratology, a literary theory that scrutinizes the structure and narrative functions within a story. Drawing upon Gérard Genette's treatise, we will explore key concepts and dissect how stories are constructed by examining specific literary works. Students will acquire the necessary methodology to scrutinize the subject matter and content of literary pieces through a comprehensive analysis of narrative forms.
5. 学習の到達目標：1. 物語論のスキームを理解して文学作品の形式を評価できるようになる。
2. 物語論の分析概念を適切に用いて文学作品を分析できるようになる。
3. 文学研究に物語論を応用して作品解釈を深めることができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Comprehend the schematics of narratology and proficiently assess the form of various literary works.
2. Apply appropriate analytical concepts of narratology to effectively analyze and deconstruct literary texts.
3. Utilize narrative theory in literar
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回 物語論とは何か
第2回 時間① 順序：錯時法；先説法／後説法
第3回 時間② 順序：錯時法；回顧的後説法
第4回 時間③ 持続：休止法／伸長法／叙景法／要約法／省略法
第5回 時間④ 頻度：単起的物語言説／反復的物語言説／括復的物語言説
第6回 叙法① 話法：距離と再現；直接話法／間接話法
第7回 叙法② 焦点化：内的固定焦点化
第8回 叙法③ 焦点化：内的不定焦点化
第9回 叙法④ 焦点化：内的多元焦点化
第10回 叙法⑤ 焦点化：外的焦点化とゼロ焦点化
第11回 態① 語りの時間：後置的／前置的／同時的／挿入的語り
第12回 態② 語りの水準：物語世界外／物語世界内の語り手
第13回 態③ 語りの水準：等質物語世界的／異質物語世界的語り手
第14回 態④ 語りの水準：転説法
第15回 まとめ
8. 成績評価方法：
課題への取り組み (50%)、学期末レポート (50%)
9. 教科書および参考書：
【教科書】 プリントを配布する。
【参考書】 以下の書籍を随時参照する。
Gérard Genette, Figures III, Seuil, coll. Poétique, 1972.
Gérard Genette, Nouveau discours du récit, Seuil, coll. Poétique, 1983.
ジェラルド・プリンス『改定 物語論辞典』(遠藤建一訳) 松柏社, 2015.
上記ジュネットの著作の訳書として、
『物語のディスクール 方法論の試み』(花輪光・和泉凉
10. 授業時間外学習：事前に課題を指示しますので必ず予習をしてきてください。授業後には資料とテキストを読み返し、学んだ事柄について自分自身で検証を行ってください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：英文学研究演習Ⅱ／ English Literature (Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：TINK JAMES MICHA

コード：LM22304, 科目ナンバリング：LGH-LIT621E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Reading Modern Novels

2. Course Title (授業題目)：現代小説を読む

3. 授業の目的と概要：This course will read some examples of British novels and consider recent critical approaches to the contemporary novel and studies of fiction. The aim will be to help students consider the status of novels and contemporary fiction, and of how to better r

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：このコースでは、イギリスの小説の例をいくつか読み、現代の小説やフィクション研究に対する最近の批評的アプローチについて考察する。その目的は、受講生が小説と現代小説の位置づけを考え、物語散文を分析的に読む方法を身につけることである。学期中には、代表的な短編小説を3作読むことを目標とする： ミュリエル・スパークの『The Prime of Miss Jean Brodie』(1961年)、カズオ・イシグロの『When We Were Orphans』(2000年)、デボラ・レヴィの『Swimming Home』(2012年)である。それぞれの小説は、幼少期のトラウマ、個人の記憶、世界史の考え方をテーマとしながらも、フィクションのナレーションのさまざまな形式(大雑把に言えば、「全知」、「信頼できない」、「自由間接」)を示している。小説を読みながら、精神分析、修辞学、美学、感情論など、影響力のある最新の小説批評を紹介する。学期末までには、学生は戦後イギリスの小説について、どのように小説を読み、どのように小説を書けばよいかをより深く知ることになるはずである。

5. 学習の到達目標：1: To read modern novels in English

2: To consider the themes of childhood and trauma in recent fiction

3: To review critical approaches to understanding the novel

4: To improve skills for communicating in English (speaking and writing)

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1: 英語の現代小説を読む。

2: 最近の小説における子供時代とトラウマのテーマについて考える。

3: 小説を理解するための批評的アプローチを検討する。

4: 英語でのコミュニケーション能力を高める。

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1: Introduction

2: Muriel Spark, The Prime of Miss Jean Brodie 1

3: Spark II

4: Spark III

5: Spark IV

6: Kazuo Ishiguro, When We Were Orphans I

7: Ishiguro II

8: Ishiguro III

9: Ishiguro IV

10: Ishiguro V

11: Deborah Levy, Swimming Home I

12: Levy II

13: Levy III

14: Levy IV

15: Conclusion

8. 成績評価方法：

Presentation 25%; short writing assignments 25%; final research paper 50%

9. 教科書および参考書：

Muriel Spark, *The Prime of Miss Jean Brodie* (Penguin)

Kazuo Ishiguro, *When We Were Orphans* (Faber)

Deborah Levy, *Swimming Home* (Faber)

10. 授業時間外学習：Short writing assignments to Google Classroom

Class Presentation

Final Essay

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

This class will be held in English

科目名：ドイツ語学研究演習Ⅱ / German Language (Advanced Seminar) II

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LM22305, 科目ナンバリング：, 使用言語：

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語・ドイツ語圏文化講読
2. Course Title (授業題目) : German Language and Culture (Advanced Seminar)
3. 授業の目的と概要：1) ドイツの雑誌(週刊誌)や近年の文学作品を読むことを通してドイツ語能力、ドイツ語圏文化の知識を身に着ける。
2) 雑誌記事または近年発表された文学作品を3週間当たり1作品(雑誌記事は2週間当たり1本)ぐらいのペースで読んでいく。
3) 参加者のドイツ語力や関心に合わせて文学作品や雑誌記事の代わりに中・上級の教材を使うこともある
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：1) Improving German language skills and cultural knowledge through the reading of journal articles and literature.
2) Reading German pieces of literature in 3 weeks, and journal articles in 2 weeks.
3) Depending on the interests and the language skills of participants, the original materials may be replaced by materials from advanced-level textbooks.
5. 学習の到達目標：語彙を増やし、各自が持っているドイツ語を読む能力を高める。
また、聞き取り・会話力を含め、ドイツ語のコミュニケーション能力を高める。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : Expand vocabulary, listening and reading skills according to the language materials.
Expanding communicative skills through narration, presentation, and discussion.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下は一例である。

1. Sina Kamala Kaufmann: Helle Materie
2. Sina Kamala Kaufmann: Helle Materie
3. Sina Kamala Kaufmann: Helle Materie
4. Gerhard Falkner: Schorfheide
5. Gerhard Falkner: Schorfheide
6. Gerhard Falkner: Schorfheide
7. Clemens Setz: Der Trost runder Dinge
8. Clemens Setz: Der Trost runder Dinge
9. Clemens Setz: Der Trost runder Dinge
10. Fatma Aydemir: Eure Heimat ist unser Albtraum
11. Fatma Aydemir: Eure Heimat ist unser Albtraum
12. Fatma Aydemir: Eure Heimat ist unser Albtraum
13. Norbert Scheuer: Winterbienen
14. Norbert Scheuer: Winterbienen
15. Norbert Scheuer: Winterbienen

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。クラスコードはシラバス入力時点では未定で学期初めに決まります。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

8. 成績評価方法：

毎回の授業参加、課題、宿題(原則として毎回)に基づく。

9. 教科書および参考書：

上記の「授業内容」で掲載された書籍を教材とする

10. 授業時間外学習：授業の準備、宿題

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：社会行動科学特論Ⅱ／ Social Behavioral Science(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

semester：単位数：2

担当教員：小川 和孝

コード：LM22306， 科目ナンバリング：LIH-OS0602J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：合理的選択理論入門
2. Course Title (授業題目)：Introduction to rational choice theory
3. 授業の目的と概要：合理的選択理論の代表的な文献を講読し、その基本的な考え方の理解を身につける。また、代表的なモデルの応用について検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course deals with major readings on the rational choice theory. Students are expected to learn the basic thoughts on the theory and practice on the application of typical models.
5. 学習の到達目標：(1) 文献講読を通じて、合理的選択理論の基本的な考え方を理解し、代表的なモデルの応用について検討できるようになる。
(2) 担当回の発表を通じて、学術的な発表の経験を積む。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To gain basic understandings on the rational choice theory and practice on the application of typical models
(2) To learn academic presentation skills
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション (1)
 2. イントロダクション (2)
 3. 人的資本、努力、性別役割分業 (1)
 4. 人的資本、努力、性別役割分業 (2)
 5. 人種隔離のダイナミックモデル (1)
 6. 人種隔離のダイナミックモデル (2)
 7. 人種隔離のダイナミックモデル (3)
 8. コモンズの悲劇
 9. 集合行動のいき値モデル (1)
 10. 集合行動のいき値モデル (2)
 11. 協力の進化
 12. 社会理論、社会調査、行為の理論 (1)
 13. 社会理論、社会調査、行為の理論 (2)
 14. 総合演習 (1)
 15. 総合演習 (2)
8. 成績評価方法：

授業への積極的参加、文献の担当回における発表および課題提出
9. 教科書および参考書：

小林盾・金井雅之・佐藤嘉倫編，2022，『リーディングス 合理的選択理論——家族・人種・コミュニティ』勁草書房.
10. 授業時間外学習：指定された文献をあらかじめ読んでから授業に臨むことが求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：哲学研究演習Ⅱ／Philosophy(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LM22307, 科目ナンバリング：LIH-PHI609J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：・技術の哲学

2. Course Title (授業題目)：Seminar on philosophy of technology

3. 授業の目的と概要：現在の技術哲学の基礎文献を読み、基礎的な問題構成を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to read the basic literature on the philosophy of technology

5. 学習の到達目標：・現代の技術哲学の基本概念について説明をすることができる。

・現代の技術哲学に孕む様々な問題とその解決方について論じることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：・Explain the essential concepts of the philosophy of technology

・Discuss the fundamental issues in the philosophy of technology

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業では、参加者による論文紹介と討論をメインとし、じっくり討論することに力を置く。授業開始時に提示された日本語ないし英語の文献(P. =P. フェルベーク『技術の道德化』/Maarten Franssen et al. (ed.) Philosophy of Technology after the Empirical Turn 2016)を文献リストをもとに選択する。以下のような内容を想定する。

- 1, オリエンテーション
- 2, 歴史と背景(1)
- 3, 歴史と背景(2)
- 4, 現象学と解釈学(1)
- 5, ポスト現象学と解釈学(2)
- 6, 批判理論(1)
- 7, 批判理論(2)
- 8, 分析哲学的アプローチ(1)
- 9, 分析哲学的アプローチ(2)
- 10, デザインの哲学
- 11, リスクの哲学都倫理
- 12, 情報技術から哲学へ (1)
- 13, 情報技術から哲学へ (2)
- 14, ロボット工学と人工知能
- 15, まとめ

8. 成績評価方法：

レポート(報告を含む) 80% 授業への参加 (討論) 20%

9. 教科書および参考書：

直江清隆「技術哲学と〈人間中心的〉デザイン」『知の生態学的転回』2013。直江清隆「行為の形としての技術」『思想』2001-7。マーク・クケルバーク『技術哲学講義』直江清隆、久木田水生監訳、丸善出版、2023(Marck Coeckelbergh, Introduction to philosophy of technology, 2020) ほかの使用文献(日、英)は適宜配布する。

10. 授業時間外学習：事前にテキストを読み、議論に備える。また、授業での方向、議論をもとに、振り返って考察する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：心理学研究実習Ⅱ／ Psychological Methodology II

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：単位数：2

担当教員：阿部 恒之、荒井 崇史、坂井 信之、辻本 昌弘、RAEVSKIY ALEXAND、河地 庸介

コード：LM22308， 科目ナンバリング：LIH-PSY617J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：心理学基礎実験

2. Course Title (授業題目)：Basic Psychological Experiment

3. 授業の目的と概要：心理学では現象の解明のために、実験・調査・心理検査、あるいは事例研究など、さまざまな手法を活用する。その基本は現象の観察によるデータの収集と解析である。実験実習に参加することによって心理学実験の基本を学ぶとともに、心理学研究の進め方を習得し、活用できることを目指す。実習テーマは毎回異なる。心理学実験では主として実験的方法を用いたメニューを、心理学研究法では、調査・心理検査など、そのほかの手法についてのメニューを用意している。参加者は原則的に毎回レポート提出が義務付けられている。なお、以下の授業計画は担当

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Psychologists use various empirical methods like experimental method, survey method, interview method, psychological test, and case-study method to understand and explain behavior. The fundamentals are the observation of behavior and data collection and analysis. In this course, the students practically acquire the knowledge and skills essential for psychological research (psychological experiments, in particular). The students are required to submit the report for each class.

5. 学習の到達目標：種々の心理学研究法の基本を実習を通じて学び、基本的スキルを習得し、その理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is that students acquire and deepen the knowledge and skills essential for psychological research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面での授業を基本とする。

ただし、状況に応じてオンライン・オンデマンド授業を行う。

なお、授業資料と授業情報についてはClassroomを使用して発信する。

内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. オリエンテーション
2. 感情の測定 (ポリグラフィー)
3. 心理物理学的測定法
4. 幾何学的錯視
5. 一対比較法
6. 感覚の尺度化
7. 反応時間
8. ゲーム理論に基づく実験
9. 潜在的態度の測定
10. 脳機能の計測法 (NIRS)
11. 官能評価法とその応用
12. 心理学の応用1 (裁判所)
13. 信号検出理論
14. 心理学の応用2 (市場調査)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート [60%], 出席 [40%]

9. 教科書および参考書：

Google Classroomにて指示する。

10. 授業時間外学習：毎時間レポートを課すので、定められた期限までに提出のこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

履修は原則として心理学専攻分野の大学院生に限る。

前期の心理学研究実習Ⅰと連続履修すること。ペアを組んで毎回実験を行うため、途中放棄や欠席はパートナーに重大な迷惑をかける。

科目名：英語発表技能演習／ Academic Presentation (Practicum)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：CRAIG CHRISTOPHE

コード：LM22401, 科目ナンバリング：LAL-0AR513E, 使用言語：英語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語の学術発表
2. Course Title (授業題目)：Academic Presentation in English
3. 授業の目的と概要：授業では、英語の学術の環境の中で研究を報告の仕方を学ぶ。また、全面的に英語の学会やシンポジウムに参加する方法を学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This class offers practical instruction on presenting research in an English-language academic setting. It also provides instruction on various aspects of participation in English-language academic conferences and symposia.
5. 学習の到達目標：英語の学会やシンポジウムに参加し報告することが出来るための必要の技術を学ぶ。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The primary goal of the class is for students to gain the skills necessary to present at and participate in English-language academic conferences and symposia.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 序論:英語の学会
 2. 発表・報告の基本
 3. ディスカッションと質問
 4. 学生発表と フィードバック
 5. 学生発表と フィードバック
 6. 学生発表と フィードバック
 7. 学生発表と フィードバック
 8. 学生発表と フィードバック
 9. 学生発表と フィードバック
 10. 学生発表と フィードバック
 11. 学生発表と フィードバック
 12. 学生発表と フィードバック
 13. 学生発表と フィードバック
 14. 学生発表と フィードバック
 15. 学生発表と フィードバック
8. 成績評価方法：

Presentation [60%], Discussion participation [40%]
9. 教科書および参考書：

必要な適宜資料を配布する。
Necessary readings will be distributed.
10. 授業時間外学習：1 回研究発表
12 回ディスカッション
1 presentation
Discussion participation (each class)
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

This class is taught in English.

科目名：現代日本学学芸分析特論 I / Japanese Studies Liberal Art (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介

コード：LM22402, 科目ナンバリング：LJS-OHS601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代皇室の文化表象
2. Course Title (授業題目)：Study on representation of Japanese Royal family
3. 授業の目的と概要：本講義では、戦後から現代における皇室の文化表象の検討を通して日本学研究の可能性を考える。具体的にはポピュラーカルチャーを中心に戦後以降の天皇と皇室を描いた様々なイメージを検討し、それらが近現代日本社会においていかに位置づけられるのかを考察する。参加者には積極的なアウトプットを求める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course offers an opportunity to think about possibility of Japanese Studies,from analyze of representation of Post-war Japanese royal family. In particular, this course focus on images of the Emperor and royal family in the 2010s and think about the meaning of those images in post-war Japanese society. This course calls for audiences active participation.
5. 学習の到達目標：戦後の皇室表象の検討を通して、日本学研究について知見を得ることができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students better understand diversity in Japanese Studies while learning about the representation of post-war Japanese royals.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。
第 1 回 インTRODククション
第 2 回 天皇制と表象
第 3 回 天皇・皇室表象の“限界”
第 4 回 事例研究 1：「セカイ系」と天皇
第 5 回 事例研究 2：偽史と正史のあいだ
第 6 回 事例研究 3：8 月 15 日の神話叙述
第 7 回 事例研究 4：「Jブンガク」の天皇たち
第 8 回 事例研究 5：闘う少女天皇
第 9 回 事例研究 6：皇族萌えの到達点
第 10 回 事例研究 7：生殖と連帯
第 11 回 事例研究 8：「天皇晴れ」と「災害の時代」
第 12 回 事例研究 9：天皇と怪獣
第 13 回 事例研究 10：天皇と新皇
第 14 回 事例研究 11：妖怪と天皇的なもの
第 15 回 まとめ
8. 成績評価方法：
履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書は特に指定しない。参考書は適宜指示する。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。学外での調査も含まれる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：日本思想史特論Ⅱ／ History of Japanese Thought (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LM22403, 科目ナンバリング：LJS-PHI602J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：異界と他界の日本思想史

2. Course Title (授業題目)：History of Japanese Thought Regarding Another Worlds and Afterlife

3. 授業の目的と概要：現代人にとって「異世界」といえば、もっぱら漫画やアニメの重要素材とみなされるようになっているが、かつて異界（異空間）や他界（死後世界）が日本思想の形成に大きな影響を与えてきたことは間違いない。もともと、『日本書紀』に描かれる黄泉の国と、中世の仏教僧が語る極楽浄土とでは、同じ他界といっても、それらの性格は大きく異なる。日本人にとっての異界や他界は、歴史の流れのなかで、どのように変容していったのだろうか。本授業では、古代・中世の仏教説話を素材として、異界/他界観の変容を探り、さらにその歴史的な背景を検討してみ

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：For modern Japanese people, another worlds are mainly seen as important materials for manga and anime, but there is no doubt that in the past, another worlds and the afterlife have had a great influence on the formation of Japanese thought. However, even though the land of Yomi described in the Nihon Shoki (Chronicle of Japan completed in 720) and the Pure Land described by medieval Buddhist monks are the same afterlife, their characteristics are very different. How have another worlds and afterlife changed over the course of history for the Japanese people? In this course, we will use ancient and medieval Buddhist tales as material to explore the transformation of the idea of another worlds and afterlife, and further examine its historical background.

5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、古代・中世の仏教説話を正確に読み解き、日本人の心性とその変遷について考察できるようになることである。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this course is to be able to accurately read ancient and medieval Buddhist tales and consider the Japanese mentality and its changes.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンスー日本思想史における生と死ー

第2回：黄泉国の確立ー『古事記』を読む①ー

第3回：生者と死者の距離ー『日本霊異記』を読む①ー

第4回：仏教伝来と異界/他界の変容ー『日本霊異記』を読む②ー

第5回：肉体と魂の分離ー『日本霊異記』を読む③ー

第6回：富をもたらす異界ー『古事記』を読む②ー

第7回：病をもたらす異界ー「備後国風土記逸文」を読むー

第8回：遠ざかる極楽浄土ー『沙石集』を読むー

第9回：浄土を渴仰する人々ー『発心集』を読むー

第10回：抜け出し得ぬ地獄ー『今昔物語集』を読む①ー

第11回：救済者としての地蔵菩薩ー『今昔物語集』を読む②ー

第12回：山中で死者に出会うー『今昔物語集』を読む③ー

第13回：自宅に死者を招くー『伽婢子』を読むー

第14回：再び接近する現世と異界/他界ー『霊の真柱』を読むー

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

本授業は、1人1回ずつ担当する学生発表 60%、各授業中に行う史料読解力チェック 20%、ミニットペーパー20%の割合で評価する。

9. 教科書および参考書：

課題史料は、授業ごとにコピーを配付する。

10. 授業時間外学習：発表担当となった受講生は、事前に発表準備を進める。

授業ごとに指定する課題史料は、受講生全員が事前に精読しておく。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本思想史特論Ⅳ／ History of Japanese Thought (Advanced Lecture) IV

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LM22404, 科目ナンバリング：LJS-PHI610J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：異界と他界の日本思想史
2. Course Title (授業題目)：History of Japanese Thought Regarding Another Worlds and Afterlife
3. 授業の目的と概要：現代人にとって「異世界」といえば、もっぱら漫画やアニメの重要素材とみなされるようになっているが、かつて異界（異空間）や他界（死後世界）が日本思想の形成に大きな影響を与えてきたことは間違いない。もともと、『日本書紀』に描かれる黄泉の国と、中世の仏教僧が語る極楽浄土とは、同じ他界といっても、それらの性格は大きく異なる。日本人にとっての異界や他界は、歴史の流れのなかで、どのように変容していったのだろうか。本授業では、古代・中世の仏教説話を素材として、異界/他界観の変容を探り、さらにその歴史的な背景を検討してみ
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：For modern Japanese people, another worlds are mainly seen as important materials for manga and anime, but there is no doubt that in the past, another worlds and the afterlife have had a great influence on the formation of Japanese thought. However, even though the land of Yomi described in the Nihon Shoki (Chronicle of Japan completed in 720) and the Pure Land described by medieval Buddhist monks are the same afterlife, their characteristics are very different. How have another worlds and afterlife changed over the course of history for the Japanese people? In this course, we will use ancient and medieval Buddhist tales as material to explore the transformation of the idea of another worlds and afterlife, and further examine its historical background.
5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、古代・中世の仏教説話を正確に読み解き、日本人の心性とその変遷について考察できるようにすることである。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this course is to be able to accurately read ancient and medieval Buddhist tales and consider the Japanese mentality and its changes.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第 1 回：ガイダンスー日本思想史における生と死ー
 - 第 2 回：黄泉国の確立ー『古事記』を読む①ー
 - 第 3 回：生者と死者の距離ー『日本霊異記』を読む①ー
 - 第 4 回：仏教伝来と異界/他界の変容ー『日本霊異記』を読む②ー
 - 第 5 回：肉体と魂の分離ー『日本霊異記』を読む③ー
 - 第 6 回：富をもたらす異界ー『古事記』を読む②ー
 - 第 7 回：病をもたらす異界ー「備後国風土記逸文」を読むー
 - 第 8 回：遠ざかる極楽浄土ー『沙石集』を読むー
 - 第 9 回：浄土を渴仰する人々ー『発心集』を読むー
 - 第 10 回：抜け出し得ぬ地獄ー『今昔物語集』を読む①ー
 - 第 11 回：救済者としての地蔵菩薩ー『今昔物語集』を読む②ー
 - 第 12 回：山中で死者に出会うー『今昔物語集』を読む③ー
 - 第 13 回：自宅に死者を招くー『伽婢子』を読むー
 - 第 14 回：再び接近する現世と異界/他界ー『霊の真柱』を読むー
 - 第 15 回：まとめ
8. 成績評価方法：

本授業は、1 人 1 回ずつ担当する学生発表 60%、各授業中に行う史料読解力チェック 20%、ミニットペーパー20%の割合で評価する。
9. 教科書および参考書：

課題史料は、授業ごとにコピーを配付する。
10. 授業時間外学習：発表担当となった受講生は、事前に発表準備を進める。

授業ごとに指定する課題史料は、受講生全員が事前に精読しておく。

 - 1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 - 1 2. その他：

科目名：日本語学総合演習Ⅱ／ Japanese Linguistics(Integration Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：甲田 直美, 中西 太郎, 大木 一夫

コード：LM22405, 科目ナンバリング：LJS-LIN607J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本語研究の諸問題(1)

2. Course Title (授業題目)：Studies of contemporary Japanese language

3. 授業の目的と概要：現代日本語研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：About modern Japanese Studies participants survey and criticize prior research on the themes of each participant, and determine their own themes and research methods, while grasping the current trends in the academic world where various research themes exist. After that, we will conduct surveys based on the theme and method, conduct analysis and consideration based on the collected data, and announce the results orally. In addition, the contents will be discussed by all participants. Through oral presentations and discussions, students will learn how to research and criticize prior research on their own themes, how to consider them based on sufficient scrutiny of materials, and how to effectively describe new methodologies and research results.

5. 学習の到達目標：(1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。

(2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。

(3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) The current research trend can be grasped and it can be shown explicitly.

(2) To be able to make oral presentations on their own themes based on appropriate evidence and evidence.

(3) Discussions can be made based on the content of the oral presenta

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：ガイダンス・研究発表の方法

第2回：研究発表(1)

第3回：研究発表(2)

第4回：研究発表(3)

第5回：研究発表(4)

第6回：研究発表(5)

第7回：研究発表(6)

第8回：研究発表(7)

第9回：研究発表(8)

第10回：研究発表(9)

第11回：研究発表(10)

第12回：研究発表(11)

第13回：研究発表(12)

第14回：研究発表(13)

第15回：研究発表(14)

定期試験は実施しない。

8. 成績評価方法：

(1) レポート (研究発表の内容にもとづく論文) 90%

(2) 参加態度 (口頭発表に対する質疑・応答など) 10%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

参考書：

佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014

飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007

日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018

10. 授業時間外学習：発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演習 I も連続履修すること。

科目名：日本文学総合演習Ⅱ／ Japanese Literature(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 4講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰、仁平 政人、横溝 博

コード：LM22406, 科目ナンバリング：LJS-LIT606J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本文学史の考究とその論述
2. Course Title (授業題目)：Research of History of Japanese Literature
3. 授業の目的と概要：論文作成の実践にもとづく日本文学の作品、表現についての演習形式の授業を通して、個別の作品、表現の特質を明らかにし、その意義を広く文学史、文化史の中に位置づけて行く。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will clarify the characteristics of individual expressions in Japanese literature works by practicing the writing of treatises, and position their significance widely in the history of literature and culture.
5. 学習の到達目標：日本文学を著実に考究し、論述し、歴史的に意味づけるための高度で専門的な問題発見力、分析力、構想力を総合的に習得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students comprehensively acquire advanced and specialized problem-finding ability, analytical ability, and conceptual ability necessary for steadily studying, discussing, and historically making sense of Japanese literature.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 2. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

授業における発表 [60%]・授業への参加 [40%]
9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しないが、各回で考察対象とする作品のテキストを各自で用意する。
参考書は、随時紹介する。
10. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品とあらかじめ配布された資料を精読し、質問事項を用意しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

この授業はⅠ・Ⅱを連続して履修すること。

科目名：中国語学中国文学特論Ⅱ／ Chinese Language and Literature(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 4講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：張 佩茹

コード：LM22407, 科目ナンバリング：, 使用言語：

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代中国語の諸相

2. Course Title (授業題目)：Various Aspects of Modern Mandarin Chinese

3. 授業の目的と概要：現代中国語の言語的特徴について、理解を深めることを目的とする。まず、現代中国語に関する概説を読み、その全体像をある程度把握したうえで、テーマ別の研究論文の精読を通して、中国語学における重要な概念や構文、さらに、問題意識の置き方や研究手法について学習する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to enhance students' understanding of the linguistic characteristics of modern Mandarin Chinese. At first, students are required to read an overview of modern Mandarin Chinese, and then by reading research papers that deal with different aspects of modern Mandarin Chinese, students learn about the essential concepts and structures in this language as well as learn how to ask appropriate research questions and the possible ways of research in Chinese linguistics.

5. 学習の到達目標：①中国語の論文を正確に読み解く能力を身につける。

②中国語学における重要な概念を理解し、説明することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：①Students will be able to read research papers written in Chinese accurately.

②Students will understand the essential concepts in Chinese linguistics and know how to explain them appropriately.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

<授業内容・方法>基本的に講義形式で行うが、演習も取り入れる。

<進捗予定>

第1回 ガイダンス

第2回 研究論文3 (一)

第3回 研究論文3 (二)

第4回 研究論文3 (三)

第5回 研究論文3 (四)

第6回 研究論文4 (一)

第7回 研究論文4 (二)

第8回 研究論文4 (三)

第9回 研究論文4 (四)

第10回 研究論文5 (一)

第11回 研究論文5 (二)

第12回 研究論文5 (三)

第13回 研究論文5 (四)

第14回 研究論文5 (五)

第15回 期末まとめ

8. 成績評価方法：

授業への取り組み：50%

課題：50%

9. 教科書および参考書：

<教科書>プリントを配布する。

<参考書>『文法講義』朱德熙 著、杉村博文・木村英樹 訳、白帝社、1995年

10. 授業時間外学習：予習：プリントの指定箇所を読んだうえ、問題点を整理する。

復習：プリントや関連資料を読み返し、正確に理解できたかを確認する。興味関心のある文法現象について考える。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：哲学特論Ⅱ／ Philosophy(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：大森 仁

コード：LM22408, 科目ナンバリング：LIH-PHI602J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学的論理学入門
2. Course Title (授業題目)：An introduction to philosophical logic
3. 授業の目的と概要：論理学の歴史は古く、アリストテレスにまで遡ることができます。しかし、古いからといって、全てが明らかになっているわけではなく、今もなお多くの論理学者たちが、様々な問題と向き合っています。本講義では、様相論理に関して技術的・哲学的に基本的な事柄について扱います。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Logic has a long history, going back to Aristotle. This, however, does not mean that everything has been discovered, and there are still a number of logicians facing various questions. This course aims at providing students with the basics of both technical as well as philosophical topics related to modal logic.
5. 学習の到達目標：様相論理に関する健全性定理及び完全性定理の証明を理解すること、及び関連する哲学的話題を理解することの二点を目的とします。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed for students (i) to understand the soundness and completeness result for modal logic, and (ii) to understand philosophical topics related to modal logic.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - [1] ガイダンス
 - [2] 様相論理の形式言語
 - [3] 様相論理の意味論 (1)
 - [4] 様相論理の意味論 (2)
 - [5] 様相論理の意味論 (3)
 - [6] 様相論理の意味論 (4)
 - [7] 様相論理の証明体系 (1)
 - [8] 様相論理の証明体系 (2)
 - [9] 様相論理の意味論と証明体系の関係 (1)
 - [10] 様相論理の意味論と証明体系の関係 (2)
 - [11] 様相論理の意味論と証明体系の関係 (3)
 - [12] 様相論理の意味論と証明体系の関係 (4)
 - [13] 様相論理に関連する哲学的話題 (1)
 - [14] 様相論理に関連する哲学的話題 (2)
 - [15] まとめ
8. 成績評価方法：

期末レポートを主とし (60 パーセント)、平常点 (コメントペーパーの提出など) を加味します (40 パーセント)。
9. 教科書および参考書：

講義中に適宜紹介します。
10. 授業時間外学習：講義の内容の復習をしっかりとしてください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：理論社会学特論Ⅱ／ Theoretical Sociology(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター： 単位数：2

担当教員：小松 丈晃

コード：LM22409, 科目ナンバリング：LIH-SOC602J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：リスクと無知の社会学
2. Course Title (授業題目)：Sociology of Risk and Ignorance
3. 授業の目的と概要：講義形式で進める授業である。現代社会は、自然災害と科学技術が連動しあう複合災害のリスクに備えなければならない。この授業では、社会的なリスクや安全に関する研究を概観しながら、複雑化する現代社会におけるリスクとのつきあい方について考えていきたい。最初に、社会学におけるリスクに関する議論を概説し、その後、科学論「第三の波」等、科学社会学の展開状況もふまえながら、科学的専門知の有様について考察する。最後に、東日本大震災をはじめとする超広域複合災害を念頭におきながら、リスクと信頼と無知（想定外）の間の捻れた関係
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This is a lecture-centered course.
We need to prepare against the risk of complex disasters in which the natural disaster and technological crisis occur simultaneously. This course is designed to help students understand the outline of sociological risk theories and gain the perspective needed to discuss the way to cope with the new risks that face us. First, the sociological risk theories are reviewed. Then the public's confidence in science and the responsibility of the experts will be discussed. Finally, we consider the distorted relationship between risk, trust(or confidence) and ignorance and the critical problems resulting from this relationship.
5. 学習の到達目標：・現代社会が直面するリスクとのつきあい方について、自分なりに考察できる手がかりを得る。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students gain the perspective needed to discuss the way to cope with the new risks.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. リスク論事始め
 2. リスク社会学再訪—U. ベックの社会学理論の検討—
 3. 社会学システム論によるリスク研究—N. ルーマンについて—
 4. メアリー・ダグラスのリスク論とその影響
 5. リスクと道徳（1）
 6. リスクと道徳（2）
 7. リスク社会と信頼（1）
 8. リスク社会と信頼（2）
 9. リスクの社会的増幅・減衰の枠組み(SARF)
 10. リスクガバナンスの考え方(1)
 11. リスクガバナンスの考え方(2)
 12. リスクと信頼の捻れた関係—新制度派組織論の視点—
 13. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか—（1）
 14. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか—（2）
 15. まとめ
8. 成績評価方法：
授業終了後のミニットペーパーへの記入内容と平常点 40%+レポート提出 60%で評価
9. 教科書および参考書：
教科書はありません。参考書は、授業の各トピックに応じて、参考にすべき文献を適宜指示します。
10. 授業時間外学習：授業において、適宜、自宅で行うべき学習課題を出す予定です。
授業時間外での資料収集に基づいた中間レポートも提出してもら予定です。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：日本語理解表現スキルⅡ／ Japanese comprehension and expression skills II

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LM22501, 科目ナンバリング：LAL-0AR526J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：読解力と口頭表現能力の改善
2. Course Title (授業題目)：improving of reading and speaking skills
3. 授業の目的と概要：読解活動は、読んだことから内容を再構築する過程です。そこでこの授業の目的は、あるまとまった文章を読んで理解したことを相手に話すことによって、読む力と話す力を伸ばします。そのため、授業では、ペアになって、読んだ内容を相手に伝えるという目的で読み、相手に話す活動を繰り返し行います。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Reading comprehension can be defined as the process of reconstructing a story from reading material. The aim of this course is to improve students' reading and speaking skills in Japanese by post-reading retelling activity in pairs. Students have opportunities to retell the story to each other in each pair of learners.
5. 学習の到達目標：
 - 1 数文レベルから 600 字程度までのまとまった文章を読んで理解できる
 - 2 理解した内容を相手に適切に伝えることができる
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goals of this course are to:
 1. comprehend a decent amount of sentences which is less than 600 characters.
 2. inform what you understand to someone adequately.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. オリエンテーション
 2. 再話活動(1)
 3. 再話活動(2)
 4. 再話活動(3)
 5. 再話活動(4)
 6. 再話活動(5)
 7. 再話活動(6)
 8. 中間テスト
 9. 再話活動(7)
 10. 再話活動(8)
 11. 再話活動(9)
 12. 再話活動(10)
 13. 再話活動(11)
 14. 再話活動(12)
 15. 期末テスト
8. 成績評価方法：

課題 25%、クイズ 25%、中間テスト 25%、期末テスト 25%

以上の割合で、総合的に判定する
9. 教科書および参考書：

教科書はありません。授業のときに指示します。

参考書は『初中級からの読解』（凡人社）、『新わくわく文法リスニング 100』（凡人社）など
10. 授業時間外学習：毎回、課題とクイズがあります。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：日本語学総合演習IV／ Japanese Linguistics(Integration Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：甲田 直美, 大木 一夫, 中西 太郎

コード：LM22502, 科目ナンバリング：LJS-LIN609J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代日本語研究の諸問題(2)

2. Course Title (授業題目)：Studies of contemporary Japanese language

3. 授業の目的と概要：現代日本語研究について、種々の研究テーマの存在する現在の学界の動向を把握しながら、参加者各自のテーマに関する先行研究の調査・批判をおこない、自己のテーマと研究方法を定める。その上で、テーマ・方法に即した調査をおこない、収集したデータをもとに分析考察を進め、その成果を口頭発表する。また、その内容について、参加者全員による討論をおこなう。自己のテーマに関する先行研究の調査・批判の方法、資料の十分な精査に基づいた考察方法、新たな方法論・研究成果の有効な記述法などを口頭発表、討論等を通じて身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：About modern Japanese Studies participants survey and criticize prior research on the themes of each participant, and determine their own themes and research methods, while grasping the current trends in the academic world where various research themes exist. After that, we will conduct surveys based on the theme and method, conduct analysis and consideration based on the collected data, and announce the results orally. In addition, the contents will be discussed by all participants. Through oral presentations and discussions, students will learn how to research and criticize prior research on their own themes, how to consider them based on sufficient scrutiny of materials, and how to effectively describe new methodologies and research results.

5. 学習の到達目標：(1) これまでの研究動向を把握し、それを明示的に示すことができる。

(2) 各自のテーマに関して、適切な根拠と論証にもとづき、口頭発表することができる。

(3) 口頭発表の内容に即した討論ができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) The current research trend can be grasped and it can be shown explicitly.

(2) To be able to make oral presentations on their own themes based on appropriate evidence and evidence.

(3) Discussions can be made based on the content of the oral presenta

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：ガイダンス・研究発表の方法

第2回：研究発表(1)

第3回：研究発表(2)

第4回：研究発表(3)

第5回：研究発表(4)

第6回：研究発表(5)

第7回：研究発表(6)

第8回：研究発表(7)

第9回：研究発表(8)

第10回：研究発表(9)

第11回：研究発表(10)

第12回：研究発表(11)

第13回：研究発表(12)

第14回：研究発表(13)

第15回：研究発表(14)

定期試験は実施しない。

8. 成績評価方法：

(1) レポート (研究発表の内容にもとづく論文) 90%

(2) 参加態度 (口頭発表に対する質疑・応答など) 10%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

参考書：

佐藤武義・前田富祺編『日本語大事典』朝倉書店 2014

飛田良文他編『日本語学研究事典』明治書院 2007

日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版 2018

10. 授業時間外学習：発表に備え、着実に準備を進める。発表後は、発表時の質疑応答に基づき、研究内容をより深化・発展させる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

発表前には、必ず指導教員と面談を行なうこと。日本語学総合演習 III も連続履修すること。

科目名：日本近世・近代史研究演習Ⅳ／ Early Modern and Modern History in Japan(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：安達 宏昭

コード：LM22503, 科目ナンバリング：LJS-HIS616J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代史研究法 (2)

2. Course Title (授業題目)：Method of Studies on Japanese Modern History (2)

3. 授業の目的と概要：日本近世・近代史研究演習Ⅲの研究発表をふまえて、さらに研究を進めて、その成果を報告する。そして、討論を通して課題を絞り、論文などにまとめていく。このことを通して、受講者が、日本近現代史における現在の研究内容について学び、新しい歴史研究の構築とその内容の理解について認識を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Based on the research presentation of the Advanced Seminar on Early Modern and Modern History in JapanⅢ (Method of Studies on Japanese Modern History (1)), students will further research and report the results.

Then, through discussions, students narrow down the issues and summarize them into papers.

Through this, participants deepen their understanding of the contents of Japanese modern historical studies. This course will be taught in Japanese.

5. 学習の到達目標：(1)先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。

(2)自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。

(3)上記の2つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Students will be able to analyze and criticize previous research and select their own research issues.

(2) Students will be able to collect and analyze historical documents according to their own research issues.

(3) Based on the above two points, s

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義

2. 受講者の研究報告と討論 (1)

3. 受講者の研究報告と討論 (2)

4. 受講者の研究報告と討論 (3)

5. 受講者の研究報告と討論 (4)

6. 受講者の研究報告と討論 (5)

7. 受講者の研究報告と討論 (6)

8. 受講者の研究報告と討論 (7)

9. 受講者の研究報告と討論 (8)

10. 受講者の研究報告と討論 (9)

11. 受講者の研究報告と討論 (10)

12. 受講者の研究報告と討論 (11)

13. 受講者の研究報告と討論 (12)

14. 受講者の研究報告と討論 (13)

15. 受講者の研究報告と討論 (14)

8. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%]・(○) その他(発表態度、受講態度) [40%]

9. 教科書および参考書：

特になし。

10. 授業時間外学習：報告者の研究テーマに関する史実や先行研究などを、事前に学習しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約

履修要件：「近現代史研究法 (1) (2)」(安達担当)は、原則として連続して履修すること

科目名：ドイツ文化学特論Ⅱ／ German Culture (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：佐藤 雪野

コード：LM22504, 科目ナンバリング：LGH-LIT633J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ（語）文化圏としての中欧の文化と歴史 (9)

2. Course Title (授業題目)：Culture and History of Central Europe as a German Cultural Sphere (9)

3. 授業の目的と概要：広い意味でのドイツ（語）文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。

その際、ドイツ以外のドイツ（語）文化圏に着目する。

「ドイツ文化圏」としてのプラハに注目し、なぜそこに「ドイツ文化圏」が生じたのかを含め、プラハの多文化性を考察する。

講義のほかに、ドイツ語で書かれたテキストを読む機会を設け、ドイツ語の読解力も高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides students knowledge of history and culture of German speaking area, especially outside of today's Germany.

For this purpose we will discuss on multi-cultural Prague, also as a German cultural sphere.

Besides lectures we will read a German text in order to improve the students' ability of German language.

5. 学習の到達目標：1. ドイツ（語）文化圏の歴史と文化を理解する。

2. ドイツ語の読解力を向上させる。

3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1.Students will understand history and culture of German speaking area.

2.Students will develop skills to read German academic text.

3.Students will be able to present their research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業を原則とする。

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

1. オリエンテーション
2. エゴン・エルヴィン・キッシュとプラハ
3. ホロコーストとプラハ
4. Aus Prager Gassen und Nächten 1
5. Aus Prager Gassen und Nächten 2
6. Aus Prager Gassen und Nächten 3
7. Aus Prager Gassen und Nächten 4
8. Aus Prager Gassen und Nächten 5
9. Aus Prager Gassen und Nächten 6
10. Aus Prager Gassen und Nächten 7
11. Aus Prager Gassen und Nächten 8
12. Aus Prager Gassen und Nächten 9
13. Aus Prager Gassen und Nächten 10
14. Aus Prager Gassen und Nächten 11
15. まとめ

8. 成績評価方法：

平常点（出席、アサインメント、発言状況）：70%

期末課題：30%

9. 教科書および参考書：

テキストはプリント配布。

その他の参考書は授業中に指示する。

Text will be provided at the classroom. Reference books will be introduced at the class.

10. 授業時間外学習：予習は、テキストを読み、関連事項を調べておくこと。

復習時にも、調査が必要。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明（オフィス・アワー、講師への連絡方法など）は開講時に行う。

The further information for the lecturer will be given in class.

科目名：宗教学死生学総合演習Ⅱ／ Religious Studies / Death & Life Studies (Integration Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：高橋 原, 谷山 洋三, 木村 敏明, 間芝 志保

コード：LM22505, 科目ナンバリング：LGH-RES605J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教学死生学研究法
2. Course Title (授業題目)：Method of Religious Studies/ Death & Life Studies
3. 授業の目的と概要：この授業は、大学院在籍学生による研究発表と討論を通して、宗教学や死生学に関する高度な知識や方法を身につけることを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to acquire advanced knowledge and methods of religious studies and death studies through research presentations and discussions by graduate students.
5. 学習の到達目標：自他の研究内容について、学術的に発表および討論を行うことができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will gain skills for academic presentation and discussion
7. 授業の内容・方法と進度予定：
毎回の授業において1名ないし2名の大学院生が発表をおこない、その内容について全体で討論をおこなう。
8. 成績評価方法：
授業および発表への参加。
9. 教科書および参考書：
特になし。
10. 授業時間外学習：自らの研究を発表としてまとめること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：インド学研究演習Ⅱ／ Indological Studies(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LM22506, 科目ナンバリング：LGH-PHI607J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヴェーダ文献研究
2. Course Title (授業題目)：Vedic Literature
3. 授業の目的と概要：本講義では、『リグヴェーダ R.gveda』 IV 24 「Indra 讃歌」を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Aufrecht が校訂したテキストを用い、Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Student
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will read R.gveda IV 24 mainly based on the text edited by Aufrecht. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge in Indian philological study with Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL: Vedic Grammar for Student, DELBRÜCK: Altindische Syntax, etc.
5. 学習の到達目標：リグヴェーダ原典の講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of this course, students will be able to
 1. acquire fundamental skills of philological study through with reading of the R.gveda.
 2. achieve essential knowledge to understand the origin of religion, culture, and language in India.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)
 - 2-15 R.gveda IV 24
8. 成績評価方法：

授業への準備状況 (30%), 授業で示される理解度 (70%)
9. 教科書および参考書：

R.gveda-Saṁhitā (Ed. Aufrecht); Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL, Vedic Grammar for Student; DELBRÜCK, Altindische Syntax; WHITNEY, Sanskrit Grammar,
10. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではできるだけ多く読み進めることを目標にする。受講者は単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。十分な予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. They are also required to make a thorough review
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。
Knowledge of essential Sanskrit Grammar is prerequisite.

科目名：英語学研究演習Ⅳ／ English Linguistics (Advanced Seminar) IV

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：島 越郎

コード：LM22507, 科目ナンバリング：LGH-LIN614J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：意味論と語用論における諸問題の研究 I

2. Course Title (授業題目)：Topics in Semantics and Pragmatics I

3. 授業の目的と概要：生成文法における意味論や語用論の最新の研究を批判的に検討し、今後の理論展開の可能性を探る。前期に引き続き、Daniel Buring (2016) Intonation and Meaning, Oxford University Pressを精読する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course addresses theoretical and empirical issues in semantics and pragmatics.

Topics may include focussing, givenness, deaccenting.

5. 学習の到達目標：意味論と語用論における最新動向を把握する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of the course is to develop the background needed for independent semantic and pragmatic research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Ch. 8: More on focus/givenness realization (1)
- 2) Ch. 8: More on focus/givenness realization (2)
- 3) Ch. 8: More on focus/givenness realization (3)
- 4) Ch. 8: More on focus/givenness realization (4)
- 5) Ch. 8: More on focus/givenness realization (5)
- 6) Ch. 9: The meaning of tones (1)
- 7) Ch. 9: The meaning of tones (2)
- 8) Ch. 9: The meaning of tones (3)
- 9) Ch. 9: The meaning of tones (4)
- 10) Ch. 9: The meaning of tones (5)
- 11) Ch.10: Association with focus (1)
- 12) Ch.10: Association with focus (2)
- 13) Ch.10: Association with focus (3)
- 14) Ch.10: Association with focus (4)
- 15) Ch.10: Association with focus (5)

8. 成績評価方法：

レポート [80%] 授業における貢献度 [20%]

9. 教科書および参考書：

Daniel Buring (2016) Intonation and Meaning, Oxford University Press

10. 授業時間外学習：担当箇所は勿論のこと、担当外の箇所についてもしっかり予習し、不明な点を整理しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

生成文法に関する基礎的知識を前提とする。

科目名：現代哲学研究演習Ⅱ／ Contemporary Philosophy(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

semester：単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LM22508, 科目ナンバリング：LIH-PHI615J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現象学研究

2. Course Title (授業題目)：Seminar on Phenomenology

3. 授業の目的と概要：フッサールの『受動的総合の分析』を読み、現象学的な知覚、総合、自我、時間などの議論を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The aim of this course is to read Husserl's "Analyses Concerning Passive and Active Synthesis" and help students to acquire an understanding of the fundamental discussions of perception, synthesis, ego and time.

5. 学習の到達目標：・現象学の基本概念について説明をすることができる。

・現象学の議論における知覚、総合、自我、時間の役割について論じることができる

6. Learning Goals (学修の到達目標)：After taking this course, participants will be able to：

- Explain the essential concepts of phenomenology

- Discuss the role of perception, synthesis, ego and time in phenomenological arguments

7. 授業の内容・方法と進度予定：

前期に続き、『受動的総合の分析』を読んで議論する。

1、前期の授業の復習：『受動的総合の分析』における有機的世界の構成

2、「触発の現象」読解（1）

3、「触発の現象」読解（2）

4、「触発の現象」読解（3）

5、「触発の現象」読解（4）

6、中間まとめ1 触発について

7、「触発と連合」読解（5）

8、「触発と連合」読解（6）

9、「触発と連合」読解（7）

10、「触発と連合」読解（8）

11、中間まとめ2 連合について

12、「触発と予期」読解（9）

13、「触発と予期」読解（10）

14、「触発と予期」読解（11）

15、まとめ

8. 成績評価方法：

レポート50%

平常点50%(討論などを含む)

9. 教科書および参考書：

E. Husserl. "Analysen zur passiven Synthesis" (Husserliana XI), (Analyses Concerning Passive and Active Synthesis, trans. by A. J. Steinbock/『受動的総合の分析』山口一郎、田村京子訳、みすず書房) 欧文、訳文テキストは授業時に配布する。

参考書は随時紹介するが、翻訳に付けられた訳註と解説はまず有力な参考になる。

山口 一郎『現象学ことはじめ』白桃書房

欧文の参考書は

10. 授業時間外学習：担当でない場合でも予習する。テキストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、自分なりに取り組んでみる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：社会変動学研究演習Ⅳ／ Theory of Social Change(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

semester：単位数：2

担当教員：青木 聡子

コード：LM22509, 科目ナンバリング：LIH-SOC617J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：記憶継承の社会学
2. Course Title (授業題目)：Sociology of memory inheritance
3. 授業の目的と概要：戦争、災害、差別など、一般的にネガティブな感情をともなう記憶（＝いわゆる「負の記憶」）に、人びとはいかに集合的に向き合ってきたのか。この授業では、「負の記憶」を語ること、聞くこと、そして継承することに着目して、現代社会のあり様を考えることを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：How have people collectively faced memories that generally involve negative emotions, such as wars, disasters, and discrimination (so-called ``negative memories'')? The purpose of this class is to consider the state of modern society by focusing on talking about, listening to, and passing on "negative memories."
5. 学習の到達目標：記憶の継承をめぐる様々な論点を理解し、それらを文化的、政治的、社会的文脈の中に位置づけられるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this course is for students to understand the various issues surrounding the inheritance of memory and to be able to place them in cultural, political, and social contexts.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 ガイダンス——授業の進め方について
 - 2 経験を語ることの社会学(1)
 - 3 経験を語ることの社会学(2)
 - 4 経験を語ることの社会学(3)
 - 5 経験を語ることの社会学(4)
 - 6 経験を語ることの社会学(5)
 - 7 経験を語ることの社会学(6)
 - 8 経験を語ることの社会学(7)
 - 9 経験を語ることの社会学(8)
 - 10 経験を聞くことの社会学(1)
 - 11 経験を聞くことの社会学(2)
 - 12 経験を聞くことの社会学(3)
 - 13 経験を聞くことの社会学(4)
 - 14 経験を聞くことの社会学(5)
 - 15 まとめ——制度化される記憶とその相対化
8. 成績評価方法：

授業での報告およびディスカッションへの参加 40%、課題レポート 60%
9. 教科書および参考書：
 - テキスト：時間ごとに文献を指定します
 - 参考書：
 - (1) 関礼子編, 2023, 『語り継ぐ経験の居場所——排除と構築のオラリティ』新曜社.
 - (2) 石井弓, 2013, 『記憶としての日中戦争——インタビューによる他者理解の可能性』研文出版.
10. 授業時間外学習：指定されたテキストを事前に読んで、自分なりに論点を整理しておいてください。授業中に出される課題のために授業時間外の作業を要する場合があります。
 - 1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 - 1 2. その他：

初回は必ず出席してください。やむを得ない理由で出席できない場合には、事前にメールで連絡をください。

科目名：広域文化学総合科目Ⅱ／ Global Humanities (Comprehensive Course)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 1 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LM23101, 科目ナンバリング：LAL-0AR506J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：広域文化学の諸問題

2. Course Title (授業題目)：Issues in Global Humanities (Seminar)

3. 授業の目的と概要：本授業では広域文化学における諸問題について、受講者による発表と討論を通して学ぶ。自分の研究対象地域や研究方法とは異なった研究テーマをもった学生や教員と討論を行うことを通し、自らの研究の意義や広域文化学的な視点を身につけることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class, students will learn about various issues in global humanities through presentations and discussions by students.

5. 学習の到達目標：広域文化学をめぐる諸問題について多角的に考察することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：In this class, students will learn about various issues in global humanities through presentations and discussions by students.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回～第5回(司会 越智郁乃)

域際文化学分野の受講生を中心とした発表と討論

第6回～第10回(司会 矢田尚子)

東洋文化学分野の受講生を中心とした発表と討論

第11回～第15回(司会 黒岩卓)

西洋文化学分野の受講生を中心とした発表と討論

8. 成績評価方法：

発表、討論への参加状況による。

9. 教科書および参考書：

参考書は授業中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：発表の準備。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：実験心理学研究演習Ⅱ／ Experimental Psychology(Advanced Seminar) II

曜日・講時：後期 水曜日 1 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：阿部 恒之

コード：LM23102, 科目ナンバリング：LIH-PSY611J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：感情心理学の展開
2. Course Title (授業題目) : Development of emotion science
3. 授業の目的と概要：講義と発表・議論を繰り返し、差別問題に感情がどのように関わっているか、基礎研究と社会問題がいかに密接なつながりを持っているかを理解する。この過程を通じて、感情心理学の展開を学ぶ。

キーワード：基本感情、嫌悪、CAD 三幅対仮説、道徳基盤理論、差別、行動免疫システム

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This class consists of lecture and students' presentation/discussion to deepen understanding relationship between discrimination problems and emotions; basic researches and social problems. Students are expected to learn the development of the emotion science through this process.

Key words: basic emotions, disgust, CAD triad hypothesis, moral foundations theory, discrimination, behavioral immune system

5. 学習の到達目標：感情研究の展開を社会的・歴史的な観点から考えることができるようになる。また、人前で発表することに慣れるとともに、発表スキルを磨く。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students see the development of emotion science from a social/historical point of view, and improve presentation skill through active learning.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は対面で実施する。但し、オンデマンドビデオなどのリモート素材も活用する。資料提供や小レポートの提出、連絡などは Classroom を通じて行う。Classroom のクラスコードは、学部の「実験心理学演習Ⅱ」と共用するので、そちらに登録すること（詳細はガイダンスにて）。

以下のように講義を進めるが、実情に合わせて変更する。変更したスケジュールは、都度配布する。

講義とそれに関連した学生の発表・討議を 1 セットとして、このセットを 4 回繰り返す。

具体的には以下の通り。

- 1 回目 ガイダンス
- 2 回目 主要テーマ 1：基本感情
- 3 回目 感情心理学の補足・展開 1
- 4 回目 発表 1：基本感情
- 5 回目 主要テーマ 2：CAD 三幅対仮説
- 6 回目 感情心理学の補足・展開 2
- 7 回目 発表 2：CAD 三幅対仮説
- 8 回目 主要テーマ 3：道徳基盤理論
- 9 回目 感情心理学の補足・展開 3
- 10 回目 発表 3：道徳基盤理論
- 11 回目 主要テーマ 4：コロナ問題
- 12 回目 感情心理学の補足・展開 4
- 13 回目 感情心理学の補足・展開 5
- 14 回目 発表 4：コロナ問題
- 15 回目 発表 5：コロナ問題

8. 成績評価方法：

毎時間の小レポート (60%)、期末レポート* (10%)、発表資料の提出と発表* (20%)、出席**と討議への参加 (10%)
上記の合計得点を踏まえて総合的に評価する。

*期末レポートと発表資料の提出と発表については、もれなく提出・実施した者のみ単位認定対象とする。

**2/3 以上出席した者のみ単位認定対象とする。

9. 教科書および参考書：

資料は Classroom 経由で配布する。大学アドレスへのメールを頻繁に確認すること。

10. 授業時間外学習：論文(和・英)を読み、要約し、プレゼン資料をまとめ、授業中に発表してもらうので、授業準備には相応の手間がかかる。しっかりと準備して授業に臨んで欲しい。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

発表資料等，全ての提出物は受講生全員で共有して，互いに参考にする場合がある。これを前提に作成すること。
発表は自分自身のコンピュータを使って，パワーポイントの資料を投影する。
なお，講義室のプロジェクタはVGA端子（D-sub15pin）もしくはHDMIなので，変換端子を用意すること。
発表以外の時もコンピュータ持参のこと。

科目名：日本語変異論特論Ⅱ／Variation of Japanese(Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：中西 太郎

コード：LM23201, 科目ナンバリング：LJS-LIN604J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：方言研究の開拓

2. Course Title (授業題目)：Pioneering Dialect Studies

3. 授業の目的と概要： これまでの方言研究では、ことばの運用の地域差の解明に資する資料の蓄積とそれを用いた研究がまだ十分とは言えなかった。また、それらも含めたことばの総合的な地域差の研究成果をもとに、研究成果を社会に還元する取り組みにもさらなる展開の余地があると言える。

近年ではことばの運用の地域差解明に向けた理論と研究視座が発展し、ことばの地域差の研究成果を応用する実践的方言学も展開している。この授業では、そのような研究の目的と方法論を解説し、具体的な言語運用の地域差の記述、分析、応用を通してさまざまな課題について検討し

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)： Conventional dialect research has yet to accumulate enough data that would contribute to the clarification of regional differences in the use of language and to conduct research using such data. There is also room for further development in efforts to return research results to society based on the results of comprehensive research on regional differences in language, including regional differences in language use.

In recent years, theories and research perspectives have been developed to elucidate regional differences in language use, and practical dialectology has also been developed to apply the results of research on regional differences in language use. In this class, the purpose and methodology of such research will be explained, and various issues will be discussed through the description, analysis, and application of regional differences in specific language operations.

This time, we will particularly focus on linguistic behavior, interjections, and discourse, which have not been studied before, and consider their structure, variation, and regional differences in operation, and also examine their historical aspects.

5. 学習の到達目標：(1)講義でテーマにする研究領域の知見と研究動向を理解し説明できる

(2)講義でテーマにする研究領域の分析を的確にできる

(3)ことばの研究成果を応用する実践的な取り組みができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Understand and explain the findings and research trends of the research topics covered in this lecture

(2)To be able to analyze accurately the research topics in this lecture

(3)To be able to apply the results of research in dialectology in a practice

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス

第2回：言語行動・感動詞・談話研究の視点(1)

第3回：言語行動・感動詞・談話研究の視点(2)

第4回：言語行動・感動詞・談話研究の視点(3)

第5回：言語行動・感動詞・談話研究の資料(1)

第6回：言語行動・感動詞・談話研究の資料(2)

第7回：言語行動・感動詞・談話研究の資料(3)

第8回：言語行動・感動詞・談話研究の事例(1)

第9回：言語行動・感動詞・談話研究の事例(2)

第10回：言語行動・感動詞・談話研究の事例(3)

第11回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(1)

第12回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(2)

第13回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(3)

第14回：言語行動・感動詞・談話研究の調査結果分析(4)

第15回：半期の総括

※授業の進み具合や履修者の習熟度、その時の社会的状況に応じた受講環境を考慮し、スケジュール・内容には多少の変更を加えることがある。

8. 成績評価方法：

レポート(50%)、発表内容(30%)、授業への参加状況(課題などへの取り組みを含む)(20%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、補助資料を配布する。参考文献は、授業時に指示する。

10. 授業時間外学習：(1)言語行動や感動詞、談話について、自分および周囲の人たちの言葉遣いを観察し、授業の内容理解に役立てるようにする。

(2)研究発表のための分析、資料作成などの準備を行う。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

科目名：日本近世・近代史特論Ⅱ／ Early Modern and Modern History in Japan(Advanced Lecture)II

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：安達 宏昭

コード：LM23202, 科目ナンバリング：LJS-HIS604J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代史における日本とアジア
2. Course Title (授業題目)：Japan and Asia in Modern History
3. 授業の目的と概要：近現代日本とアジアの関係は、世界の中での日本の位置や抱えていた課題を示すものであった。本講義では、その関係を通して見える日本国内の政治経済構造の特質や、国際政治上の位置について考察することを目指す。具体的には、「大東亜共栄圏」と言われた戦時期の経済ブロック構想の内実とその実態について、それ以前・以後の歴史もふまえて考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The relationship between modern Japan and Asia shows Japan's position in the world and the issues it faced. This lecture aims to understand the characteristics of Japan's domestic political and economic structure and its position in international politics that can be seen through this relationship. Specifically, lectures will be given on the realities of the wartime economic bloc concept called the Greater East Asia Co-Prosperity Sphere, based on the historical background.
5. 学習の到達目標：(1) 近現代日本とアジアの関係について基礎的な事実を把握して理解できるようになる。
(2) 近現代日本の政治経済構想について理解できるようになる。
(3) 近現代における日本の国際社会での位置について理解できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to grasp and understand the basic facts about modern Japan's relationship with Asia, Japan's political and economic structure, and its position in the international community.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回 ガイダンス、概要、導入
 - 第2回 近代日本とアジア
 - 第3回 総力戦体制下の帝国日本の特徴とアジアとの関係
 - 第4回 「大東亜共栄圏」構想への道のり(1)
 - 第5回 「大東亜共栄圏」構想への道のり(2)
 - 第6回 「大東亜共栄圏」構想への道のり(3)
 - 第7回 「大東亜共栄圏」構想の内実(1)
 - 第8回 「大東亜共栄圏」構想の内実(2)
 - 第9回 「大東亜共栄圏」政策の展開(1)
 - 第10回 「大東亜共栄圏」政策の展開(2)
 - 第11回 「大東亜共栄圏」政策の展開(3)
 - 第12回 「大東亜共栄圏」政策の展開(4)
 - 第13回 戦後の日本とアジア(1)
 - 第14回 戦後の日本とアジア(2)
 - 第15回 戦後の日本とアジア(3) とまとめ
8. 成績評価方法：

期末レポート60%、出席20%、ミニッツペーパー20%
9. 教科書および参考書：

教科書：安達宏昭『大東亜共栄圏—帝国日本のアジア支配構想—』中公新書、2022年。
参考書：安達宏昭『戦前期日本と東南アジア』吉川弘文館、2022年。安達宏昭『「大東亜共栄圏」の経済構想』吉川弘文館、2013年。
その他、必要に応じて参考文献を紹介する。
10. 授業時間外学習：教科書、配付したプリントを、授業のために予習や復習を行う。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50 要予約

科目名：日本語教育方法論研究演習Ⅱ／ Methodologies in Japanese Language Teaching(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LM23203, 科目ナンバリング：LJS-LIN621J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語教育における論文講読
2. Course Title (授業題目)：Critical Reading in Japanese Language Education
3. 授業の目的と概要：受講者が興味関心のある領域の研究論文を持ち寄って批判的に検討し、研究論文の内容をまとめる力、批判的に検討する力を養う。また、先行研究を検討した上でどのように問いを立てるのか、先行研究を論文でどのようにまとめるのかについても学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will bring research papers in their areas of interest for critical review, and develop the ability to summarize and critically examine the content of research papers. In this course, they will also learn how to create questions after reviewing previous research and how to write a dissertation literature review.
5. 学習の到達目標：・自分が興味関心のある領域の研究論文の要旨をまとめることができる
・自分が興味関心のある領域の研究論文を批判的に読むことができる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Upon completion of the course, successful students will be able to:
-summarize the abstracts of research papers in his/her area of interest
-critically read research papers in his/her area of interest
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回 (10/1)：イントロダクション、問いを立てるとは①
第2回 (10/8)：問いを立てるとは②
第3回 (10/15)：先行研究をレビューするとは
第4回 (10/22)：先行研究の批判的検討①
第5回 (10/29)：先行研究の批判的検討②
第6回 (11/5)：先行研究の批判的検討③
第7回 (11/12)：先行研究の批判的検討④
第8回 (11/19)：先行研究の批判的検討⑤
第9回 (11/26)：先行研究の批判的検討⑥
第10回 (12/3)：先行研究の批判的検討⑦
第11回 (12/10)：先行研究の批判的検討⑧
第12回 (12/17)：先行研究の批判的検討⑨
第13回 (1/7)：研究倫理
第14回 (1/14)：先行研究の章の書き方
第15回 (1/21)：まとめ
12/24は休講の予定です。そこまでに授業を休講にした場合は、補講として授業を実施します。
8. 成績評価方法：
授業参加態度 30%、授業での課題 60%
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：日本近代文学研究演習Ⅱ／ Study of Japanese Modern Literature(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LM23204, 科目ナンバリング：LJS-LIT612J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代文学における〈生き物〉表象
2. Course Title (授業題目)：Study on representation of "living things" in Japanese Modern Literature
3. 授業の目的と概要：本演習は、明治期から近年にいたる多様な小説について、〈生き物〉の表象（特に動植物に関する文学的表現）という観点を軸に、多様な社会的・文化的なコンテクストを視野に入れて分析を行うことを目的とする。受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this exercise is to analyze various novels from the Meiji period to recent years from the viewpoint of the representation of "living things" (especially the literary representation of animals and plants) with a view to various social and cultural contexts. Students present the results of their analysis of literary works. We try to read the novel in detail through the discussion based on the presentation.
5. 学習の到達目標：(1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
(2) 日本近代文学の多様な展開とその特質について理解を深める。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To learn how to analyze, present and present literary works.
(2) To deepen students' understanding of the diverse developments and characteristics of Japanese Modern Literature.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この授業はオンラインで実施する。
 1. ガイダンス
 2. 担当者による口頭発表と討論
 3. 担当者による口頭発表と討論
 4. 担当者による口頭発表と討論
 5. 担当者による口頭発表と討論
 6. 担当者による口頭発表と討論
 7. 担当者による口頭発表と討論
 8. 担当者による口頭発表と討論
 9. 担当者による口頭発表と討論
 10. 担当者による口頭発表と討論
 11. 担当者による口頭発表と討論
 12. 担当者による口頭発表と討論
 13. 担当者による口頭発表と討論
 14. 担当者による口頭発表と討論
 15. 担当者による口頭発表と討論
8. 成績評価方法：
授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）
9. 教科書および参考書：
講義資料として、配布プリントを使用する。その他の関連文献は授業中に適宜紹介する。
10. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
本演習はⅠ・Ⅱを連続で履修すること。

科目名：英語学総合演習Ⅳ／ English Linguistics (Integration Seminar) I V

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：中村 太一・島 越郎

コード：LM23205, 科目ナンバリング：LGH-LIN610J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：英語学の諸問題研究 IV

2. Course Title (授業題目)：Current Topics in English Linguistics (Advanced Seminar) IV

3. 授業の目的と概要：英語学研究の最新の動向を把握し、各自の学習・研究の進展に役立てることを目的とする。授業は次の3部から構成される。

①最新の研究論文を担当者がオーラル・レポートする。

②討論者がコメントを加える。

③授業の参加者全員でディスカッションを行う。

授業に参加する者は、前もって論文に目を通し、積極的にディスカッションに参加することが望まれる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to discuss current issues in linguistic theory.

Students will participate fully in the classroom discussion about a reported paper.

5. 学習の到達目標：①英語学研究の最新動向を把握する

②研究論文の実践的作成法が身に付く

③効果的プレゼンテーション力が身に付く

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of the course is to develop the background needed for independent research and acquire skills for presentation.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1) Introduction

2) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

3) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

4) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

5) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

6) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

7) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

8) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

9) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

10) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

11) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

12) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

13) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

14) Oral Report and Discussion of Current Issues in Linguistic Theory

15) Summary

8. 成績評価方法：

期末レポート

9. 教科書および参考書：

取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知する。参考文献・参考書は随時紹介する。

10. 授業時間外学習：取り上げる論文は英語学研究室ホームページで前もって通知するので、読んだ上で参加すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：美学特論 I / Aesthetics (Advanced Lecture I)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZ

コード：LM23206, 科目ナンバリング：LIH-ART608J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：身体と美学：メルロー・ポンティの芸術論からシュミットの雰囲気論へ
2. Course Title (授業題目)：The Aesthetics and the Body: From the theory of art in Merleau Ponty to Schmitz' s Atmospheres
3. 授業の目的と概要：二十世紀の哲学においては、人間の身体性 (embodiment) は色々考えなおされて、特にフッサールの開始した現象学派においては身体は大きな問題として見做られてきた。知覚も感情も身体的なものとして認めたら、芸術の鑑賞と創作にとっても身体は大事なものになった。M. Merleau-Ponty と H. Schmitz の芸術論が根本的に違いますが、両方の思想においては身体は根本的な役割を果たす。現象学へ入門して、この著者の美術論を紹介する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In 20th century philosophy, human embodiment has been thoroughly rethought, especially in the phenomenological line of philosophy inaugurated by Husserl. Recognizing the body as a site of both perception and emotion, involved in both the production and the appreciation of art, made it extremely important for this approach. The analysis of embodiment of M. Merleau-Ponty and Hermann Schmitz, two major phenomenologists, differs significantly, but in both authors the body plays a central role. After introducing the general outlines of phenomenology, we will explore the theory of art in these two authors.
5. 学習の到達目標：現象学派の基礎的な知識を得て、その方法を美学・美術論の色々な問題に適用すること
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquiring a basic knowledge of phenomenology, and applying it to problems of aesthetics and art history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 美学というのは何ですか。
 2. フッサールと現象学の歴史
 3. メルロー・ポンティの現象学
 4. 「知覚の現象学」
 5. 「知覚の現象学」2
 6. メルロー・ポンティの絵画論「セザンヌ論」1
 7. メルロー・ポンティの絵画論「眼と精神」
 8. メルロー・ポンティの絵画論「眼と精神」2
 9. H. Schmitz の身体論「哲学体系」
 10. H. Schmitz の雰囲気論1
 11. H. Schmitz の雰囲気論2 ・G. Bohme との議論
 12. H. Schmitz の雰囲気論3 芸術論
 13. 現代現象学と身体論
 14. 現代現象学と身体論 2
 15. 試験
8. 成績評価方法：

筆記試験 (100)
9. 教科書および参考書：

全ての資料はスライドでされる。

参照書として

M. Merleau Ponty 「知覚の現象学」「眼と精神」

「シュミット現象学の根本問題：身体と感情からの思索」 / 梶谷真司著
10. 授業時間外学習：無
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：社会学特論Ⅲ／ Sociology(Advanced Lecture) III

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター： 単位数：2

担当教員：妙木 忍

コード：LM23207, 科目ナンバリング：LIH-SOC607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本の思想遺産・主婦論争を読む
2. Course Title (授業題目)：Japan's heritage of thought: Reading the Housewife Controversy
3. 授業の目的と概要：本授業では、フェミニズムの歴史を学ぶとともに、日本の思想遺産である主婦論争を解説することを目的としている。さらに、男性や社会にもかかわる論点がなぜ女性の論点として論じられてきたのか、なぜ女性のライフコース選択をめぐる論争が時代や論点の変容を経ても繰り返されるのかなど、社会のメカニズムについても考察する。さらに、東大祝辞（2019 年）を読み解くことを通して、日本におけるジェンダー問題を把握し、一人一人が生きやすい社会になるためにはどのようにしていきたいかを主体的に考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this course is to give an overview of the history of feminism and interpret the Housewife Controversy, part of Japan's heritage of thought. It also aims to analyze social mechanisms such as why the controversy revolved around women despite also concerning men and wider society, and why controversy regarding women's choice of life course continues even as the era and talking points change. Furthermore, through a reading of Chizuko Ueno's 2019 Matriculation Ceremony Congratulatory Address at the University of Tokyo, this course will help students grasp social problems in Japan from the perspective of gender, and explore how we can take independent action to change society.
5. 学習の到達目標：フェミニズムの歴史について理解する。
ジェンダーの視点から社会を読み解く力を身につける。
自分の問題関心にそって問いを立て、解くことができる力を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course is designed to help students understand the history of feminism. It also aims to consider social problems from the perspective of gender. Furthermore, it is intended to help students think about issues of concern to them, to pose their own
7. 授業の内容・方法と進度予定：
本授業は、講義を中心に進める。レスポンス・カードを用いた質疑応答や発表も取り入れる。内容および進度は以下の通りである。

第1回 イン트로ダクション
第2回 フェミニズムの歴史
第3回 ジェンダー研究の展開
第4回 家族の戦後体制
第5回 労働とジェンダー（統計データを読む）
第6回 主婦論争とは何か
第7回 第1次・第2次・第3次主婦論争
第8回 第4次主婦論争
第9回 第5次主婦論争
第10回 第6次主婦論争
第11回 主婦論争の通時的分析、日本におけるジェンダー規範の変容
第12回 発表と討論①
第13回 発表と討論②
第14回 東大祝辞（2019 年）を読む
第15回 まとめ
8. 成績評価方法：
授業への関与度（15%）、レスポンス・カードの提出（15%）、宿題（20%）、発表（20%）、レポート（30%）
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。レジュメを配布する。参考文献は適宜紹介する。
No textbook will be used. Handouts will be provided at every class. Reference materials will be introduced as necessary.
10. 授業時間外学習：授業の予習と復習、宿題、発表準備、レポート執筆。
Students are required to prepare and review for each class. Assignments may be given, and preparation for a presentation and an essay will also be required.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
毎回授業の最後にレスポンス・カードを提出する。

Students will be requested to complete a response card at the end of each class.

科目名：倫理学研究演習Ⅱ／ Ethics (Advanced Seminar II)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LM23208, 科目ナンバリング：LIH-PHI625J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フランス倫理学演習

2. Course Title (授業題目)：Seminar on French Moral Philosophy

3. 授業の目的と概要：行為の哲学や感情の哲学の分野で著名な哲学者であるクリスティーヌ・タポレの論文「自律と意志の弱さをめぐるパラドクス」を読みます。「自律は自己コントロールを要求する（自分の行為を自分で決定するためには、自分を自分で制御できないといけない）」、「自由は自律を要求する（自由であるためには、自分の行為を自分で決定できないといけない）」、そして「意志の弱さによる行為も自由でありうる」という、一見すると自明な三つの命題から、パラドクスを取り出し、自由をめぐる問題に鋭く切り込んでいく、実質3ページ程度ととても短いなが

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course we read Christine Tappolet's article "Autonomie et faiblesse de la volonté : un paradoxe". The key themes covered are: autonomy, weakness of the will, self control, and freedom of the will.

5. 学習の到達目標：自由や自律、意志の弱さの関係について学ぶ。

また、これらの主題が倫理学においてもつ重要性を学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course aims to improve students' abilities to read philosophical texts in French and to translate them to Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入（扱う主題とテキスト、著者の簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、参加者のフランス語習熟度の確認、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

8. 成績評価方法：

出席、担当、参加度により総合的に判断します。

9. 教科書および参考書：

必要なものはすべてプリントで配布します。

フランス語学習については初級～中級までの参考書を授業内で紹介します。

10. 授業時間外学習：各回とも訳を用意し、授業前に提出してください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：実験心理学研究演習 I / Experimental Psychology(Advanced Seminar) I

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：河地 庸介

コード：LM23209, 科目ナンバリング：LIH-PSY610J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：認知脳科学の最前線と実際

2. Course Title (授業題目) : The Cutting Edge of Cognitive Brain Science

3. 授業の目的と概要：本演習では、最新の実験心理学または脳科学（ニューロイメージング）研究論文を取り上げ、①研究背景から研究仮説の導出、②仮説検証のための研究方法の選択、③適切なデータ処理、④研究仮説と結果との違いに基づいて述べられる考察の理解、に着目して話題提供・討論を行う。さらには、⑤取り上げた研究の新規性についても討論を行う。演習で扱うテーマは知覚・認知・感性が基本となる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this seminar, we will read recent papers from experimental psychology and brain science (neuroimaging) and discuss them with the focus as follows: 1) the way to form a research hypothesis, 2) the selection of research methods to test a hypothesis, 3) sound data processing and analysis, 4) discussion based on the difference between hypothesis and results, 5) the novelty of the topic. Especially, we will mainly explore the topic of perception, cognition and Kansei.

5. 学習の到達目標：①自分自身の問題意識や関心に基づいて、研究論文を選び出し、必要な情報を読み取ることができることを目指す。

②仮説検証方法の妥当性を評価できるようになること

③先行研究との比較の中で、当該研究の意義・新規性を評価できるようになること。

④新たな研究課題を見つけることができるようになること。

⑤研究の主観的・社会的意義について意識できるようになること。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The aims of this course are to help students 1) select a research topic and paper based on their interests and read out information they need, 2) evaluate the validity of hypothesis testing methods, 3) evaluate the novelty and significance of the research

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は対面での授業を基本とする。ただし、状況に応じてオンライン授業を行う。

なお、授業資料と授業情報についてはClassroomを使用して発信する。

内容および進度は以下の通りであるが、都合により変更される場合がある。

1. ガイダンス（演習の進め方）

2. 話題提供・解説・討論

3. 話題提供・解説・討論

4. 話題提供・解説・討論

5. 話題提供・解説・討論

6. 話題提供・解説・討論

7. 話題提供・解説・討論

8. 話題提供・解説・討論

9. 話題提供・解説・討論

10. 話題提供・解説・討論

11. 話題提供・解説・討論

12. 話題提供・解説・討論

13. 話題提供・解説・討論

14. 話題提供・解説・討論

15. 話題提供・解説・討論

8. 成績評価方法：

出席(10%)、発表(40%)、討論への参加(50%)をもとに評価する。

9. 教科書および参考書：

授業で用いる論文について指示する。もしくはPDFファイルの配布を行う。

10. 授業時間外学習：授業内で扱う研究論文を通読しておくことが必要である。適宜、授業内で提示されるキーワードや重要研究について、論文・書籍・URLなどを通して理解を深めることが望ましい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：実験言語学研究演習 I / Experimental Linguistics (Advanced Seminar) I

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：2 単位数：2

担当教員：木山 幸子

コード：LM23210, 科目ナンバリング：LIH-LIN613J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語実験の実践

2. Course Title (授業題目) : Practicum of linguistic experiment

3. 授業の目的と概要：本科目では、実証的な言語研究を実際に体験するために、グループを組んで調査・実験の小プロジェクトを行います。研究テーマ・デザインの立案、調査・実験素材の準備、データ収集、分析、まとめと発表までの一連の作業を授業期間内に行います。期間内に実現できるよう教員が助言をしますが、基本的にはグループのメンバー同士の主体的な協同により、一つの研究成果をあげてもらいます。この作業を通して、実証的な言語研究の醍醐味に触れてもらうことを期待します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course will provide students teams with the opportunity of a collaborative project to conduct an experiment to experience an empirical study of language. Each project will include forming a research question, designing an experiment or survey, preparing materials and the program, collecting data, analyzing, interpreting the finding, and presenting it. Each student needs to cooperate with other team members to carry out independent research until the course completion under the supervision of the instructor. Students will be fascinated by the activity of empirical language study.

5. 学習の到達目標：実証的言語研究の一連の過程を体験することで、科学的思考方法および共同作業に必要な調整能力の基礎を身につける。また、実際の言語処理過程が自分一人の頭の中で想像していることとは決して同じではない（大いに異なる）ことを目の当たりにし、「データを取って確かめる」ことの意義を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The goal of the practicum is for students to develop the basics of scientific thinking and collaboration skills. Upon the completion of the course, students will understand the significance of data-driven investigations, by facing the big differences betw

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の内容を予定している。

- (1) テーマ策定
- (2) 研究倫理
- (3) 研究デザイン立案
- (4) 実験・調査準備
- (5) 実験・調査実施
- (6) 取得データ分析
- (7) データの解釈
- (8) 研究のまとめ
- (9) 研究成果の共有

8. 成績評価方法：

グループワークへの貢献（50%）、毎回授業の最後に課す小課題（20%）、最終レポート（30%）によって評価する。

9. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

10. 授業時間外学習：グループに分かれて小プロジェクトを行うので、相当の時間外学習が必要になります。とくに、データを収集する作業は完全に授業時間外に行ってもらうことになります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

プロジェクトを成功させ他のメンバーに迷惑をかけないために、自分が分担する作業を責任をもって行う意思のある学生のみ受講登録してください（初回でその意思の確認をします）。その自信がない場合は受講しないこと。

科目名：数理行動科学研究演習Ⅱ／ Mathematical Behavioral Science(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：単位数：2

担当教員：浜田 宏

コード：LM23211, 科目ナンバリング：LIH-OS0604J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ベイズアプローチによる社会科学の理論と実証
2. Course Title (授業題目)：Social Science and Bayesian Statistics
3. 授業の目的と概要：1) 社会現象をどのようにして数理モデルとして表現するのか，そしてデータを使ってそのモデルのフィットをどのように確認するのかを学ぶ。
2) 統計モデルを利用するうえで必要な確率論の基礎を学ぶ。あわせて経験科学的に興味深い問題を構成する力の基礎を涵養する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：1. To learn the method that explain an interesting social phenomenon with mathematical models and statistical analysis
2. To learn how to formalize an interesting social phenomenon through this course. To train the ability that specifies the problem from good samples.
5. 学習の到達目標：Stan を使ったベイズ統計の分析手法を習得する
現象の数学的表現を習得する
日常生活の中に潜む数学的構造を見抜く観察力を身につける
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1.To learn Bayesian statistical analysis by Stan and R.
2.To learn mathematical formalization and modeling
3.To train the ability that specify and abstract the essence of social phenomenon
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この授業はClassroomを使用します。
 1. イントロダクション モデルとはなにか
 2. 真の分布，確率モデル，データ
 3. 最尤推定
 4. ベイズ推定
 5. MCMC
 6. 確率分布
 7. 汎化誤差，AIC，WAIC，予測分布
 8. Stanによる分析：回帰
 9. Stanによる分析：モデル式の書き方
 10. Stanによる分析：階層モデル1
 11. Stanによる分析：階層モデル2
 12. Stanによる分析：観測モデルとの接合
 13. Stanによる分析：マーケティングへの応用
 14. Stanによる分析：数理モデルと統計モデルの接続
 15. まとめと総括
8. 成績評価方法：
出席 [70%]，授業内の課題 [30%]
9. 教科書および参考書：
教科書：松浦健太郎，2016，『StanとRで統計モデリング』共立出版
参考書：久保拓哉，2012，『データ解析のための統計モデリング入門』岩波書店。
浜田宏・石田淳・清水裕士，2019『社会科学のためのベイズ統計モデリング』朝倉書店。
Gelman et al. 2013, Bayesian Data Analysis, Third Edition, CRC Press.
その他の参考書は適宜指示する
10. 授業時間外学習：予習に指定した範囲を事前に読んでくること。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：
本演習ではRとStanによる実装例を紹介するので，実行環境を整えたPCを準備できることが望ましい。
また高校・大学初年度レベルの微積分を復習しておくことが望ましい。

科目名：英語研究論文作成法Ⅱ／ Advanced English for Academic writing II

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：STEPHEN HALE

コード：LM23301, 科目ナンバリング：LAL-OAR515E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Advanced Academic Writing II

2. Course Title (授業題目)：Advanced Academic Writing II

3. 授業の目的と概要：Advanced Academic Writing II is a continuation of Advanced Academic Writing I (AAWI) from the spring semester; therefore successful completion of AAWI is prerequisite for taking this course. Using the fundamental skills of academic writing acquired during

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Advanced Academic Writing II is a continuation of Advanced Academic Writing I (AAWI) from the spring semester; therefore successful completion of AAWI is prerequisite for taking this course. Using the fundamental skills of academic writing acquired during the spring semester, students will focus on producing a fully documented research paper in English (8-12 substantial paragraphs in length). Students will thus systematically study the research process and learn how to present research into a cohesive, logically organized paper, with a special focus on proper format and citation of source material. This process will also include writing an abstract (summary) and an oral presentation of research findings.

5. 学習の到達目標：As a result of taking this course, students will be able to:

- 1) apply the fundamental rules of page layout in word processing for research papers in English.
- 2) identify and evaluate potential resources of information.
- 3) select a topic, then systemati

6. Learning Goals (学修の到達目標)：As a result of taking this course, students will be able to:

- 1) apply the fundamental rules of page layout in word processing for research papers in English.
- 2) identify and evaluate potential resources of information.
- 3) select a topic, then systemati

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) Semester II Course Introduction; the Research Process
- 2) Choosing a Topic; Identifying Potential Resources; Working Bibliography
- 3) Gathering and Evaluating Source Materials
- 4) Paragraph Organization and Note-Taking
- 5) Note-Taking (continued); Quotations and Paraphrasing
- 6) Capitalization, Italics, and Quotation Marks
- 7) Model Analysis; Writing an Outline
- 8) Writing Workshop 1
- 9) Writing the First Draft; Citing Sources; Avoiding Plagiarism
- 10) Writing Workshop 2
- 11) Works Cited List; Layout for Final Draft; Evaluation Rubric
- 12) Writing Workshop 3
- 13) Abstract Writing; Presentation of Research
- 14) Research Presentations; Test Preview/Course Review and Evaluation
- 15) Semester II Test

8. 成績評価方法：

The final grade will be determined by: (1) class work, homework, and class attendance; (2) research paper and abstract; (3) research presentation; and (4) semester test.

9. 教科書および参考書：

Reference materials and practical activities will be provided on a weekly basis in printed and/or digital form. All assignments and class prints, furthermore, should be saved and carefully stored in a notebook.

Note that the Style Guide of the Modern

10. 授業時間外学習：There is a lot of homework in this course, especially in completing the various research steps according to strict-yet reasonable-deadlines. Because most of the learning is based on actually doing a series of tasks, success in this course depends on consi

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

Class attendance is expected at all times. Absences will adversely affect your grade in this course.

In principle, no auditors will be accepted.

科目名：現代日本学学芸分析特論Ⅲ／ Japanese Studies Liberal Art (Advanced Lecture) III

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：赤井 紀美

コード：LM23302, 科目ナンバリング：LJS-0HS612J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：メディア・ミックスの歴史と展開
2. Course Title (授業題目)：History and Development of the Media Mix
3. 授業の目的と概要：メディア・ミックスとは、複数の媒体を組み合わせて展開する広告戦略や、小説やマンガ、ゲームなどのコンテンツを異なるメディアへと展開させる手法の事を指す。現在の日本では恒常的にメディア・ミックスが行われているが、実は江戸時代からこうした手法は行われてきた。本講義では、日本のメディア・ミックスの歴史について江戸時代から現代までの流れについて学び、日本学研究のための多角的な視点を養う。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Media mix refers to an advertising strategy that combines multiple media, or a method of developing content such as novels, manga, and games across different media platforms. In Japan today, media mix has been a regular practice, but in fact, it has been practiced since the Edo period (1603-1868). In this class, students will learn about the history of media mix in Japan from the Edo period to the present, and develop a multifaceted perspective for Japanese Studies.
5. 学習の到達目標：江戸時代以降の日本のメディア・ミックスの歴史と展開について理解する。
日本学研究のための多角的な視座を獲得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understand the history and development of media mix in Japan since the Edo period.
Acquire a multifaceted perspective for Japanese Studies.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回：イントロダクション
 - 第2回：メディア・ミックスとアダプテーション
 - 第3回：江戸の社会と出版文化
 - 第4回：演劇と小説、絵画の交錯
 - 第5回：浮世絵と広告
 - 第6回：歌舞伎とファンカルチャー
 - 第7回：歌舞伎と寄席芸
 - 第8回：近代以降のメディアの変遷
 - 第9回：明治時代の出版メディアと演劇・映画
 - 第10回：大正時代のメディア・ミックス①
 - 第11回：大正時代のメディア・ミックス②
 - 第12回：昭和戦前・戦中期のメディア・ミックス
 - 第13回：戦後の展開
 - 第14回：現代のメディア・ミックス
 - 第15回：この授業のまとめと学期末課題について
8. 成績評価方法：
出席・授業参加度（50%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書は使用せず、参考書は適宜指示する。
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：死生学特論Ⅱ／ Death & Life Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LM23303, 科目ナンバリング：LGH-RES611J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：スピリチュアリティと宗教心理
2. Course Title (授業題目)：Spirituality and Psychology of Religion
3. 授業の目的と概要：W・ジェームズ、S・フロイト、C・G・ユング等の古典的な宗教心理学者たちの議論を踏まえて、諸事例をとりあげながら、スピリチュアリティと宗教について考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will learn about the classical theories of psychologists of religion, such as, Willam James, Sigmund Freud, or Carl Gustav Jung. This will help students understand the meaning of religion and spirituality in terms of human psyche.
5. 学習の到達目標：心理学者たちの思想的営みと基本概念を学び、危機におけるスピリチュアリティの働きを理解する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Student will learn the thought of psychologists and basic theory of their system, in order to understand how spirituality effects human in crisis.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回：イントロダクション
 - 第2回：古典的回心理解(1)
 - 第3回：古典的回心理解(2)
 - 第4回：現代人の回心体験とスピリチュアリティ(1)
 - 第5回：現代人の回心体験とスピリチュアリティ(2)
 - 第6回：ウィリアム・ジェームズの宗教論(1) 健全な心と病める魂
 - 第7回：ウィリアム・ジェームズの宗教論(2) 潜在意識仮説とプラグマティズム
 - 第8回：心理療法と宗教(1)
 - 第9回：心理療法と宗教(2)
 - 第10回：心理療法と宗教(3)
 - 第11回：心理療法と宗教(4)
 - 第12回：深層心理学と宗教(1)
 - 第13回：深層心理学と宗教(2)
 - 第14回：深層心理学と宗教(3)
 - 第15回：まとめ
8. 成績評価方法：

毎回提出のミニットペーパーの内容と、期末レポートによる。
9. 教科書および参考書：

特に指定しない。
10. 授業時間外学習：配布資料を熟読し、理解を深める。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

毎回授業内で課題を出すのでミニットペーパーで回答すること。

科目名：中国語学中国文学研究演習Ⅳ／ Chinese Language and Literature(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：土屋 育子

コード：LM23304, 科目ナンバリング：, 使用言語：

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国近世文学研究

2. Course Title (授業題目)：Chinese Classical Literature

3. 授業の目的と概要：本授業では、中国の伝統的な注釈方法に基づいて、中国古典文学の作品を読解します。作品読解を通して中国古典文学の基礎的な知識を学ぶとともに、原文の読解力、分析し鑑賞する力の向上を目指します。授業は出席者による発表と質疑応答によって進めます。

後期は、主に南宋詞を読みます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to help students understand the fundamental knowledge about Chinese classical literature, gain reading ability, analysis ability, through reading Chinese classical literature.

This course is centered on a presentation and a questions and answers session.

In this semester class, students read Southern Song-ci Poetry.

5. 学習の到達目標：(1) 中国古典文の読解力を向上させる。

(2) 中国の文学作品について、分析し鑑賞する力を習得する。

(3) 辞書やデータベース等の活用と、原典（影印本・標点本等）に習熟する。

(4) 歴史的背景を踏まえ、中国の文学作品がどのように変化したかを理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Students improve Chinese classical Literature reading skill.

2. Students gain the perspective needed to analyze Chinese classical Literature.

3. Students gain the skills of using dictionaries, databases and original books and so on.

4. Students und

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりです。

1. ガイダンス

2. 発表と質疑応答 (1)

3. 発表と質疑応答 (2)

4. 発表と質疑応答 (3)

5. 発表と質疑応答 (4)

6. 発表と質疑応答 (5)

7. 発表と質疑応答 (6)

8. 発表と質疑応答 (7)

9. 発表と質疑応答 (8)

10. 発表と質疑応答 (9)

11. 発表と質疑応答 (10)

12. 発表と質疑応答 (11)

13. 発表と質疑応答 (12)

14. 発表と質疑応答 (13)

15. 発表と質疑応答 (14)

8. 成績評価方法：

授業への取り組み（レジュメ提出含む）：50%

発表（資料作成を含む）：50%

9. 教科書および参考書：

テキスト・資料等は、Google Classroom より配布予定。

参考文献等は授業中に指示。

10. 授業時間外学習：辞書類やデータベース等を活用して、予習・復習をしてください。

原文の語彙について語釈を見るだけでなく、前後の文脈も考慮した丁寧な読解をこころがけましょう。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：東洋・日本美術史特論V／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)V

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LM23305, 科目ナンバリング：LIH-ART605J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は前期に引き続き、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観し

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of Edo art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in East Asia.

5. 学習の到達目標：歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡(鑑)」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター)を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1回目 ガイダンス 一美術史と鑑定
- 2回目 江戸と浮世絵1 一菱川師宣・西川祐信・鈴木春信一
- 3回目 江戸と浮世絵2 一東洲斎写楽と喜多川歌麿一
- 4回目 江戸と浮世絵3 一葛飾北斎と歌川広重一
- 5回目 『芥子園画伝』と文人画の黎明
- 6回目 武士の絵画1 一鑑戒一
- 7回目 武士の絵画2 一暢神一
- 8回目 京都と円山派1 一円山応挙一
- 9回目 京都と円山派2 一応挙の門人たち一
- 10回目 京都と四条派 一蕪村、呉春とその門人 一
- 11回目 天下の台所・大坂の絵画
- 12回目 江戸の絵画1 一18世紀の絵画状況(谷文晁の登場前夜)
- 13回目 江戸の絵画2 一谷文晁の登場と洋風画の隆盛
- 14回目 伊藤若冲 一その真実を探る

8. 成績評価方法：

授業ごとに400字程度のレポートや課題を課し、その総合点によって評価する。このレポートは出席点も兼ねる。

1週間の提出期限を設けるが、内容についてクラスルームにて伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』(中央公論美術出版)

杉本欣久『武士の絵画一中国絵画の受容と文人精神の展開一』(中央公論美術出版)

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館1970年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版(集英社1970年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版(講談社1970年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社1970年代後半)

『日

10. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観ていて何が観ていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：実験心理学特論Ⅲ／ Experimental Psychology(Advanced Lecture) III

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：坂井 信之

コード：LM23306, 科目ナンバリング：LIH-PSY603J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：神経・生理心理学
2. Course Title (授業題目)：Neuroscience and Physiological Psychology
3. 授業の目的と概要：この授業では、人間の「脳神経系の構造および機能」、「記憶、感情等の生理学的反応の機序」および「高次脳機能障害」のそれぞれ概要について理解することを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to help students with their understanding about human neuron systems and about neural mechanisms underlying human cognitive functions such as learning, memory and emotion.
5. 学習の到達目標：ヒトの認知機能がどのような仕組みで支えられているかについて理解することができるようになる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understanding how human cognitive functions evoked by brains.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業は主に教員がスライドを使いながら解説する形式である。進度の予定は以下の通り。

第1回 日常生活を支える脳の仕組み
第2回 脳と神経の成り立ち：脳と自律神経系を中心に
第3回 神経系の情報伝達とその柔軟性：シナプスと神経伝達物質
第4回 大脳皮質の機能局在：前方は運動、後方は知覚
第5回 脳を測る：電気信号と化学信号
第6回 経験に基づく脳の変化
第7回 人の知情意を司る脳
第8回 ものを見るのは目か脳か？
第9回 手を動かしているのは筋肉か脳か？
第10回 記憶は脳のどこにどのような形で蓄えられるか？
第11回 怒りを感じるのは脳のどこか？
第12回 お腹が空く理由は？
第13回 脳が変わると行動や心はどのように変わるのか？
第14回 記憶を失った青年の話
第15回 心の病気＝脳の病気
8. 成績評価方法：
定期試験（60％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40％）
9. 教科書および参考書：
授業中に適宜資料を配布・紹介する。
10. 授業時間外学習：毎回の授業前後に小レポートを課するので、授業内容を予習・復習しながら、そのレポートに回答する必要がある。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：
この授業は原則として対面にて実施する。詳細はClassroomで通知する予定である。
なお、復習と次週の予習のため、小レポートへの回答が必須であり、小レポートへの回答は90分程度必要となることを予め理解しておくこと。

科目名：哲学研究演習Ⅶ／ Philosophy(Advanced Seminar)VII

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター： 単位数：2

担当教員：嶺岸 佑亮

コード：LM23307, 科目ナンバリング：LIH-PHI631J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヘーゲル『精神現象学』の「自己意識」章を読む
2. Course Title (授業題目)：Reading the Chapter of the Self-Consciousness in Hegel's Phenomenology of Spirit
3. 授業の目的と概要： 自己意識は、近代哲学全体を貫く基本的モチーフの一つです。〈私は私である〉ということをめぐる、それぞれの哲学者がきわめて多様な理解を展開しました。その中でも、ヘーゲルの『精神現象学』における自己意識の理論はきわめて独自のものといえます。そこでは、〈私〉は単独的なものとしてではなく、別の〈私〉との相互的な関係に常にあるものとされています。ヘーゲルの自己意識理論は、近代的市民社会のありように密接にかかわるものとして、後代の様々な思想家によって注目され続けてきました。その意味でも、『精神現象学』の自己意識理論
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Das Selbstbewusstsein ist eines der wichtigsten Themen in der neuzeitlichen Philosophie. Was das bedeutet, dass Ich Ich bin, darüber haben jede Philosophen in der Neuzeit seine eigene Theorie entwickelt haben. In diesem Kontext ist Hegels Theorie des Selbstbewusstseins in seiner "Phänomenologie des Geistes" von eigentümlicher Bedeutung. Wir werden darüber anhand dem originalen deutschen Text diskutieren.
5. 学習の到達目標：・ドイツ語で書かれたテキストを自分で読むことが出来るようになる。
・自分自身で問題を辿り直し、主体的に考え抜く態度を身に着ける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：・To read the original German text by yourself and realize what is discussed there.
・To pursue what is the main point in the text and so attain the attitude to think over
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回：イントロダクション (授業の進め方、担当箇所の割り当てなど)
第2回：意識の一形態としての自己意識
第3回：自己意識の対象性について
第4回：生きたものは生きたものを対象とする——自己意識の対象としての生——
第5回：自己意識の基本的特徴としての欲望
第6回：自己意識と類
第7回：〈私は私である〉ことの意味とは
第8回：欲望の充足と自己確信
第9回：私と我々——自己意識の普遍性——
第10回：相互承認をめぐる
第11回：二重化された自己意識
第12回：主人と奴隷
第13回：労働と物の加工
第14回：労働を通じた自由の獲得
第15回：全体のまとめ
8. 成績評価方法：
出席および平常点 (毎回の訳読とその準備、文法的分析、討論への参加)
9. 教科書および参考書：
テキストはコピーを配布します。以下のPhB版を使用予定です。
G.W.F. Hegel, Phänomenologie des Geistes, Philosophische Bibliothek Bd. 414, Hamburg 1988.
10. 授業時間外学習：各回の予習として、1頁程度の予習が必要です。
[Students are required to prepare 1 page for each class]
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：計算人文社会学研究演習Ⅱ / Computational Humanities and Social Sciences(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：単位数：2

担当教員：LYU ZEYU

コード：LM23308, 科目ナンバリング：LIH-OS0613J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：計算社会科学と自然言語処理
2. Course Title (授業題目)：Computational Social Science and Natural Language Processing
3. 授業の目的と概要：計算社会科学研究でよく用いられる自然言語処理技術の知識と応用能力を習得する。ニューラルネットワーク、単語埋め込み、ファインチューニングなどの概念を学ぶとともに、Word2vec モデルの実装、深層学習による文書分類、大規模言語モデルの応用など実践的な能力を身につける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course focuses on the knowledge and techniques that widely applied in computational social science research.
Students will learn concepts, such as neural networks, word embeddings, and fine-tuning as well as hands-on application skills such as Word2vec model implementation, deep learning based text classification, and applications of large language models.
5. 学習の到達目標：テキスト分析の一連のプロセスを理解し、Python で実装することを目標とする。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim is to understand a series of text analysis processes and put them into practice using Python.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 自然言語処理の基礎
 3. 深層学習の基礎
 4. ニューラルネットワーク
 5. 誤差逆伝播法
 6. Pytorch
 7. Word2vec モデル
 8. Word2vec の実装
 9. Word2Vec が人文・社会科学における応用
 10. RNN
 11. Seq2Seq
 12. Attention
 13. Transformer アーキテクチャ
 14. BERT
 15. 大規模言語モデル
8. 成績評価方法：
復習課題+出席 [70%], 期末課題 [30%]
9. 教科書および参考書：
Lewis Tunstall, Leandro von Werra, Thomas Wolf, 「機械学習エンジニアのための Transformers —最先端の自然言語処理ライブラリによるモデル開発」, オライリージャパン
斎藤 康毅, 「ゼロから作る Deep Learning ② —自然言語処理編」, オライリージャパン
Delip Rao, Brian McMahan, 「Deep Learning for NLP with Pytorch」, O'Reilly
10. 授業時間外学習：参考書と配布資料などで予習・復習をする。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
 - (1)前期の計算人文社会学研究演習Ⅰと併せて参加することが望ましい。あるいは、Python の基本的な使い方についての習熟を求める。
 - (2)本講義では Python の実習を含むため、PC を準備できることが望ましい。

科目名：日本語教育学研究実習Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Practice)II

曜日・講時：後期 水曜日 3講時、後期 水曜日 4講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：島崎 薫

コード：LM23309, 科目ナンバリング：LJS-LIN626J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語コースの運営と改善

2. Course Title (授業題目)：Conducting a Japanese Language Course II

3. 授業の目的と概要：前期、後期の実習を通して、学習者のニーズ・レディネス、置かれている環境などに合わせた日本語コースをデザインし、それぞれの授業に必要な教材・教具を準備して授業を実施する力、そしてその自身の実践を振り返って改善を図ることができる力を養成することを目的とする。後期は前期にデザインしたコースを実際に運営し、授業を行いながらコースの改善、授業の改善に取り組む。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Through the teaching practicum in the spring and fall semesters, students will develop the ability to design Japanese language courses that meet the needs and readiness of learners and their learning environment, prepare the necessary teaching materials and equipment for each class, and conduct the class. They can also enhance the ability to look back on their own teaching and make improvements. In the fall semester, the students will actually run the courses designed in the spring semester and work on improving the courses and classes while teaching.

5. 学習の到達目標：・デザインしたコースを他の学生と協力しながら運営することができる

・単独で教壇に立って授業を実施することができる

・自身の実践を客観的に分析することができる

・自分やグループのメンバーの実践を振り返り、授業自体やコース全体の改善を図ることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

-design and run a course in collaboration with other students.

-teach a class independently

-analyze one's own practice objectively

-improve the classes and the course as a whole by reviewing

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 (10/2)：コース開講の準備①

第2回 (10/9)：コース開講の準備②

第3回 (10/16)：模擬授業①

第4回 (10/23)：模擬授業②

第5回 (10/30)：模擬授業③

第6回 (11/6)：模擬授業④

第7回 (11/13)：模擬授業⑤

第8回 (11/20)：振り返り①

第9回 (11/27)：振り返り②

第10回 (12/4)：振り返り③

第11回 (12/11)：振り返り④

第12回 (12/18)：振り返り⑤

第13回 (1/8)：振り返り⑥、コースデザインの評価

第14回 (1/15)：授業分析中間発表

第15回 (1/22)：コース全体の振り返り、まとめ

12/25は休講予定です。

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、教案・振り返り 30%、授業分析報告書 20%、実習報告書 20%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

10. 授業時間外学習：授業外の時間に教壇実習（対面）を行います。実施時間は授業の中で相談して決めます。また、状況によって実習の形態に変更が出る可能性があります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：考古学研究実習Ⅱ／ Archaeology(Advanced Field Work)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 3講時, 後期 水曜日 4講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：鹿又 喜隆, 松本 圭太

コード：LM23310, 科目ナンバリング：LJS-HIS628J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：考古学の調査と資料分析（2）

2. Course Title (授業題目)：Analysis of Archaeological Materials

3. 授業の目的と概要：第1学期に引き続き、考古学研究室による発掘調査資料・収蔵資料に取り組み、実際の研究分析法を学ぶ。発掘調査実習を通して、調査の計画と実践を学習する。

実際の遺跡発掘調査による資料の整理と分析作業を通して、考古学における遺跡調査法、資料分析法の基礎を学ぶ。資料に対する観察眼を養い、遺跡・遺物の調査研究を進めていくために必要な実技を修得する。遺物の特徴に応じた写真撮影の方法を実習する。資料保存・修復の作業実習も行う。また通年において、発掘技術、測量作業、記録法などの実際を発掘調査現場において学ぶ。特に出席および

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides actual experiences of archaeological research. Archaeological records and excavated artifacts from the investigation by the Laboratory of Archaeology, Graduate School of Arts and Letters, Tohoku University are used in the class. The method of analysis and production of excavation reports are practiced during the class hours. A heavy load of homework (off class hour laboratory work) are expected. Good commands of the Japanese language are necessary especially during discussion and laboratory work.

5. 学習の到達目標：(1) 考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。(2) 共同研究の意義について、理解できるようになる。(3) 考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。(4) 発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Basic skills of archaeological work can be learned in this course through practice.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

クラスコードは dnx4d4a です。

Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理（1）。
2. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理（2）。
3. 遺物の観察・記録と図化（1）。
4. 遺物の観察・記録と図化（2）。
5. 遺物の観察・記録と図化（3）。
6. 遺物の観察・記録と図化（4）。
7. 製図・トレース・レイアウトの作成（1）。
8. 製図・トレース・レイアウトの作成（2）。
9. 製図・トレース・レイアウトの作成（3）。
10. 写真撮影（1）。
11. 写真撮影（2）。
12. 写真撮影（3）。
13. 保存処理に関する研修。
14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成（1）。
15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成（2）。

8. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%]

(○) その他（具体的には、受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み） [30%]

9. 教科書および参考書：

教室にて指示。

10. 授業時間外学習：講義内で課題が終わらない場合には宿題となる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

考古学研究実習Ⅰ・Ⅱを連続履修することが望ましい。発掘調査の出土量や作業の進捗に応じて、講義内容は前後します。

科目名：日本文芸形成論特論 I / Study of Formation of Japanese Literature (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LM23401, 科目ナンバリング：LJS-LIT601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：室生犀星の王朝小説

2. Course Title (授業題目)：Murou Saisei's dynasty novel

3. 授業の目的と概要：室生犀星の王朝小説を原典の古典作品と読み比べることで、古典文学の世界を近代小説の翻案を通して学ぶ。授業の進め方としては、各回に指定されている犀星の王朝小説と原典となっている古典作品をあらかじめ精読し、教室では読書会形式をとることで、鑑賞を交えた批評を自由に述べてディスカッションしていく。教員はモデレーター役を務めるが、受講生全員が意見を述べ応答し合うインタラクティブな場を作り、継続的なテーマを発見していくことを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will learn the world of classical literature through adaptations of modern novels by reading and comparing Murou Saisei's dynasty novel with the classic works of the original text. As for how to proceed with the class, carefully read Saisei's dynasty novel designated for each lesson and the classic works that are the original texts in advance, and take the form of a reading party in the classroom to freely state and discuss criticisms including appreciation. The faculty will act as a moderator, but the aim is to create an interactive place where all the students can express their opinions and respond to each other, and discover continuous themes.

5. 学習の到達目標：・室生犀星の王朝小説を原典と読み比べることで、それぞれのテキストの世界観の相違について学ぶ。

・原典となった古典作品の表現を学び、テキスト読解の方法を身につける。

・王朝小説における古典作品の翻案のありようについて学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：・ Learn about the differences in the worldview of each text by reading and comparing Murou Saisei's dynasty novel with the original texts.

・ Learn the expressions of the original classic works and learn how to read texts.

・ Learn about the adaptation of

7. 授業の内容・方法と進度予定：

室生犀星の王朝小説のうち、原典が特定される作品を輪読する。授業は対話的に行い、質疑応答をメインとしながら、王朝小説および古典作品への理解を深めていく。また、作品の初出誌や収録された単行本についても目配りすることで、作品が発表された当時の社会状況や掲載されたメディアとの関係性についても学んでいく。(以下の進度および作品は例です。実際は受講者の希望によってテキストを選択します。)

01. ガイダンス～授業の進めかた

02. 導入～室生犀星の王朝小説と古典作品

03. 「姫たちばな」(『大和物語』)

04. 「花桐」(『伊勢物語』)

05. 「巴」(『平家物語』)

06. 「筑紫日記」(『大和物語』)

07. 「あやの君」(『大和物語』)

08. 「狩衣」(『大和物語』)

09. 「萩吹く歌」(『大和物語』)

10. 「津の国人」(『大和物語』)

11. 「津の国人」(『大和物語』)

12. 「虫姫日記」(「虫めづる姫君」)

13. 「虫の章」(「虫めづる姫君」)

14. 「舌を噛み切った女～またはすて姫」

15. まとめ～王朝小説とは何か

8. 成績評価方法：

授業への参加(出席・質疑応答)(60%)、期末レポート(40%)。

9. 教科書および参考書：

【教科書】

室生朝子編『室生犀星全王朝物語 上下』(作品社、1982年)

岩波文庫『犀星王朝小品集』(岩波書店、2017年、第8刷)

【参考書】

三好達治他編『室生犀星全集』(全12巻、新潮社、1964-1968)

室生朝子、本多浩、星野晃一編『室生犀星文学年譜』(明治書院、1982)

大橋毅彦著『室生犀星への/からの地平』(若草書房、2000年)

高瀬真理子著『室生犀星研究 小説的世界の生成と展開』(翰林書房、2006年)

西田谷洋編『室生犀星王朝小説の世界』(一粒社、2012年)

10. 授業時間外学習：【予習】指定された室生犀星の王朝小説を、その原典となっている古典作品とともに可能な限り精読する。

【復習】プロットを共有する他の王朝小説（授業時に補足説明します）を併せて読み、原典となった古典作品の他出（授業時に補足説明します）についても読むことで授業時の学習ポイントを明確にする。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：史科学Ⅱ／ Archival Science II

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LM23402, 科目ナンバリング：LJS-HIS608J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世古文書読解

2. Course Title (授業題目)：Reading Early Modern Documents

3. 授業の目的と概要：古文書は歴史学において最も重要な材料であり、その読解は必要不可欠な技術である。なかでも近世史研究においては、実際に膨大な原文書を読み、取り扱う能力が必要とされる。本講義は、近世古文書のなかでも代表的な文書様式について理解を深め、読解能力を培うものである。さまざまな近世の古文書が自力で読めるようになることを目標とするため、テキストとして配布する古文書（コピー）について毎回受講者の中から指名し、読みを発表させる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to help students understand the basics of reading early modern Japanese documents. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class. References(handouts) are provided.

5. 学習の到達目標：(1)近世古文書に関する基礎的知識を持つ。(2)近世古文書の読解能力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop basic skills to reading early modern documents.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

本講義は対面で実施するが、場合によりオンライン受講を認める。

1. ガイダンス・近世古文書学について
2. 近世古文書の特徴と基礎的知識
3. 文字の読解法とその訓練
4. 武家文書 (1) 将軍関係文書・将軍発給文書①
5. 武家文書 (2) 将軍発給文書②
6. 武家文書 (3) 将軍発給文書③
7. 武家文書 (4) 老中発給文書①
8. 武家文書 (5) 老中発給文書②
9. 武家文書 (6) 幕府発給廻状
10. 町方・村方文書 (1) 定
11. 町方・村方文書 (2) 人別帳・検地帳
12. 町方・村方文書 (3) 年貢関係文書
13. 町方・村方文書 (4) 商業関係文書・訴願関係文書
14. 町方・村方文書 (5) 家・個人文書
15. 講義のまとめ

8. 成績評価方法：

出席[20%]・確認テスト[80%]

9. 教科書および参考書：

随時プリント配布。受講に際して古文書読解用の辞典類を用意すること。

10. 授業時間外学習：予習として、事前に配布されたプリントの古文書を古文書解読辞典を用いて読解しておく。受講後、講義内容をもとに自らの読みを確認し、習熟に努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

受講に際しては、学部生へのアドバイザーとしての役割も期待する。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50 (要予約)

科目名：日本思想史総合演習Ⅱ／ History of Japanese Thought(Integration Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 4講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍、引野 亨輔

コード：LM23403, 科目ナンバリング：LJS-PHI606J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought2

3. 授業の目的と概要：演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、提出する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Participants will present their latest research results and discuss them. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：研究論文の作成

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Writing research papers

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表1
- 3、研究発表2
- 4、研究発表3
- 5、研究発表4
- 6、研究発表5
- 7、研究発表6
- 8、研究発表7
- 9、研究発表8
- 10、研究発表9
- 11、研究発表10
- 12、研究発表11
- 13、研究発表12
- 14、研究発表13
- 15、研究発表14

8. 成績評価方法：

平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

苅部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ぺりかん社）ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは1日前、小論文は発表終了後2週間以内に完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本思想史総合演習Ⅳ／ History of Japanese Thought(Integration Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 水曜日 4講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍、引野 亨輔

コード：LM23404, 科目ナンバリング：LJS-PHI616J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought2

3. 授業の目的と概要：演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、提出する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Participants will present their latest research results and discuss them. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：研究論文の作成

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Writing research papers

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表1
- 3、研究発表2
- 4、研究発表3
- 5、研究発表4
- 6、研究発表5
- 7、研究発表6
- 8、研究発表7
- 9、研究発表8
- 10、研究発表9
- 11、研究発表10
- 12、研究発表11
- 13、研究発表12
- 14、研究発表13
- 15、研究発表14

8. 成績評価方法：

平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

苅部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは1日前、小論文は発表終了後2週間以内に完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：西洋古代・中世史研究演習Ⅳ／ History of Ancient and Medieval Europe(Advanced Semina) Ⅳ

曜日・講時：後期 水曜日 4講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：有光 秀行

コード：LM23405, 科目ナンバリング：LGH-HIS620J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヨーロッパ中近世史料研究
2. Course Title (授業題目)：Study in the Sources of Medieval and Early Modern European History
3. 授業の目的と概要：中近世ラテン語史料の理解力を涵養することを目的とします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of the course is to deepen understanding of sources of medieval and early modern history.
5. 学習の到達目標：中近世ラテン語史料の高度な理解力を涵養する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of the course is to deepen understanding of sources of medieval and early modern history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
中近世史のラテン語史料について、その読解力の涵養および、先行研究から史料利用の可能性を学ぶことを、内容とします。
第1回目の授業で具体的なテキストと進度について打ち合せし、それに基づいて2回目以降の授業をおこないます。
8. 成績評価方法：
授業参加状況による。
9. 教科書および参考書：
教室で指示します。
10. 授業時間外学習：予習および、特に予習で不明だった箇所を中心に、復習を必ずおこなうこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：社会変動学特論 I / Theory of Social Change (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター： 単位数：2

担当教員：田代 志門

コード：LM23406, 科目ナンバリング：LIH-SOC603J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：死と死にゆくことの社会学

2. Course Title (授業題目)：Sociology of death and dying

3. 授業の目的と概要：現代社会における死の問題の特徴は、個人の選択の強調と医療の関与の増大にある。本講義では、主に終末期医療に関わる様々なトピックを取り上げ、こうした現状を批判的に捉え直すことを試みる。なお、受講生には授業で学んだことを活かして死に関わる興味深い現象を自ら見出し、その背景や意味について考察することが求められる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides an overview of ethical and legal issues in end-of-life care in contemporary Japan from a sociological perspective.

5. 学習の到達目標：終末期医療の現場で生じている様々な課題について基礎的な知識を得るとともに、それらの問題を文化や社会構造と関連づけて理解することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The aim of this course is to encourage students to think about issues of death and dying from a sociological perspective.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業の進め方について
2. 現代社会における死 (1)
3. 現代社会における死 (2)
4. 「死ぬ権利」の社会学 (1)
5. 「死ぬ権利」の社会学 (2)
6. 中間まとめ
7. 終末期ケアの社会学 (1)
8. 終末期ケアの社会学 (2)
9. 終末期ケアの社会学 (3)
10. 死生観の社会学 (1)
11. 死生観の社会学 (2)
12. 死生観の社会学 (3)
13. 死と死にゆくことの現在 (1)
14. 死と死にゆくことの現在 (2)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の平常点 50%、課題レポート 50%

9. 教科書および参考書：

田代志門『死にゆく過程を生きる——終末期がん患者の経験の社会学』（世界思想社、2016 年）

浮ヶ谷幸代・田代志門・山田慎也編『現代日本の「看取り文化」を構想する』（東京大学出版会、2022 年）

トニー・ウォルター『いま死の意味とは』（岩波書店、2020 年）

10. 授業時間外学習：適宜、授業で指示した課題に取り組む。報告を求められた際には、教科書・参考書以外の関係する文献・資料にも目を通して報告資料を作成する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

受講者は初回に必ず出席してください。出席できない場合は、事前にメールで連絡してください。

科目名：倫理学研究演習Ⅷ／ Ethics (Advanced Seminar VIII)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LM23407, 科目ナンバリング：LIH-PHI633J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：環境の視点から倫理を議論する
 2. Course Title (授業題目) : Discussing ethics from a green perspective
 3. 授業の目的と概要： この演習ではテキストを読み、内容を端的に理解し、他者へ説明するためのトレーニングを行います。そのため、事前に決めた担当者に指定範囲の文章を要約してもらいます。また、担当者には該当部分に関連する論点を出してもらいます。その後、参加者で議論をします。(最初の数回で、テキストの背景や要約の仕方、論点の出し方については講義します。)
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The aim of this course is to train students to read the text carefully, understand the content accurately and explain it to others. Each time, students summarise the text and suggest key points for discussion (the text will be distributed to the participants in advance). The participants then discuss the material together. (In the first few sessions, I give a lecture on the background of the text and how to make a summary).
 5. 学習の到達目標：(1) テキストを要約し、論点を出すことができる。
(2) 現実に起きている倫理的葛藤に対し、論理的に自己の見解を示すことができる。
 6. Learning Goals(学修の到達目標) : (1) To summarise the text and bring out the key points of the discussion
(2) To logically provide your own views on real-life ethical conflicts.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
第一回：導入
第二回：入門講義（1）：テキストの背景
第三回：入門講義（2）：要約・論点出しの仕方、担当者決定
第四回：テキストの読解（1）
第五回：テキストの読解（2）（以下同様）
 8. 成績評価方法：
演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。
 9. 教科書および参考書：
テキストはプリントで配布します。
- 現在、予定しているテキストは 除本理史『きみのまちに未来はあるか？「根っこ」から地域をつくる』です。
10. 授業時間外学習：担当者は配当された部分のテキストを要約し、論点を出して A4 1 枚のレジュメを作成してください。事前に人数分をコピーし、授業で配布して内容を報告してもらいます。担当外の者は、テキストをしっかりと読んでください。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：
【重要】通年の受講が望ましい。

科目名：東洋・日本美術史研究演習Ⅱ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター： 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LM23408, 科目ナンバリング：LIH-ART607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本絵画作品研究

2. Course Title (授業題目) : Training to read information of the Japanese paintings

3. 授業の目的と概要： 「鑑定」「鑑戒」などにも使用される「鑑」には、「見分ける」や「見定める」という意味があり、さらに「たのしむ」や「めでる」ことをあらわす「賞」が付いて「鑑賞」となる。つまり「美術鑑賞」の本来の意味とは「真贋」を見極め、その価値を実感したうえで、作品の持つ良さを味わう、ということである。

本講はこの意味での「美術鑑賞」を実現し、さらに美術館や博物館における絵画分野の担当学芸員として必要なスキルを獲得するため、毎回、実物絵画資料を掲示し、そこから情報を読み取る訓練を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course provides programs of training to read information on the Japanese paintings in the Edo era.

5. 学習の到達目標： 美術作品を歴史資料として用いる場合だけでなく、一般的な鑑賞の際にも「どこを見れば良いのかわからない」といった声をよく耳にする。それはこれまでの学習方法において、書籍によって何らかの事象を調べることに慣れているものの、対象に即して自分自身の眼でつぶさに観察分析し、情報を読み取る訓練がほとんどなされていないことに起因している。

本講は作品を置き去りにしないため、対象に即して読み取るべき情報やその優先順位を見極める能力の向上を目指す。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : This course aims to improve the students' ability to read information on the Japanese paintings.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「対面授業」です。また、Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

実際の絵画資料を掲示し、受講生が協力しながら作品の調査を行う。必要な情報を整理しつつ、その内容をまとめてプロジェクターおよびレジュメを作成し、翌週に口頭発表を行う。

1 回目 ガイダンス

2 回目以降 どのような作品を対象とするかはその都度、相談しながら設定することとする。

8. 成績評価方法：

十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

杉本欣久『鑑定学への招待』（中央公論美術出版）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970 年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990 年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1990 年代後半）

『日本美術全集』（小学館 2010 年代）

10. 授業時間外学習：日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が見えていて何が見えていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよい。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

単位を取得するためには、全体の 3 分の 2 以上の出席を要する。

科目名：文化人類学研究実習Ⅱ／ Cultural Anthropology(Field Research)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 4講時. 後期 水曜日 5講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LM23409, 科目ナンバリング：LGH-CUA609J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：
2. Course Title (授業題目)：
3. 授業の目的と概要：
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：
5. 学習の到達目標：
6. Learning Goals(学修の到達目標)：
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
8. 成績評価方法：
9. 教科書および参考書：
10. 授業時間外学習：
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：西洋古典文化特論／ Western Classical Culture (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LM23501, 科目ナンバリング：LAL-0AR510J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋古典文化への招待
 2. Course Title (授業題目)：Introduction to Western Classical Culture
 3. 授業の目的と概要：古代ギリシャ・ローマの文化について基本的な事柄を学び、西洋古典古代の世界に馴染む（その知識は様々な場面で役立つはずである）。歴史、言語、哲学、宗教、諸芸術（文学・演劇・美術）の重要事項を学ぶ。また、西洋古代文化が後代に与えた影響や、日本でのその受容にも若干触れる。
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We shall learn basics about Greek and Roman cultures such as history, language, philosophy, religion and arts.
 5. 学習の到達目標：西洋古典文化に馴染み、最重要事項について説明できるようになる。西洋文化の今後の研究に活かせるようになる。
 6. Learning Goals(学修の到達目標)：To get acquainted with Western classical cultures.
To be able to explain basic facts about Greek and Roman cultures.
To be ready to make use of your knowledge about those cultures for further studies in culture at large
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
講義形式だが、積極的に質問してもらいたい。
最後 2 回ほどで、希望者によるプレゼンも行なう。プレゼンを行なわない参加者には学期末レポートを提出してもらう。
参加者の関心を尊重して内容を調整したい。
 1. イントロ
 2. ギリシャ・ローマの歴史 (1)
 3. ギリシャ・ローマの歴史 (2)
 4. ギリシャ語とラテン語
 5. ギリシャ・ローマの哲学と宗教 (1)
 6. ギリシャ・ローマの哲学と宗教 (2)
 7. ギリシャ・ローマの哲学と宗教 (3)
 8. ギリシャ・ローマの文学と演劇 (1)
 9. ギリシャ・ローマの文学と演劇 (2)
 10. ギリシャ・ローマの文学と演劇 (3)
 11. ギリシャ・ローマの美術 (1)
 12. ギリシャ・ローマの美術 (2)
 13. 西洋古典文化の後代への影響
 14. プレゼンテーション
 15. プレゼンテーション
- 講義とは別に、毎回出す読書課題（たとえば、ホメロス『イリアス』全 24 巻を毎週 2 巻ずつ読み進めるなど）について感想を交換する。
8. 成績評価方法：
プレゼンテーション または 学期末レポート
 9. 教科書および参考書：
授業中に指定する
 10. 授業時間外学習：読書課題（たとえば、ホメロス『イリアス』全 24 巻を毎週 2 巻ずつ読み進めるなど）。授業の内容の復習。プレゼンテーションまたは学期末レポートの準備
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：
受講にあたり、あらかじめ学んでおかなければならないことは特にない。

科目名：日本語教育学総合演習Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Integration Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：小河原 義朗・島崎 薫

コード：LM23502, 科目ナンバリング：LJS-LIN619J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：課題研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Topic Research 2

3. 授業の目的と概要： 大学院生・大学院研究生全員が参加し、各自の研究テーマについて研究計画・進捗状況・結果報告をプレゼンテーションし、教員を含む参加者全員でディスカッション・フィードバックを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides students with opportunities to make a presentation about their own study (the current progress status, the research plan and the results of analyses) and have in-depth discussion between themselves.

5. 学習の到達目標：参加者相互の研究発表を通じて、

(1) 様々な研究テーマに応じた日本語教育学研究法について学び、適切な選択ができる。

(2) 聞き手に配慮したプレゼンテーション・質疑応答・ディスカッションができる。

(3) 各自の研究を着実に進めることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to learn:

1. the principles of studying Japanese language teaching according to the themes, and how to apply them appropriately.

2. an audience-appropriate presentations and question-and-answer sessions

3. steadily progress in their

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業実施方法（授業の実施形態：）

第1回：オリエンテーション

第2回：修士課程2年生による進捗状況報告（課題）とディスカッション

第3回：修士課程2年生による進捗状況報告（先行研究）とディスカッション

第4回：修士課程1年生による研究計画報告（背景）とディスカッション

第5回：修士課程1年生による研究計画報告（課題）とディスカッション

第6回：博士課程院生によるプレゼンテーション（研究計画）とディスカッション

第7回：博士課程院生によるプレゼンテーション（進捗状況）とディスカッション

第8回：大学院研究生によるプレゼンテーション（研究計画）とディスカッション

第9回：修士課程2年生による結果報告とディスカッション

第10回：修士課程2年生による分析報告とディスカッション

第11回：修士課程1年生による進捗状況報告（目的）とディスカッション

第12回：修士課程1年生による進捗状況報告（先行研究）とディスカッション

第13回：博士課程院生によるプレゼンテーション（結果報告）とディスカッション

第14回：博士課程院生によるプレゼンテーション（分析報告）とディスカッション

第15回：大学院研究生によるプレゼンテーション（結果報告）とディスカッション

8. 成績評価方法：

プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）、授業参加度（40%）

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：発表担当者は、自分の発表に向けて各自パワーポイント・ハンドアウトの資料作成準備を進める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本思想史研究演習Ⅱ／History of Japanese Thought(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔・片岡 龍

コード：LM23503, 科目ナンバリング：LJS-PHI608J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ
2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought2
3. 授業の目的と概要：演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、提出する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Participants will present their latest research results and discuss them. (See Japanese text above for details.)
5. 学習の到達目標：研究論文の作成
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Writing research papers
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1、ガイダンス
 - 2、研究発表1
 - 3、研究発表2
 - 4、研究発表3
 - 5、研究発表4
 - 6、研究発表5
 - 7、研究発表6
 - 8、研究発表7
 - 9、研究発表8
 - 10、研究発表9
 - 11、研究発表10
 - 12、研究発表11
 - 13、研究発表12
 - 14、研究発表13
 - 15、研究発表14
8. 成績評価方法：

平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]
9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』
苅部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』
『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか
10. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは1日前、小論文は発表終了後2週間以内に完成するよう準備する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：日本思想史研究演習Ⅳ／ History of Japanese Thought (Advanced Seminar) IV

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍、引野 亨輔

コード：LM23504, 科目ナンバリング：LJS-PHI618J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ
2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought2
3. 授業の目的と概要：演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、提出する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Participants will present their latest research results and discuss them. (See Japanese text above for details.)
5. 学習の到達目標：研究論文の作成
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Writing research papers
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1、ガイダンス
 - 2、研究発表1
 - 3、研究発表2
 - 4、研究発表3
 - 5、研究発表4
 - 6、研究発表5
 - 7、研究発表6
 - 8、研究発表7
 - 9、研究発表8
 - 10、研究発表9
 - 11、研究発表10
 - 12、研究発表11
 - 13、研究発表12
 - 14、研究発表13
 - 15、研究発表14
8. 成績評価方法：

平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]
9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』
苅部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』
『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか
10. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは1日前、小論文は発表終了後2週間以内に完成するよう準備する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：日本近世・近代史研究演習Ⅱ／ Early Modern and Modern History in Japan(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LM23505, 科目ナンバリング：LJS-HIS614J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世史研究法（2）

2. Course Title (授業題目)：Research Methods in Early Modern History (2)

3. 授業の目的と概要：「近世史研究法（1）」の続講。受講者は、自らの報告内容に講義中での議論を踏まえ、論文の執筆を目指していく。受講者には、主体的・積極的な議論への参加を求める。必ず「近世史研究法（1）」と連続で受講すること。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to acquire abundant knowledge and identify a research in early modern Japanese history. Positive participation in classes is expected.

5. 学習の到達目標：(1)日本近世史において、高度な史料読解能力と、自主的な研究能力を培う。

(2)報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identify a research issue.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は対面で実施するが、場合によりオンライン受講を認める。

1. ガイダンス

2. 受講者による報告・討論(1)

3. 受講者による報告・討論(2)

4. 受講者による報告・討論(3)

5. 受講者による報告・討論(4)

6. 受講者による報告・討論(5)

7. 受講者による報告・討論(6)

8. 受講者による報告・討論(7)

9. 受講者による報告・討論(8)

10. 受講者による報告・討論(9)

11. 受講者による報告・討論(10)

12. 受講者による報告・討論(11)

13. 受講者による報告・討論(12)

14. 受講者による報告・討論(13)

15. 受講者による報告・討論(14)

8. 成績評価方法：

出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討論への取り組みなど）[40%]

9. 教科書および参考書：

特になし。

10. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。レジュメが事前に示されている場合はそのレジュメを熟読し、質問・意見を検討しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

必ず「近世史研究法（1）」と連続で受講すること。また、大学院生には学部生の指導的な役割を積極的に担うことを期待する。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：実践宗教学特論Ⅳ／ Practical Religious Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LM23506, 科目ナンバリング：LGH-RES616J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：実践宗教学試論～宗教者によるケア実践
2. Course Title (授業題目)：Practice of care around death by religious professionals
3. 授業の目的と概要：とりわけ「死」の周辺において宗教者が果たしてきたケアの役割について現場経験から学ぶ。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students learn how religion has played the role of care for the people facing death.
5. 学習の到達目標：さまざまな実践例から、宗教文化が死に直面した人々のケアに寄与してきたことを理解する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students understand from practical cases how religion has contributed to the care for the people facing death.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 本学担当教員による回と、ゲスト講師としてケアの現場で活動する宗教者（臨床宗教師）を招く回があります。各回の内容は仮のもので、順序、担当講師の詳細は未定です。決定し次第掲示等で告知します。
 1. 臨床宗教師の理念
 2. グリーフケアと宗教
 3. カフェ・デ・モンク（宗教者による被災地支援の実情）
 4. スピリチュアルケアと宗教的ケア
 5. 終末期医療と宗教者
 6. 臨床心理学と宗教
 7. 民間信仰論
 8. 宗教間対話
 9. 臨床宗教師の実践報告(1)
 10. 臨床宗教師の実践報告(2)
 11. 臨床宗教師の実践報告(3)
 12. 臨床宗教師の実践報告(4)
 13. 臨床宗教師の実践報告(5)
 14. 臨床宗教師の実践報告(6)
 15. 臨床宗教師の実践報告(7)
8. 成績評価方法：
 毎回のミニットペーパーの内容と出席状況により判断する。
9. 教科書および参考書：
 特に指定しない。
10. 授業時間外学習：授業内で指示する。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：

科目名：東洋史学研究演習Ⅱ／History in Asia(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LM23507, 科目ナンバリング：LGH-HIS609J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：明清官僚制度研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Studies of Bureaucracy in the Ming, Qing Dynasty

3. 授業の目的と概要：明清時代の漢文史料を精読することを通して、中国近世の政治制度、官僚制度に関する基礎知識を習得し、同時に自分で課題探究をするために必須となる文書読解の訓練を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will read carefully the historical documents of the Ming Qing period and develop basic reading skills crucial to understanding historical texts used in academic research. Moreover, students will learn basic methods to study political institutions, bureaucracy and so on in Early Modern China.

5. 学習の到達目標：1学期に引き続き、中国明清時代の一次史料読解を通じて、政治制度、官僚制度研究に必須となる公文書の基本形式に慣れると同時に、当時の官僚制と社会について分析を加える。特に各回の担当者を決めず、全員が毎回発表する(日本語訳でも訓読でもかまわない)。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：In the second semester, following the first semester, through the reading of the primary historical materials of Ming Qing China, students will accustom to the basic form of the official document which is essential for analyzing the bureaucracy and societ

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

本授業はオンラインと対面のハイブリッドによって行う。

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー

2. 明清官僚制度研究Ⅱー(1)

3. 明清官僚制度研究Ⅱー(2)

4. 明清官僚制度研究Ⅱー(3)

5. 明清官僚制度研究Ⅱー(4)

6. 明清官僚制度研究Ⅱー(5)

7. 明清官僚制度研究Ⅱー(6)

8. 明清官僚制度研究Ⅱー(7)

9. 明清官僚制度研究Ⅱー(8)

10. 明清官僚制度研究Ⅱー(9)

11. 明清官僚制度研究Ⅱー(10)

12. 明清官僚制度研究Ⅱー(11)

13. 明清官僚制度研究Ⅱー(12)

14. 明清官僚制度研究Ⅱー(13)

15. 明清官僚制度研究Ⅱー(14)及びまとめ

8. 成績評価方法：

発表内容(平常点)。

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. 授業時間外学習：毎回、テキストを日本語訳し、内容について調べて授業にのぞむ必要がある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：近代哲学研究演習Ⅱ／ Modern Philosophy (Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LM23508, 科目ナンバリング：LIH-PHI613J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カント『純粋理性批判』研究
2. Course Title (授業題目)：Kant's Critique of Pure Reason
3. 授業の目的と概要：カントの『純粋理性批判』(1781/87年)をドイツ語原文で読む。今年度はアンチノミー章にとりくむ。担当者には、訳読に加えて、解釈的な設問に答えてもらう。また、進行に応じて、関連するコメンタリーや研究書・論文などを報告する機会を設ける。
読解は前期の続きから始めるが、後期から参加した受講生がいる場合は、前期の復習の時間を設ける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We read Kant's Critique of Pure Reason (1781/87) in the original German. We will work on the chapter of "The Antinomy of Pure Reason" this year. In addition to reading, students will be asked to answer interpretive questions and to report on commentaries or articles on the Antinomy.
5. 学習の到達目標：哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To develop the abilities to read and analyse philosophical texts.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 - 1 - 15 「純粋理性のアンチノミー」章講読
第七節 宇宙論における、理性のじぶん自身との抗争の批判的判定
第八節 宇宙論的理念にかんする純粋理性の統制的原理
第九節 あらゆる宇宙論的観念にかんして、理性の統制的原理を経験的に使用することについて
 - I 世界全体という現象の合成における、全体性にかんする宇宙論的理念の解決
 - II 直観において与えられた全体の分割にさいしての、全体性にかんする宇宙論的理念の解決
数学的一超越論的理念の解決に対する結びの注、ならびに力学的一超越論的理念の解決への予備的注意
 - III 世界のできごとをその原因からみちびき出すさいの、導出の全体性にかんする宇宙論的諸理念の解決
自然必然性の普遍的法則と統合された、自由による原因性の可能性
普遍的な自然必然性と結合された、自由という宇宙論的理念の解明
 - IV その現存在一般という面での、現象の依存性の全体性にかんする宇宙論的理念の解決
純粋理性のアンチノミー全体に対する結語
8. 成績評価方法：
訳読、報告、討議、期末レポートによる。
9. 教科書および参考書：
Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.
(他の箇所参照のために原典の冊子は必須。できれば上記の新哲学文庫版を購入してください。)
10. 授業時間外学習：予習を欠かさずに演習に臨むこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：記述言語学研究演習 I / Descriptive Linguistics (Advanced Seminar) I

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LM23509, 科目ナンバリング：LIH-LIN611J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：未知の言語の調査と分析
2. Course Title (授業題目)：Research, Analysis, and Description of Non-Researched Languages
3. 授業の目的と概要：未調査・未解明で文字を持たない消滅寸前の少数言語、このような世界の言語を対象に、音声から音韻、形態、文の構造まで網羅的に調査・分析する方法を実践的に身につけます。さらに解明したことを言語学上の記号と術語を用いて、専門的かつ体系的に記述する方法を学びます。
理論を用いても説明困難な言語現象をどのように分析・考察しうるか実際のデータを基に検討するほか、記述文法・辞書の作成に至るプロセスを体験し、消滅危機言語のアーカイブ化についても議論します。当講義では、話者 4 人の言語と話者 500 人の言語の一次データを扱います
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course will focus on endangered languages that have not yet been researched. Students will both analyze data and document them using descriptive linguistic methods. The course will also include discussion about how such languages might be archived.
5. 学習の到達目標：・未知の言語の調査・分析方法を理解する。
・導いた規則性や分析結果を、言語学の術語を用いて記述できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of this course, students will be able to research, analyze and provide a linguistic description of an unknown, unresearched language.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 世界の言語状況、未知の言語・調査地の探し方
 2. 未知の言語へのアプローチ方法、調査媒介言語
 3. 調査言語・調査地の決定前に行う準備と許可申請
 4. 調査・分析・記述 1：音声の聞き取りと国際音声記号を用いた書き取り
 5. 調査・分析・記述 2：音素の設定と弁別的特徴
 6. 調査・分析・記述 3：形態音韻論的現象
 7. 調査・分析・記述 4：語形成のプロセスと音韻規則
 8. 調査・分析・記述 5：品詞分類と定義、文法範疇
 9. 調査・分析・記述 6：句・文の構造、文の必須要素
 10. 調査・分析・記述 7：結合価、移動、情報構造
 11. 調査・分析・記述 8：意味役割、意味体系、発話と意味
 12. 調査・分析・記述 9：共時的分析と通時的分析、言語変化
 13. 調査・分析・記述 10：説明困難な言語現象の分析と考察
 14. 調査方法と得られるデータの違い、データの記録方法
 15. 消滅危機言語の記述、保存と継承、アーカイブ化
8. 成績評価方法：
定期試験 (70%)、発表 (30%)
9. 教科書および参考書：
適宜、資料を配布します。
10. 授業時間外学習：授業後、扱ったデータや調べた文献をもとにして、さらにどのような調査や発展的分析・考察が可能であるかを考えてください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：理論社会学研究演習Ⅳ／ Theoretical Sociology(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：単位数：2

担当教員：永井 彰

コード：LM23510, 科目ナンバリング：LIH-SOC614J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：地域社会学の理論と論点
2. Course Title (授業題目)：Theories and issues of regional sociology
3. 授業の目的と概要：地域社会を研究するための基礎理論を学ぶとともに、地域社会研究において重要な論点（地域ケア、地域医療、地域自治、地域福祉、住民自治組織など）について、資料の検討と議論をつうじて理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will learn the basic theory for studying the local community, and will understand important issues in community research (community care, community medicine, local governance, community welfare, inhabitant organizations, etc.) through examination and discussion of materials.
5. 学習の到達目標：日本の地域社会を研究するための基礎理論について理解できるようになる。
日本の地域社会を研究するための重要な論点について理解できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to understand the basic theories for studying the Japanese community.
Students will be able to understand important issues for studying the Japanese community.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 農村地域社会の理論（1）
 3. 農村地域社会の理論（2）
 4. 農村地域社会の理論（3）
 5. 地域ケア・システムと地域社会（1）
 6. 地域ケア・システムと地域社会（2）
 7. 地域医療の展開と地域社会の変貌（1）
 8. 地域医療の展開と地域社会の変貌（2）
 9. 地域医療・地域福祉とローカルガバナンス（1）
 10. 地域医療・地域福祉とローカルガバナンス（2）
 11. 公私協働とは何か（1）
 12. 公私協働とは何か（2）
 13. ソーシャルインクルージョン
 14. 総括討論（1）
 15. 総括討論（2）
8. 成績評価方法：
課題提出による（事前課題の提出を含む）。
9. 教科書および参考書：
参考文献は、クラスルームにおいて指示する。
10. 授業時間外学習：授業参加にあたっては、クラスルームにおいて事前に提示された課題を提出しなければならない。クラスルームに提示された参考文献についても、事前に読むことが必要である。授業後は、授業内容についての確認レポートを提出する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
演習参加者には、授業に関連するテーマについて報告をしてもらう。

科目名：応用死生学研究実習Ⅱ／ Practical Studies on Death & Life (Advanced Field Experience)

曜日・講時：後期 木曜日 1 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：高橋 原、井川 裕寛、谷山 洋三

コード：LM24101, 科目ナンバリング：LGH-RES618J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：スピリチュアルケア実習

2. Course Title (授業題目)：Field Experience of Spiritual Care

3. 授業の目的と概要：スピリチュアルケアが提供される現場での実習と参与観察を行い、これに基づいてケーススタディによるレポート(会話記録 など)を作成・発表し、職掌の理解、倫理的課題の把握と分析、多職種チームアプローチの方法と意義、ケア提供者の責任と倫理について、実践的な視点から考察する。実習報告会(会話記録検討会など)では、他の履修者の実践内容に基づいて、自己の実践性について相互評価を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students conduct the clinical training and observe the clinical sites where spiritual care is provided. They write and present reports (such as verbatim) based on this field experience, to grasp and analyze the ethical issues, multi-disciplinary team approach, and the responsibilities of the care provider; through practical perspective. In practice report sessions (including verbatim session, etc.), students evaluate his/her performance each other through the reports.

5. 学習の到達目標：死生学的課題にとりくむ現場における自らの役割を理解し、体系的に論じる力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students develop the understanding of own role in the field of dealing with life-and-death issues, and develop the ability to discuss it systematically.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業のみ

第1回：学習契約、実習先の決定・書類締結

第2回：実習訪問(1)実習先の状況理解

第3回：実習訪問(2)職掌の理解

第4回：実習訪問(3)倫理的課題

第5回：実践報告会(1)実習内容の分析

第6回：実習訪問(4)参与観察報告1

第7回：実習訪問(5)チームアプローチ

第8回：実習訪問(6)多職種間コミュニケーション

第9回：実践報告会(2)実習内容の分析と批判的検討

第10回：実習訪問(7)参与観察報告2

第11回：実習訪問(8)情報共有

第12回：実践報告会(3)活動の倫理と責任についての分析

第13回：実習訪問(9)ケア提供者の倫理

第14回：実習訪問(10)ケア提供者の責任

第15回：まとめ・自己評価・実習報告レポート

8. 成績評価方法：

レポート[20%]、自己課題の明確化[40%]、実習内容の評価[40%]

9. 教科書および参考書：

教科書：窪寺俊之ほか編著『スピリチュアルケアを語る 第三集 臨床的教育法の試み』関西学院大学出版会、2010年

参考書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年

瀧口俊子・大村哲夫ほか編著『共に生きるスピリチュアルケア』創元社、2021年

10. 授業時間外学習：授業内で指示する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

この授業の履修には、高度な日本語運用能力が不可欠です。履修者は死生学・実践宗教学専攻分野の大学院生に限る。応用死生学研究実習 I、応用死生学研究実習 III、死生学特論 I(高橋原)、実践宗教学特論 I(谷山洋三)、人文社会科学総合(前期、高橋原)を履修済みであること。併せて、応用死生学研究実習 II、死生学特論 II(高橋原)、実践宗教学特論 II(谷山洋三)、人文社会科学総合(後期、高橋原)を履修すること。

科目名：理論言語学研究演習 I / Theoretical Linguistics (Advanced Seminar) I

曜日・講時：後期 木曜日 1 講時

semester：2 単位数：2

担当教員：小泉 政利

コード：LM24102, 科目ナンバリング：LIH-LIN612J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語と思考

2. Course Title (授業題目) : Language and thought

3. 授業の目的と概要：この授業の目的は、言語と思考に関する研究事例の批判的検討を通じて、言語学の基礎を学ぶことである。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The purpose of this class is to learn the basics of linguistics through a critical review of research cases on language and thought.

5. 学習の到達目標：下記について自分なりに説明できるようになることを目標とする。

a) オーストロネシア語族の言語の形態統語的特性

b) 言語と思考の関係

6. Learning Goals(学修の到達目標) : By the end of the course, students should acquire a basic understanding of

a) morphosyntactic properties of Austronesian languages, and

b) the interaction of language and thought.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 ガイダンス

2 月田 (2009a)

3 Tsukida (2005) 1

4 Tsukida (2005) 2

5 McDonnell and Chen (2022)

6 Chen (2023)

7 月田 (2009b) 6.1-6.2

8 月田 (2009b) 6.3

9 月田 (2009b) 6.4-6.5

10 月田 (2009b) 6.6

11 月田 (2009b) 6.7-6.8

12 月田 (2009b) 6.9-6.11

13 月田 (2009b) 6.12-6.13

14 月田 (2009b) 7.1-7.5

15 月田 (2009b) 7.6-7.7

8. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

・発表：40%

・課題：40%

・議論への積極的な参加：20%

9. 教科書および参考書：

開講時に指示します。

They will be designated at the beginning of the course.

10. 授業時間外学習：自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：アーカイブズ学特論／ Archival Science (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：加藤 諭

コード：LM24201, 科目ナンバリング：LJS-HIS629J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：歴史研究とアーカイブズ学
2. Course Title (授業題目)：Historical Science and Archival Science
3. 授業の目的と概要：本講義では、主としてアーキビストとして必要な知識を習得し、アーカイブズ学の概要を理解することを目的とする。アーカイブズの成り立ちや役割について国内外の事例から理解を深めるとともに、その保存・管理システムを構築するための学問分野であるアーカイブズ学の理論と体系について学び、様々なアーカイブズのあり方について考察する。またアーカイブズの実務に必要な、評価選別、目録編成、利用審査、利用普及活動などに関する具体的な方法論について知見を深める。その上で、記録の収集、保存、整理公開、利活用の流れを総合的に理解し、
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this lecture is mainly to acquire the knowledge necessary for archivists and to understand the outline of archival studies. In addition to deepening the understanding of the origins and roles of archives through case studies from Japan and abroad, students will learn about the theories and systems of archival science, which is an academic field for constructing archival preservation and management systems, and will consider various types of archives. In addition, students will learn about theories and systems of archival science, which is an academic discipline for building archival preservation and management systems. In addition, the course aims to provide students with a comprehensive understanding of the process of collecting, preserving, organizing, disclosing, and utilizing records, and to deepen their knowledge.
5. 学習の到達目標：アーカイブズ学の理論と体系について学び、記録の収集、保存、整理公開、利活用のあり方について理解することを目的とする。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to learn about the theory and system of archival studies, and to understand how records should be collected, preserved, organized, released, and utilized.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス 進め方と目的、評価方法についての説明
 2. アーカイブズの理論と原則
 3. レコード・マネジメントとアーカイブズ
 4. アーキビストの倫理と役割
 5. 世界のアーカイブズと歴史
 6. 日本のアーカイブズ① (公文書館)
 7. 日本のアーカイブズ② (民間アーカイブズ)
 8. 日本のアーカイブズ③ (大学アーカイブズ)
 9. 公文書管理と法制度
 10. アーカイブズの技法 (評価選別)
 11. アーカイブズの技法 (目録編成)
 12. アーカイブズの技法 (利用審査)
 13. アーカイブズの現状と課題 (利用普及と人材育成)
 14. 東北大学史料館見学
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

出席 (80%)・レポート (20%)
9. 教科書および参考書：

レジュメ随時配布
10. 授業時間外学習：配付されたレジュメを復習すること。レポートを作成すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：日本語変異論研究演習Ⅱ／Variation of Japanese(Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：大木 一夫

コード：LM24202, 科目ナンバリング：LJS-LIN613J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語分析法Ⅱ-言語変化研究
2. Course Title (授業題目)：Methods of analyzing the Japanese language II: study of language change
3. 授業の目的と概要：日本語史研究は、古い時代の日本語がどのような姿であったのかという点は、かなり精細に明らかにしてきている。それに対して、言語はどのように変化するのか、また、言語はなぜ変化するのかという観点からの分析が十分ではない。そこで、日本語の歴史上におこった言語変化をあとづけながら、そこにはどのような変化があったのか、また、なぜ変化したのかという観点からの分析を加える。参加者が調査・考察をおこなって、その成果を発表し、議論する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, we will clarify the linguistic changes that have occurred in the history of the Japanese language, and analyze them from the viewpoint of what kind of changes there were and why they occurred. Participants will conduct their own research and considerations, present their findings, and discuss them.
5. 学習の到達目標：(1) 日本語史研究にかかわる文献資料が読めるようになる。
(2) 日本語史上の言語変化の問題点を見いだすことができるようになる。
(3) 言語変化をとらえるための調査をおこない、それにもとづき報告・議論ができるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students
(1) be able to read literature related to the study of Japanese language history.
(2) be able to find the problem of language change in Japanese language history.
(3) be able to conduct research to clarify
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス
 2. 言語変化研究の現状(1)
 3. 言語変化研究の現状(2)
 4. 言語変化研究の現状(3)
 5. 言語変化研究の問題意識(1)
 6. 言語変化研究の問題意識(2)
 7. 言語変化についての研究発表(1)
 8. 言語変化についての研究発表(2)
 9. 言語変化についての研究発表(3)
 10. 言語変化についての研究発表(4)
 11. 言語変化についての研究発表(5)
 12. 言語変化についての研究発表(6)
 13. 言語変化についての研究発表(7)
 14. 言語変化についての研究発表(8)
 15. 言語変化についての研究発表(9)、まとめ
8. 成績評価方法：

参加態度・レポート。上記の到達目標に即して総合的に評価する。詳細は開講時に示す。
9. 教科書および参考書：

テキスト：大木一夫編『ガイドブック日本語史調査法』ひつじ書房2019。
その他、必要なテキストはコピーして配布する。参考文献は講義内で随時示す。
10. 授業時間外学習：日本語史研究・言語変化研究にかかわる文献資料を読んで参加する。
言語変化の過程、要因の研究手法について検討する。
日本語史上の言語変化についての調査をおこなう。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

日本語変異論研究演習Ⅰ「日本語分析法Ⅰ-語の意味分析」から連続履修するのがのぞましい。

科目名：日本古典文学研究演習Ⅳ／ Study of Japanese Classical Literature(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

semester：2学期 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LM24203, 科目ナンバリング：LJS-LIT610J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『今昔物語集』の表現形成
2. Course Title (授業題目)：Research on Konjaku Monogatari-shu (今昔物語集)
3. 授業の目的と概要： 演習形式の授業を通して、『今昔物語集』の表現形成の問題を、広く文化的、社会的問題とかわらせて考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will clarify the characteristics of tales in Konjaku Monogatari-shu (今昔物語集), and position their significance widely in the history of culture and society.
5. 学習の到達目標： 文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、表現力を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire advanced and specialized ability necessary to think about literature, culture and society creatively.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 2 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 3 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 4 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 5 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 6 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 7 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 8 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 9 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 10 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 11 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 12 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 13 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 14 考察発表とそれにもとづく意見交換
 - 15 まとめ
8. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]
9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 各回で考察対象となる物語の記述をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

本演習のⅢから連続して履修すること。

科目名：インド学特論Ⅱ／ Indological Studies(Advanced Lecture)II

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LM24204, 科目ナンバリング：LGH-PHI602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：祭式文献購読 ヴェーダ散文選
 2. Course Title (授業題目)：Vedic literature.
 3. 授業の目的と概要：本講義では『シャタパタ・ブラーフマナ』 I 6,3 (B.C. 650 頃以降)「Indra による Vrtra 退治」の神話を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Weber の校訂本及び Kalyan-Bombay 版を基本テキストとして、Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Stud
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will read Satapatha-Brahmana I 6,3. The course provides students with essential discipline in Indian philology. It also help students learn about grammar, vocabulary, and syntax of Sanskrit as well as the Veda.
 5. 学習の到達目標：ヴェーダ文献及び祭式に関する知識を習得し、ヴェーダの散文が読めるようになる。
 6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of this course, students will be able to
 1. acquire fundamental skills of philological study through with reading of the Brāhmaṇa.
 2. achieve essential knowledge to understand the origin of religion, culture, and language in India.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)
 - 2-15 Satapatha-Brahmana I 6,3
 8. 成績評価方法：

授業への準備状況 (30%), 授業で示される理解度 (70%)
 9. 教科書および参考書：

Satapatha-Brahmana (Ed. Weber, Ed. Kalyan-Bombay); Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, Macdonell: Vedic Grammar for Student; Delbrück: Altindische Syntax; Whitney: Sanskrit Grammar 等。
 10. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度のスピードで読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。
- Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. They are also required to make a tho
- 1.1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 - 1.2. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。
Knowledge of essential Sanskrit Grammar is prerequisite.

科目名：英文学・英語学論文作成法特論Ⅱ／ Academic Writing in English Literature and Linguistics
(Advanced Lecture)II

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：TINK JAMES MICHA

コード：LM24205, 科目ナンバリング：LGH-LIT617E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Academic Writing for Graduate Students

2. Course Title (授業題目)：大学院生の執筆

3. 授業の目的と概要：This class is a continuation of the writing class in the previous semester, and is intended to help students develop the skills for writing research papers/essays in English. This course will therefore concentrate on the skills for writing longer research

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：この授業は、前学期に行われたライティングの授業の続編であり、英語で研究論文／エッセイを書くためのスキルを身につけることを目的としている。そのため、この授業では、学期中に2つの長文の課題研究を課すことで、学位論文のような人文科学におけるより長い研究プロジェクトを書くためのスキルに集中する。毎週、リサーチ・ライティングの1つの側面について、執筆前の段階から最終的な編集まで、復習と練習を行います。コース終了時には、アカデミックな目的のために英語で文章を書くための、より洗練された「声」を身につけることができます。

5. 学習の到達目標：By the end of the course students should acquire learning goals: (1) to prepare and write a short essay in English (Introduction-Body-Conclusion format); (2) To understand scholarly citation and reference skills; (3) To improve skills in academic vocabula

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) 英語によるエッセイの準備と執筆 (序論-本文-結論の形式)

(2) アカデミックな引用と参照のスキルの理解

(3) アカデミックな語彙とスタイルのスキルの向上。

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Week 1 Introduction to Research Writing

Week 2 From Topics to Questions

Week 3 From Questions to a Problem.

Week 4 From Problems to Sources.

Week 5 Engaging Sources.

Week 6 Making Good Arguments

Week 7 Making Good Claims.

Week 8 Reasons and Evidence. [First written assignment due]

Week 9 Warrants

Week 10 Incorporating Sources

Week 11 Revising Style.

Week 12 Using Visual Evidence

Week 13 Summarizing and Abstracts

Week 14 Additional Writing

Week 15 Conclusion

8. 成績評価方法：

First essay 40%; Second essay 40% Additional Written exercises 20%

9. 教科書および参考書：

Kirszner & Mandell, The Pocket Cengage Handbook. 7th Edition (Cengage, 2017)

10. 授業時間外学習：First research essay

Second research essay (may be a development of previous essay topic)

Shorter assignments to Google Classroom

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

This class will be taught in English

科目名：英語学特論IV／ English Linguistics (Advanced Lecture) IV

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

semester：2学期 単位数：2

担当教員：中村 太一

コード：LM24206, 科目ナンバリング：LGH-LIN606J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：統語論意味論インターフェース研究
2. Course Title (授業題目)：Syntax-Semantics Interface
3. 授業の目的と概要：生成文法理による統語論・意味論のインターフェイスに関わる研究をとりあげ、研究動向を把握し、今後の理論進展の方向を探る。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course will address issues on the Syntax-Semantics interface phenomena and aims to provide useful information for future research.
5. 学習の到達目標：生成文法理による統語論・意味論のインターフェイスに関わる研究の動向を把握するとともに、今後の研究に活用する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand current issues on the Syntax-Semantics interface phenomena, and use the information obtained from this course well for future research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業は、担当教員による講義、学生の発表、ディスカッションにより構成される。内容およびスケジュールは次の通りである。

1. ガイダンス
2. Competition theories of MaxElide effects (4.1-4.2)
3. The locus of A-bar movement (4.3)
4. Empirical problems for competition (1) (4.4.1)
5. Empirical problems for competition (2) (4.4.2)
6. Contrast and MaxElide effects (4.5-4.6)
7. Contrast, ellipsis, and focus (5.1)
8. Reciprocals and verb phrase ellipsis (5.2)
9. Contrast in noun phrase ellipsis (5.3)
10. Tense, times and VPE (5.4)
11. Negation and ellipsis (5.5)
12. Voice mismatches, non-actuality, existentials, and contrast (5.6)
13. Kuno-Levin effects (5.7)
14. Only once more thing (5.8)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業における発表 (30%), 期末レポート (70%)

9. 教科書および参考書：

テキスト/textbook：

Stockwell, Richard (2020) Contrast and Verb Phrase Ellipsis: Triviality, Symmetry, and Competition, Doctoral dissertation, University of California, Los Angeles.

参考書/reference book：

原口庄輔・中村捷・金子義明 (編)『増補版 チョムスキー理論辞典』研究社

10. 授業時間外学習：予習を十分に行う (2時間)。授業後は論点をまとめるとともに、自分の研究テーマとの関連性について検討を行う (2時間)。

Students are required to read the assigned part of the textbook for each class. They are also required to review each class by summarizing the main points, focusing on their relevance to their ow

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：中国語文化論研究演習Ⅱ／ Chinese Culture (Advanced Seminar) Ⅱ

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：張 佩茹

コード：LM24207, 科目ナンバリング：LGH-PHI618J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現代中国語文法研究

2. Course Title (授業題目)：Modern Mandarin Chinese Linguistics

3. 授業の目的と概要：中国語で書かれた現代中国語文法を扱った論文を精読し、中国語を読む能力と現代中国語に関する文法問題を考える能力の養成を目的とする。また、論文に関連する文法現象のなかで、受講生が各自テーマを絞って、最後にレポートとしてまとめる。全体を通して、現代中国語文法に関する知識を深め、基本的な研究手法を習得する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to improve students' ability in reading Chinese and approaching linguistic research questions about modern Mandarin Chinese. Also, students are required to find a certain topic related to the articles we read in class and write a report accordingly in the end of the semester. In the end of this course, students will gain knowledge about modern Chinese linguistics and learn how to apply some of the basic research techniques when writing a report.

5. 学習の到達目標：①現代中国語文法における重要な概念を理解し、説明することができる。

②現代中国語文法に関する問題点を発掘する力を身につける。

③関心のあるテーマについて学術的なレポートを作成する力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：①Students will understand the essential concepts in modern Mandarin Chinese linguistics and know how to explain them appropriately.

②Students will develop the ability to notice possible research questions about modern Mandarin Chinese.

③Students will ac

7. 授業の内容・方法と進度予定：

<授業内容・方法>輪読形式で進める。

<進度予定>

第1回 ガイダンス

第2回 研究論文4 (1)

第3回 研究論文4 (2)

第4回 研究論文4 (3)

第5回 研究論文4 (4)

第6回 研究論文5 (1)

第7回 研究論文5 (2)

第8回 研究論文5 (3)

第9回 研究論文5 (4)

第10回 研究論文6 (1)

第11回 研究論文6 (2)

第12回 研究論文6 (3)

第13回 研究論文6 (4)

第14回 研究論文6 (5)

第15回 期末まとめ

8. 成績評価方法：

授業への取り組み、授業内発表：50%

期末レポート：50%

9. 教科書および参考書：

<教科書>プリントを配布する。

<参考書>『文法講義』朱德熙 著、杉村博文・木村英樹 訳、白帝社、1995年

10. 授業時間外学習：予習：事前にテキストの指定箇所を読んだうえ、和訳を考え、さらに問題点を整理する。

復習：テキストや関連資料を読み返し、正確に理解できたかを確認する。興味関心のある文法現象について考える。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：応用死生学研究実習Ⅳ／ Practical Studies on Death & Life (Advanced Field Experience)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：高橋 原、谷山 洋三、井川 裕覚

コード：LM24208, 科目ナンバリング：LGH-RES620J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：スピリチュアルケア実習内容の指導(振り返り)
2. Course Title (授業題目)：Supervision for the Field Experience of Spiritual Care
3. 授業の目的と概要：応用死生学研究実習Ⅱの実習に基づいて、感情の言語化、自分史の振り返り、自己開示・内省のワークショップを通して、自己のケア能力・姿勢・態度を検証・内省する。自己検証・内省を継続することにより、高度な実践力を養う。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Each Student verbalizes own emotions and reflects on his/her own life history, in self-disclosure and introspection workshops. He/She reflects and evaluates his/her own care skills and listening attitudes through these group sessions, based on the field experience in Practical Studies on Death & Life II. They better improve practical skills by continuing self-evaluation and reflection.
5. 学習の到達目標：実習での経験に基づいてスピリチュアルケア専門職としての責任と倫理を高め、専門的な実践力を養う。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Each student develops his/her responsibility and ethics as a spiritual care professional based on the experience of practical training, and then cultivates the professional ability.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
対面授業のみ
第1回：実習先オリエンテーション
第2回：ケア倫理オリエンテーション
第3回：学習契約
第4回：ロールプレイ 傾聴の姿勢・態度の確認
第5回：会話記録検討(1)沈黙によるケア
第6回：会話記録検討(2)感情表現によるケア
第7回：会話記録検討(3)感情の言語化
第8回：会話記録検討(4)自己開示
第9回：総合ディスカッション
第10回：生育歴セミナー(1)自分史の振り返り
第11回：生育歴セミナー(2)課題の自覚
第12回：会話記録検討(5)自己内省
第13回：会話記録検討(6)「傷ついた癒し人」
第14回：会話記録検討(7)セルフケア
第15回：学習成果報告
8. 成績評価方法：
レポート[20%]、自己課題の明確化[40%]、実習内容の評価[40%]
9. 教科書および参考書：
教科書：窪寺俊之ほか編著『スピリチュアルケアを語る 第三集 臨床的教育法の試み』関西学院大学出版会、2010年
参考書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年
瀧口俊子・大村哲夫ほか編著『共に生きるスピリチュアルケア』創元社、2021年
10. 授業時間外学習：授業内で指示する。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：
この授業の履修には、高度な日本語運用能力が不可欠です。履修者は死生学・実践宗教学専攻分野の大学院生に限る。応用死生学研究実習Ⅰ、応用死生学研究実習Ⅲ、死生学特論Ⅰ(高橋原)、実践宗教学特論Ⅰ(谷山洋三)、人文社会科学総合(前期、高橋原)を履修済みであること。併せて、応用死生学研究実習Ⅱ、死生学特論Ⅱ(高橋原)、実践宗教学特論Ⅱ(谷山洋三)、人文社会科学総合(後期、高橋原)を履修すること。

科目名：理論社会学特論 I / Theoretical Sociology (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：永井 彰

コード：LM24209, 科目ナンバリング：LIH-SOC601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ハーバーマスの社会理論
2. Course Title (授業題目)：Social Theory of J. Habermas
3. 授業の目的と概要：ハーバーマス社会理論を社会学理論の展開史のなかに位置づけその特徴を明らかにするとともに、ハーバーマス社会理論の論理構造を明示化し、その「可能性の中心」について検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of the logic of the social theory of Habermas, to help students learn about sociological concepts and theory.
5. 学習の到達目標：ハーバーマス社会理論の論理構造について理解できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help understand the logic of the social theory of Habermas.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 1. イントロダクション
 2. ハーバーマス研究の視座と方法
 3. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (1)
 4. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (2)
 5. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (3)
 6. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (4)
 7. コミュニケーション行為理論の論理構造 (1)
 8. コミュニケーション行為理論の論理構造 (2)
 9. コミュニケーション行為理論と公共圏論
 10. コミュニケーション行為概念の再規定
 11. 生活世界論の再構成
 12. 生活世界とシステム
 13. ハーバーマスの社会理論の視座と方法
 14. 再構成的社会学の可能性
 15. 講義のまとめ
8. 成績評価方法：

(○) 期末レポート [50%] (○) その他 (受講票の提出など) [50%]
9. 教科書および参考書：

永井 彰『ハーバーマスの社会理論体系』東信堂、2018 年。
10. 授業時間外学習：授業前に、教科書の該当箇所を読んでおくこと。
授業後に、レジュメを参照しながら、教科書の該当箇所を読むこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：哲学研究演習V／Philosophy(Advanced Seminar)V

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LM24210, 科目ナンバリング：LIH-PHI632J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アリソン『カントの超越論的観念論』を読む

2. Course Title (授業題目)：Henry E. Allison, Kant's Transcendental Idealism: An Interpretation and Defense

3. 授業の目的と概要：アリソンの『カントの超越論的観念論—解釈と擁護』(改訂増補版, 2004年)を読む(英語)。おそらくここ四半世紀でもっとも重要な『純粹理性批判』の研究書であり、ひとつの里程碑として踏まえておくべきという地位をなお失っていないと思われる。

予定では、第1部のThe Nature of Transcendental Idealismから読み始め、時間が許せば受講生の関心に応じて別の箇所へ進む。演習では担当者による要旨の発表(日本語)につづいて、討議によって理解を深めるものとする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Reading Kant's Transcendental Idealism by Henry E. Allison.

5. 学習の到達目標：英語の専門的なカント研究書を読みこなす力をつけること。アリソン式のカント解釈の概要を学ぶこと。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To read a scholarly work on Kant in English. To obtain an overview of Allison's interpretation of Kant.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Part I The Nature of Transcendental Idealism

1 An Introduction to the Problem

2 Transcendental Realism and Transcendental Idealism

3 The Thing in Itself and the Problem of Affection

Part II Human Cognition and Its Conditions

4 Discursivity and Judgment

5 The Sensible Conditions of Human Cognition

6 The Intellectual Conditions of Human Cognition

Part III Categories, Schemata, and Experience

7 The Transcendental Deduction

8 The Schematism of the Understanding and the Power of Judgment

9 The Analogies of Experience

10 Inner Sense and the Refutation of Idealism

Part IV The Transcendental Dialectic

11 Reason and Illusion

12 The Paralogisms

13 The Antinomy of Pure Reason

14 The Ideal of Pure Reason

15 The Regulative Function of Reason

8. 成績評価方法：

報告、討議、期末レポートによる。

9. 教科書および参考書：

Henry E. Allison, Kant's Transcendental Idealism: An Interpretation and Defense, Revised and Enlarged Edition, Yale University Press, 2004. ISBN-13: 978-0300102666.

(講読箇所のコピーを配布する。その他の箇所や文献表を参照するには、上記の冊子を買うほうが望ましい。)

10. 授業時間外学習：予習を欠かさずに演習に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：社会心理学研究演習 I / Social Psychology (Advanced Seminar) I

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：荒井 崇史

コード：LM24211, 科目ナンバリング：LIH-PSY614J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：犯罪・非行研究の展開

2. Course Title (授業題目)：Trends in the Study of Crime and Delinquency

3. 授業の目的と概要：本授業では、実証的な手法で実施された社会心理学並びに犯罪心理学の英文文献を多読し、日常生活で生じる反社会的行為に関連する最新の研究知見を理解することを第一の目的とする。また、他の受講生とディスカッションをしながら、心理学の研究手法の理解を深め、その方法を修得することを第二の目的とする。受講生は、事前に指定された英文文献を読むだけでなく、関連する資料を準備し、授業では発表と討論を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this class, the primary purpose is to read the literature on social psychology and criminal psychology conducted in an empirical methods and to understand the modern research findings related to antisocial behavior that occurs in everyday life. And The second purpose is to deepen the understanding of psychological research methods and to learn the methods while having discussions with other students. Students not only read designated literatures, but also prepare related materials, and present and discuss in class.

5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、以下の 2 点である。

(1) 社会心理学並びに犯罪心理学における最新の研究を読解することで、反社会的行為に関する心理学理論や知見への理解を深める。

(2) 社会心理学並びに犯罪心理学における最新の研究を読解することで、心理学の研究手法への理解を深め、最新の研究手法を修得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course is designed to acquire following points.

By reading the modern research in social psychology and criminal psychology…;

1. students will deepen their understanding of psychological theories and findings on antisocial behavior.

2. students will

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

【授業の実施形態】

この科目は対面で授業を実施します。ただし、社会的状況によってやむを得ない場合にはオンラインで実施することもあります。授業にあたって、この科目では Google Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。授業の開始前に、必ず Google Classroom にアクセスし、クラスに参加してください。

1. 全体ガイダンス：授業の進め方の確認と担当の決定

2. 社会心理学研究の発表・討議 (1)

3. 社会心理学研究の発表・討議 (2)

4. 社会心理学研究の発表・討議 (3)

5. 社会心理学研究の発表・討議 (4)

6. 社会心理学研究の発表・討議 (5)

7. 社会心理学研究の発表・討議 (6)

8. 中間のまとめ：社会心理学と犯罪心理学の関連

9. 犯罪心理学研究の発表・討議 (1)

10. 犯罪心理学研究の発表・討議 (2)

11. 犯罪心理学研究の発表・討議 (3)

12. 犯罪心理学研究の発表・討議 (4)

13. 犯罪心理学研究の発表・討議 (5)

14. 犯罪心理学研究の発表・討議 (6)

15. 本授業の総括と今後の展開

※初回の授業で各自の関心を尋ねるので必ず出席すること。

※初回の授業を受けて、具体的なテーマを変更する場合がある。

8. 成績評価方法：

発表・討論参加 (50%)

授業時間外学習・準備 (40%)

レポート (10%)

※やむを得ない事情 (忌引き・病気等) で欠席した場合には、その根拠資料 (診断書等) を授業担当教員に提出すること。事由により、成績判定において考慮する場合がある。

9. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。発表論文は、以下の雑誌に過去 10 年以内に収録された論文に限る。

Journal of Personality and Social Psychology
Journal of Applied Social Psychology
Journal of Social Psychology
The British Journal of Social Psychology
Criminology
The British Journal of Criminology

なお、

10. 授業時間外学習：事前学習として、パワーポイントなどを使って、担当論文を他の履修者に説明できるように準備しておくこと。発表の担当者ではない授業の前にも、討議に積極的に参加するために、当該範囲の予習を行うこと。事後学習として、発表資料の改定を求める。

In order to prepare for the lecture, students should be able to explain their paper to other students using PowerPoint etc. In order to

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

履修状況によって、授業形態や発表回数が変更になることがある。初回の授業で授業形態や発表担当を調整するので、履修を希望する方は必ず出席すること。なお、学習の一環として、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

The class format and number of presentations may be changed depending on the number of students. We will adjust the class format and the number o

科目名：文化財科学研究演習Ⅳ／ Science of Cultural Properties(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：千葉 正利、吉野 武

コード：LM98814, 科目ナンバリング：LJS-CUM606J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化財科学の方法と理論（1）

2. Course Title (授業題目)：Advanced Seminar on method and theory of Cultural Property Protection Studies

3. 授業の目的と概要：（1）文化財保護と方法と理論を把握する。（2）科学的手法を取り入れた文化財保護と活用の方法と理論を理解し、各自の研究テーマの課題を理解できるようになる。毎週の講義では、各学生が準備したレポートに基づいて発表をおこない、相互の討論を通じて理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will understand (1) method and theory of cultural property studies in Japan and (2) scientific approaches to understand cultural property protection. In this course, students will establish their own idea about cultural property protection study. In every class, a student prepare presentation remume, and students discuss on each issue for deeper understanding.

5. 学習の到達目標：（1）文化財保護と活用の研究史を把握する。（2）科学的手法を取り入れた文化財の保護と活用について理解し、各自の研究テーマの課題を理解できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students understand (1) history and epoch of cultural property protection/utilization studies in Japan, and (2) problems and the present condition according to their own theme.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

毎回、生徒が自分のテーマに沿った資料を用いて発表をおこない、最後にディスカッションをおこなう。講義の内容とスケジュールは以下の通りである。

第1回：ガイダンスと発表の説明

第2回：学生による研究発表とディスカッション①

第3回：学生による研究発表とディスカッション②

第4回：学生による研究発表とディスカッション③

第5回：学生による研究発表とディスカッション④

第6回：学生による研究発表とディスカッション⑤

第7回：学生による研究発表とディスカッション⑥

第8回：学生による研究発表とディスカッション⑦

第9回：学生による研究発表とディスカッション⑧

第10回：学生による研究発表とディスカッション⑨

第11回：学生による研究発表とディスカッション⑩

第12回：学生による研究発表とディスカッション⑪

第13回：学生による研究発表とディスカッション⑫

第14回：学生による研究発表とディスカッション⑬

第15回：学生による研究発表とディスカッション⑭

8. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%]

(○) その他（具体的には、発表と討論）[40%]

9. 教科書および参考書：

教室にて指示、プリントを配布。

10. 授業時間外学習：発表内容は、時間外に各自がまとめる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

研究演習Ⅲ、Ⅳを通年で連続履修することが望ましい。

科目名：キャリア設計演習／ Carrier Design Seminar

曜日・講時：後期 木曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：猪股 歳之

コード：LM24301, 科目ナンバリング：LAL-0AR521J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：キャリア・イメージを作る
 2. Course Title (授業題目) : For making a concept of your own profession
 3. 授業の目的と概要：この授業では、大学院文学研究科の学生が、日本の経済構造や労働法制といった基本事項について理解を深めるとともに、実際の「働く」現場のあり様について具体的なイメージを持ち、自らの将来のキャリアを主体的にプランニングしていけるよう、キャリア支援センターと共同して実践的な教育を行います。取得単位はスキル科目として修了単位にカウントされます（学生便覧で確認のこと）。
 4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this class, students of the Graduate School of Arts and Letters will deepen their understanding of basic matters such as Japan's economic structure and labor legislation, have a concrete image of the actual "working" field, and take the initiative in their future careers. We will provide practical educational guidance in collaboration with the Center for Career Support so that you can plan. Credits earned will be counted as graduation credits as a skill-specialized education subject (check the Student Handbook).
 5. 学習の到達目標：職業生活についての具体的なイメージを得て、自らのキャリアについて主体的に構想していけるようになる。
 6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students will be able to get a concrete image of their own work-life and think independently about their careers.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. オリエンテーション
 2. 日本経済の基本構造について(1)
 3. 日本経済の基本構造について(2)
 4. ビジネス全般について(1)
 5. ビジネス全般について(2)
 6. ビジネス全般について(3)
 7. 公務員
 8. 労働法
 9. 二十歳のハローワーク（様々な職種で活躍する先輩等による就職講演会）
 10. 業界・仕事研究セミナー(1)
 11. 業界・仕事研究セミナー(2)
 12. 業界・仕事研究セミナー(3)
 13. 自己分析と就職活動(1)
 14. 自己分析と就職活動(2)
 15. まとめ
 8. 成績評価方法：

授業と指定されたセミナー等への参加およびその報告の提出（100％）。
 9. 教科書および参考書：

特になし。必要な資料は授業時に配付する。
- Necessary materials will be distributed during class.
10. 授業時間外学習：授業中に指示された課題の準備。日常的にニュースやインターネット等を通じて経済情報に目配りすること。

Prepare for assignments given in class. Monitor economic information through news, the internet, etc. daily.

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

主として実践的教育から構成される実務・実践的授業/Practical business

科目名：心理学特論 I / Psychology (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 木曜日 3 講時

semester：2 学期 単位数：2

担当教員：WIWATTANAPANTUWO

コード：LM24302, 科目ナンバリング：LIH-PSY607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ウェルビーイングの心理学とその応用
2. Course Title (授業題目)：The Psychology of Well-being and its application
3. 授業の目的と概要：1946 年の世界保健機関 (WHO) 憲章の草案の中で、「健康とは、肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態 (well-being) であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」と定義されている (厚生労働省)。本講義では、「ウェルビーイング」の概念を紹介し、様々な観点を紹介する。講義の後半は自然災害や感染症が広まった「非常時」のウェルビーイングの研究について論じる。また、様々な研究がウェルビーイングや現在注目される話題とどのようにかわるかを考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The constitution of the World Health Organization (WHO) in 1946 rose the term of 'Health' as a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity. This course will introduce you to the world of well-being as it has been discussed in the various viewpoints. The second half of this course may include the study of 'well-being during the mass crisis' such as, natural disaster and pandemic diseases as a part of my current research studies. During the class students can discuss how their research related to the concept of well-being (or others current topics).
5. 学習の到達目標：1. 受講者は、ウェルビーイングの定義、測定方法及び、他の心理学概念との関連を説明することができる。
2. 受講者は、自然災害やコロナ感染症などの「非常時」と「平常時」のウェルビーイングの変化を見分けることができる。
3. 受講者は、ウェルビーイングの概要を考察し、現在注目されている問題との関連を把握し、ソリューションを提案することができる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. Students can explain the definition of well-being, the way to measure well-being, and its relationship with other psychological factors.
2. Students can identify the change of well-being between the 'usual time' and 'unusual time' such as, natural di
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この講義は Zoom を介してタイと日本をつなぐオンライン講義である。授業に関する各種情報は文学部・文学研究科の HP 等でお知らせするので、各自確認いただきたい。
 1. ウェルビーイングの定義とその使い方
 2. ウェルビーイングの種類：ヘドニック & ユダイモニック
 3. ポジティブ心理学および心理的介入
 4. 文化、多様性、およびウェルビーイング
 5. ウェルビーイングと持続可能性
 6. ウェルビーイングと他の心理学概念の関連性 と討論(1)
 7. ウェルビーイングと他の心理学概念の関連性 と討論(2)
 8. 災害・心理学・及びウェルビーイング
 9. 災害中およびその後の人間の感情と反応：英雄的およびハネムーンフェーズ
 10. 災害中およびその後の人間の感情と反応：幻滅と再構築フェーズ
 11. 災害中およびその後の人間の感情と反応：噂、パニック、および犯罪
 12. 災害時の群衆および集団行動
 13. 災害時の心理的サポート活動
 14. 災害とメンタルヘルス
 15. まとめ
8. 成績評価方法：
レポート 40%、中間発表 40%、
受講態度 20% (授業内での議論への参加度)
※やむを得ない事情 (忌引き・病気等) で欠席した場合には、その根拠資料 (診断書等) を授業担当教員に提出すること。事由により、成績判定において考慮する場合がある。
9. 教科書および参考書：
なし
10. 授業時間外学習：各回の授業内容について、事前に予習を行い、その内容を把握しておくこと。また、その内容に関する議論に耐えうるだけの知識を身につけておくこと。事前の予習は、教科書や配布する資料等を参考にするとともに、各回の授業内容と関連する文献を読んでおくこと。
 11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本語・日本文化論特論Ⅱ／ Studies of Japanese Culture(Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 木曜日 4講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：KOPYLOVA OLGA

コード：LM24401, 科目ナンバリング：LAL-0AR519J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本文化論特論Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Studies of Japanese Popular Culture (Advanced Lecture) II

3. 授業の目的と概要：本授業は「日本文化論特論Ⅰ」をもとに、日本におけるポピュラー・カルチャーとファン・カルチャー（オタク文化）の相互関係を説明する。具体的に言えば、オタクの根本的な価値観、興味及び指向、そしてそれに応じたコンテンツの分類を解説した上で、創造産業と消費者の相互影響を明らかにする。各々の創造産業の事情と戦略、コンテンツと物語内容の関係性、表現メディアの特徴、ファン活動と消費パターンといった幅広いテーマが取り上げられ、受講者が様々なメディアやそれに関連するサブカルチャーの特徴について知ることができる。皆さんがこの授

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：As a direct continuation of 日本文化論特論Ⅰ (taking the first course is not a strict requirement), this course demonstrates how popular culture in Japan mixes with a more niche fan (otaku) culture and vice versa.

It describes typical fan practices and values and proceeds to demonstrate how creative industries (for instance, TV producers, publishers, or creative workers) interact with consumers (especially fans) and how different types of IP are disseminated and used. Through this course, students will gain an opportunity to consider multiple phenomena that distinguish cultural production in Japan, from economic conditions that influence creative industries, to consumption patterns and fan activities, to storytelling techniques, to the specificity of various media. Students will develop a more nuanced understanding of various entertainment media and their most dedicated consumers, on the one hand, and be able to discover new lines of inquiry potentially applicable in their postgraduate research, on the other hand.

5. 学習の到達目標：——オタク市場に関わる主な表現メディアの歴史を把握し、メディアの生産、流布と消費の特徴、あるいはメディアの相互関係についての知識を有する。

——日本のオタク文化及びファンの消費行動の特徴、それに関連する主な概念を知り、他の国におけるファン・カルチャーとの共通点あるいは類似点を見いだせる。

——日本のポピュラー作品を多面的かつ包括的に解説し、様々な観点から評価できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of the course, students should be able to:

1) Describe major media associated with Japanese otaku market, their history, specifics of their production, distribution and consumption, as well as their relations with other media.

2) Recognize ke

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

The course will be conducted in English, however supplementary reading will include materials in Japanese.

1. The many faces of otaku I: What is 'otaku' ?
2. The many faces of otaku II: A history of fan practices in Japan
3. Different types of fan engagement and fan creativity
4. What is media mix? Creative industries and transmedia franchises
5. Various media of otaku market I: Anime industry
6. Various media of otaku market II: How anime is made
7. Various media of otaku market III : How manga is made
8. Various media of otaku market IV: Manga industry in the 21 century
9. 2.5-jigen practices III: Voice acting in the Japanese popular media (history)
10. 2.5-jigen practices IV: Voice acting in the Japanese popular media today
11. 2.5-jigen practices IV: 2.5 stage plays/musicals
12. 2.5-jigen practices I: Anime tourism (contents tourism)
13. 2.5-jigen practices II: Cosplay
14. Idols, celebrities, and promotional agencies I: Tarento
15. Idols, celebrities, and promotional agencies II: Idols

(講義構成は変更することがあります)

(the lecture content may be subject to change)

8. 成績評価方法：

成績評価は、次の方法と割合で行う：出席 (20%)、課題 (70%)、および授業への貢献を加味する (10%)

課題は重要！

出席=1、遠隔での参加 (特別の理由がない限り) =0.5

9. 教科書および参考書：

必要な適宜資料を配布する。

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

10. 授業時間外学習: The course will be conducted in English.

Students are required to read the materials provided to them by the lecturer and complete corresponding assignments before class.

Students are also encouraged to actively draw examples and cases from their own ex

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他:

使用言語は__英語__です。

科目名：デジタルアーカイブ特論／ Digital Archives (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：田村 光平、片倉 峻平

コード：LM24402, 科目ナンバリング：LAL-0AR523J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：デジタルアーカイブの基礎と活用
2. Course Title (授業題目)：Basics and Applications of Digital Archives
3. 授業の目的と概要：情報技術は、記録の保全・継承・活用等に関する諸課題の解決に大きく貢献することが期待されている。前半は、デジタルアーカイブの基礎的な紹介をするとともに、なぜ今デジタル・アーカイブが注目されているのか、さまざまな社会的課題と関連づけて紹介する。後半は、デジタルアーカイブに関する技術の基礎を紹介し、デジタルアーカイブの構築・運用のための知識を習得するとともに、実際のデジタルアーカイブ構築を経験する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is an introduction to digital archives. Recent developments in information technologies are expected to solve a wide variety of issues in archiving. This course will be divided into two parts. The first half will outline the basic concepts of digital archives and briefly illustrate social changes related to digital archives and information technologies. The second half will explain the basics of information technologies related to digital archives. Further, we will touch on practice to develop a digital archive collection.
5. 学習の到達目標：デジタルアーカイブの意義や課題を、情報技術に関わる社会的な諸課題と結びつけて理解する。デジタルアーカイブ構築を経験する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goals of this course are: (i) to understand the significance and issues of digital archives, particularly in connection with social issues caused by technological developments, and (ii) to gain experience in developing a digital archive.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス・デジタルアーカイブとはなにか
 2. デジタルアーカイブの多様性
 3. デジタルアーカイブへの期待
 4. デジタルアーカイブによる保管と継承
 5. デジタルアーカイブによるアクセスの拡大
 6. デジタルアーカイブのためのデータ構築：3 次元計測の実習
 7. デジタルアーカイブの活用 1：研究とデジタル・ヒューマニティーズ概論
 8. デジタルアーカイブの活用 2：教育・アウトリーチ
 9. 中間まとめ
 10. 技術的な話題 1：情報リテラシーの基礎
 11. 技術的な話題 2：サーバー、データベース、メタデータ
 12. 技術的な話題 3：TEI と IIIF
 13. 技術的な話題 4：TEI と IIIF の実例
 14. 実習：デジタルアーカイブの構築
 15. 最終まとめ
8. 成績評価方法：

受講態度 [20%]、レポート [40%]、演習の成果物 [40%]
9. 教科書および参考書：

以下を参考書として挙げる。

柳与志夫（責任編集）『入門 デジタルアーカイブ』（勉誠出版）

後藤真・橋本雄太（編）『歴史情報学の教科書』（文学通信）
10. 授業時間外学習：授業前に読んでおくべき資料を提示することがある。中間まとめ時にレポート、最終まとめ時にデジタルアーカイブの提出を求めるため、授業時間外に作成する必要がある。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

後半は PC の持参が必要な回がある。個人用の PC を持っていない場合は、初回のガイダンス時に相談すること。

科目名：考古学特論Ⅲ／ Archaeology(Advanced Lecture) III

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：菅野 智則

コード：LM24403, 科目ナンバリング：LJS-HIS621J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：先史文化の考古学
2. Course Title (授業題目)：Archeology of the prehistory culture
3. 授業の目的と概要：本授業では、日本列島の先史時代である所謂「縄文時代」における先史文化（縄文文化）を理解することを目的とします。この縄文文化に関する考古学研究は、これまで土器や石器等の遺物が主要な対象となり、研究が進められてきました。しかし、縄文文化を理解するためには多種多様な側面から研究する必要があります。例えば、動植物遺存体の研究からは食生活や周囲の環境、竪穴住居跡や墓などの諸施設の研究からは居住形態や社会構造などの縄文文化の一端を明らかにすることができます。そのほかには、考古学に限らず自然環境に関する研究などの他分野
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this class is to understand the prehistoric culture (Jomon culture) in the so-called "Jomon Period," the prehistoric period of the Japanese archipelago. Archaeological research on the Jomon culture has so far focused mainly on artifacts such as pottery and stone tools. However, in order to understand the Jomon culture, it is necessary to study it from a wide variety of perspectives. For example, the study of plant and animal remains can reveal aspects of the Jomon culture, such as their diet and surrounding environment, and the study of pit dwelling sites, tombs, and other facilities can reveal as residential patterns and social structure. In addition to archaeology, various other fields of research, such as studies of the natural environment, are also important in understanding the Jomon culture.
5. 学習の到達目標：(1) 縄文文化に関するこれまでの研究の歴史を理解する。(2) 縄文文化研究における多種多様な視点や研究方法を理解する。(3) 縄文文化にかぎらず広く先史文化一般を理解するための基礎を学ぶ。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Understand the history of research on Jomon culture to date. (2) Understand the various perspectives and research methods used in the study of Jomon culture. (3) Learn the fundamentals for understanding not only Jomon culture but also prehistoric cult
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 回目：本授業の授業の目的と到達目標について説明する。そのほか、論文の読み方等について解説する。
 - 2・3 回目：縄文文化の研究手法。基本的な研究方法に関して解説する。最も基礎的なものには縄文土器の型式学的方法等の基礎的な研究方法について概観する。
 - 4～7 回目：縄文時代研究史について解説する。第2次世界大戦前後における縄文文化研究、1980 年代からの新発見による縄文時代研究の進展、近年の新たな展開の3段階に分けて、それぞれの時代の研究内容を解説し、研究の視点と方法の変化について理解する。
 - 8 回目：「縄文時代」という枠組みについて解説する。「縄文時代」という時代設定・概念が果たして適切なのか、研究史に関する講義のまとめとして説明する。
 - 9～14 回目：縄文時代を成立期（草創期・早期）・展開期（前期・中期）・転換期（後期・晩期）の3期に区分して、それぞれの時期に関して2回ずつ、各時期の土器型式や各種遺物等の物質文化、あるいは生業活動を含めた居住形態に関する研究について説明する。
 - 15 回目：縄文文化と北米北西海岸部先史文化における生業活動の差異について、北米北西海岸部における貝塚や湿地帯遺跡の調査事例と日本の事例と比較しながら説明する。その上で、講義のまとめとして、両文化の比較を行い、今後の研究の方向性について解説する。
8. 成績評価方法：

(○) レポート [60%]・ (○) 出席 [40%]
9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は講義中に随時提示する。
10. 授業時間外学習：講義内でレポート内容に応じた問題を設定するので、時間外に講義内に提示した参考書などで調べること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:15～17:15（片平キャンパス・埋蔵文化財調査室）
メールアドレス tomonori.kanno.d4@tohoku.ac.jp

科目名：総合人間学総合科目Ⅱ／ Integrated Human Sciences (Comprehensive Course) II

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LM25101, 科目ナンバリング：LAL-0AR508J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：研究発表と討議

2. Course Title (授業題目)：Academic Presentation and Discussion

3. 授業の目的と概要：総合人間学専攻では、社会と人間に関する抽象的かつ原理的な考察と、実証的・経験科学的な探求とを有機的に結合して学ぶことが求められる。この演習科目では、総合人間学専攻の履修者が、各自の修士課程（前期課程）における研究課題などを他の講座（専攻分野）の教員・学生の前で発表し、さまざまな学問的観点からの質疑応答・討論をすることを通じて、社会と人間についての学際的かつ総合的な研究姿勢を培うことを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course offers students opportunities to present their research projects and to discuss with students and faculty members of other disciplines. Students will broaden their perspectives and acquire interdisciplinary and integrative research attitudes through presentations and discussion in the course.

5. 学習の到達目標：(1) 総合人間学専攻のさまざまな学問分野に触れ、さまざまな観点からの質疑応答・討論を通じて、学際的な研究姿勢を養う。

(2) 学術的な報告や質疑応答、討議の仕方の基礎を身に付ける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) Students will acquire interdisciplinary research attitudes through exposure to various disciplines and discussion from various perspectives.

(2) Students will acquire basic skills for academic presentations and discussion.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は「対面授業」を予定しています（状況により変更あり）。

対面授業の受講が困難な学生については事前に授業とりまとめ教員（その他参照）に初回授業前に相談してください。

この科目では Classroom を使用して授業資料と授業情報を発信します。

1. オリエンテーション 全教員の参加により、科目 A・B のグループに分け授業の進め方について説明をおこない、発表分担を決定する。

2. 研究発表の方法 各科目教員 4 名の参加により、研究発表の方法についてそれぞれから説明をおこなう。

3. 研究発表と討議 各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。

4. 研究発表と討議 各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。

5. 研究発表と討議 各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。

6. 研究発表と討議 各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。

7. 研究発表と討議 各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。

8. 研究発表と討議 各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。

9. 研究発表と討議 各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。

10. 研究発表と討議 各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。

11. 研究発表と討議 各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。

12. 研究発表と討議 各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。

13. 研究発表と討議 各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。

14. 研究発表と討議 各科目教員 2 名が参加する。学生の発表の後、討議をおこなう。

15. 総括 各科目教員 4 名の参加により、これまでの研究発表について総括する。

8. 成績評価方法：

出席 (50%)、発表内容 (50%)

9. 教科書および参考書：

特になし。

10. 授業時間外学習：各自の発表について事前に十分に準備をおこない、発表後は討議の内容を十分に検討する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

2024 年度の授業とりまとめ教員は内藤真帆です。メールアドレスは maho.naito.e6●tohoku.ac.jp です (●は@)。

科目名：日本古代・中世史特論 I / Ancient and Medieval History in Japan(Advanced Lecture)I

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：堀 裕

コード：LM25201, 科目ナンバリング：LJS-HIS601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本古代史の研究と方法（1）

2. Course Title (授業題目)：Research and method of Japanese ancient history

3. 授業の目的と概要：日本古代史に関する講義を行う。講義はおもに東アジアの宗教史と東北古代史をとりあげる。これにより、日本古代史の研究成果を学ぶとともに、史料の扱い方、先行研究から何を読み取り、何を考えるべきかを学ぶこととなる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read reports of ancient Japanese history. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts. References(handouts) are provided.

5. 学習の到達目標：日本古代史に関する講義と論文講読を通して、日本古代史に関する研究成果と研究方法を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To gain the fundamental skills in reading reports of ancient Japanese history. Students can deepen their understanding of the ancient Japanese history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

オンライン授業（主としてリアルタイム型遠隔授業）

1.
ガイダンス 進め方と目的、評価方法についての説明

2.
古代史講義 1

3.
論文を読む 1

4.
論文を読む 2

5.
古代史講義 2

6.
古代史講義 3

7.
古代史講義 4

8.
論文を読む 3

9.
古代史講義 5

10.
古代史講義 6

11.
古代史講義 7

12.
論文を読む 4

13.
古代史講義 8

14.
古代史講義 9

15.

まとめ

8. 成績評価方法：

レポート（100%）

9. 教科書および参考書：

プリント随時配布

10. 授業時間外学習：配付された論文を読むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

面談を希望する場合、事前に申し込みをすること。

科目名：比較文化史学特論 I / Comparative Studies of Cultural History (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：寺山 恭輔

コード：LM25202, 科目ナンバリング：LGH-HIS616J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ソ連現代史研究の諸問題
 2. Course Title (授業題目)：Challenges in the study of Soviet Contemporary History
 3. 授業の目的と概要：ソ連という国家が成立する契機となったロシア革命から 100 年以上経過したが、約 70 年にわたるソ連の歴史研究は、30 年前のソ連崩壊を契機に進展を遂げてきた。本授業ではソ連国内外におけるソ連史研究の歩みを振り返り、特にスターリン時代の極東地方に焦点をあて、その歴史を概観するとともに、今後の研究を展望する。
 4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：More than 100 years have passed since the Russian October Revolution formed the USSR in 1922. The Study of Soviet history, though it progressed over the first seven decades, advanced especially after its collapse 30 years ago. This course begins with tracing the history of Soviet Studies in and out of Russia for about a century, and focuses on the Soviet far eastern region of the Stalin era.
 5. 学習の到達目標：1. ロシア国内外におけるソ連研究の歴史、現状を理解する。
2. スターリン時代のソ連極東地域の発展過程を理解する。
 6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. The Purpose of this course is to understand the history of Soviet Studies in and out of the Soviet union especially after the collapse of Soviet Union.
2. The Purpose of this course is to understand the development process of the Soviet far East dur
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. ソ連時代、ソ連崩壊後のソ連史研究
 3. ソ連極東とは？ アムール総督府時代、ロシア革命とロシア極東
 4. シベリア出兵、極東共和国、1920 年代のソ連極東、スターリンの上からの革命とソ連極東
 5. 満州事変とソ連指導部、兵士の反応
 6. 鉄道輸送と極東への動員、鉄道の軍事化
 7. 潜水艦・魚雷艇建造と極東への搬送
 8. 中央と地方当局による発疹チフス蔓延防止措置
 9. 備蓄の構築と極東地方における食料供給
 10. ソ連の不可侵条約政策と日本、ポーランド
 11. ソ連極東における気象観測・通信網の整備
 12. ソ連極東沿岸における要塞、砲台建設
 13. ダリストロイの形成、国境紛争
 14. 独ソ戦争時代のソ連極東. 1945 年の日ソ戦争と北方領土問題
 15. 第二次世界大戦後のソ連極東
 16. 総括
 8. 成績評価方法：

レポート 50%、出席 50%
 9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、授業の中で適宜、参考文献を紹介する。
- No textbooks will be used. References are handed out at every class.
10. 授業時間外学習：紹介する参考文献を読んてくること。

It is important for students to acquire preliminary knowledge to prepare for class by reading relevant information and books that are commonly available.
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：

オフィスアワー 金曜日 16:00-17:00
事前にメールで連絡しておくこと。
Office hours are from 16:00 to 17:00 on Friday. Make an appointment in advance via e-mail .

科目名：宗教学死生学研究演習Ⅱ／ Religious Studies / Death & Life Studies (Advanced Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：高橋 原, 木村 敏明, 谷山 洋三, 間芝 志保

コード：LM25203, 科目ナンバリング：LGH-RES607J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教学死生学文献読解
2. Course Title (授業題目)：Reading of Religious Studies / Death & Life Studies Literature
3. 授業の目的と概要：宗教学・死生学分野における専門的研究のためには、やりたい研究の先行研究にあたる文献・論文を見つけ、読み、整理して、そこに自分の研究を位置づける作業が不可欠である。この授業では、文献一覧の作成および文献内容紹介の発表を通して、研究者として必要な先行研究整理のスキルを身につけることを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：For professional research in the field of religious studies and death & life studies, it is essential to find, read and organize the literature and articles that precede the research one wishes to do and situate one's own research in them. The purpose of this class is to acquire the skills necessary for researchers to organize previous research through the preparation of a bibliography and presentation of the contents of the literature and articles.
5. 学習の到達目標：先行研究の見つけ方、まとめ方がわかる
自分の研究を先行研究の中に位置づけることができる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Know how to find and summarize previous research
Able to situate their research within prior research
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 - 2～15. 文献リストおよび文献の内容に関する報告と議論
8. 成績評価方法：
発表と議論への参加
9. 教科書および参考書：
必要資料は授業中に配布する
10. 授業時間外学習：文献リストの作成および発表準備
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：中国語学中国文学研究演習Ⅱ／ Chinese Language and Literature(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：矢田 尚子

コード：LM25204, 科目ナンバリング：LGH-LIT607B, 使用言語：2カ国語以上

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：楚辞文学研究

2. Course Title (授業題目)：Literary Study of Chu Ci

3. 授業の目的と概要：【目的】古典詩文の基礎的・伝統的な読解方法、テキストの校勘方法など、中国古典文学を研究していく上で必要なスキルを習得することを目的とします。

【概要】中国詩歌文学の源流の一つである韻文学作品集『楚辞』の代表的な作品である「離騷」を読解します。授業は、受講者の発表と質疑応答を中心に進めていきます。担当者は、テキストおよび関係資料を精査してレジュメを作成し、それをもとに口頭で発表をおこないます。担当者以外の受講者は、レジュメや口頭発表の内容につ

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：【Course Objectives】 This course aims to improve the students' ability to read texts of Chinese classical writings in a basic and traditional way, and to collate texts, which are necessary to study classical Chinese literature.

【Course Synopsis】 Chu Ci is an anthology of Chinese poetry, which is one of the origins of Chinese verse literature. In this course, we interpret Li sao, a representative piece of Chu Ci. The course is centered on students' presentations and question and answer sessions. In every class, presenters are required to prepare handout for the assigned part of the text, and other students are required to ask questions on and to comment on the presentation. Through discussions, students will reach deeper understanding of the text.

5. 学習の到達目標：①中国古典詩文を読む際に必要な基礎的な事柄を理解する。

②わかりやすいレジュメを作成し、内容が的確に伝わるように口頭で説明することができる。

③レジュメや発表の内容を理解して問題点を明確にし、積極的に質問や意見を出すことができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：①Students will be able to understand the basic issues necessary to read Chinese classical texts.

②Students will be able to make intelligible handout for their presentations, and to explain the contents precisely.

③Students will be able to clarify problem

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 『楚辞』について(1)

3. 『楚辞』について(2)

4. 『楚辞』「離騷」の読解(1)

5. 『楚辞』「離騷」の読解(2)

6. 『楚辞』「離騷」の読解(3)

7. 『楚辞』「離騷」の読解(4)

8. 『楚辞』「離騷」の読解(5)

9. 『楚辞』「離騷」の読解(6)

10. 『楚辞』「離騷」の読解(7)

11. 『楚辞』「離騷」の読解(8)

12. 『楚辞』「離騷」の読解(9)

13. 『楚辞』「離騷」の読解(10)

14. 『楚辞』「離騷」の読解(11)

15. 『楚辞』「離騷」の読解(12)

8. 成績評価方法：

授業参加態度 50%、発表内容 50%

9. 教科書および参考書：

教材は授業開始時に配布する。

Materials will be handed out at the beginning of the course.

10. 授業時間外学習：予習：担当者は、テキストの担当箇所および関連書籍を精査してレジュメを作成するとともに、質疑応答に備えること。担当者以外の受講者は、テキストとレジュメを熟読し、関連書籍にも目を通して、問題点を発見すること。

Preparation:Presenters are required to read the assigned part of the te

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：社会心理学特論Ⅱ／ Social Psychology(Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

semester：2学期 単位数：2

担当教員：辻本 昌弘

コード：LM25205, 科目ナンバリング：LIH-PSY606J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化と人間行動

2. Course Title (授業題目)：Culture and Human Behavior

3. 授業の目的と概要：文化やコミュニティに関する理論や研究例をとりあげ、研究の系譜と主要な理論モデル、社会生態環境と適応、文化変容の諸相、現代社会における多文化主義などについて解説していく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will learn about diversity of cultures, cultural psychological theories, and acculturation processes.

5. 学習の到達目標：文化と社会に関する心理学、および関連研究領域の主要な理論と研究例を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students understand theories and research of cultural psychology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 文化的存在としての人間
2. 人類の多様性と普遍性
3. 文化と心
4. 文化研究の系譜
5. 心理プロセスの文化差
6. 文化差の理論モデル
7. 人類の進化と適応
8. 社会生態環境と文化
9. 近年の理論と論争
10. 異文化接触の事例
11. 文化変容の理論モデル
12. 文化変容と対人関係
13. 国民国家とエスニシティ
14. 多文化主義の理念と実践
15. まとめ

8. 成績評価方法：

小テスト (50%), 期末レポート (50%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。授業中に適宜、参考書を紹介する。

10. 授業時間外学習：各回の授業は、それまでの授業内容を踏まえておこないます。毎回の授業にあたり、それまでの授業内容を復習しておく必要があります。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

学習の一環として心理学の実験・調査への参加を要望することがある。

科目名：倫理学研究演習Ⅳ／ Ethics (Advanced Seminar IV)

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

セメスター： 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LM25206, 科目ナンバリング：LIH-PHI627J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：人文学の意義を倫理的に考える
2. Course Title (授業題目)：Value of Humanities: Examination from the View Point of Ethics
3. 授業の目的と概要：アメリカの哲学・倫理学者であるマーサ・ヌスバウムの『経済成長がすべてか：デモクラシーが人文学を必要とする理由』（岩波書店）を読み、人文学を学ぶ意義を主に（「倫理的」ではなく）倫理的な観点から考え、議論します。本書でヌスバウムは、タイトルに掲げた通りの問いに取り組みつつ、感情の道徳的価値、議論が民主主義にとってもつ重要性、文学作品を読むことの意義などを論じていきます。この演習では、担当者の要約を踏まえて参加者で議論したり、論証らしきものがあつたら再構成を試みたり、といった仕方、ヌスバウムの議論を検討し、
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We will read Martha Nussbaum's Not for Profit: Why Democracy Needs the Humanities, and discuss the significance of studying the humanities primarily from an ethical (not "ethical") perspective.
5. 学習の到達目標：人文学の意義について考え、一定の意見を形成する。
実践的な問題についての論証の再構成と検討や、自分なりの議論の提示ができるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn how to examine the significance of the humanities.
Students will be able to reconstruct and examine arguments on practical issues and advance their own arguments.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第一回：ガイダンス
第二回以降：担当者による要約と参加者全員による議論
8. 成績評価方法：
要約60パーセント、授業内パフォーマンス40パーセント
9. 教科書および参考書：
マーサ・ヌスバウム『経済成長がすべてか：デモクラシーが人文学を必要とする理由』岩波書店（ただし、演習で用いる範囲についてはこちらで用意します）
10. 授業時間外学習：演習はみなさんの発言によって進みます。テキストをよく読み、検討し、反論や異見を考えておいてください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：言語学研究演習 I / Linguistics (Advanced Seminar) I

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：加藤 万紀子

コード：LM25207, 科目ナンバリング：LIH-LIN608J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語テストと評価

2. Course Title (授業題目) : Language Testing and Assessment

3. 授業の目的と概要：言語教育におけるテストは、言語学習者の熟達度や到達度を測定することだけではなく、学習と教育を強化するための手段として大きな役割を担っています。この授業では、主に英語教育に焦点を置き、言語テストと評価の基本的理論を学び、主に 2 つの実践を行います。1 つ目は、言語教育におけるテストの役割、言語能力、テストの有用性を理解した上でテスト作成を行い、テストの妥当性と実用性を測定する方法を学びます。2 つ目は、テストの評価方法、テスト結果の分析方法・活用方法を学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Tests in language education measure not only proficiency and achievement of language learners but also play a major role of strengthening learning and education. In this class, focusing mainly on English education, students will learn the basic theory of language testing and assessment, and practice two main things as below: First, they will develop a test with carefully considering the role of the test in Foreign language education, language use, and test usefulness, then learn how to measure the validity and practicality of a test. Second, students will learn how to assess the test and analyze/utilize the test results.

5. 学習の到達目標：1) 言語テストが備えるべき要件を満たしたテストが作成できる。

2) 言語テストの妥当性を測定することができる。

3) 言語テストの実用性を測定することができる。

4) テスト結果を分析することができる。

5) テストが学習者の学習方法や教師の教え方に及ぼす影響を測定することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students will be able to...

1) develop tests which meet the requirements of language tests.

2) measure the validity of language tests.

3) measure the practicality of language tests.

4) analyze test results.

5) measure the effect of the test on le

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回目：オリエンテーション/言語テスト・言語評価研究とは

第 2 回目：社会における言語テストの役割と波及効果

第 3 回目：言語テストの種類

第 4 回目：言語能力とは (1)

第 5 回目：言語能力とは (2)

第 6 回目：言語テストの有用性 (1)

第 7 回目：言語テストの有用性 (2)

第 8 回目：妥当性理論と妥当性検証 (1)

第 9 回目：妥当性理論と妥当性検証 (2)

第 10 回目：評価者訓練とテスト採点者の信頼性検証

第 11 回目：リーディングテストの作成と評価 (1)

第 12 回目：リーディングテストの作成と評価 (2)

第 13 回目：ライティングテストの作成と評価 (1)

第 14 回目：ライティングテストの作成と評価 (2)

第 15 回目：技能統合型テストと技能混合型テスト

8. 成績評価方法：

- ・小テスト (20 %) 毎回行います。
- ・リアクションペーパー (20 %) 毎回の授業で行います。
- ・作成テスト 1 (リーディング) (20 %)
- ・作成テスト 2 (ライティング) (20%)
- ・作成テスト 3 (技能統合型または技能混合型) (20%)

9. 教科書および参考書：

授業で資料を配布します。(Materials will be distributed in the class.)

推薦図書は授業で紹介いたします。(Recommended books will be introduced in the class.)

10. 授業時間外学習：授業で配布する資料や文献を読み、自分なりの考えを発表できるようにする。

(After each lesson, read the material distributed and prepare to present your thoughts.)

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

科目名：計量行動科学研究演習Ⅱ／ Quantitative Behavioral Science(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

セメスター：単位数：2

担当教員：小川 和孝

コード：LM25208, 科目ナンバリング：LIH-OS0608J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：非伝統的データの分析
2. Course Title (授業題目)：Statistical analysis of non-traditional data in social sciences
3. 授業の目的と概要：伝統的な社会調査とは異なるタイプのデータに関して、文献購読と実習を通じて理解を深める。具体的なトピックとしては、テキストデータ、空間データ、ネットワークデータを扱う。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will learn non-traditional types of data analysis in social sciences through literature review and the practice of data analysis. Topics include text data, spatial data, and network data.
5. 学習の到達目標：(1) 文献講読と実習を通じて、各種のデータの構造と扱い方について基本的な理解を身に着ける。
(2) 期末レポートの執筆を通じて、自ら問いを立てて分析できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To gain basic understandings on the structures and the way of handlings various types of data through literature review and the practice of data analysis
(2) To write a term paper with a research question set by students themselves
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. テキストデータ (1)
 3. テキストデータ (2)
 4. テキストデータ (3)
 5. テキストデータ (4)
 6. 空間データ (1)
 7. 空間データ (2)
 8. 空間データ (3)
 9. 空間データ (4)
 10. ネットワークデータ (1)
 11. ネットワークデータ (2)
 12. ネットワークデータ (3)
 13. ネットワークデータ (4)
 14. 総合演習 (1)
 15. 総合演習 (2)
8. 成績評価方法：

予習課題への取り組み (30%)、授業内での議論への参加および授業後コメントの提出 (30%)、期末レポート (40%)
9. 教科書および参考書：

初回の授業で指定する。
10. 授業時間外学習：指定文献を事前に読み、予習課題に取り組むことが要求される。指定文献に関連した内容について、方法の詳細や適用例について自分で調べたことを求められる場合もある。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：

実習には統計ソフトRを使用するため、事前に知識を有していることが望ましい。

科目名：東洋古代中世史特論Ⅱ／ Ancient and Medieval History in Asia(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：渡邊 英幸

コード：LM98825, 科目ナンバリング：LGH-HIS602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：秦国史の諸問題

2. Course Title (授業題目) : Issues of the History of Qin State

3. 授業の目的と概要： 秦始皇帝による中国統一は、東アジア史においてきわめて重要な位置を占める。だが統一時代は、実のところ秦の長期にわたる歴史のごく一部に過ぎず、またその実態も、歴史資料の不足により、これまで不明な点が多かった。ところが近年、新出土資料が増加したことにより、研究の進展が著しく、多くの事実が明らかにされつつある。この授業では、建国から統一、そして滅亡にいたる秦の歴史を通覧し、いくつかの重要な論点を取り上げ、研究上の到達点をあきらかにすることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The unification of China by the First Emperor (Qin Shi Huangdi) occupies a special place in the history of East Asia. Though the unification period of Qin Dynasty was actually only a small part of its long history, and much of its institutional and ideological situation had not been clear in the past due to a lack of historical date. However, in recent years, new historical documents and materials have been unearthed one after another, many studies have been published, which make it possible to clear many facts. In this course, we will provide the history of Qin state from its founding to its unification and destruction, and discuss some important issues, with the aim to clarify the status of current research.

5. 学習の到達目標：受講生は講義で示した基礎的な知識を身につけるとともに、論争点を把握し、自身の理解や解釈を提示できることを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The goal for students of this course is to acquire the basic knowledge presented in the lectures, to grasp the issues and as well as to be able to present their own interpretations.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：(導入) 秦の歴史のスケール／春秋・戦国史と秦漢史／取り扱う史料

第2回：秦の起源論争と『史記』の起源伝承の批判

第3回：大堡子山遺跡の発見と秦の建国

第4回：秦の東方進出とその挫折

第5回：青銅器銘文が語る春秋秦の自己意識

第6回：秦孝公の登場と商君変法

第7回：商君変法の虚実

第8回：覇者から王者へ：恵文王から昭襄王へ

第9回：昭襄王の台頭と長平の戦い

第10回：ロウアイの乱前後

第11回：秦と「戎」

第12回：統一戦争と「皇帝」の出現

第13回：里耶秦簡と秦の郡県制

第14回：「更名扁書」が語る秦の統一

第15回：秦の滅亡

8. 成績評価方法：

コメントシートと平常点(10%)および最終レポート(90%)を総合して評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：配布した資料を精読し、参考文献も積極的に参照すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

なし。

科目名：人文社会科学研究Ⅱ／ Advanced Study of Humanities and Social Sciences II

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：KOPYLOVA OLGA

コード：LM25301, 科目ナンバリング：LAL-0AR512J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：オタク文化をめぐる研究著書の解説と翻訳

2. Course Title (授業題目) : Readings on Popular and Otaku Culture

3. 授業の目的と概要：本授業では日本語の評論家かつメディア研究者の著書の英語版を読解し、現代のポピュラー・カルチャーにおける大きな傾向（消費の特徴や生産者と消費者の関係や文化産業の有様等）について学ぶ。また、英語版と日本語版の比較を行い、翻訳の方法や（研究成果を纏める）一般読者向けの英文の書き方を解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course aims to help the students develop their language skills and acquire a better understanding of contemporary Japanese popular culture through comparative reading of Japanese texts and their English translations. The reading list consists of general audience and specialized publications by Japanese cultural critics and media scholars. Comparative reading will allow students to expand their vocabulary, get acquainted with common translation techniques and patterns, and get used to reading Anglophone publications. For English-speaking students, it is an opportunity to improve their skills in reading and translating Japanese texts.

5. 学習の到達目標：【語学力】

- 1) 英語能力をを向上させ、研究者による一般向け書籍を読む習慣を身につける。
- 2) 一般読者向けの書籍における日英翻訳の方法を覚えており、英文ライティングにおいて活用できる文法及び表現を習得する。

【専門知識】

3) 世界中のポピュラー・カルチャーにおける傾向、また消費者と生産者の関係などを理解しており、ポピュラー・メディア及びコンテンツ市場の発展を追うことができる。

4) 日本におけるオタク文化の歴史を把握した上で、その特徴の分析を行うことができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : By the end of the course, students should be able to recognize major trends in transmedia content development both in Japan and globally. Students will also learn about fandom activities and relationship between fans (otaku) and media franchises in the ea

7. 授業の内容・方法と進度予定：

クラスワークが課題に基づきます。課題の内容は、文献リスト（「その他を参照」）から五つか六つの研究論文を選んでいただいたものにします。学生からの提案した英語の論文・章も考慮します。

1. Introductory class
2. Translation basics 1
3. Translation basics 2
4. Translation basics 3
5. Reading and discussion (Article 1.1)
6. Reading and translation (Article 1.2)
7. Reading and discussion (Article 2.1)
8. Reading and translation (Article 2.2)
9. Reading and discussion (Article 3.1)
10. Reading and translation (Article 3.2)
11. Reading and discussion (Article 4.1)
12. Reading and translation (Article 4.2)
13. Reading and discussion (Article 5.1)
14. Reading and translation (Article 5.2)
15. Final discussion

8. 成績評価方法：

成績評価は、次の方法と割合で行う：出席（30%）、課題（70%）

9. 教科書および参考書：

必要な適宜資料を配布する。

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

10. 授業時間外学習：The course will be conducted mostly in Japanese, however assignments will demand reading and writing in both Japanese and English. Relative proficiency in both languages is therefore necessary.

It is essential that you complete the assignment beforehand

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

1 2. その他：

文献リスト：

OTAKU

1. Okada, Toshio. “The Transition of Otaku and Otaku.” Trans. by Kamm Björn-Ole. In *Debating Otaku in Contemporary Japan: Historical Perspectives and New Horizons*, Patrick W. Galbraith, KamThiam Huat, and KammBjörn-Ole (eds.), London: Bloom

科目名：日本語教育方法論研究演習 I / Methodologies in Japanese Language Teaching(Advanced Seminar)I

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LM25302, 科目ナンバリング：LJS-LIN620J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語理解学習過程
2. Course Title (授業題目)：The process of Language learning and understanding
3. 授業の目的と概要：人がことばを理解し学習するとはどういうことなのか、その様々な考え方や理論について理解を深める。その上で、聴解または読解の教材を分析し、教材案を作成し、模擬授業を実施して授業分析をすることによって、教育方法や学習方法の改善につなげる。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students deepen their understanding of theories related to language learning. Students also analyze various teaching materials, their own teaching materials, and their microteaching practices to improve their ways of teaching in class.
5. 学習の到達目標：(1)言語の理解・学習過程についての理論的な背景を理解し、説明できる。
(2)理論的な背景を踏まえて、教材を分析・作成し、実践に結び付けることができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is
 1. to help students explain theoretical backgrounds of language learning
 2. to provide them opportunities to analyze, create effective teaching materials and be able to apply them to teaching practice.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業実施方法（授業の実施形態：）
第1回：イントロダクション
第2回：言語の学習とは
第3回：言語理解学習のメカニズム
第4回：言語の記憶・処理過程
第5回：言語の理解・産出過程
第6回：学習科学
第7回：教材分析（聴解）
第8回：教材作成（聴解）
第9回：模擬授業（聴解）
第10回：授業分析（聴解）
第11回：教材分析（読解）
第12回：教材作成（読解）
第13回：模擬授業（読解）
第14回：授業分析（読解）
第15回：まとめ
8. 成績評価方法：
レポート50%、授業課題50%
9. 教科書および参考書：
授業中に適宜資料を配布する。
10. 授業時間外学習：提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。
「日本語教育学研究実習」を履修していること。

科目名：宗教学特論 I / Religious Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：木村 敏明

コード：LM25303, 科目ナンバリング：LGH-RES601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：災害と宗教

2. Course Title (授業題目) : Disaster and Religion

3. 授業の目的と概要：突然にやってきて人々の日常生活の基盤を突き崩してしまう自然災害。被災者たちや周囲の人々が災害を受け止め、生活を立て直す中で、宗教はいかなる役割を果たしてきたのか。この授業では自然災害をめぐる宗教的観念、儀礼的实践に関する文献を毎回取り上げ、現代社会における宗教の意義や課題について議論と講義を行うことで問題の理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course explores various previous studies on disaster and religion and discusses meanings and tasks of religion in modern society.

5. 学習の到達目標：宗教学的なものの見方をみにつけることができる。

現代社会における宗教の意義や課題について具体的な事例を通して理解できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students understand meanings and tasks of religion in modern society through the topic about religion and disaster.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション 1: 何故災害と宗教か?
2. イントロダクション 2: 発表準備
3. 災害と神話
4. 災害と神話
5. 災害表象
6. 災害表象
7. 災害と祭礼
8. 災害と祭礼
9. 災害と死者
10. 災害と死者
11. 宗教と災害支援
12. 宗教と災害支援
13. 宗教とレジリエンス
14. 宗教とレジリエンス
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業における発表とコメントで評価する

9. 教科書および参考書：

教科書は用いない。参考書は授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：使用文献の精読および発表準備

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：英文学特論Ⅱ／ English Literature (Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：大河内 昌

コード：LM25304, 科目ナンバリング：LGH-LIT611J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：Introduction to Literary Theory (2)
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Literary Theory (2)
3. 授業の目的と概要：□批評理論の入門書である Hans Bertens, *Literary Theory: the Basics* の後半部分と Jonathan Culler, *Structuralist Poetics* を読解します。理論の裏づけのない文学読解はたんなる印象批評になってしまいます。この授業では20世紀初頭の新批評から新歴史主義やポストコロニアル批評までの主要な批評理論を跡づけます。授業では毎回担当者を決めて、発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションをします。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：A seminar on literary theory. We will read closely the latter half of Hans Bertens, *Literary Theory: the Basics* and Jonathan Culler, *Structuralist Poetics* to understand fundamental principles of literary theory. Analysis of literary works without theory destined to become an impressionist reading. This seminar will trace the trend of contemporary criticism from structuralism to new-historicism, and post-colonialism. Each class will start with report by students on the contents of the text, and we will make discussions based on the presentation.
5. 学習の到達目標：(1) 批評理論に関する知識を身につける
(2) 論理的な思考力を身につける
(3) 批評的な英語の読解能力を身につける
6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) To acquire the knowledge of critical theory
(2) To be able to think logically and critically
(3) To develop the skill of reading theoretical texts
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - (1) Introduction
 - (2) *Literary Theory: the Basics*, pp. 150-167.
 - (3) *Literary Theory: the Basics*; pp. 168-180.
 - (4) *Literary Theory: the Basics*, pp. 180-194.
 - (5) *Literary Theory: the Basics*, pp. 195-210.
 - (6) *Literary Theory: the Basics*, pp. 213-222.
 - (7) *Literary Theory: the Basics*, pp. 222-232.
 - (8) Jonathan Culler, "Literary Competence," pp. 113-121.
 - (9) Jonathan Culler, "Literary Competence," pp. 122-130.
 - (10) Jonathan Culler, "Convention and Naturalization," pp. 131-140.
 - (11) Jonathan Culler, "Convention and Naturalization," pp. 141-150.
 - (12) Jonathan Culler, "Convention and Naturalization," pp. 151-160.
 - (13) Jonathan Culler "Beyond Interpretation," pp. 3-10.
 - (14) Jonathan Culler "Beyond Interpretation," pp. 11-17.
8. 成績評価方法：
発表と授業参加 50%・レポート 50%
9. 教科書および参考書：
Hans Bertens, *Literary Theory: the Basics*, 3rd edition (Routledge, 2014)
プリント配布 (Jonathan Culler)
10. 授業時間外学習：予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：
office hour: Tuesday 15:00-16:30 and by appointment.

科目名：ドイツ文学特論Ⅱ／ German Literature (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

semester：2学期 単位数：2

担当教員：藤田 恭子

コード：LM25305, 科目ナンバリング：LGH-LIT631J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語の散文作品を読む
2. Course Title (授業題目)：Deutsche Prosa lesen
3. 授業の目的と概要：散文テクストを読み、また著者の自伝的テクストや二次文献を読んで、多様な解釈の可能性を知る。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In dieser Klasse wird geübt, Prosatexte genau zu lesen. Dabei werden auch autobiografische Texte der Schriftstellerin sowie Sekundärliteratur über sie eingesetzt, um die Texte überzeugender zu interpretieren..
5. 学習の到達目標：ドイツ語による散文を、その言語的時代的文脈を理解しつつ、解釈する方法を知る。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Kennenlernen der Methodologie, Prosatexte in deutscher Sprache unter Einbeziehung des sprachlichen und zeitlichen Kontexts zu interpretieren.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
2009年度ノーベル文学賞を受賞したヘルタ・ミュラー (Herta Müller, 1953-)のテクストを取り上げる。彼女の自伝的エッセイや二次文献の一部も読む。

- 第1回 導入
- 第2回 ヘルタ・ミュラーの小説 (1)
- 第3回 ヘルタ・ミュラーの小説 (2)
- 第4回 ヘルタ・ミュラーの小説 (3)
- 第5回 ヘルタ・ミュラーの小説 (4)
- 第6回 ヘルタ・ミュラーの小説 (5)
- 第7回 ヘルタ・ミュラーの小説 “ (6)
- 第8回 ヘルタ・ミュラーの小説 (7)
- 第9回 ヘルタ・ミュラーの自伝的エッセイ (1)
- 第10回 ヘルタ・ミュラーの自伝的エッセイ (2)
- 第11回 ヘルタ・ミュラーの自伝的エッセイ (3)
- 第12回 二次文献 (1)
- 第13回 二次文献 (2)
- 第14回 二次文献 (3)
- 第15回 まとめ

8. 成績評価方法：
平常点 (出席、授業での発言、課題の発表、議論への参加)

9. 教科書および参考書：
プリントを配付する。

Texte werden im Voraus verteilt.

10. 授業時間外学習： 事前に配付したドイツ語テクストを予習し、読解すること。

Lesen und verstehen der im Voraus verteilten Texte wird vorausgesetzt.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

このクラスではGoogle Classroomを用いて、授業連絡などを行う。

教員の連絡先は以下の通り。kyoko.fujita.e5 アトマーク、トーホク、エーシー、ジェーピー

Kommunikation außerhalb des Unterrichts (Verteilung von Texten, Einreichung von Hausaufgaben, etc.) findet über Google Classroom statt. Die Kontaktadresse der Lehr

科目名：西洋史特論Ⅲ／ European and American History (Advanced Lecture) III

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

semester：2学期 単位数：2

担当教員：阿部 ひろみ

コード：LM25306, 科目ナンバリング：LGH-HIS614J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： 中世後期ドイツの政治と社会—帝国都市ニュルンベルクを中心に—
2. Course Title (授業題目) : Politics and Society of the Late Medieval Germany- A Case Study of the Imperial City of Nuremberg
3. 授業の目的と概要： 中世後期ドイツの政治的構造および社会の状況について、主に帝国都市ニュルンベルクのケースを取り上げて説明する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course explains the political structure and the social situation of the late medieval Germany, focusing on the imperial city of Nuremberg.
5. 学習の到達目標： 中世後期ドイツの政治・社会について専門知識を深める。歴史学で研究対象として扱われる様々なテーマについて知識を得る。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : The aims of this course are understanding the political structure and the social situation of the late medieval Germany and also learning a variety of themes in the historical research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ヨーロッパ史における中世後期ドイツ
 2. 帝国都市ニュルンベルクとは
 3. ニュルンベルクの市参事会制度
 4. ニュルンベルクの商業
 5. ニュルンベルクの手工業
 6. ニュルンベルクのユダヤ人
 7. ニュルンベルクと教会
 8. ニュルンベルクと教会文化
 9. ニュルンベルクと周辺諸侯
 10. ニュルンベルクと帝国議会
 11. ニュルンベルクと同盟関係
 12. ニュルンベルクと戦争
 13. ニュルンベルクと大学
 14. ニュルンベルクと出版文化
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

授業参加状況 (コメントシートの提出) : 40 パーセント・期末レポート : 60 パーセント
9. 教科書および参考書：

授業内で適宜紹介する。
10. 授業時間外学習： 講義内容を復習すること。適宜、授業内で紹介された参考文献や概説書を自ら確認すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

なし。

科目名：社会学研究実習Ⅱ／ Sociology (Research) II

曜日・講時：後期 金曜日 3講時, 後期 金曜日 4講時

semester：単位数：2

担当教員：青木 聡子

コード：LM25307, 科目ナンバリング：LIH-SOC616J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：社会調査実習Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Social Research Methods 2

3. 授業の目的と概要：質的調査手法を実践的に理解し、社会調査の設計から結果の公表までの一連の過程を習得することを目的とする。

社会調査の基本知識・手法を学び、フィールドワーク（聞き取り調査、参与観察、資料収集など）をおこなう。調査データを整理し分析することを通じて、質的調査を遂行する能力を身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this course is to gain a practical understanding of qualitative research methods and to master the series of processes from social research design to publication of results. In this class, students learn the basic knowledge and methods of social research, conduct fieldwork (interviews, participant observation, data collection, etc.)

5. 学習の到達目標：調査設計、調査データの収集と分析を通じて、質的調査を遂行する能力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this class is to acquire the ability to conduct qualitative research by organizing and analyzing research data.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス——調査倫理の説明、聞き取り調査のシミュレーションなど
- 2 データ収集(1) (聞き取り調査、参与観察、文書資料の取集など)
- 3 データ収集(2) (聞き取り調査、参与観察、文書資料の取集など)
- 4 データ収集(3) (聞き取り調査、参与観察、文書資料の取集など)
- 5 データ収集(4) (聞き取り調査、参与観察、文書資料の取集など)
- 6 分析方針の検討
- 7 調査結果の整理、分析(1)
- 8 調査結果の整理、分析(2)
- 9 調査結果の整理、分析(3)
- 10 追加調査の実施
- 11 調査報告書の作成(1)
- 12 調査報告書の作成(2)
- 13 調査報告書の作成(3)
- 14 調査報告書の作成(4)
- 15 調査報告会 (口頭発表)

8. 成績評価方法：

授業時の平常点 50 %、課題レポート 50%

9. 教科書および参考書：

岸政彦・石岡丈昇・丸山里美, 2016, 『質的社会調査の方法』有斐閣.

蘭由岐子, 2017, 『「病いの経験」を聞き取る [新版] ——ハンセン病者のライフヒストリー』生活書院.

10. 授業時間外学習：この授業は4-5人からなるグループに分かれて調査をおこなう。授業時間には各グループからの報告をおこなってもらうため、グループごとに時間外の作業をおこなうことになる。具体的には、各段階での課題の検討や、必要な準備などである。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

社会学研究実習（社会調査実習Ⅰ）とあわせて履修してください。

科目名：考古学研究演習Ⅳ／ Archaeology (Advanced Seminar) IV

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：鹿又 喜隆、松本 圭太

コード：LM25401， 科目ナンバリング：LJS-HIS626J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：考古学の方法と理論

2. Course Title (授業題目)：Advanced Seminar of Archaeological Method and Theory

3. 授業の目的と概要：考古学研究の歴史と現状について、各自の関心領域を中心にまとめて発表し、相互の討論を通じて理解を深める。各時代の研究における、型式学と技術、材質研究、編年と地域性、生産と流通、文化変化、環境と生業活動、社会と集団、葬制、集落論など、具体的に課題を選択し、詳細な文献目録を作成し、現在の問題点を的確に把握し、今後の各自の研究指針を追究する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students are introduced to the method and theory of archaeological research through class presentation and discussion.

5. 学習の到達目標：(1) 日本考古学研究の現状について、学史の流れを踏まえて問題点を展望し、各自の研究テーマを具体的に追求できるようになる。(2) 近年その内容が非常に多岐にわたる考古学研究の、広がりや深まりを認識し、各自の研究方法を位置づけられるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The course requires in depth learning of archaeological research history and actual practice. Students who are not familiar with archaeological research are recommended to learn other introductory courses before signing up to this particular methodology

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：オンラインで行います。クラスルームにアクセスし、詳細を確認して下さい。クラスコードは、uxahkum です。

1. 学生による研究発表①
2. 学生による研究発表②
3. 学生による研究発表③
4. 学生による研究発表④
5. 学生による研究発表⑤
6. 学生による研究発表⑥
7. 学生による研究発表⑦
8. 学生による研究発表⑧
9. 学生による研究発表⑨
10. 学生による研究発表⑩
11. 学生による研究発表⑪
12. 学生による研究発表⑫
13. 学生による研究発表⑬
14. 学生による研究発表⑭
15. 学生による研究発表⑮

8. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%]

(○) その他 (具体的には、発表と討論) [40%]

9. 教科書および参考書：

教室にて指示、プリントを配布。

10. 授業時間外学習：発表内容は時間外に各自がまとめる。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

研究演習Ⅲ、Ⅳを通年で連続履修することが望ましい。

科目名：実践宗教学特論Ⅱ／ Practical Religious Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 4講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：井川 裕覚・谷山 洋三

コード：LM25402, 科目ナンバリング：LGH-RES614J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：スピリチュアルケア
2. Course Title (授業題目)：Spiritual Care
3. 授業の目的と概要：国内のスピリチュアルケアの議論に触れつつ、その多様性と課題を確認した上で、臨床宗教師が誕生した背景、スピリチュアルケアと宗教的ケアの相違、両ケアの共通性としての宗教的資源の活用など、ケア実践の具体像に迫るとともに、体験的ワークにより理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Discussing on spiritual care in Japan and confirming its diversity and challenges; such as the background of the birth of Rinsho-shukyo-shi, or interfaith chaplain, the difference between spiritual care and religious care, and the utilization of religious resources as the commonality of both cares, The students will explore the specifics of care practice and deepen their understanding through a workshop.
5. 学習の到達目標：公共空間で提供されるスピリチュアルケアについて、その理念と方法の理解を深める。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students better understand spiritual care provided in public spaces and its philosophy and methods.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
オンライン授業の場合は、ライブ配信で実施する。詳細は、Google Classroom に提示する。
第1回：オリエンテーション
第2回：チャプレンとビハーラ僧
第3回：「臨床宗教師」の誕生
第4回：生活の中にある心のケア
第5回：スピリチュアルペイン
第6回：スピリチュアルな探求
第7回：「支える」「気づいてもらう」スピリチュアルケア
第8回：「新しい枠組みを作る」「無力による」スピリチュアルケア
第9回：宗教的資源の活用
第10回：宗教的ケア
第11回：臨床宗教師の可能性
第12回：臨床宗教師の資質
第13回：ワークショップ「死の体験」
第14回：ワークショップ振り返り
第15回：まとめ
8. 成績評価方法：
授業時提出の小レポート[50%]、発表・授業への取り組み[50%]
9. 教科書および参考書：
教科書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年
参考書：瀧口俊子・大村哲夫ほか編著『共に生きるスピリチュアルケア』創元社、2021年
10. 授業時間外学習：授業内で指示する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：東洋近世史特論Ⅱ／ Early Modern History in Asia(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：

コード：LM25403, 科目ナンバリング：LGH-HIS605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：北朝隋唐貴族制の諸問題

2. Course Title (授業題目)：Issues of the Aristocratic System in the Northern Dynasties, Sui and Tang

3. 授業の目的と概要：中国の北朝隋唐時代（439～907）における貴族制は、魏晋南朝の貴族制と異なり、皇帝権力主導の下に貴族の格付けが行われ、官僚制に組み込まれる傾向があり、隋唐時代には科挙制が成立するに至る。しかし、科挙制成立後も貴族は存続した。講義では、この時代の貴族制あるいは貴族について分析し、その具体相を浮かび上がらせるを試みる。この試みを通じて、中国史における北朝隋唐時代の特質について理解を深めることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course covers the aristocratic system in the Northern Dynasties, Sui and Tang (439-907) to help students understand the characteristics of the Northern Dynasties, Sui and Tang time in Chinese history.

5. 学習の到達目標：六朝貴族制の具体相とその特質を理解し、興味をもった論点について論じることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students discuss the characteristics of the aristocratic system in the Northern Dynasties, Sui and Tang.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義形式で行い、第 2 回目以降、毎回課題を課す。

- 1、序論（北朝隋唐時代の流れ）
- 2、五胡十六国時代の胡漢の貴族
- 3、北魏前期の胡漢の貴族
- 4、北魏・孝文帝の貴族制導入—官制改革
- 5、北魏・孝文帝の貴族制導入—姓族分定
- 6、北魏の九品中正制度
- 7、北魏後期の貴族制への反発
- 8、東魏・北齊の九品中正制度
- 9、西魏・北周の新貴族制
- 10、隋の貴族
- 11、隋の科挙制
- 12、唐・太宗の『貞観氏族志』
- 13、唐の貴族と科挙
- 14、牛・李の党争
- 15、総括

8. 成績評価方法：

第 2 回目以降毎回の課題によって評価する。

9. 教科書および参考書：

各時間に資料を配布する。参考書は、講義時間に紹介する。

10. 授業時間外学習：資料を精読して課題を作成する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

なし。

科目名：ドイツ文学研究演習Ⅱ／ German Literature (Advanced Seminar) II

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：森本 浩一

コード：LM25404, 科目ナンバリング：LGH-LIT635J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カフカを読む (2)
2. Course Title (授業題目)：Reading Kafka (2)
3. 授業の目的と概要：フランツ・カフカ (Franz Kafka: 1883-1924) の小説をテキストとして、ドイツ文学作品を原文で読解・解釈する訓練を行います。映画化された作品も鑑賞する予定です。文学研究や他の関連する話題に関する簡単な講義なども行いたいと考えています。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The aim of this course is to help students improve the ability to read and interpret the literary text written in German, by the practice of close reading of Franz Kafka's fiction. We'll also watch some filmed works related to texts. Brief lectures on literary studies and other relevant subjects will be also given incidentally.
5. 学習の到達目標：ドイツ文学作品の読解力が向上すること。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will improve the ability to read and interpret literary texts written in German.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 導入
 2. テキスト講読 (1)
 3. テキスト講読 (2)
 4. テキスト講読 (3)
 5. テキスト講読 (4)
 6. テキスト講読 (5)
 7. テキスト講読 (6)
 8. テキスト講読 (7)
 9. テキスト講読 (8)
 10. テキスト講読 (9)
 11. テキスト講読 (10)
 12. テキスト講読 (11)
 13. テキスト講読 (12)
 14. テキスト講読 (13)
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

おおむね、予習と授業への参加 (80%) とレポート (20%)
9. 教科書および参考書：

テキストは教師が準備します。
10. 授業時間外学習：毎回、事前に訳読の準備をして出席してください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
 - ・質問その他の連絡は、以下のメール・アドレスへ。 xkc-m2rt@tohoku.ac.jp (◎を@に変更)
 - ・授業は原則として対面で実施します。リモートに切り替える場合は、Google Classroom で告知します。
 - ・オフィス・アワーは特にもうけません。随時、個人的な質問・相談・雑談など受けつけます。上記のアドレス宛に連絡してアポを取ってください。教員研究室は、川内北地区・国際交流棟 (アクセスマップ A12) の 2 階です。

科目名：比較文化史学研究演習Ⅱ／ Comparative Studies of Cultural History(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 4講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：寺山 恭輔

コード：LM25405, 科目ナンバリング：LGH-HIS624J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ソ連史文献研究 Ⅱ
2. Course Title (授業題目)：Reading text of Russian and Soviet History Ⅱ
3. 授業の目的と概要：前期と同じ
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to read Russian and English texts about Russian and Soviet history with accuracy and rapidity and expand their vocabulary. In each class the person in charge will present the main points of the text and all of attendees will evaluate and discuss it.
Text selection depends on the level of the students.
5. 学習の到達目標：前期と同じ
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Students will develop the ability to understand Russian and English by text reading.
2. Students will simultaneously learn the practical method to inquiry and cite the References.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
前期と同じ
8. 成績評価方法：
前期と同じ
9. 教科書および参考書：
教科書は使用しない。
No textbooks will be used.
10. 授業時間外学習：発表の担当でない受講者も、事前に配布される論文を読み、議論に参加すること。
It is important for students to acquire preliminary knowledge to prepare for class by reading relevant information and books that are commonly available.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
オフィスアワー 金曜日 16:00-17:00
事前にメールで連絡しておくこと。
Office hours are from 16:00 to 17:00 on Friday. Make an appointment in advance via e-mail .

科目名：言語学総合演習Ⅱ／Linguistics (Integration Seminar) II

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

semester：単位数：2

担当教員：加藤 万紀子. 木山 幸子. 内藤 真帆. 小泉 政利. 熊 可欣

コード：LM25406, 科目ナンバリング：LIH-LIN607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語学研究法 II

2. Course Title (授業題目)：Methods and practices of linguistic research II

3. 授業の目的と概要：授業は、参加者の分担による口頭発表と質疑応答の形式で行う。これにより、学会発表および論文作成のための知識ならびに方法を身につけることを目的とする。

1. 発表者は、発表のためのハンドアウトを事前に作成したうえで、研究目的、資料、分析と考察、結論を所定の時間で口頭発表する。

2. 質疑応答を参考にして論を練り直し、また、プレゼンテーション方法を再考し、学会発表や雑誌投稿ができるよりよい論文にするよう努める。

3. 参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、自己の研究領域以外の

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course students will deliver an oral presentation of their research, followed by a discussion among the participants.

1. An oral presentation should cover the aim, data, method, results, discussion and conclusion.

2. The presenter is encouraged to further improve the presentation on the bases of the discussion.

3. Participants should seek to gain acquaintance in various fields of linguistic studies and to participate in the discussion in order to help the presenter to improve their presentation.

5. 学習の到達目標：学会発表・論文作成の方法を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop skills needed to present a paper in an academic meeting and/or to submit a paper to an academic journal.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 論文 1 の口頭発表、質疑応答

3. 論文 2 の口頭発表、質疑応答

4. 論文 3 の口頭発表、質疑応答

5. 論文 4 の口頭発表、質疑応答

6. 論文 5 の口頭発表、質疑応答

7. 論文 6 の口頭発表、質疑応答

8. 論文 7 の口頭発表、質疑応答

9. 論文 8 の口頭発表、質疑応答

10. 論文 9 の口頭発表、質疑応答

11. 論文 10 の口頭発表、質疑応答

12. 論文 11 の口頭発表、質疑応答

13. 論文 12 の口頭発表、質疑応答

14. 論文 13 の口頭発表、質疑応答

15. 全体のまとめ

8. 成績評価方法：

質疑への参加 60%、発表 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

10. 授業時間外学習：発表に使用するハンドアウトは、事前に作成し、配布すること。ここでの発表を学会発表や論文投稿につなげることが望ましい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：科学哲学研究演習Ⅱ／ Philosophy of Science(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LM25407, 科目ナンバリング：LIH-PHI617J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：科学的理解 2

2. Course Title (授業題目)：Scientific Understanding 2

3. 授業の目的と概要：科学哲学ではこれまで、科学的説明について有意義な議論が展開されてきたが、科学的理解にはあまり手がつけられてこなかった。この授業では、科学的理解についての体系的著作である、Henk W. De Regt, 2020. Understanding Scientific Understanding, Oxford University Press を、前期に続けて講読し、科学的理解についての理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In the philosophy of science, there has been significant discussion of scientific explanation, but not much has been done on scientific understanding. In this class, we will read Henk W. De Regt, 2017. Understanding Scientific Understanding, Oxford University Press, that is a systematic work on scientific understanding, to deepen our understanding of scientific understanding.

5. 学習の到達目標：科学を理解するとはどのようなことかを理解する。

科学の理解を促進する方法を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：To understand what it means to understand science.

To understand how to facilitate understanding of science.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の構成は以下の通り。

第一回 イン트로ダクション

第二回～第十五回 文献講読

8. 成績評価方法：

授業に出席し、訳読やレジュメを担当する (60%)。期末レポートを提出する (40%)。

9. 教科書および参考書：

Henk W. De Regt, 2017. Understanding Scientific Understanding, Oxford University Press.

10. 授業時間外学習：授業時に読む文献にあらかじめ目を通しておいていただきたい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：史料管理学Ⅱ／ Archival Science II

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時, 後期 金曜日 5 講時

Semester : 2 学期 単位数 : 2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LM25408, 科目ナンバリング：LJS-HIS632J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：史料整理実習

2. Course Title (授業題目) : Practicum in Document Organization

3. 授業の目的と概要：実際に史料整理を行う。大規模な文書群を対象として取り上げ、史料の取り扱い、現状の把握、基本データの採録、目録作成、保存に向けての作業など、史料整理に関する基本的な実務を実際に行う。さらに、自ら整理した史料について、その個別の内容の理解だけではなく、文書群のなかにおける位置づけや文書群そのものの構造など、幅広く文書群を把握する方法を学ぶ。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れるので、その際には特に丁

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course aims to improve the students' ability to read and handle Japanese document. Positive participation in classes is expected.

5. 学習の到達目標：実際に実物の史料を整理し、「史料整理・保存の理論と方法」において学習した史料整理の理論と方法を体得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students will develop skills needed to handle real Japanese document.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は原則として対面で実施する。

1. ガイダンス
2. 史料整理実習 (1)
3. 史料整理実習 (2)
4. 史料整理実習 (3)
5. 史料整理実習 (4)
6. 史料整理実習 (5)
7. 史料整理実習 (6)
8. 史料整理実習 (7)
9. 史料整理実習 (8)
10. 史料整理実習 (9)
11. 史料整理実習 (10)
12. 史料整理実習 (11)
13. 史料整理実習 (12)
14. 史料整理実習 (13)
15. 史料整理実習 (14)・整理内容報告

8. 成績評価方法：

出席[30%]・受講態度[70%]

9. 教科書および参考書：

各自古文書読解用辞典類を持参すること。

10. 授業時間外学習：前期内容を十分に復習し、あわせて古文書読解の練習に努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

必ず史料管理学 I 「史料整理・保存の理論と方法」と連続して受講すること。また、受講に際しては、学部生へのアドバイザーとしての役割を強く期待する。オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)

科目名：中国思想史総合演習Ⅱ／ History of Chinese Thought(Integration Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：齋藤 智寛

コード：LM25501, 科目ナンバリング：LGH-PHI614J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国思想研究上の諸問題2

2. Course Title (授業題目)：Major Issues in the Research of Chinese Philosophy 2

3. 授業の目的と概要：前期での発表や討議にもとづいて、受講者各自が、それぞれの研究テーマにもとづく論文の草稿を作成して発表するとともに、受講者全員が、その発表にもとづいて自由に討論する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Based on the presentations and discussions in the former semester, each student will prepare and present a draft of a paper about their own research theme, and all students will discuss the paper.

5. 学習の到達目標：みずからの研究テーマに関連する学術論文を作成するうえで必要な基礎的技術および能力を向上させる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop their own fundamental skills that enable to summarize preceding research and establish their own research topic.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：顔合わせと趣旨説明

第2回：発表と討議(1)

第3回：発表と討議(2)

第4回：発表と討議(3)

第5回：発表と討議(4)

第6回：発表と討議(5)

第7回：発表と討議(6)

第8回：中間まとめ

第9回：発表と討議(7)

第10回：発表と討議(8)

第11回：発表と討議(9)

第12回：発表と討議(10)

第13回：発表と討議(11)

第14回：発表と討議(12)

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

発表内容(50%)、討論への参加状況(50%)

9. 教科書および参考書：

教科書はとくに使用しない。受講者各自が事前に配布した発表資料によって授業をおこなう。

10. 授業時間外学習：報告担当者は、配付資料を前日から1時間前には参加者に配付するほか、特定の学術論文を紹介・批評する際には1週間前には当該論文を配布すること。ほかの参加者は、配付された資料や論文を読み、授業時における討論の準備を周到におこなう。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：生命環境倫理学特論 I / Bio-Environmental Ethics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LM25502, 科目ナンバリング：LIH-PHI605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：研究の倫理とコミュニケーション

2. Course Title (授業題目) : Research Ethics and Science Communication

3. 授業の目的と概要：この授業では、研究倫理と科学コミュニケーションという二つの内容を扱います。本来、研究倫理は研究を倫理的観点から規制する学問、科学コミュニケーションは研究の内容を社会に伝え、科学への社会からの支持を調達する活動であって、これら是对立的関係に立ちます。しかし、現在では、研究に対する社会からの要望や懸念を研究者と市民が共有し、それを研究者が考慮しつつ研究活動を行うことが研究の倫理的信頼性と研究に対する社会からの支持を高めると考えられるようになり、融合が進んでいます。そこで、この授業では、研究倫理の観点を考慮しつつ

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this class, we will cover two topics: research ethics and science communication. Originally, research ethics was the study of regulating research from an ethical perspective, and science communication was the activity of communicating the content of research to society and procuring public support for science. However, nowadays, they are increasingly merging, with researchers and citizens sharing society's demands and concerns about research, and researchers taking these into account in their research activities, which is believed to enhance the ethical credibility of research and society's support for research. Therefore, this class will lecture on science communication, taking into account the perspective of research ethics.

5. 学習の到達目標：1. 科学コミュニケーションの基礎理論とその問題点を理解する。

2. 東日本大震災、コロナ禍で行われた科学コミュニケーションの特徴と問題点を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : 1. to understand the basic theory of science communication and its problems

2. To understand the characteristics and problems of science communication in the Great East Japan Earthquake and the Corona Disaster.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は講義形式で、以下の内容を扱います。

対面とオンラインを併用します。

1. イントロダクション

2～7. 科学コミュニケーションの理論

8・9. 東日本大震災と科学コミュニケーション

10・11. あいちトリエンナーレ 2019 と科学コミュニケーション

12・13. コロナ禍と科学コミュニケーション

14. 科学コミュニケーションの新しい課題

15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席し、課題を提出する (60%)、レポート (40%)

9. 教科書および参考書：

なし

10. 授業時間外学習：授業中に配布する資料をよく読んでおいてください。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：心理学総合演習Ⅱ／ Psychology(Integration Seminar) II

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：坂井 信之

コード：LM25503, 科目ナンバリング：LIH-PSY609J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：特選題目研究 II
2. Course Title (授業題目)：Research on Special Topics II
3. 授業の目的と概要：各自の研究テーマについて順次報告し、受講者全員で討論を行う。
基本的に、1 回の演習で 2 名がそれぞれ 30 分程度のプレゼンテーションを行う。
発表レジュメもあらかじめ作成し、出席者全員に配布する。
質疑討論はそれぞれの発表につき 15 分程度行う。
この演習の目的は、修士論文や博士論文につながる実験・調査の計画、遂行、結果のまとめや考察を進展させることにある。わかりやすく、説得力のある発表をするように努め、そのテーマを専門としない出席者の理解を促進するように工夫をすること。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Every student make a presentation and all students discuss it.
5. 学習の到達目標：各自の研究活動に基づく発表を通じて、心理学の各領域の研究についての理解を深める。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students better understand own area of psychology while discussing with each other.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この授業は、Google Meet を用いたライブ型の遠隔授業を基本として実施する。

1 回目 ガイダンス
2 回目 発表と討議 (1 組目)
3 回目 発表と討議 (2 組目)
4 回目 発表と討議 (3 組目)
5 回目 発表と討議 (4 組目)
6 回目 発表と討議 (5 組目)
7 回目 発表と討議 (6 組目)
8 回目 発表と討議 (7 組目)
9 回目 発表と討議 (8 組目)
10 回目 発表と討議 (9 組目)
11 回目 発表と討議 (10 組目)
12 回目 発表と討議 (11 組目)
13 回目 発表と討議 (12 組目)
14 回目 発表と討議 (13 組目)
15 回目 まとめ
8. 成績評価方法：
発表 (40%)、平常点 (30%)、討論への参加 (30%)
9. 教科書および参考書：
特に使用しない。
10. 授業時間外学習：各自、プレゼンテーションに備えて実験・調査を計画・遂行し、その構想やデータなどを理解のしやすい内容にまとめ、レジュメと投影資料を準備すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
履修は心理学専攻分野の大学院生に限る。
心理学総合演習ⅠとⅡを連続履修し、当該年度に 2 回以上の発表を行うこと。

科目名：美学・西洋美術史研究演習Ⅱ／Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Seminar II)

曜日・講時：後期 金曜日 5講時

セメスター：単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LM25504, 科目ナンバリング：LIH-ART613J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋美術研究（発展編）
2. Course Title (授業題目)：Research on Western Art (Developmental Course)
3. 授業の目的と概要：古代から現代までの西洋美術史を対象にして、英語の研究論文を読解しながら、作品や作家についての「問い」を立てて調査および分析を行い、先行研究を踏まえた発表を行います。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：While reading English research papers on the history of Western art from ancient times to the present, we will raise 'questions' about works and writers, conduct research and analysis, and make presentations based on previous research.
5. 学習の到達目標：西洋美術に関する基本的な方法と用語を習得し、作品の分析と「問い」の設定（立論）、研究発表の方法を理解すること。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：To master the basic methods and terms related to Western art, and to understand how to analyze works, set 'questions' (arguments), and present research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1：ガイダンス（1）研究の目的とこれからの予定
 - 2：ガイダンス 2）「問い」をいかに立て、先行研究に向き合うか
 - 3：発表と議論
 - 4：発表と議論
 - 5：発表と議論
 - 6：発表と議論
 - 7：発表と議論
 - 8：発表と議論
 - 9：発表と議論
 - 10：発表と議論
 - 11：発表と議論
 - 12：発表と議論
 - 13：発表と議論
 - 14：発表と議論
 - 15：発表と議論

（註：発表のための準備および文献調査のために順番を入れ替えることがあります）
8. 成績評価方法：

発表の到達度および授業での議論への参加度を総合して評価します。
9. 教科書および参考書：

読解する英語の研究論文は授業の中で決定し、配布（またはダウンロード先を指示）します。
10. 授業時間外学習：発表者は先行研究の調査、読解、翻訳（全訳）、発表のための資料作成を行います。受講生はあらかじめ授業で取り上げられる主な作家や作品について各自で調査し、基本的な理解を深めておきます。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：東洋史学研究演習Ⅳ／ History in Asia(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 金曜日 5講時

semester：2学期 単位数：2

担当教員：渡邊 英幸

コード：LM98830, 科目ナンバリング：LGH-HIS611J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：戦国秦漢簡牘資料研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Studies documents of bamboo and wooden slips from Warring States Period to Qin-Han Period

3. 授業の目的と概要：引き続き、雲夢睡虎地秦簡を読解し、これまでの研究成果を把握し、簡牘史料の解読の基礎を習得するとともに、その後に出土したほかの史料の知見を踏まえ、従来の見解の見直しを試みる。詳細な訳注稿を提出する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We will continue to read the Shuihudi Qin documents, get a handle on current research findings, and develop basic reading skills to understanding bamboo and wooden slips documents. In addition, we will attempt to review the results of previous studies in light of information from other documents that have been unearthed since then. Students will present a detailed translation and notes in Japanese.

5. 学習の到達目標：先行研究の知見を踏まえ、簡牘史料を的確に読解する力を身につけることを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of this course is to develop the basic ability to accurately read and understand bamboo and wooden slips documents in light of information from the results of previous studies.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：前期の総括と担当の割り振り

第2回：「封診式」講読(1)「羣盜」

第3回：「封診式」講読(2)「羣盜」

第4回：「封診式」講読(3)「奪首」

第5回：「封診式」講読(4)「□□」

第6回：「封診式」講読(5)「告臣」

第7回：「封診式」講読(6)「黥舂」

第8回：「封診式」講読(7)「遷子」

第9回：「封診式」講読(8)「告子」

第10回：「封診式」講読(9)「癘」

第11回：「封診式」講読(10)「賊死」前半

第12回：「封診式」講読(11)「賊死」後半

第13回：「封診式」講読(12)「經死」前半

第14回：「封診式」講読(13)「經死」後半

第15回：講義のまとめ

8. 成績評価方法：

担当課題、および毎回の討論における質疑応答によって評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書：配布する。陳偉主編、彭浩・劉樂賢等撰『秦簡牘合集—積文注釈修訂本』(武漢大学出版社、2016年)のほか、数種の報告書・訳注を使用する。

参考書：授業中に紹介・配布する。

10. 授業時間外学習：担当者は訳注稿を作成する。討論では全員に発言を求めないので、担当者以外も予習のうえで出席すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

なし。

科目名：日本語学特論 I / Japanese Linguistics (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 その他

Semester： 単位数：2

担当教員：宮地 朝子

コード：LM98808, 科目ナンバリング：LJS-LIN605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本語文法史研究
2. Course Title (授業題目) : Historical study of Japanese grammar
3. 授業の目的と概要：日本語の文法変化の具体的事例として機能語（助詞）の確立過程を取り上げ、言語の変化と多様性およびそれを支える構造について考える。日本語の、音韻、形態、統語・意味的な側面が相互に関連しながら変化していく様相を観察し、個々の形態の変化を条件付けたり制約として作用したりする語彙の意味や構造的特性と、変化をもたらす言語運用上の諸条件の関係について考察する。言語変化の把握や記述・分析法の一例を提示するとともに、さまざまな立場を批判的に検討し、言語の変化や多様性にかかわる諸現象を分析する手法を身につける。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The main aims of this course are to explore properties of syntax and syntactic change in the history of Japanese. Some aspects of morphology, semantics and pragmatics are also included where relevant. We will survey selected changes and discuss different accounts, that will also introduce various approaches to syntactic change. This course deals with the factual linguistic knowledge and the specialized knowledge on historical development of Japanese functional morphemes. It also help students acquire the skills and proficiency needed for historical study on Japanese grammar.
5. 学習の到達目標：・日本語の文法史的变化について問題を設定し、語彙の意味や構造的特性、言語運用上の諸条件の関係について考察することができる。
 - ・日本語の文法史研究の諸説に対し、要点と問題点を精確につかんで批判的に検討できる。
 - ・文法変化の条件を明らかにする文法史研究を自ら実践することができる。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : By the end of the course, students should be able to:
 - ・Understand the relationship between grammatical changes and language use from the perspective of language history.
 - ・Compare and contrast alternative theories and approaches in terms of their underlying
7. 授業の内容・方法と進度予定：

文法変化の事例として、名詞ほかさまざまな形態に由来する体言性の機能語（主に副助詞類）の確立と展開を取り上げる。
※授業の進度等の状況に応じて、内容・順序には多少の変更を行う場合がある。

 1. ガイダンス：日本語史概観
 2. 言語変化とは：変化・多様性をとらえる視点
 3. 助詞の文法史 概観
 4. 副助詞と係助詞、並立助詞と接続助詞
 5. 体言・名詞の多様性と文法
 6. 事例 1-ダケの史的展開 (1) 形式名詞から形式副詞へ
 7. 事例 1-ダケの史的展開 (2) 形式副詞から接続助詞・副助詞へ
 8. 事例 1-ダケの史的展開 (3) ダケとバカリ
 9. ディスカッション：文法史の諸問題
 10. 事例 2-シカ類の史的展開 (1) 方言形式の多様性
 11. 事例 2-シカ類の史的展開 (2) 否定極性と文法変化
 12. 事例 3-ナラデハの史的展開 (1) 中古・中世前期
 13. 事例 3-ナラデハの史的展開 (2) 中世後期・近世
 14. 事例 3-ナラデハの史的展開 (3) 近代から現代へ
 15. まとめ：変化と普遍、現象と構造
8. 成績評価方法：

平常点（参加姿勢 20%・小課題 30%）および期末のレポート課題（50%）の総合評価による。
9. 教科書および参考書：

特定の教科書は指定しない。スライド資料等を提示する。
【参考書】主なもののみ。そのほかは授業中に随時提示する。

 - ・宮地朝子『日本語助詞シカに関わる構文構造史的研究』ひつじ書房、2007
 - ・大木一夫編『ガイドブック日本語史調査法』ひつじ書房、2019
 - ・青木博史・高山善行編『日本語文法史キーワード事典』ひつじ書房、2020
 - ・此島正年『国語助詞の研究 助詞史素描』桜楓社、1966
10. 授業時間外学習：(1) 授業時に提示する小課題に取り組む
(2) 参考文献や配布資料を読んで内容を検討し、問題点や発展的課題として指摘すべき箇所を見出す
(3) 期末レポート課題へ向けて問題を設定し、参考文献の参照、用例の調査を行う
11. 実務・実践的授業/Practical business
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
 - 《実務・実践的授業/Practical business》

1 2. その他：

メールアドレスは開講時に提示する。

科目名：日本語教育学特論 I / Applied Japanese Linguistics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期集中 その他 その他

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LM98809, 科目ナンバリング：LJS-LIN615J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：年少者日本語教育
2. Course Title (授業題目)：Japanese language education for children
3. 授業の目的と概要：日本で暮らす外国人の数は年々増加しており、それに伴い学校に在籍する外国人児童生徒等も増加している。この授業では、学校教員を目指す学生を対象に、日本語指導が必要な児童生徒等に関する基礎的な知識を学び、教師として行うべき支援について考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In recent years, the number of foreign residents has increased significantly, and at the same time, the number of foreign children whose mother tongue is not Japanese is also increasing in Japanese schools. In this class, students will develop their understanding of foreign children who need Japanese language supports and gain fundamental knowledge of Japanese language teaching and learning support for them.
5. 学習の到達目標：1. 外国につながる児童生徒等の教育の現状や課題について理解を深める。
2. 子どもの生活や学習上の困難点についての理解を深める。
3. 子どもに対する日本語指導についての基礎的な知識を身につけて、子どもを支援できる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:
-enhance their understanding of the current situation and issues of education for foreign children
- understand and describe the difficulties in life and learning of children
-gain fundamental
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. オリエンテーション
 2. 外国人児童生徒等の教育の現状と課題 (1)
 3. 外国人児童生徒等の教育の現状と課題 (2)
 4. 子どもの生活や学習上の困難点 (1)
 5. 子どもの生活や学習上の困難点 (2)
 6. 子どもへの日本語支援の方法 (1) 受け入れの準備
 7. 子どもへの日本語支援の方法 (2) サバイバル・日本語基礎
 8. 子どもへの日本語支援の方法 (3) 日本語指導と教科の統合学習
 9. 子どもへの日本語支援の方法 (4) 教科の補習
 10. 子どもへの日本語支援体験 (1)
 11. 子どもへの日本語支援体験 (2)
 12. 子どもへの日本語支援体験 (3)
 13. 体験の振り返り
 14. 教師の役割
 15. まとめ
8. 成績評価方法：
授業への参加態度 30%、授業の課題 40%、最終レポート 30%
9. 教科書および参考書：
文部科学省 (2019) 『外国人児童生徒受入れの手引き (改訂版)』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm
10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
*授業では、子どもの支援を実際に行うことを予定していますが、諸事情により実施できない場合には、シラバスの内容を変更することがあります。

科目名：日本史特論 I / History in Japan(Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期集中 その他 その他

semester：単位数：2

担当教員：小林 文雄

コード：LM98811, 科目ナンバリング：LJS-HIS605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近世の芸能と文化

2. Course Title (授業題目) : Research on early modern Japanese public entertainments and society

3. 授業の目的と概要：近世の日本では、歌舞伎や浄瑠璃など多様な芸能が発展し、庶民の暮らしや心性に影響を与えました。また、出版業が成立し、文字の文化が庶民の間に普及したのもこの時代です。この講義では、芸能と書籍（本）を通して、近世文化の特色と意義を考察したいと思います。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The purpose of this lecture is to understand the history of public entertainments and publishing industry in early modern Japan. I will introduce cultural features and significance in early modern Japanese society.

5. 学習の到達目標：日本近世の文化史的な意義を説明できるようになる。
文化的事象と時代背景・社会状況との関連を読み取ることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Understand the history of early modern Japan through public entertainments and publishing industry.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

- 1 ガイダンス
- 2 近世の芸能文化 (1)
- 7 近世の芸能文化 (2)
- 3 近世の芸能文化 (3)
- 4 歌舞伎から江戸の社会を考える (1)
- 5 歌舞伎から江戸の社会を考える (2)
- 6 歌舞伎から江戸の社会を考える (3)
- 7 城下町の芸能と社会 (1)
- 8 城下町の芸能と社会 (2)
- 9 芸能文化の交流と受容 (1)
- 10 芸能文化の交流と受容 (2)
- 11 芸能文化の交流と受容 (3)
- 12 書物と地域社会 (1)
- 13 書物と地域社会 (2)
- 14 書物と地域社会 (3)
- 15 まとめと試験

8. 成績評価方法：

講義中に提出するミニッツペーパー 30% 出席 20% 理解度確認のための試験 50%

9. 教科書および参考書：

プリントを配布します。参考書は授業内で紹介します。

10. 授業時間外学習：配付した資料に挙げられた作品（演劇・音楽）やその作者について、図書館やインターネットで調べたり、視聴したりしておいてください。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

授業のなかで、歌舞伎や長唄などの近世芸能を視聴する時間をとる予定です。

科目名：記録遺産保全学特論／ Memory Heritage Preservation Theory (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 その他

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：佐藤 大介

コード：LM98812, 科目ナンバリング：LJS-HIS630J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：地域の歴史資料の保全と継承を考える
2. Course Title (授業題目)：Considering the preservation and succession of local historical materials
3. 授業の目的と概要：この講義では、地域社会に今なお膨大に残されている歴史資料を守り、伝えるための課題や、そのための実践を、座学、議論、および実際の地域での活動を通じて学んでいきます。特に、東日本大震災後の歴史資料レスキュー活動や、目下大きな課題になっている、地域社会に膨大に残されている古文書、民具その他の歴史資料をどのように守っていくのかについて討論や実際の体験を通じて、課題の所在を認識することを目的とします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will learn about issues to protect and pass on the vast amount of historical materials that still remain in the local community, as well as how to practice them, through lectures, discussions, and actual community activities. In particular, the purpose of this project is to identify the location of issues through discussion and actual experiences on how to protect the huge amount of old documents, tools and other historical materials left in local communities, which are currently a major issue, as well as the activities to rescue historical materials after the Great East Japan Earthquake.
5. 学習の到達目標：・過去の歴史資料保存をめぐる経緯を踏まえながら、地域社会に残された歴史資料を継承するための課題を学びます。
・講義を通じて、「社会にとっての歴史研究者の存在意義とは何か」ということを自ら考える力を付けます。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：・Based on the history surrounding the preservation of historical materials in the past, you will learn about the issues for inheriting the historical materials left in the local community.
・Through lectures, students gain the ability to think for themselves
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1日 危機に瀕する地域の史料
1 ガイダンス
2 講義 「歴史資料」とは
3 講義 地域の歴史資料の置かれた現状

第2日 「1.17」の経験、「3.11」を経て一大災害時の史料レスキュー
4 講義 阪神・淡路大震災での歴史資料レスキュー
5 講義 東日本大震災での歴史資料レスキュー
6 質疑応答

第3日 福島県浜通り地方での史料レスキュー
4 講義 原発被災地での活動①
5 講義 原発被災地での活動②
6 質疑応答

第4日 歴史資料を通じた地域づくり
10 講義 史料を通じて地域と向き合う①
11 講義 史料を通じて地域と向き合う②
12 質疑応答

第5日 人・コミュニティへの支援としての歴史資料保全
13 講義 史料保全の可能性①
14 講義 史料保全の可能性②
15 質疑応答

*講義のより詳細な内容については、履修登録完了時に、受講予定者に提示する予定である。

8. 成績評価方法：

- ・平常点 (出席、討論への参加) (40パーセント)
- ・レポート (60パーセント) *日本語のみとします。

9. 教科書および参考書：

- ・奥村弘『大震災と歴史資料保存』(吉川弘文館 2011年)
- ・平川新・佐藤大介編『歴史遺産を未来へ』(東北大学東北アジア研究センター報告 2012年)
- ・奥村弘編『歴史文化を大災害から守る 地域歴史資料学の構築』(東京大学出版会 2014年)

ほか、講義中指示する。

10. 授業時間外学習：・歴史資料の救済・保全活動のボランティアが、現在日本の31組織によって実施されている。それらに参加し、交流を深めることが、本講義の内容を、真に体得するために有用である。

・上記の参考文献、およびそれらに引用されている関連文献に、可能な範囲で目を通しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

・講義は日本語で行います。 This lecture will be given in Japanese only.

・本講義は、「認定アーキビスト」の必修単位となっています。 This course is a required credit for "Certified Archivist", by National Archives of Japan.

科目名：文化財科学研究実習Ⅱ／ Science of Cultural Properties(Advanced Field Work)II

曜日・講時：前期集中 その他 その他

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：初鹿野 博之、吉野 武

コード：LM98818, 科目ナンバリング：LJS-CUM608J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古代遺跡調査の方法と実践

2. Course Title (授業題目)：Method and Practice of Excavation at Ancient Sites

3. 授業の目的と概要：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査に参加し、実際の発掘調査をおこなうための基礎的知識と、調査方法を学ぶ。また、遺跡から出土した遺物の整理や保存処理、科学的分析法を学び、文化財科学の方法と実践の基礎を学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will take part in the excavation at Tagajo fort site and learn basic knowledge and practical method to carry out field work. Furthermore, they will be offered an opportunity to experience treatment for artifact protection and practice of scientific analysis.

5. 学習の到達目標：(1) 史跡多賀城跡と関連遺跡の基礎的知識を身につける。(2) 発掘調査の方法を学び、実践する。(3) 出土遺物の整理法を身につける。(4) 出土遺物の保存処理や化学分析を実践するための基礎的な知識と技術を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students understand (1) history of studies at Tagajo fort site, and (2) theory and practice of excavation, (3) operation of archaeological materials and (4) basic knowledges and techniques for artifact protection and scientific analysis.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

生徒は史跡多賀城跡または多賀城跡調査研究所にて、発掘と資料の整理・分析に参加する。講義の内容とスケジュールは以下の通りである。

第1回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査に関するガイダンス

第2回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査①

第3回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査②

第4回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査③

第5回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査④

第6回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査⑤

第7回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査⑥

第8回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査⑦

第9回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査⑧

第10回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査⑨

第11回：史跡多賀城跡あるいは関連遺跡の発掘調査⑩

第12回：出土遺物の基礎的な整理

第13回：保存処理の方法と実践

第14回：科学的分析の方法と実践

第15回：文化財科学の方法と実践

8. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%]

(○) その他(具体的には、講義態度と発掘への取り組み) [30%]

9. 教科書および参考書：

教室にて指示、プリントを配布。

10. 授業時間外学習：発掘に関わる準備と、多賀城跡に関する研究史の学習。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

履修にあたっては、協力講座の考古学専攻分野に連絡すること。

科目名：文化人類学特論 I / Cultural Anthropology (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期集中 その他 その他

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：中西 裕二

コード：LM98819, 科目ナンバリング：LGH-CUA601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化人類学特論 I
2. Course Title (授業題目)：Advanced Studies in Cultural Anthropology
3. 授業の目的と概要：本講義では、神仏習合の視点からみた東北地方の宗教人類学的考察、日本に関する観光の社会史と観光人類学的考察、日本の宗教的世界観に対する構築主義的視点の導入、という 3 つのテーマから授業を進める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this lecture, the class will focus on three themes: an anthropological examination of religion in the Tohoku region from the perspective of syncretism of Shintoism and Buddhism; a social history of tourism and an anthropological examination of tourism with regard to Japan; and an introduction to a constructionist perspective on the Japanese religious worldview.
5. 学習の到達目標：①日本の宗教的世界観における東北地方の特殊性について理解を深める。
②観光と文化の関係についての理解を深める。
③文化理解における歴史の問題について理解を深める。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) Deepen understanding of the uniqueness of the Tohoku region in the Japanese religious worldview.
(2) Deepen understanding of the relationship between tourism and culture.
(3) Deepen understanding of historical issues in cultural understanding.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 日本の観光的行動の発生—日本における巡礼の成立
 3. 日本における観光史と宗教史—江戸期末まで
 4. 21 世紀における観光の変化と日本
 5. コンタクト・ゾーンとしての観光地の変化
 6. 観光と構築的文化観の再生産
 7. 日本における「歴史」と「文化」の関係性
 8. 「創られた伝統」論—歴史の構築主義的視点
 9. 神仏習合と寺社勢力論—中世史学の成果から
 10. 日本宗教史上の大転換—神仏分離
 11. 東北地方の寺社勢力—旧山形藩の事例から
 12. 東北地方の薬師信仰の謎
 13. 創られる歴史—歴史伝承
 14. 創られる歴史—偽書、書き換え
 15. 日本における「歴史」と「文化」を再度考える
8. 成績評価方法：

平常点を 20%、期末レポートを 80%として評価する。
9. 教科書および参考書：

特に指定しない。授業時にプリントを配布する。
10. 授業時間外学習：文化人類学は生活に根付いた学であるため、日々生きている日常の中での気づきが重要となる。本授業でテーマとなる東北地方の宗教的世界観、神仏習合、観光と宗教、歴史と構築主義に関して、観察や情報のチェック、文献の検索を日常的に行う必要がある。それに 60 時間以上の時間を必要とする。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：死生学特論Ⅲ／ Death & Life Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 その他

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：竹之内 裕文

コード：LM98820, 科目ナンバリング：LGH-RES612J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：死とともに生きることを学ぶ

2. Course Title (授業題目)：Cultivating Wisdom of Mortal Human Life

3. 授業の目的と概要：なぜ死生学という学問が誕生したのかというところから始め、終末期医療、在宅での看取りといった現代医療の問題や、大震災被災地での支援、老人介護など、超高齢多死社会といわれる現代生活の多様な局面を取り上げながら、誰もがケアの担い手になり得るという現実を理解し、それぞれの立場から人間の生と死を取り巻く諸問題にどのように対処していけばよいのかを考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course describes the origins and purposes of the discipline of thanatology and covers various problems and challenges faced by modern medicine, such as an increasing demand for terminal care and home health nursing. Today, we are asked to provide care and support in multiple and varied circumstances: as volunteers in the areas affected by the Great East Japan Earthquake, as elderly care workers, etc. Ultimately, any member of our super-aged, mass death society may find him- or herself in the position of a caregiver. This course aims to prepare students for this role and give each of them an opportunity to look for his or her personal way to address a range of issues related to human life and death.

5. 学習の到達目標：①対話スタイルで進められる授業を通して、対話的探究の楽しさと可能性を味わい、対話のスピリットと技法を習得する。

②テキストを読み、他の受講者や教員と対話することを通して、「死とともに生きる」自分なりの構えと知恵を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will learn the key concepts of thanatology and gain a deeper insight into present-day issues concerning life and death. Students are expected to:

1) discover the joys, as well as effectiveness, of dialogic inquiry through interactive, dialogic l

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業では、すべての人間の共通課題である「死」と「死別」と正面から向き合い、他者とともにどのように生きるかについて、対話を通して共に探究する。授業は、1) 所定のテキストの各章(序章～終章)をめぐる9つの対話、2) コミュニティ緩和ケアの現場(穂波の郷)でのフィールドワーク、3) 重度障害者の自立生活に関する動画鑑賞により構成される。

- 1) ガイダンス：講義の目的と進め方、「対話」をめぐる試行の対話
- 2) ワールドカフェ ある死別の経験から(序章)
- 3) 映画『生かされて生きる』鑑賞
- 4) テキストをめぐる対話① 重度障害者自立ホームから(第1章)
- 5) テキストをめぐる対話② 在宅緩和ケアの現場から(第2章)
- 6) テキストをめぐる対話③ 死者と共にある農村との出会い(第3章)
- 7) テキストをめぐる対話④ いのちに気づかって生き、死ぬ(第4章)
- 8) テキストをめぐる対話⑤ 共に生きること、本当に生きること(第5章)

9) 10) 11) コミュニティ緩和ケアの現場(穂波の郷)でのフィールドワーク

- 12) テキストをめぐる対話⑥ 森と湖の国の「福祉」(第6章)
- 13) テキストをめぐる対話⑦ ホスピス運動の源流を辿る(第7章)
- 14) テキストをめぐる対話⑧ 死とともに生きることを学ぶ～哲学と対話(終章)
- 15) 授業全体のふり返り

8. 成績評価方法：

ポイント制とします。試験やレポートはありません。

1. テキストをめぐるワールドカフェ/対話(全9回)の準備作業として、受講者は各回の授業冒頭にフィードバックシートを提出します。すべての設問にきちんと回答して、フィードバックシートをすべて提出すると、8点満点×9回=72点のポイントを獲得します。

2. 全体対話での発言については、これを対話的探究への寄与と位置づけ、1回あたり3点を加算します。

9. 教科書および参考書：

講義担当者の単著『死とともに生きることを学ぶ 哲学と対話』(ポラーノ出版 2019 ISBN: 978-4908765223)をテキストとして使用します。宗教学研究室にて割引価格で購入できるように手配します。

The course is based on the instructor's book:

Takenouchi Hirobumi. Shi to Tomo ni Ikiru Koto wo Manabu: Tetsugaku to taiwa (Polano Shuppan, 2019)

10. 授業時間外学習：講義テキストを事前に読み、序章から終章について、それぞれフィードバックシートに記入してもらいます。通常の授業より、事前の準備課題が多いように感じられるかもしれませんが。しかしその分、事後のレポートや試験はありません。対話＝本番という考え方を共有してください。

Students are required to read the assigned texts in advance and fill in all feedback sheets (eight in total).

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

きちんと準備して臨めば、きっと楽しい授業となるでしょう。母校での対話的探究を楽しみにしています。死生学カフェと対話については次の URL を参照ください。<https://www.facebook.com/shiseigakucafeshizuoka/>
<http://hdl.handle.net/10297/00027723>

科目名：東洋近世史特論 I / Early Modern History in Asia (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期集中 その他 その他

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：岡 洋樹

コード：LM98826, 科目ナンバリング：LGH-HIS604J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：清朝のモンゴル支配、その歴史的 성격と意義
2. Course Title (授業題目)：Qing dynasty's rule over Mongolia: its historical nature and significance
3. 授業の目的と概要：清朝は、「外藩」と称する独自の統治範疇を設けて安定的なモンゴル遊牧民統治を実現した。その制度的な諸要件は、「王公制度」「盟旗制度」と呼ばれるが、多くの点で清代に先立つ北元末期モンゴルの分節的な社会構造に基盤を置く諸制度を継承したものであると同時に、これを皇帝の専制的統治の下に組み込み、垂直的な統治構造を創出した。本講義では、このような清のモンゴル統治制度と政治的統治手法を概観しつつ、その歴史的意義を考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The Qing dynasty established special governing system called “wai fan” (Outer Mongol) and achieved stable rule over Mongolian nomadic society. This system consisted of “wang gung system” and “league and banner system”. Then many of its elements inherited the ruling system which was based on the segmental structure of Mongolian nomadic society of Later Yuan era. On the other hand, the Qing incorporated entire society into vertical system of rule. This lecture offers the overviews about the entire ruling system and the political way of rule of the Qing and consider its historical significance.
5. 学習の到達目標：清朝によるモンゴル支配の概要を習得するとともに、その歴史的意義をモンゴル史の文脈に即して理解することを目標とする。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this course is to provide an overview of the Qing Dynasty's rule over Mongolia and to understand its historical significance in the context of Mongolian history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第一講「イントロダクション：清代モンゴル史の課題」
清代モンゴル史に関する研究史を整理しつつ、検討・再検討されるべき課題を論じる。
 - 第二講「外藩とは何か」
清朝によるモンゴル支配の統治カテゴリーとしての外藩の特徴と清の帝国構造の中でのその位置づけを論じる。
 - 第三講「北元から清へ 1——内モンゴルの服属」
モンゴル諸集団が清朝に服属する過程を概観しつつ、マンジュのモンゴルに対する政策展開の特徴を考察する。第一回は内モンゴル諸集団の服属過程に焦点を当てる。
 - 第四講「北元から清へ 2——ハルハの服属」
内モンゴル服属後も独立を保っていた清朝とハルハ・モンゴルとの政治的関係を概観し、清朝入関後、順治・康熙期のモンゴル政策の展開を考察する。
 - 第五講「清朝によるハルハ支配強化政策」
乾隆帝がハルハモンゴルに対して展開した一連の支配強化策を通じて、清のモンゴル統治の手法の特徴について考察する。
 - 第六講「清のモンゴル統治制度：王公制度と盟旗制度」
清朝のモンゴル統治制度として知られる王公制度と盟旗制度の歴史的性質を、北元期との対比において考察する。
 - 第七講「統治制度と社会構造：オトク・バク」
清代モンゴルに存在したオトク・バク社会構成体としての特質を論じ、盟旗制度との関係について考察する。
 - 第八講「ナツァグドルジの清代モンゴル社会構造理解」
清代モンゴル史に多大な業績を残したモンゴルの研究者 Sh. ナツァグドルジの社会構造理解を再検討し、その成果と問題点をまとめる。
 - 第九講「清代モンゴル史の歴史記述」
清朝政府及び清代モンゴルの知識人たちが残したモンゴルに関する歴史記述を取り上げ、その内容の特徴と清朝支配との関係を論じる。
 - 第十講「外藩統治の「中央ユーラシア的」性格」
清朝のモンゴル統治における「中央ユーラシア的」特徴について論じ、清朝の帝国統治の歴史的性質を考察する。
 - 第十一講「いわゆる「封禁政策」について」
清朝のモンゴル支配における基本政策とされてきた「封禁政策」理解の問題点を批判的に整理しつつ、その実態と意義を考察する。
 - 第十二講「清代モンゴルにおける人の移動：出稼ぎ」
清朝統治下のモンゴルに現れた新たな現象として、活発な人の越境移動を挙げることができる。ここではとくにモンゴル人の出稼ぎに焦点を当てて移動の問題を考察する。
 - 第十三講「清代モンゴルにおける人の移動：所属旗を知らぬ人々」
清代において越境移動が活性化する中で、長期にわたり所属旗を離れて生活したために所属旗を知らない人々に焦点を当て、清代モンゴルの人口流動現象の意義について考察する。
 - 第十四講「外藩統治における人身把握」
人の移動が活性化する中で、清朝当局が移動者に対していかなる管理を行おうとしたのか、その際にどのような困難に直面したのかを論じ、清のモンゴル支配の限界の所在を考察する。

第十五講「講義のまとめ」

モンゴル史上における清朝支配の歴史的意義について考察をまとめる。

8. 成績評価方法：

成績評価はレポートにより行う。

9. 教科書および参考書：

参考文献

岡洋樹「乾隆帝の対ハルハ政策とハルハの対応」『東洋学報』第73巻第1・2号、1992年

岡洋樹「第三代ジェヴツンダムバ・ホトクトの転生と乾隆帝の対ハルハ政策」『東方学』第83輯、1992年

岡洋樹『清代モンゴル盟旗制度の研究』東京：東方書店、2007年

岡洋樹「北元から清へ—清朝の外藩統治形成の歴史的経緯」『東洋史研究』第81巻第1号、2022年

岡洋樹「大清国による歴史記述のモンゴル史的文脈」『北東アジア研究』別冊第3号、2017年

岡洋樹「清朝中期におけるモンゴル人の人口流動性に

10. 授業時間外学習：受講者は講義に先立って清朝のモンゴル統治の概要について、参考文献、あるいはインターネット上の情報によって予習しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：英語文化論特論 I / English Culture (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期集中 その他 その他

セメスター：単位数：2

担当教員：遠藤 不比人

コード：LM98827, 科目ナンバリング：LGH-LIT614J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：情動と英国モダニズム文学
2. Course Title (授業題目)：Affect and British Modernist Literature
3. 授業の目的と概要：文学研究においても注目を集めている「情動 (Affect)」という視点から英国モダニズム文学を再考します。その議論において、言語芸術である文学と視覚芸術である絵画との差異と同一性が浮上してきます。このような観点から、新たな人文学の可能性を探究します。受講生が、文学研究に関して、これまでにない斬新な視野から議論をできるように訓練をします。この講義が準拠する情動理論は米国の理論家である Fredric Jameson のリアリズム論ですが、この議論は文学テキストにおける「絵画的瞬間」に関して新たな解釈を可能にする
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course is designed to reexamine British modernist literature through the lens of 'affect,' a prominent theme in recent literary studies. This perspective aims to highlight the intriguing distinctions and similarities between literature as a verbal art and painting as a visual art. Students will be guided to explore modernist literature from this innovative viewpoint, encouraging discussions and analyses. The foundation of the course discussions will be Fredric Jameson's argument on realism, an American Marxist theorist. This framework allows for fresh and insightful interpretations of what can be termed 'painterly moments' within literary texts. Building upon this foundation, the course will reassess the concept of 'post-impressionism' proposed by British art critic Roger Fry. Simultaneously, students will delve into modernist works by Virginia Woolf, Katherine Mansfield, and Joseph Conrad. The exploration will also incorporate Sigmund Freud's psychoanalysis. The course will shed light on British psychical research and the gold standard as historical contexts for the modernist intricacies of 'affect.' Simultaneously, it will contemplate the modernist significance of materialism within these historical contexts. Ultimately, the course aims to provide a novel historical perspective for reevaluating modernist art and literature.
5. 学習の到達目標：1. 英国モダニズムに関して新たな視点を獲得する。
2. 言語芸術たる文学と視覚芸術たる絵画の差異と同一性に関して批評的な視点を獲得する。
3. 文学言語における情動の批評的可能性について十分な知識を得る。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：1.To gain new perspectives from which to reconsider British Modernism
2.To gain critical perspectives from which to reconsider the differences and similarities between literature as a verbal art and painting as a visual art.
3.To gain sufficient knowled
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 導入 (情動理論概観)
 2. 情動的唯物論 1 (Jameson)
 3. 情動的唯物論 2 (Freud)
 4. 情動的唯物論 3 (Fry)
 5. 情動的唯物論 4 (Fry and Woolf)
 6. 情動と静物画的瞬間 1 (Mansfield)
 7. 情動と静物画的瞬間 2 (Mansfield)
 8. 情動と静物画的瞬間 3 (Conrad)
 9. 情動と静物画的瞬間 4 (Conrad)
 10. 情動と静物画的瞬間 5 (Woolf)
 11. 情動と静物画的瞬間 6 (Woolf)
 12. 精神分析と情動
 13. 物質性と情動
 14. 総括的議論
 15. 筆記試験各授業の最後に reaction paper を提出してもらい次の授業の最初にそれへの応答をすることにより、講義の双方向性を確保する。
8. 成績評価方法：

平常点 (40%) 期末試験 (60%)
9. 教科書および参考書：

教材は各回とも担当者が PowerPoint で提示する。
参考書は、遠藤不比人『情動とモダニティ—英米文学/精神分析/批評理論』彩流社、2017 年。および、遠藤不比人「情動的唯物論—モダニズムにおける霊的なものの系譜」『現代思想』(特集：感情史) 2023 年 12 月号
10. 授業時間外学習：最終試験に備え、毎回の講義内容の復習を行うこと。
11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

科目名：西洋史特論Ⅱ／ European and American History (Advanced Lecture) II

曜日・講時：前期集中 その他 その他

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：熊野 直樹

コード：LM98828, 科目ナンバリング：LGH-HIS613J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目： ドイツ司法とナチズム責任

2. Course Title (授業題目) : German judiciary and dealing with the Nazi past

3. 授業の目的と概要： 本授業では、ドイツを事例に「法治国家」からナチス「不法国家」への移行過程における司法の役割について検討し、その司法がナチズム責任として戦後東西ドイツにおけるナチズム裁判でどのように裁かれたのかについて検討を行う。以上を通じて、司法と政治との緊張関係について理解を深めるとともに、政治からの「司法権の独立」の持つ意味を歴史的に深めていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : While man often tends to think of Nazi Germany as a zone of lawlessness, the Nazi regime and its policies of persecution were maintained by judges, lawyers and jurists. This course focuses on why German judiciary were attracted to the Nazi Regime, how these legal professionals lent their skills and knowledge to a system of injustice, and whether they were held accountable for their Nazi-era action after World War II.

5. 学習の到達目標： ・ドイツ司法の歴史について学び、ドイツ現代史に関する理解を深める。

・ドイツ司法とナチズム責任について学び、司法（正義）について考える視座を得る。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : To deepen understanding of German modern history by leaning about German judiciary.

To get a perspective to think about Justice by learning about German judiciary and dealing with the Nazi past.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

ドイツ近現代史の概説ではなく、主に裁判所をはじめとしたドイツ司法とナチズムとの関係及び戦後東西ドイツ及び統一ドイツの司法のナチズム責任について論じる。受講者の数や要望等によって、内容・方法が若干変更される可能性がある。

第1回 プロローグ：ガイダンス（授業内容・方法、単位認定の方法等の説明）

第2回 ナチス「不法国家」の成立過程（1）：ヴェーバーの支配の諸類型

第3回 同上（2）：ヴァイマル共和国におけるドイツ司法

第4回 同上（3）：ヒトラーの権力掌握とドイツ司法

第5回 同上（4）：ドイツ司法の強制的同質化

第6回 同上（5）：「合法的支配」から「カリスマ支配」へ

第7回 同上（6）：政治司法としてのドイツ司法

第8回 戦後ドイツにおけるナチズム裁判と「ベルリンの壁」裁判（1）：二つのニュルンベルク裁判

第9回 同上（2）：旧東ドイツにおける司法とナチズム裁判

第10回 同上（3）：旧西ドイツにおける司法とナチズム裁判（上）

第11回 同上（4）：旧西ドイツにおける司法とナチズム裁判（中）

第11回 同上（5）：旧西ドイツにおける司法とナチズム裁判（下）

第13回 同上（6）：統一ドイツにおける「ベルリンの壁」裁判

第14回 現代ドイツ司法とナチズム責任

第15回 まとめと評価

8. 成績評価方法：

第15回の授業時間中に理解度を確認する試験を行う（100%）。

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。レジュメと板書による。参考書及び参考文献は、以下の通り：

ジェーン・キャプラン著、藤井美佐子訳、熊野直樹監修『14歳から考えたいナチ・ドイツ』すばる舎、2023年；田村栄子・星乃治彦編『ヴァイマル共和国の光芒—ナチズムと近代の相克—』昭和堂、2007年；熊野直樹「戦後ドイツにおける戦争の記憶と現在」九州大学法政学会『法政研究』第73巻第2号、2006年（open access）；「東西ドイツ司法と『過去の克服』』『法政研究』第71巻第3号、2005年（open access）。

10. 授業時間外学習： 参考書及び参考文献を事前に読んでおくことが望ましい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

なし。

科目名：中国思想特論Ⅱ／ Chinese Thought (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期集中 その他 その他

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：森 由利亜

コード：LM98823, 科目ナンバリング：LGH-PHI611J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：明末から清代中期に至る道教（全真教）と士大夫知識人
2. Course Title (授業題目) : Daoism (Especially Complete Perfection School) and Literati from Late Ming to Mid-Qing China.
3. 授業の目的と概要：明末期から清朝中後期にかけて、道教の一部とされる全真教に「龍門派」と称する派が顕著な活動を示すようになる。そこには、当時の士大夫層が積極的に道教の信仰世界や倫理体系の中に参与しようとしていた動きを見て取ることができるのである。明末から清朝の乾隆・嘉慶年間にかけては、儒教的な文脈から思想の変化を検討することは盛んに行われてきた。また仏教と儒教の関係については荒木見悟の研究がよく知られている。しかし、この時代に道教と士大夫の関係についてはこれまでほとんど研究がなされていない。この授業では、ごく初歩的かつ部分的
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : From the late Ming to the late-mid-Qing period, a religious lineage called the "Longmen Lineage" became prominent in Quanzheng, or Complete Perfection School, which is one of the major traditions of Daoism in China. In this period, we can see the active participation of the literati of the time in the religious world and ethical system of Daoism. So far, concerning the time from the end of the Ming dynasty to the Qianlong and Jiaqing era of the Qing dynasty, it has been active to examine changes in thought from a Confucian context. The relationship between Buddhism and Confucianism is also well known namely in the work of Araki Kengo. However, very little research has been done on the relationship between Daoism and the literati during this period. In this class, I would like to discuss, albeit very rudimentary and partial, the relationship between Daoists and literati, centering on Quanzhen Daoism, from the end of the Ming dynasty to the period of Daoguang era in the Qing dynasty.
5. 学習の到達目標：受講生が、明末から清朝にかけての士大夫の宗教的関心の広がり的一端に興味をもち、従来とは異なる視野からこの時代の思想を考える糸口を見つけることを目指す。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : The aim of the course is to interest students in some aspects of the spread of the religious interests of the literati during the late Ming and Qing dynasties, and to find clues for thinking about the ideas of this period from a different perspective than
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第一回 概要の説明
 - 第二回 道教の基礎知識 (1)
 - 第三回 道教の基礎知識 (2)
 - 第四回 道教の基礎知識 (3)
 - 第五回 『道蔵』と蔣予蒲 (1755-1819) の『道蔵輯要』(1)
 - 第六回 『道蔵』と蔣予蒲 (1755-1819) の『道蔵輯要』(2)
 - 第七回 伍守陽 (1574-1643) の内丹法と全真教龍門派の自己認同 (1)
 - 第八回 伍守陽の内丹法と全真教龍門派の自己認同 (2)
 - 第九回 朱元育と潘易庵の内丹法と龍門派の自己認同 (1)
 - 第十回 朱元育と潘易庵の内丹法と龍門派の自己認同 (2)
 - 第十一回 王常月 (1594-1680?) の戒律改革と全真教龍門派 (1)
 - 第十二回 王常月の戒律改革と全真教龍門派 (2)
 - 第十三回 閔一得 (1735-1836) と龍門派の自己認同 (1)
 - 第十四回 閔一得 (1735-1836) と龍門派の自己認同 (2)
 - 第十五回 閔一得 (1735-1836) と龍門派の自己認同 (3)
8. 成績評価方法：
 - 平常点 (20 パーセント) レポート (80 パーセント)
9. 教科書および参考書：
 - 教科書はありません。参考書は授業時に紹介します。[We don't use text book. Recommended readings will be introduced in class]
10. 授業時間外学習：参考資料を事前配布した際には、それらに一通り目を通していただきます。[When reference materials are distributed in advance, you will be asked to read through them.]
11. 実務・実践的授業/Practical business
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
 - 《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：哲学特論Ⅲ／ Philosophy(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：後期集中 その他 その他

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：阿部 ひろみ

コード：LM98831, 科目ナンバリング：LIH-PHI603J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：画像表象に関する分析哲学的研究

2. Course Title (授業題目)：Analytical philosophical research on pictorial representation

3. 授業の目的と概要：本講義では現代の分析哲学において展開されてきた画像表象の本性をめぐる論議について学び、そこで用いられている一連の概念や、争点となってきた一連の命題について理解を深めることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this lecture, we will learn about the debate over the nature of pictorial representation that has been developed in contemporary analytical philosophy, and aim to deepen our understanding of the series of concepts used in the debate and the series of propositions that have been the subject of controversy.

5. 学習の到達目標：本講義では、画像の本性をめぐる現代英語圏における代表的な理論について紹介・検討することを通じて、「類似性」「イリュージョン」「記号システム」「知覚」「想像」等の鍵概念と画像概念の関連について理解を深め、具体的な事例の分析に活用できるようになることを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：In this lecture, we will introduce and examine major theories in analytic philosophy concerning the nature of pictorial images, and we will explore related concepts such as "resemblance," "illusion," "symbol system," "perception," and "imagination." The g

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義では、画像の多様な形や、多様な関連事例についての予備的な考察の後に、画像の本性をめぐる現代英語圏における代表的な理論について紹介・検討を行う。またその中で、「類似性」「イリュージョン」「記号システム」「知覚」「想像」等の鍵概念が画像概念とどのように関連について検討を行う。講義日程の予定は下記の通りである。

- 1 ガイダンス
- 2 予備的な考察（1）いくつかの概念的区別
- 3 予備的な考察（2）絵の近縁種について
- 4 類似性について
- 5 ビアズリーの類似説について
- 6 類似説への批判
- 7 ゴンブリッチのイリュージョンの理論
- 8 ゴンブリッチ（続）
- 9～10 グッドマンの記号システムの理論
- 11～12 ウォルハイムの知覚説
- 13～14 ウォルトンのごっこ遊び理論
- 15 まとめ

8. 成績評価方法：

平常点ならびに期末レポートにより評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書：清塚邦彦『絵画の哲学』勁草書房、2024年 参考書は随時指示する。

10. 授業時間外学習：講義と並行して教科書の該当箇所について予習ならびに復習として学習すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：学術発表実習 I / Academic Presentation (Practicum) I

曜日・講時：通年集中 その他 その他

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：文学部学務教育室長

コード：LM98801, 科目ナンバリング：LAL-0AR527J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：
2. Course Title (授業題目)：
3. 授業の目的と概要：
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：
5. 学習の到達目標：
6. Learning Goals(学修の到達目標)：
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
8. 成績評価方法：
9. 教科書および参考書：
10. 授業時間外学習：
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：学術発表実習Ⅱ／ Academic Presentation (Practicum)Ⅱ

曜日・講時：通年集中 その他 その他

semester：2 学期 単位数：2

担当教員：文学部学務教育室長

コード：LM98802, 科目ナンバリング：LAL-0AR528J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：
2. Course Title (授業題目)：
3. 授業の目的と概要：
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：
5. 学習の到達目標：
6. Learning Goals(学修の到達目標)：
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
8. 成績評価方法：
9. 教科書および参考書：
10. 授業時間外学習：
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：国際活動実習 I / International Reserch (Practicum) I

曜日・講時：通年集中 その他 その他

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：文学部学務教育室長

コード：LM98803, 科目ナンバリング：LAL-0AR529J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：
2. Course Title (授業題目)：
3. 授業の目的と概要：
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：
5. 学習の到達目標：
6. Learning Goals(学修の到達目標)：
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
8. 成績評価方法：
9. 教科書および参考書：
10. 授業時間外学習：
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：国際活動実習Ⅱ／ International Reserch (Practicum)Ⅱ

曜日・講時：通年集中 その他 その他

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：文学部学務教育室長

コード：LM98804, 科目ナンバリング：LAL-0AR530J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：
2. Course Title (授業題目)：
3. 授業の目的と概要：
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：
5. 学習の到達目標：
6. Learning Goals(学修の到達目標)：
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
8. 成績評価方法：
9. 教科書および参考書：
10. 授業時間外学習：
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：研究・教育実践活動実習 I / Research and Education (Practicum) I

曜日・講時：通年集中 その他 その他

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：文学部学務教育室長

コード：LM98805, 科目ナンバリング：LAL-0AR531J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：
2. Course Title (授業題目)：
3. 授業の目的と概要：
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：
5. 学習の到達目標：
6. Learning Goals(学修の到達目標)：
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
8. 成績評価方法：
9. 教科書および参考書：
10. 授業時間外学習：
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：研究・教育実践活動実習Ⅱ／ Research and Education (Practicum)Ⅱ

曜日・講時：通年集中 その他 その他

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：文学部学務教育室長

コード：LM98806, 科目ナンバリング：LAL-0AR531J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：
2. Course Title (授業題目)：
3. 授業の目的と概要：
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：
5. 学習の到達目標：
6. Learning Goals(学修の到達目標)：
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
8. 成績評価方法：
9. 教科書および参考書：
10. 授業時間外学習：
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：現代日本学学芸分析特論Ⅱ／ Japanese Studies Liberal Art (Advanced Lecture) II

曜日・講時：通年集中 その他 その他

セメスター：単位数：2

担当教員：岩下 朋世

コード：LM98807, 科目ナンバリング：LJS-OHS602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「マンガ」とは何か

2. Course Title (授業題目)：What Is "Manga"

3. 授業の目的と概要：マンガについて、その定義、歴史、ナラティブについて学ぶ。マンガは日本において大変ポピュラーな文化である。それだけに我々は「マンガとは何か」について、分かっているような気になってしまいがちである。しかし、この講義では新旧の様々な具体例を取り上げながら、「マンガとは何か」という問いが実はきわめて難しいものであることを示していく。受講者には議論への積極的な参加を求める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Learn about the definition, history, and narrative of manga. Manga is a very popular culture in Japan. Because of this, we tend to think that we know something about "manga". However, it is actually very difficult to answer the question, "What is manga?". To illustrate this point, we take a variety of concrete examples, both old and new. Participants are encouraged to actively participate in discussions.

5. 学習の到達目標：マンガの歴史と表現について理解し、作品を分析するスキルを身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Understand the history and expression of manga. Learn the skills to analyze manga.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

内容及び進捗予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

第1回 イントロダクション

第2回 「マンガ」のさまざまな定義

第3回 「北斎漫画」はマンガか？

第4回 コマと物語

第5回 戦争とマンガ「のらくろ」を事例に

第6回 マンガと出版文化①

第7回 マンガと出版文化②

第8回 手塚治虫と少女マンガ

第9回 少女マンガにおける異性装

第10回 マンガにおけるイメージと言葉①

第11回 マンガにおけるイメージと言葉②

第12回 萩尾望都「半神」を読む

第13回 マンガを読む-受講者による発表①

第14回 マンガを読む-受講者による発表②

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポート、発表を総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は特に指定しない。参考書は適宜指示する。

10. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。学外での調査も含まれる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本文芸形成論特論Ⅱ／ Study of Formation of Japanese Literature(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：通年集中 その他 その他

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：神作 研一

コード：LM98810, 科目ナンバリング：LJS-LIT602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：江戸の雅俗

2. Course Title (授業題目)：Refined Literature and Popular Literature during the Edo Period

3. 授業の目的と概要：日本近世文学の全容と特質を視野に収めながら、特に雅文学を主たる対象としてその展開の種々相と達成を考える。和本（モノ）、翻字や注釈などの基本的な手続きを確認しながら、ジャンルの関係性にも配慮しつつ、江戸に即して実証的に解析する研究方法を学ぶ。基礎と応用を自在に往還して最新の近世文学研究を追跡し、文学とは何か/古典とは何かということと皆さんと一緒に考え、現代に生きる私たちにとってどんな意味があるのかをも探りたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Considering the entirety and characteristics of Japanese early modern literature, with a focus on the field of refined literature, students will explore the various aspects and achievements of its development. While solidifying foundational knowledge about Japanese books (as objects) and mastering the basic processes of transliteration and annotations, students delve into exploring relationships with other genres and examining the distinctive characteristics of the Edo period. Throughout this process, they acquire research methods that incorporate empirical analysis. We freely traverse between the fundamentals and applications, tracking the latest research in early modern literature. Together, we contemplate what literature/classics are. We also want to explore what significance that holds for us living in the present day.

5. 学習の到達目標：主たる目標は3つ。

- ① 近世文学の特徴を知り、研究上のさまざまな基礎知識を身につける【全体から個へ】
- ② 江戸に即して、作品を読解できるようにする【読むための研究方法の獲得】
- ③ それらを踏まえて、自分の頭で考え、自分の言葉で表現する【思考と表現】

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The primary goals are the following three.

- ① Understanding the characteristics of early modern literature and acquiring various foundational research knowledge [From the general to the individual].
- ② Grasping the characteristics of the Edo period, and a

7. 授業の内容・方法と進度予定：

【1】9/10 (火) 文学のちから/研究ということ/近世文学史の全体像

1. イントロダクション (シラバス確認・エチケット・課題レポート案内)
文学とは何か/古典の楽しみ/研究と評論/江戸に即して
2. ウォーミングUP
くずし字/干支・年表・異体字など工具書紹介/翻字と注釈
3. 日本近世文学の特質 (出版・雅俗と和漢・教訓と滑稽)
近世文学史の諸相 (上方から江戸へ、江戸から明治へ)

【2】9/11 (水) 近世和歌史/和本の楽しみ/歌書刊本

4. 近世和歌史概説 (前期・中期・後期)
主要参考文献紹介
5. 和本を見る・知る・さわる (古典籍のスキル)
はじめての古典籍/写本と刊本/本の身分 (表記と書型) /てのひらの江戸
6. 歌書いろいろ
刊記/歌書の刊・印・修
★課題レポート案内「レポートを書くために」

【3】9/12 (木) 多色摺り/歌仙絵/伝記

7. 多色摺りの発生と展開
二色套印本/詩箋/絵本と浮世絵
8. 歌仙絵の魅力
画譜・絵入り本・絵本/近世絵入り本研究の最前線
9. 西行への思慕
歌僧似雲/江戸の今西行/伝記研究の方法 (墳墓録ほか)

【4】9/13 (金) 古典学/狩野文庫渉猟/通信添削

10. 古典の継承
江戸の源氏学/幕臣たちの古典享受/伊勢・徒然・百人一首の近世的展開 (文化誌)
11. 東北大学附属図書館狩野文庫渉猟
狩野亨吉伝/蔵書印/〈知の宝庫〉に分け入る
12. 元禄の添削
地方と中央/江戸のみやび

【5】9/14 (土) 俳書/短冊/文学のちから

13. 俳書の変遷

おくのほそ道は栞型本／笈の小文／美濃派歳旦帖

14. 短冊を見る・知る・さわる

短冊の楽しみ／慶安手鑑／『短冊ものがたり』『短冊覚え書』『むかしをいまに』

15. まとめと展望

DB／目録学／分類と索引／日本古典文学研究の国際化／国文研／文学のちから

8. 成績評価方法：

レポート（60％）、折々に課すリアクションペーパー（20％）、授業への主体的な学び（20％）に基づいて、総合的に判断する。

9. 教科書および参考書：

適宜プリントを配布、参考書は随時紹介する。

10. 授業時間外学習：適切な予復習に努め、主体的に授業に参加すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

鉛筆（B）1本必携。授業前に石けんで手を洗っておくこと。

科目名：日本語教育学研究実習Ⅲ／ Applied Japanese Linguistics (Practice) III

曜日・講時：通年集中 その他 その他

セメスター：単位数：2

担当教員：小河原 義朗

コード：LM98816, 科目ナンバリング：LJS-LIN614J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：海外インターンシップ

2. Course Title (授業題目)：Japanese language education internship abroad

3. 授業の目的と概要：日本語教員養成課程を通して得た知識とスキルを踏まえて、長期休業中に約2週間海外の日本語教育現場に行き、どのような学習者がどのような学習環境で日本語を学習しているのかを知り、どのような日本語教育が行われているのかを見学し、さらに現地日本語コースの教員の指導のもとで日本語を実際に教えることを体験する。同時に現地における異文化や異文化コミュニケーションを体験する。なお、本年度は2、3月中に実施する予定である。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This class provides students with opportunities to participate in Japanese language education internship abroad for 2 weeks. The students will see what people are learning Japanese language overseas and how Japanese language classes are conducted, and have experience to teach Japanese in classes as a student teacher.

5. 学習の到達目標：1. 海外の日本語教育と学習者の多様性を知る

2. 海外の日本語教育の現場を見て学ぶ

3. 海外の日本語教育の現場で実際に教える体験をする

6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completion of this course, students are expected to:

- understand Japanese language education and a variety of Japanese language learners overseas
- observe Japanese language teaching classes overseas
- get experiences to teach Japanese language

7. 授業の内容・方法と進度予定：

スケジュール (予定)

事前活動①：オリエンテーション

事前活動②：現地教員との打ち合わせと準備

事前活動③：現地とのオンライン日本語クラス参加

事前活動④：進捗状況報告と最終打ち合わせ

海外インターンシップの実施 (約2週間)

事後活動①：振り返り、報告書の作成

事後活動②：報告会の開催

日程の詳細は、インターンシップの日程が決まり次第、履修学生と調整する。

8. 成績評価方法：

事前課題 50%、事後報告書 50%

9. 教科書および参考書：

授業内で指示する。

10. 授業時間外学習：基本的に海外インターンは授業時間外に行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

- ・学部の日本語教育学実習 (前後期) を履修済であること。
- ・海外インターン先の事情により、開講されないことがある。
- ・履修人数に制限があるため、履修希望者は、学期前に担当教員に連絡し相談すること。

科目名：インド学仏教史特論 I / Indological Studies and History of indian Buddhism
(AdvancedLecture)I

曜日・講時：通年集中 その他 その他

セメスター：単位数：2

担当教員：宮崎 泉

コード：LM98821, 科目ナンバリング：LGH-PHI605J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：インド中観派の説く空性と慈悲ならびにその実践
2. Course Title (授業題目)：Mādhyaṃika in India on Emptiness, Compassion, and the Practice
3. 授業の目的と概要：インド中観派の思想と実践を理解するために、関連するインド仏教文献の和訳を資料として利用しながら、空とは何かを多角的に解説する。空性そのものだけではなく、慈悲との関係やインド後期中観派の実践も取り上げることで、インド大乘仏教の展開のひとつに触れることにもなる。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course offers a general introduction to the thought and practice presented by Mādhyaṃika in India. We will read a Japanese translation of related Indian Buddhist materials and investigate what is meant by emptiness from different perspectives. It may also provide a survey of an aspect of development of Mahayana Buddhism by focussing not only on emptiness itself but also its relationship to compassion, the practice of late Mādhyaṃika in India, and so on.
5. 学習の到達目標：インド大乘仏教の一派である中観派の思想と実践に関する理解を深めることができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is a better understanding of the thought and practice presented by a school of Mahayana Buddhism in India, Mādhyaṃika.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション (授業の進め方と取り組み方について)
 2. 空性と慈悲 (『八千頌般若経』) (1)
 3. 同 (2)
 4. 慈悲の修習 (『修習次第』初篇)
 5. 菩提心 (『修習次第』初篇)
 6. 智慧と方便 (『修習次第』初篇)
 7. ナーガールジュナ (龍樹) の説く空 (『中論』) (1)
 8. 同 (2)
 9. 中観派と自立論証 (『明らかなことば』)
 10. 同 (2)
 11. 同 (3)
 12. 空性と智慧 (『修習次第』初篇) (1)
 13. 同 (2)
 14. 止と観 (『修習次第』初篇) (1)
 15. 同 (2)
8. 成績評価方法：

積極的な授業参加 (40%) と複数回の課題 (60%) による総合評価
9. 教科書および参考書：

授業中にプリントを配付し、教科書は使用しない。参考書は授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：授業で扱う資料をあらかじめ配付するので、授業前に十分予習し、疑問点を整理しておくことが必要になる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

リアルタイム型オンライン形式で実施する。

科目名：中国語学中国文学特論Ⅲ／ Chinese Language and Literature(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：通年集中 その他 その他

セメスター： 単位数：2

担当教員： 輪田 直子

コード：LM98822, 科目ナンバリング：LGH-LIT603J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中国近世の文芸「弾詞」の文学性と女性に関する研究

2. Course Title (授業題目) : Research on the literary nature and the feminine of the Tanci (弾詞) art in Modern China

3. 授業の目的と概要：中国近世の語り物「弾詞」は、長編叙事詩や方言文学としての特殊性、主要な受容層や作り手を女性が占めることなど、中国文学史上多くの検討すべき点を持つ文芸である。本講義では、作品の読解を通じて、弾詞のこれらいくつかの特徴について考えていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The Tanci (弾詞) was the narrative that had some characteristics such as the special nature of the long epic and the dialectic literature, women were the main recipients and producers in Modern China. This course through the reading of works to help students understand the characteristics of the Tanci (弾詞) .

5. 学習の到達目標：作品を適切に読解し、代表作品の性格や弾詞の文学的特徴を理解した上で、その社会的位置づけについて説明できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students read masterworks properly and explain the literary nature of the Tanci (弾詞) and its social position.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は講義と演習によって進める。内容と進度予定は以下の通り。

1. 弾詞以前の通俗文芸の概要
2. 弾詞の概要
3. 鄭振鐸『中国俗文学史』について
4. 『何必西廂』概要と背景
5. 『何必西廂』精読
6. 弾詞の文体について
7. 『三笑』概要と精読
8. 方言文学としての弾詞について
9. 『三国志玉璽伝』概要と背景
10. 『三国志玉璽伝』精読
11. 歴史物語と女性について
12. 『天雨花』概要と背景
13. 『天雨花』精読
14. 女性作家作品と弾詞ジャンルについて
15. 弾詞の文学性と女性の関与について

8. 成績評価方法：

授業に対する参加姿勢、及び最終レポートにより総合的に判断します。

9. 教科書および参考書：

呉毓昌『三笑新編』（上海古籍出版社、1990）、秦万年総校正『梅花夢』（黒竜江人民出版社、1988）、童万周校正『三国志玉璽伝』（中州古籍出版社、1986）、陶貞懷『天雨花 上・中・下』（中州古籍出版社、1984）、鄭振鐸『中国俗文学史』（商務印書館、1998）、高津孝・李光貞監訳『中国俗文学史』（東方書店、2023年）、譚正璧・譚尋『弾詞叙録』（上海古籍出版社、1981）、盛志梅『清代弾詞研究』（齋魯書社、2008年）、方蘭『エロスと貞節の靴 弾詞小説の世界』（勉誠出版、2003）など

10. 授業時間外学習：各作品は長編であるので、参考書に挙げた『弾詞叙録』などを参考に、概要を押さえておいて下さい。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：東洋・日本美術史特論Ⅲ／ History of Oriental and Japanese Fine Arts(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：通年集中 その他 その他

セメスター：単位数：2

担当教員：谷口 耕生

コード：LM98832, 科目ナンバリング：LIH-ART603J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：奈良仏教絵画史論
2. Course Title (授業題目)：The History of Nara's Buddhist Painting
3. 授業の目的と概要：古代から中世にかけて仏教文化の中心地だった奈良は、各時代にわたって描き継がれた仏画の重要作品が数多く伝わっている。こうした奈良の地に視点を据えて古代から中世に至る仏画作品の展開を概観し、その絵画技法や図像、絵画工房、安置儀礼空間の問題などを考察する
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Nara, a center of Buddhist culture from ancient times and through the medieval period, has produced and passed down countless masterworks of Buddhist painting in each generation. In light of this importance, the course focuses on the region to explore the development of Buddhist paintings ranging from the [seventh through the sixteenth?] centuries, engaging such problems as painting technique and iconography, painting ateliers, and the enshrinement of paintings in the sacred spaces of rituals.
5. 学習の到達目標：①絵画技法の継承と伝播、②図像の受容と変容、③絵仏師の工房制作、④礼拝空間で担う機能の問題など、日本仏教絵画史研究の中心課題を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Developing a grasp of such the central themes of art historical research into Japanese Buddhist painting as:, including:
 1. The inheritance and transmission of Buddhist painting techn
7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義レジュメを配付し、代表的な作品、時代背景などを解説する。関連作品はプロジェクターによって提示する。

 0. ガイダンス
日本の古代中世絵画史研究において奈良の仏教絵画が担う重要な位置づけを確認。
 1. 天平絵画の彩色技法
法隆寺金堂壁画、聖徳太子唐本御影、絵因果経、鳥毛立女屏風や香印座など正倉院宝物の絵画作品を通じて、日本仏教絵画の源流ともいべき奈良時代の絵画技法について考察。
 2. 奈良時代の儀礼と仏画 ①
法華堂根本曼荼羅の考察により、奈良時代の仏画が仏教儀礼空間においてどのような形で礼拝されたかを明らかにする。
 3. 奈良時代の儀礼と仏画 ②
薬師寺吉祥天像の考察により、奈良時代の仏画が仏教儀礼空間においてどのような形で礼拝されたかを明らかにする。
 4. 南都の平安仏画と宋代図像
達磨寺仏涅槃図の考察を通じて、院政期の奈良を代表する仏画に宋代図像の影響が顕著に認められることを指摘する。
 5. 南都仏画と天平復古①
天平絵画を写した白描図像である東大寺戒壇院扉絵図像、東大寺所蔵俱舎曼荼羅の分析を通じて、平安時代後期において奈良時代仏画の図像を復古的に用いた仏画が積極的に描かれたことの意義を明らかにする。
 6. 南都仏画と天平復古②
天平絵画を写した白描図像である東大寺戒壇院扉絵図像、東大寺所蔵俱舎曼荼羅の分析を通じて、平安時代後期において奈良時代仏画の図像を復古的に用いた仏画が積極的に描かれたことの意義を明らかにする。
 7. 中世南都の教学復興と美術①
鎌倉時代初期において奈良を拠点に教学復興や諸寺の伽藍再興を進めた解脱房貞慶。その思想が生み出した仏画作品を通じて、中世南都に広まった仏教絵画の特色を明らかにする。
 8. 中世南都の教学復興と美術②
鎌倉時代初期において奈良を拠点に教学復興や諸寺の伽藍再興を進めた解脱房貞慶。その思想が生み出した仏画作品を通じて、中世南都に広まった仏教絵画の特色を明らかにする。
 9. 中世南都の教学復興と美術 ③
鎌倉時代初期、京都・高山寺を拠点として南都仏教の中核を占める華嚴教学の復興に努めた明恵。その思想が生み出した仏画作品を通じて、高山寺を中心に広まった華嚴教美術や密教美術の特色を明らかにする

10. 春日曼荼羅の成立と展開①

奈良・春日大社への信仰にもとづく礼拝画像である春日宮曼荼羅が、平安時代末期に成立した契機と、南都の絵仏師によって多様に描かれた背景を明らかにする。

11. 春日曼荼羅の成立と展開②

奈良・春日大社への信仰にもとづく礼拝画像である春日宮曼荼羅が、平安時代末期に成立した契機と、南都の絵仏師によって多様に描かれた背景を明らかにする。11. The

12. 春日曼荼羅の成立と展開③

奈良・春日大社への信仰にもとづく礼拝画像である春日宮曼荼羅が、平安時代末期に成立した契機と、南都の絵仏師によって多様に描かれた背景を明らかにする。

13. 南都の寺院縁起としての信貴山縁起絵巻①

絵巻の最高傑作に挙げられる信貴山縁起絵巻が、南都信貴山本尊の靈験を説く日本最古の縁起絵巻であることを確認し、その制作に後白河院が関与したことを明らかにする。

14. 南都の寺院縁起としての信貴山縁起絵巻②

絵巻の最高傑作に挙げられる信貴山縁起絵巻が、南都信貴山本尊の靈験を説く日本最古の縁起絵巻であることを確認し、その制作に後白河院が関与したことを明らかにする。

15. 南都の祖師絵伝としての玄奘三蔵絵

玄奘のインド求法の旅を描いた玄奘三蔵絵、玄奘の旅行記である『大唐西域記』をもとに描かれた法隆寺五天竺図の分析を通じて、画面に投影された中世南都の仏教世界観を読み解く。

8. 成績評価方法：

レポート：7割

授業参加状況と小課題：3割

9. 教科書および参考書：

亀田孜『日本仏教美術史概説』（学芸書林、1970年）

有賀祥隆『仏画の鑑賞基礎知識』（至文堂、1991年）。

『日本美術全集③ 東大寺・正倉院と興福寺（奈良時代Ⅱ）』（小学館、2013年）。

『日本美術全集⑤ 王朝絵巻と貴族のいとなみ（平安時代Ⅱ）』（小学館、2014年）。

『日本美術全集⑧ 中世絵巻と肖像画（鎌倉・南北朝時代Ⅱ）』（小学館、2015年）。

10. 授業時間外学習：博物館・美術館・社寺などで実際に仏教絵画作品を見てもらいたい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：社会学特論Ⅱ／ Sociology(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：通年集中 その他 その他

セメスター： 単位数：2

担当教員：佐藤 哲彦

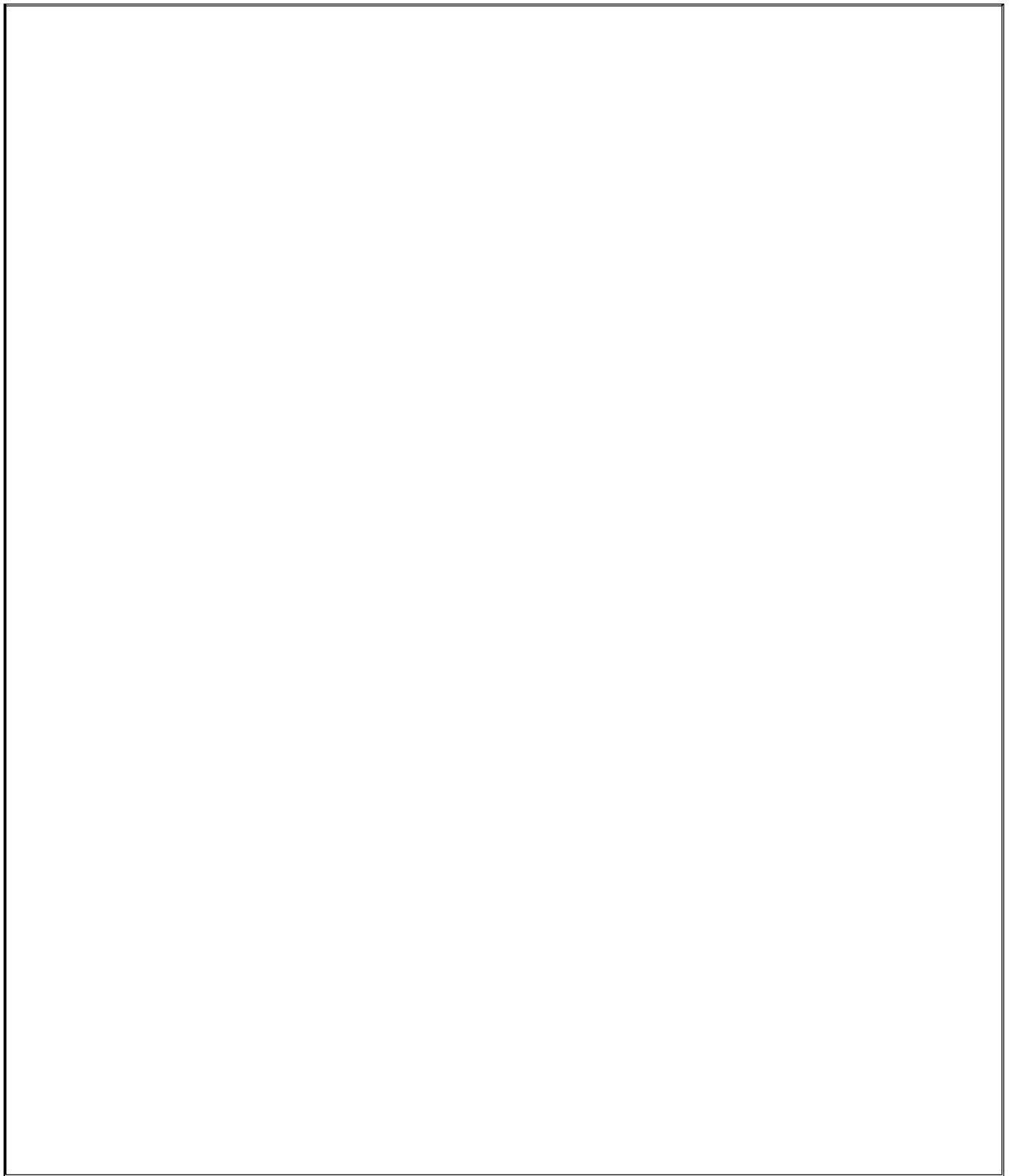
コード：LM98833, 科目ナンバリング：LIH-SOC606J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ディスコース社会学の基礎と実践
2. Course Title (授業題目)：Fundamentals and Practice of Discursive Sociology
3. 授業の目的と概要：この授業は「ディスコース社会学」と呼ぶる社会学的研究について論じるものである。ここでいう「ディスコース社会学」とは、質的調査の結果として得られたインタビュー・データや観察結果を用いて社会的な研究を成り立たせるための方法と、その方法から得られる知見によって形作られるものである。調査を行ってデータを得たからといって、それを理論や命題に「当てはめる」ということでは、社会的な研究は成り立たないし、そもそもそれが誤っていることもしばしばである。そこで、それらのデータを社会的な視点から眺め、そのデータで観察さ
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course discusses a sociological study that can be called "Discursive sociology". "Discourse sociology" refers both to the methods used to conduct sociological research using interview data and observations obtained as a result of qualitative research, and to the findings obtained from these methods. We often fit the data obtained through qualitative research into a theory or proposition. However it is not sociological research works and the insights obtained sometimes are fault. Therefore, we can only describe the subject sociologically by looking at the data from a sociological perspective and clarifying the phenomena observed in the data from a sociological perspective. In this class, we will discuss the "basic ideas of analysis" focusing on language and "specific methods of analysis" based on these ideas, which are necessary to be taken into account in this process. This is a central task for qualitative research, which does not consider reality as a manifestation of sociological theory or sociological propositions, but rather starts from reality to establish sociological thinking.
5. 学習の到達目標：この授業で講じる基礎と実践を通して、受講生が自分で得たデータや既存のデータを社会的に眺められるようになり、社会的分析の入り口に立たせるのが、この授業の目的である。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose and the aim of this class is to help students to view their own and existing data in the sociological ways through the fundamentals and practices taught in this class, and to get them to the point of entry into a sociological analysis.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 質的調査と質的分析
 2. 社会学的方法と社会的分析
 3. 言語に着目することの意義と課題
 4. ディスコース分析の基礎 (1) シークエンス
 5. ディスコース分析の基礎 (2) レリバンスとカテゴリー
 6. ディスコース分析の実践 (1) 構築プロセスの分析
 7. ディスコース分析の実践 (2) レパトワール分析
 8. 参与観察データの観察 (1) エスノグラフィーにおけるカテゴリー実践
 9. 参与観察データの観察 (2) 記述をめぐる問題
 10. インタビューデータの分析 (1) 記述をめぐる問題
 11. インタビューデータの分析 (2) シークエンスを観察する
 12. インタビューデータの分析 (3) インタビューにおけるカテゴリー実践
 13. ディスコース分析から社会的思考へ
 14. ディスコース社会学というプロジェクトの意義
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

授業中の課題の提出と最終レポート
9. 教科書および参考書：

フランシス&ヘスター, 2014, 中河他訳 『エスノメソドロジーへの招待：言語・社会・相互行為』, ナカニシヤ出版/ウーフ
ィット, 1998, 大橋他訳『人は不思議な体験をどう語るか：体験記憶のサイエンス』, 大修館書店/シルバーマン, 2020,
渡辺忠温訳『良質な質的研究のための、かなり挑発的でとても実践的な本』, 新曜社/山田富秋, 2020, 『生きられた経
験の社会学：当事者性・スティグマ・歴史』, せりか書房/ギリバート&マルケイ, 1990, 柴田・岩坪訳『科学理論の現
象学』, 紀伊国屋書店/
10. 授業時間外学習：最終レポートに使用するために、自分の関心のあるデータを探索・収集しておいてください。それは必
ずしも自分自身の調査である必要はなく、YouTube などでも構いませんし、出版された手記などでも構いません。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：



科目名：修士論文研究／ Direction of Master's Thesis

曜日・講時：通年集中 その他 その他

セメスター：単位数：4

担当教員：文学研究科教員

コード：LM98834, 科目ナンバリング：LJS-0AR601J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：
2. Course Title (授業題目)：
3. 授業の目的と概要：
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：
5. 学習の到達目標：
6. Learning Goals(学修の到達目標)：
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
8. 成績評価方法：
9. 教科書および参考書：
10. 授業時間外学習：
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：人文社会科学特別講義Ⅰ／

曜日・講時：通年集中 その他 その他

セメスター：単位数：1

担当教員：KLAUTAU ORION

コード：LM98836, 科目ナンバリング：LAL-0AR533E, 使用言語：英語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化理論入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Cultural Theory

3. 授業の目的と概要：この授業は、Dr. Lisa Zhang (国際文化研究科・JSPS 外国人特別研究員)を講師に招き、英語による講義を提供する。日本学国際共同大学院(GPJS)との共催科目であり、カルチュラルスタディーズの諸問題に留まらず、文化理解の方法論についても論じられる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Course Description by Dr. Lisa Zhang (Graduate School of International Cultural Studies, JSPS Fellow)：

This course serves as an introduction to cultural theory. Throughout the course, students will critically explore various aspects of culture, including the political dimensions of mass culture, the evolving conditions of art in an era marked by greater access to artistic production, and the workings of ideology. Fundamental concepts within the field, such as power relations, class structures, gender roles, and racial dynamics, will also be examined. Central to this course is the recognition of the inseparability between theory and empirical observation. As such, students will practice how theory can be used to better understand cultural phenomena. Examples may include the changing media landscape engendered by online platforms like YouTube, the widespread appeal of characters such as Gudetama, and controversies like the one involving J.K. Rowling's views on transgender issues.

5. 学習の到達目標：Upon completion of the course, students are expected to have achieved the following:

- 1) Know the basics of Cultural Theory
- 2) Have a firm grasp of some of the important concepts within Cultural Theory
- 3) Be able to use appropriate theories and con

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Upon completion of the course, students are expected to have achieved the following:

- 1) Know the basics of Cultural Theory
- 2) Have a firm grasp of some of the important concepts within Cultural Theory
- 3) Be able to use appropriate theories and con

7. 授業の内容・方法と進度予定：

The course is structured around eight sessions.

Each session will involve two activities:

- 1) Lecture and close reading of the assigned text(s) for the session
- 2) Presentation and discussion of reflection papers and cultural phenomenon

Session 1: Culture and Cultures

Session 2: Decoding and Encoding Culture

Session 3: The Culture Industry

Session 4: The Democratization of Art

Session 5: The Workings of Ideology

Session 6: Truth and Politics

Session 7: Intersectionality, Race, and Sex

Session 8: The Vocabulary of Gender

8. 成績評価方法：

Students are expected to prepare for and actively participate during each session. All materials will be provided by the teacher before the first class. To complete the course, students must write 3 reflection papers over the span of the course (with each

9. 教科書および参考書：

Texts include:

- 1) Raymond Williams, "Culture," in Keywords: A Vocabulary of Culture and Society. London: Croom Helm, 1976.
- 2) Stuart Hall, "Encoding and Decoding in the television discourse," in CCCS Selected Working Papers, ed. Ann Gray et al, Abingd

10. 授業時間外学習：Expected individual study is 45 minutes per lecture hour. Students are expected to read 1 (or

2 short) articles or chapters before each session.

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

This course is taught in English